

←E

W→



写真①



写真②



←E

W→



写真③



写真④

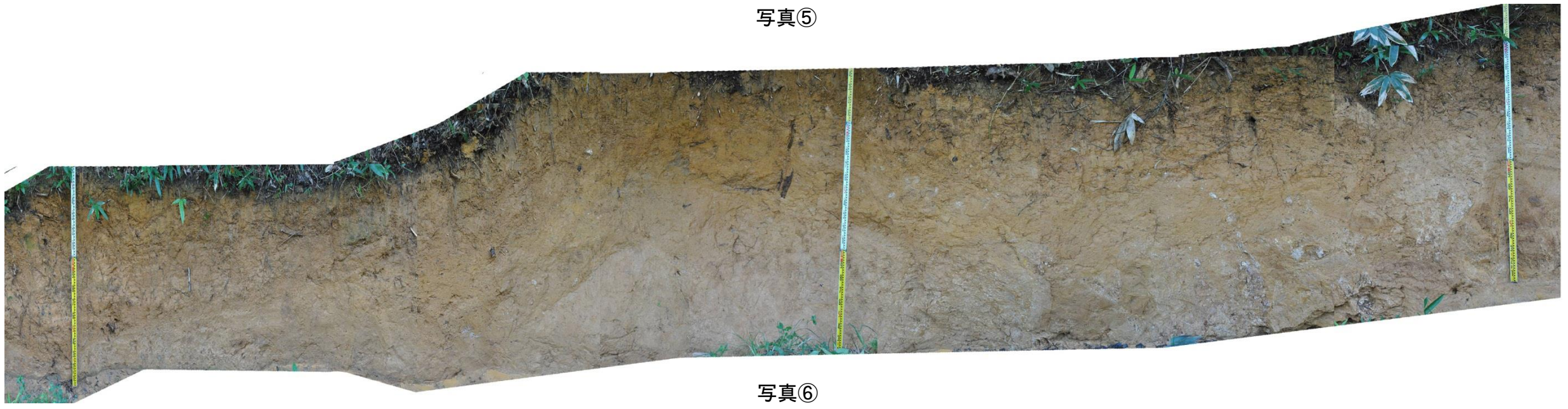


←E

W→



写真⑤



写真⑥

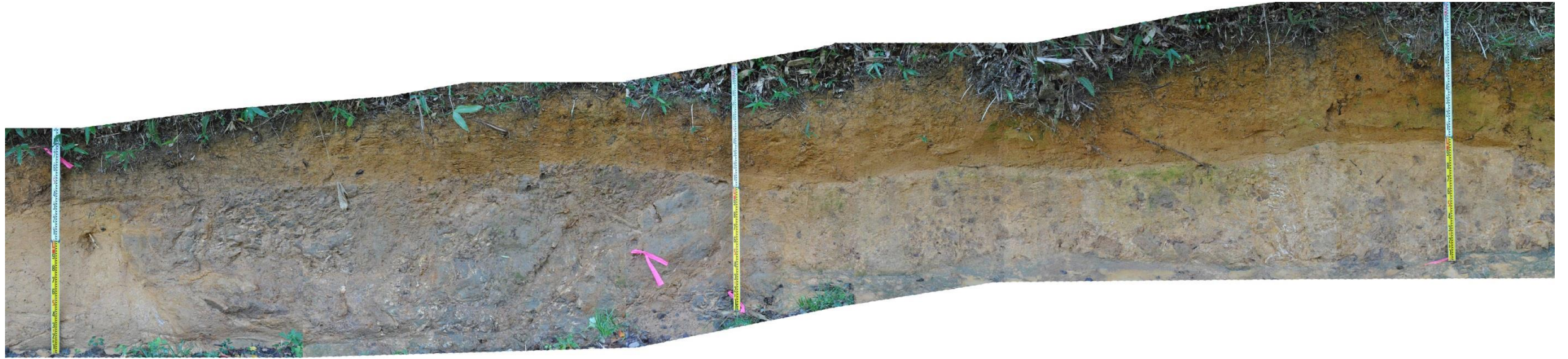


写真⑦



←E

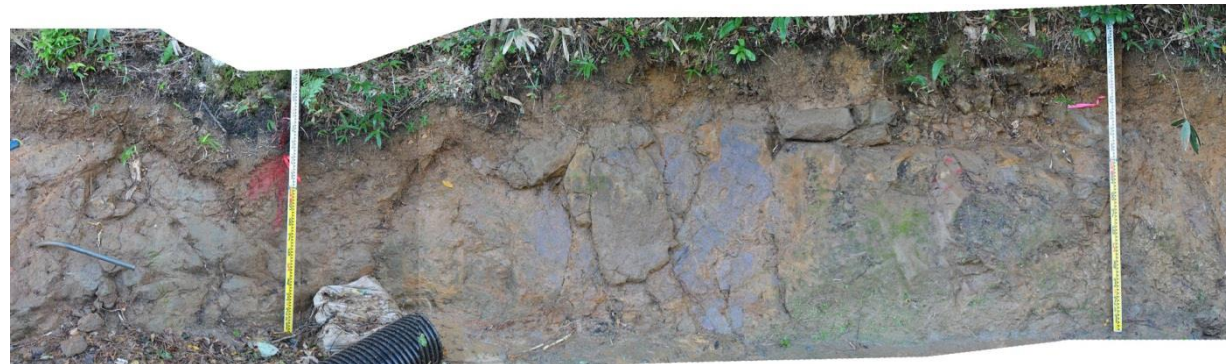
W→



写真⑧



写真⑨



写真⑩



←E

W→



断層部写真



←E

W→



写真⑪



写真⑫



←E

W→



写真⑬



写真⑭

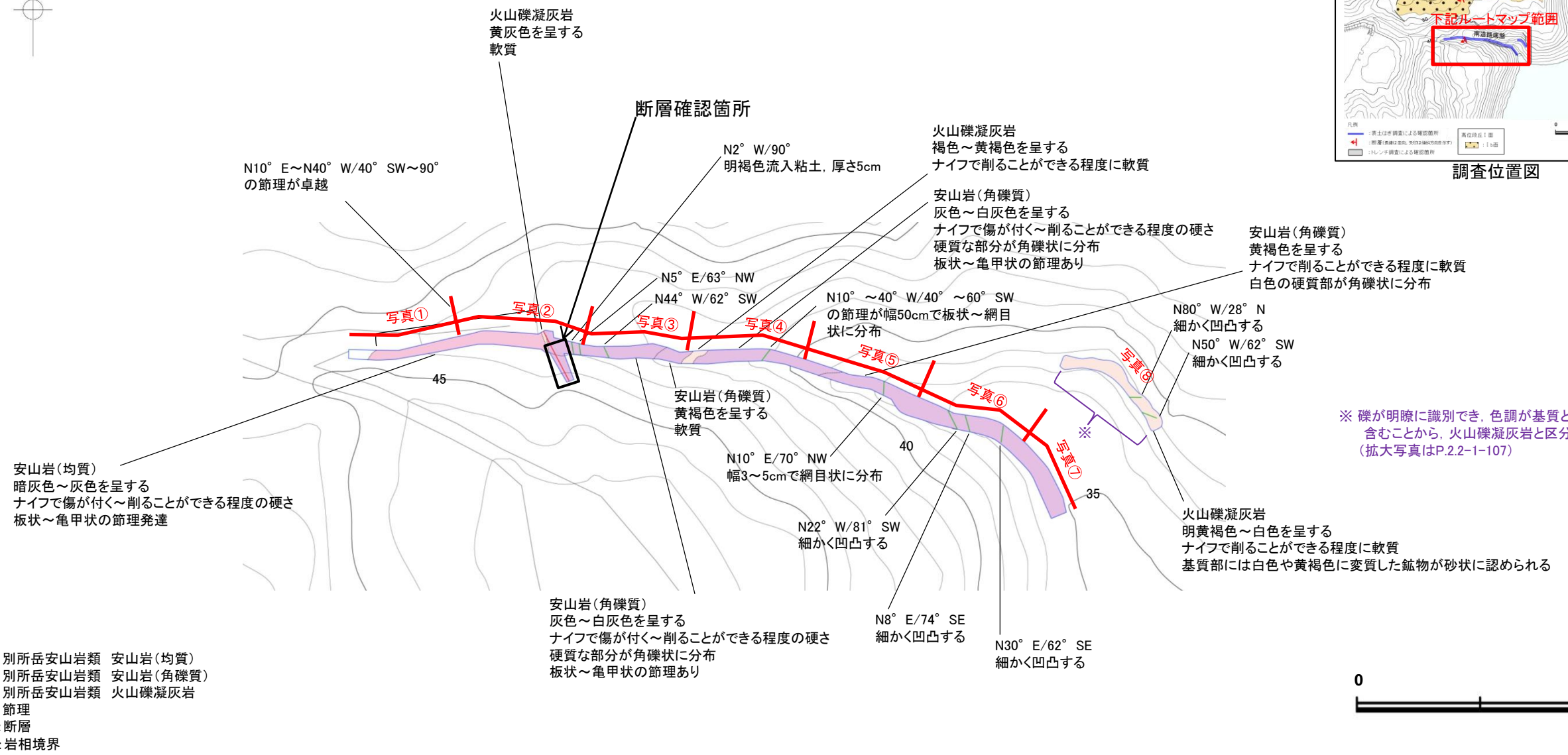


# 大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ 写真位置図

○大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ調査の結果、福浦断層に対応する断層を確認した。  
○全線の写真を次頁以降に示す。



調査位置図



※ 礫が明瞭に識別でき、色調が基質と異なる礫も含むことから、火山礫凝灰岩と区分している。  
(拡大写真はP.2.2-1-107)



表土はぎ調査結果(ルートマップ) 写真位置図

紫字: 第1064回審査会合以降の追記・変更箇所



# 大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ 写真①～③

←E

W→



写真①



断層

写真②



写真③

※写真中の棒状のものが1mスケール(以下同じ)



←E

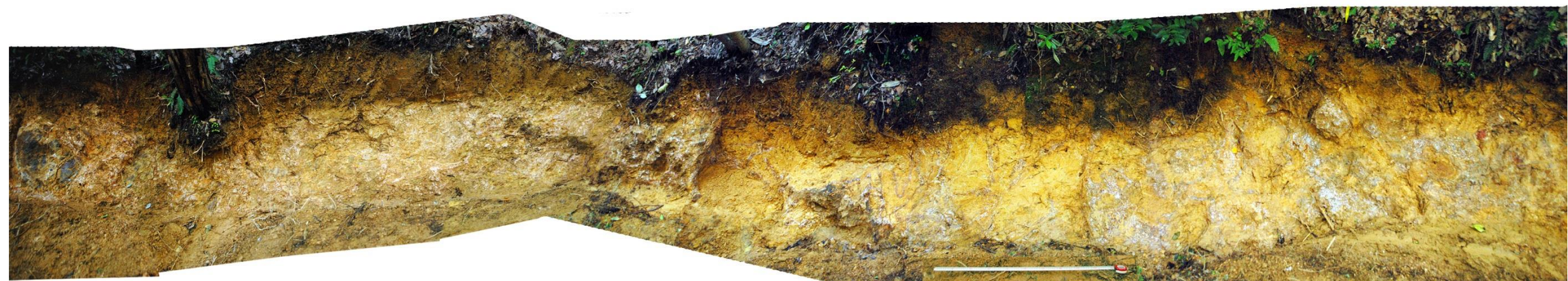
W→



写真④



写真⑤



写真⑥



←SE

NW→



写真⑦

←NW

SE→



写真⑧

下写真範囲



写真⑧ 中央部拡大  
基質と色調が異なる礫を赤矢印で示す。



○大坪川ダム右岸トレンチの西側及び東側トレンチには断層は認められない。

←W

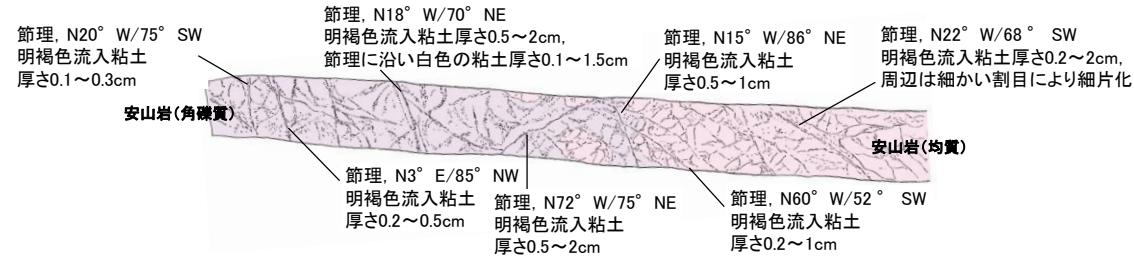
E→



西側トレンチ底盤写真

安山岩(角礫質)

- 明黄褐色～白色を呈する
- ナイフで削ることができる程度に軟質
- 基質部には白色や黄褐色に変質した鉱物が砂状に認められる



安山岩(均質)

- 紫灰色を呈する
- ナイフで削ることができる程度に軟質



西側トレンチ底盤スケッチ

←W

E→



東側トレンチ底盤写真

節理, N7° W/65° NE  
明褐色流入粘土  
厚さ0.2～0.5cm, 節理  
に沿って褐色を帯びる

節理, N6° W/74° NE  
明褐色流入粘土  
厚さ0.5～2cm

節理, N10° W/52° NE  
明褐色流入粘土  
厚さ0.1～0.5cm

明褐色を帯びる

節理, N35° W/79° SW  
明褐色流入粘土  
厚さ0.5～0.8cm

節理, N80° W/81° NE  
明褐色流入粘土  
厚さ0.1～0.3cm

亀甲状の節理に沿って強く褐色を帯びる

節理, N50° E/80° NW  
明褐色流入粘土  
厚さ0.2～0.3cm

節理, N2° W/29° SW  
灰白色固結粘土  
厚さ0.5cm

節理, N36° E/46° SE  
灰白色固結粘土及び石英  
厚さ0.3cm

節理, N35° E/51° SE  
褐色固結粘土  
厚さ0.5cm

節理, N76° W/61° NE  
明褐色流入粘土  
厚さ0.5～1.5cm

安山岩(角礫質)

- 明黄褐色～白色を呈する
- ナイフで削ることができる程度に軟質
- 基質部には白色や黄褐色に変質した鉱物が砂状に認められる

安山岩(均質)

- 暗灰色～緑灰色を呈する
- ナイフで傷が付く～削ることができる程度の硬さ
- 亀甲状に20～50cm程度の間隔で節理が認められ、節理に沿って褐色を帯び、明褐色粘土が流入する



東側トレンチ底盤スケッチ



# 大坪川ダム右岸トレンチ 礫種及び礫の形状の計測データ

## 【大坪川ダム右岸トレンチ】

試料 No.	礫種	よこ置き(ab面)						たて置き(ac面)					
		長径(a) (cm)	中間径 (b) (cm)	面積 (cm <sup>2</sup> )	周囲長 (cm)	真円度 (Circularity)	中間径長径 比(b/a)	長径(a) (cm)	短径(c) (cm)	面積 (cm <sup>2</sup> )	周囲長 (cm)	真円度 (Circularity)	短径長径比 (c/a)
1	安山岩	20.743	20.086	327.236	70.599	0.825	0.968	21.334	13.784	230.961	60.329	0.797	0.646
2	安山岩	10.517	8.380	69.214	32.517	0.823	0.797	11.465	7.000	63.038	31.876	0.780	0.611
3	安山岩	13.284	9.970	104.016	40.143	0.811	0.750	13.526	5.020	53.331	34.580	0.560	0.371
4	安山岩	16.522	9.765	126.711	46.082	0.750	0.591	16.683	7.318	95.888	43.051	0.650	0.439
5	安山岩	18.911	15.868	235.681	61.195	0.791	0.839	18.452	11.661	168.986	54.925	0.704	0.632
6	安山岩	7.394	4.801	27.878	21.514	0.757	0.649	7.579	3.734	22.229	19.739	0.717	0.493
7	安山岩	8.561	4.644	31.227	23.266	0.725	0.542	8.851	3.960	27.526	22.600	0.677	0.447
8	安山岩	14.557	7.644	87.401	39.676	0.698	0.525	15.847	4.205	52.333	37.270	0.473	0.265
9	安山岩	11.094	7.844	68.341	33.310	0.774	0.707	11.314	5.344	47.485	29.533	0.684	0.472
10	安山岩	7.368	4.777	27.643	21.178	0.775	0.648	7.000	4.831	26.562	62.998	0.846	0.690
11	安山岩	20.312	16.755	267.287	62.998	0.846	0.825	21.652	9.269	157.614	56.619	0.618	0.428
12	安山岩	6.700	4.620	24.309	19.493	0.804	0.690	6.817	3.741	20.032	18.356	0.747	0.549

データ数	平均真円度(ab面)	平均中間径長径比	平均短径長径比
12	0.782	0.711	0.504



---

余白



---

### (3) 福浦断層 薄片觀察

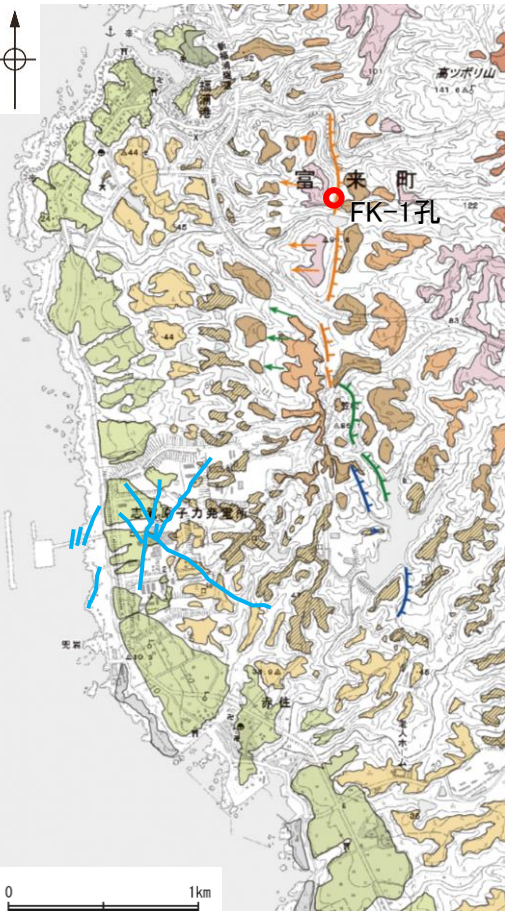


---

(3)-1 FK-1孔

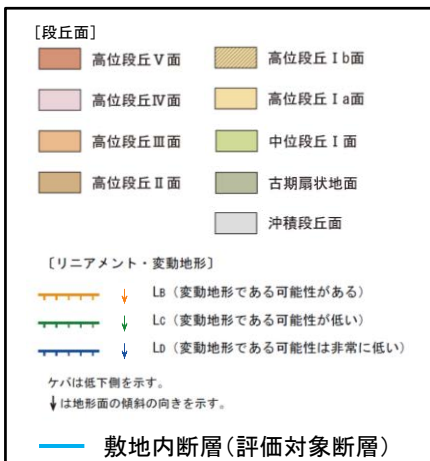


# FK-1孔 一薄片作成箇所一

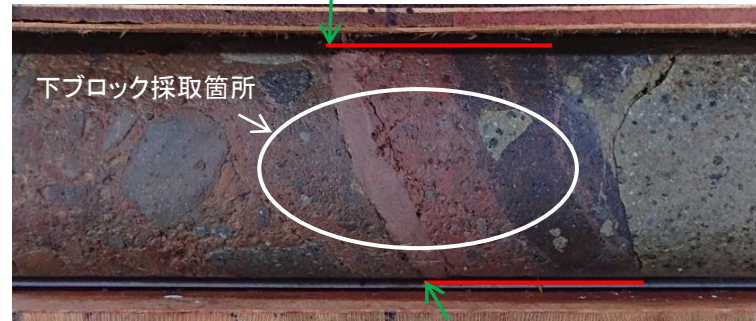


位置図

凡例



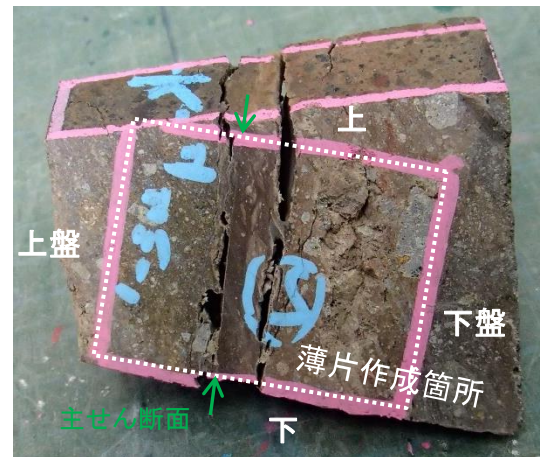
深度(m)  
52.4      主せん断面      52.5      52.6



== 破碎部

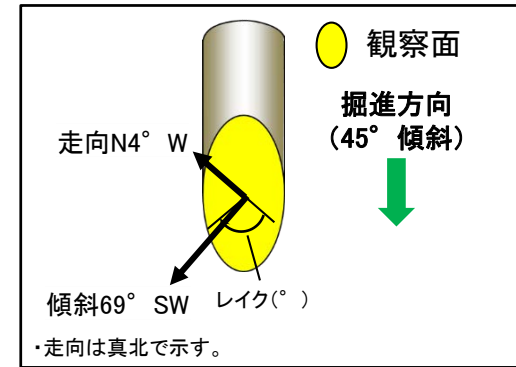
- ・BHTVでN4° W/69° SW (走向は真北基準)
- ・見かけの傾斜角20~25° の厚さ6.5cmの破碎部。  
厚さ1.0cmのにぶい褐色、にぶい赤褐色を呈する未固結な粘土を挟在する。  
下部は一部固結している。

コア写真(FK-1孔)

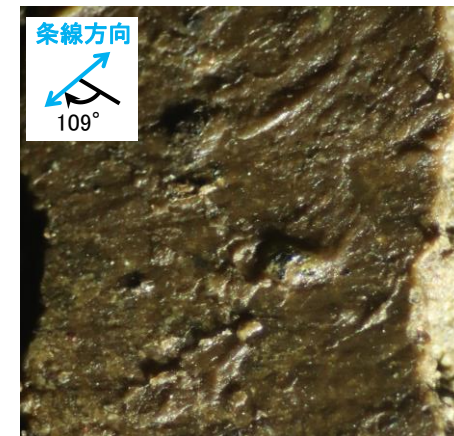


ブロック写真

- ・FK-1孔から採取したブロックの主せん断面において、71° R(下盤側換算)の条線方向で薄片を作成した。



概念図



- ・主せん断面の上盤側の観察面で109° Rの条線が認められる。

観察面写真(上盤側)

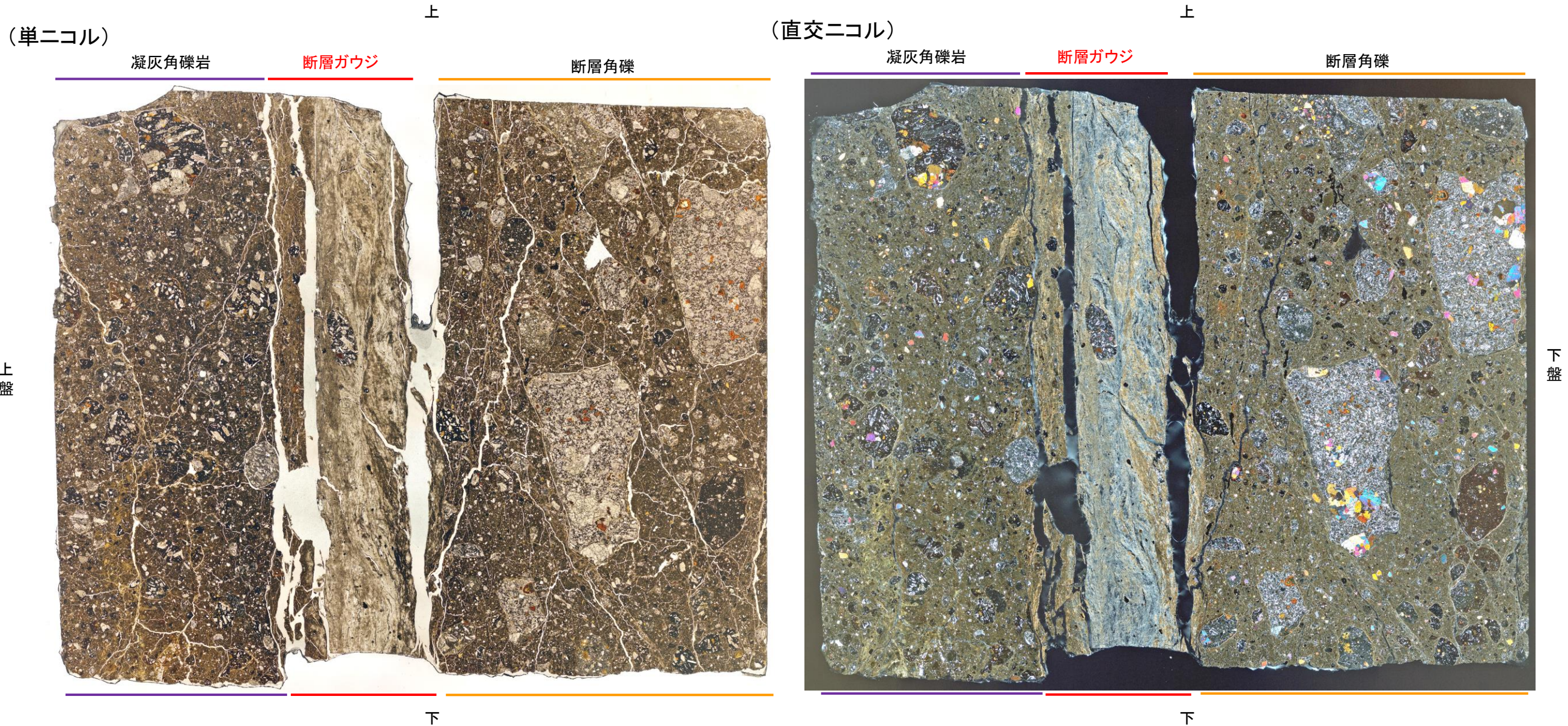
条線観察結果

・FK-1孔の深度52.5m付近で認められる福浦断層の主せん断面において、71° R(下盤側換算)の条線方向で薄片を作成した。



# FK-1孔 一薄片観察結果一

## 【薄片観察(解釈線なし)】



薄片①写真(FK-1\_71R)

凝灰角礫岩: 単ニコルで暗褐灰色, 直交ニコルで褐灰色の干渉色を呈する凝灰角礫岩からなる。径7mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

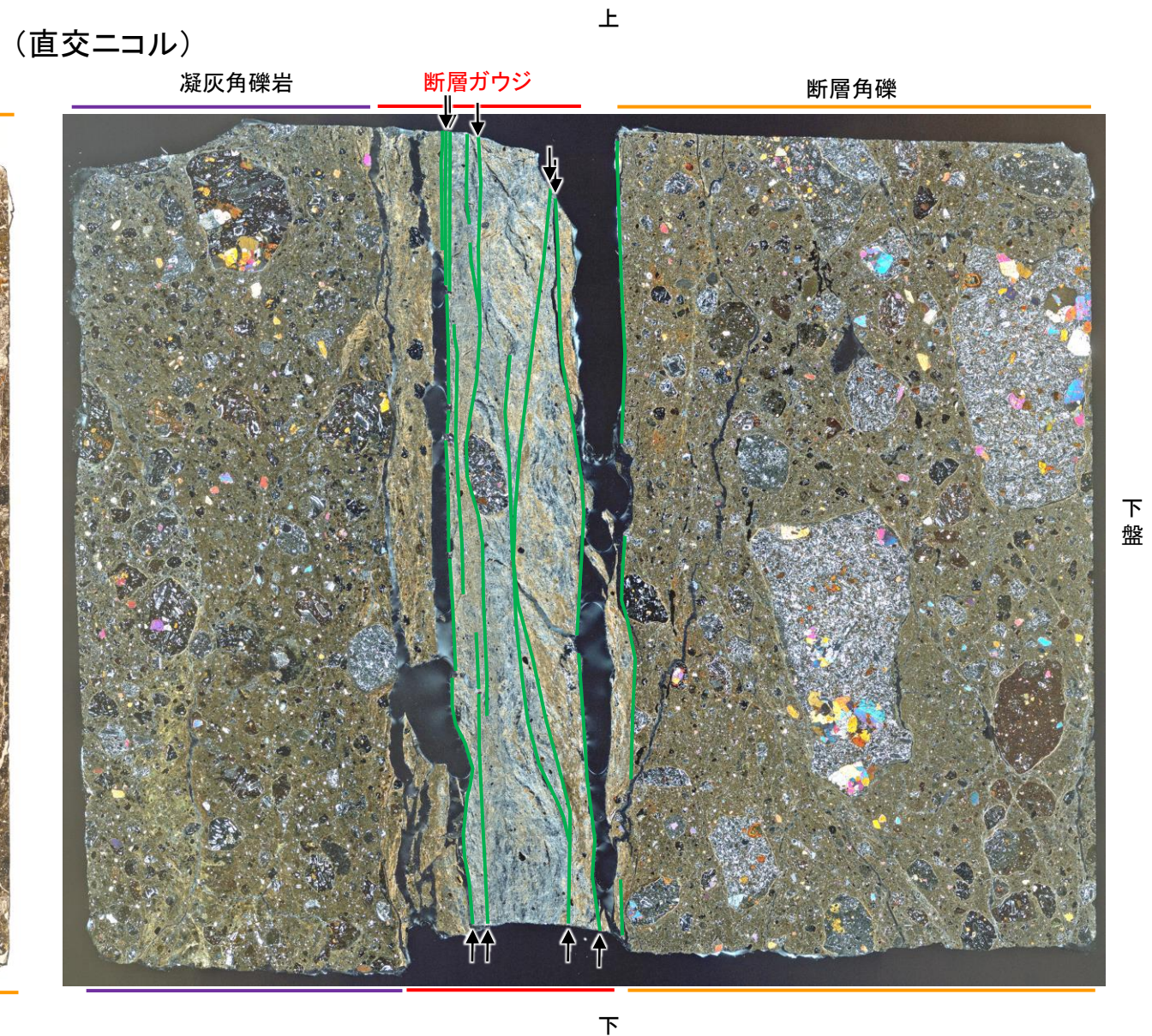
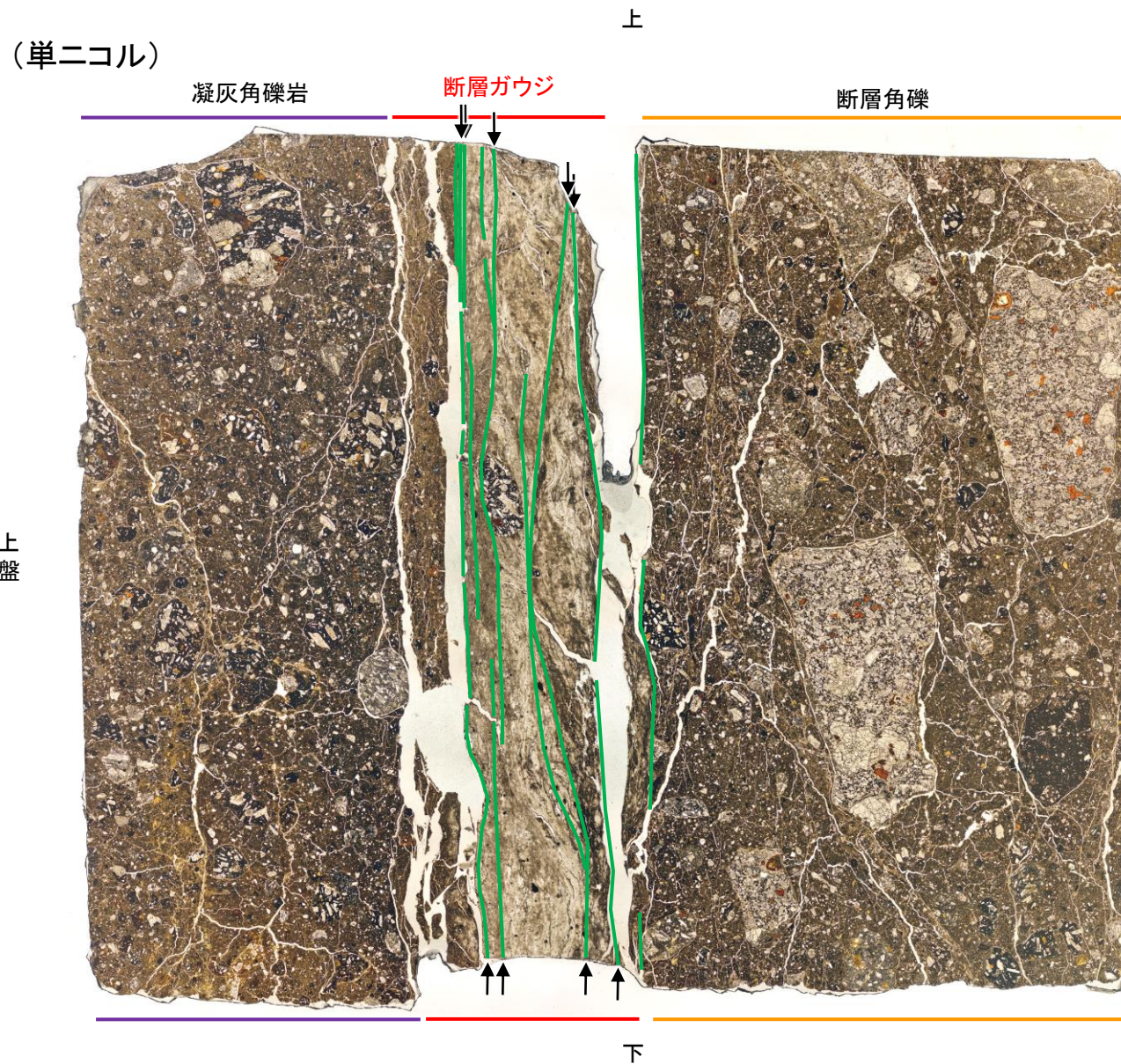
断層ガウジ: 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで黄~灰色の干渉色を呈する, 粘土鉱物を含む細粒物からなる。径4mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中には粘土鉱物が生成している。

断層角礫: 単ニコルで暗褐灰色, 直交ニコルで褐灰色の干渉色を呈する凝灰角礫岩からなる。径7mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれており, 径13~14mmの岩片も含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。



福浦断層\_FK-1孔

【薄片観察(解釈線あり)】



薄片①写真(FK-1\_71R)

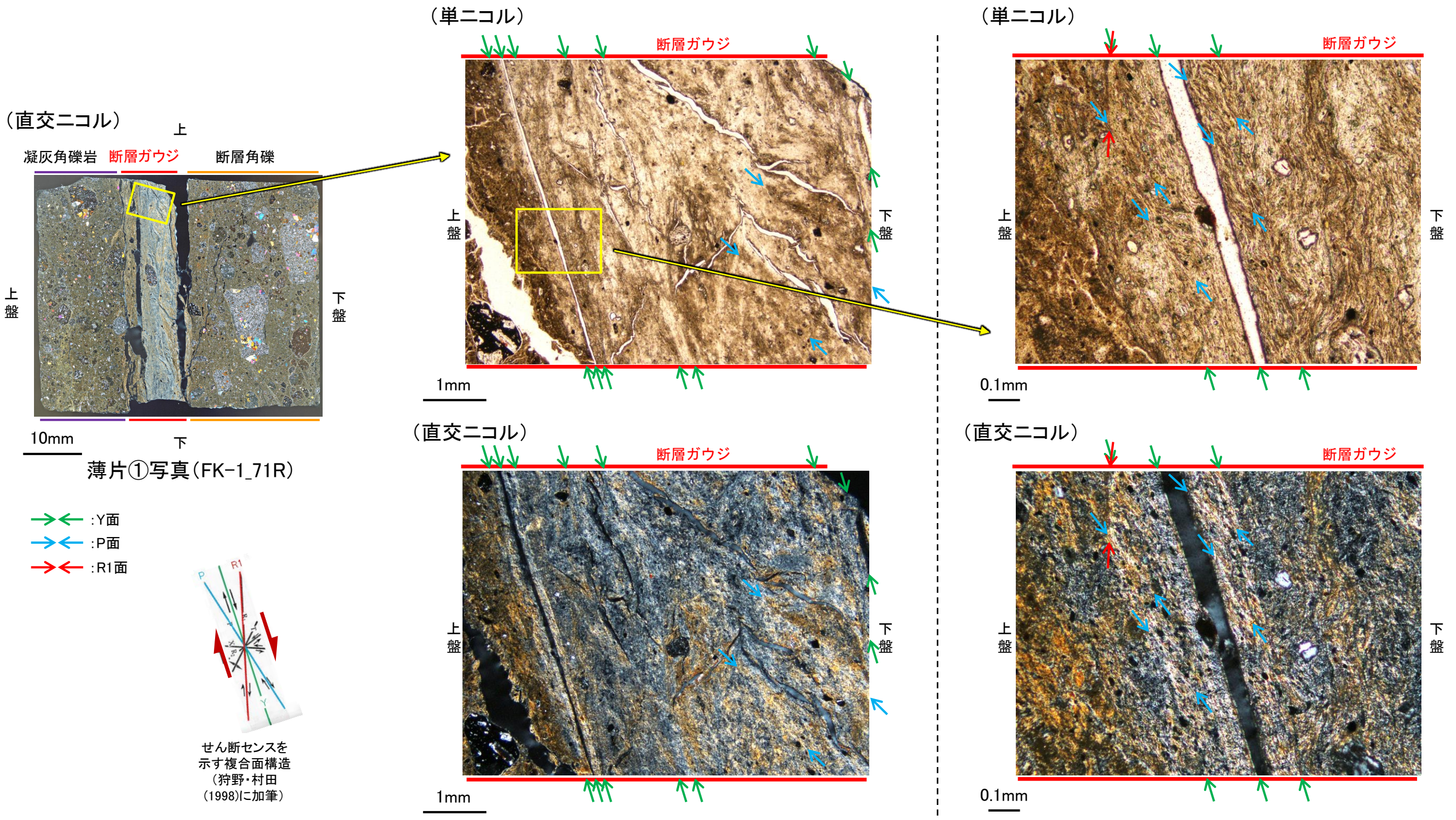
— : Y面  
 → ← 不連続箇所が認められず連続的に観察されるY面  
 (一部途切れる箇所は薄片作成時等の乾燥収縮により開口した割れ目)

- ・FK-1孔の薄片観察の結果、不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
- ・なお、複数認められるY面の一部には、変質の影響で不連続になる箇所も認められる。



福浦断層\_FK-1孔

【複合面構造】



薄片①写真(FK-1\_71R)

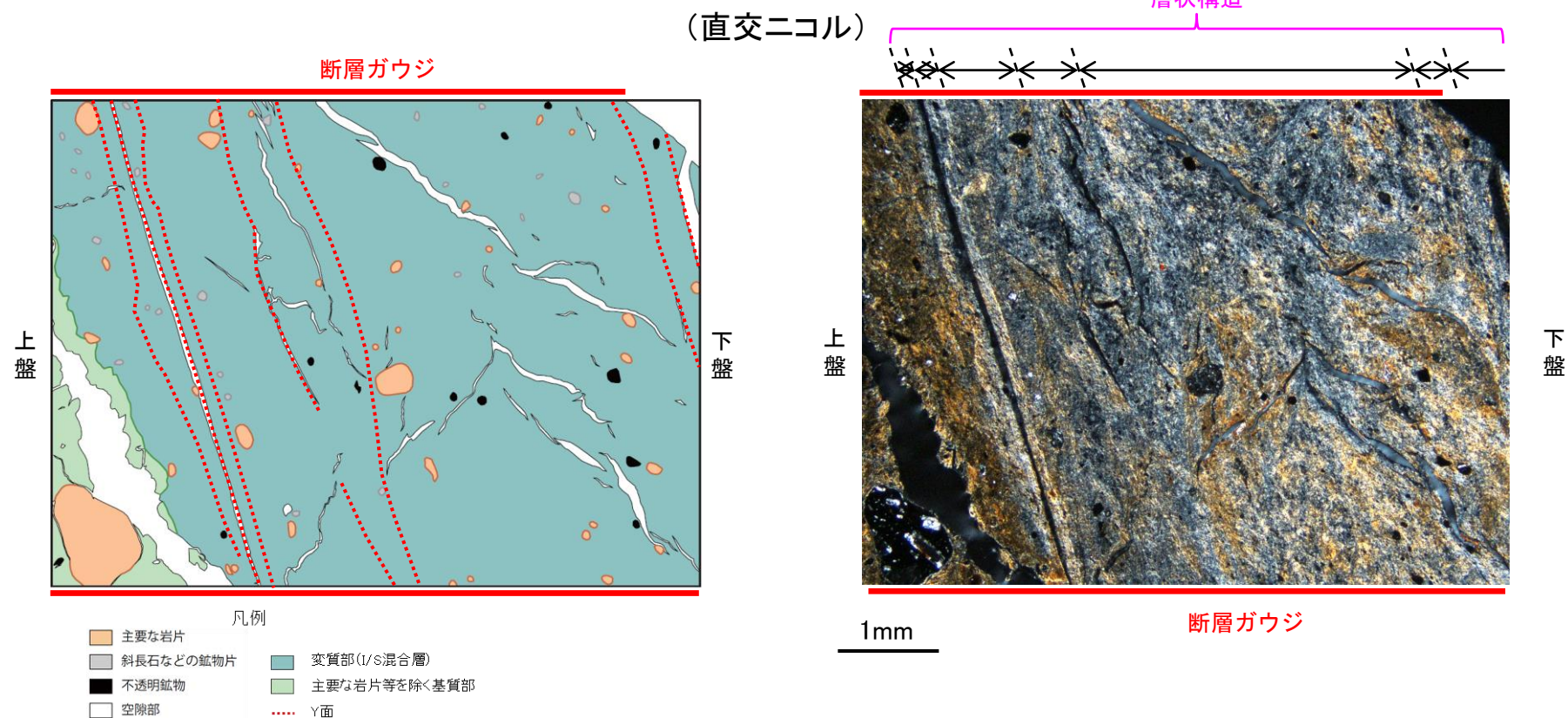
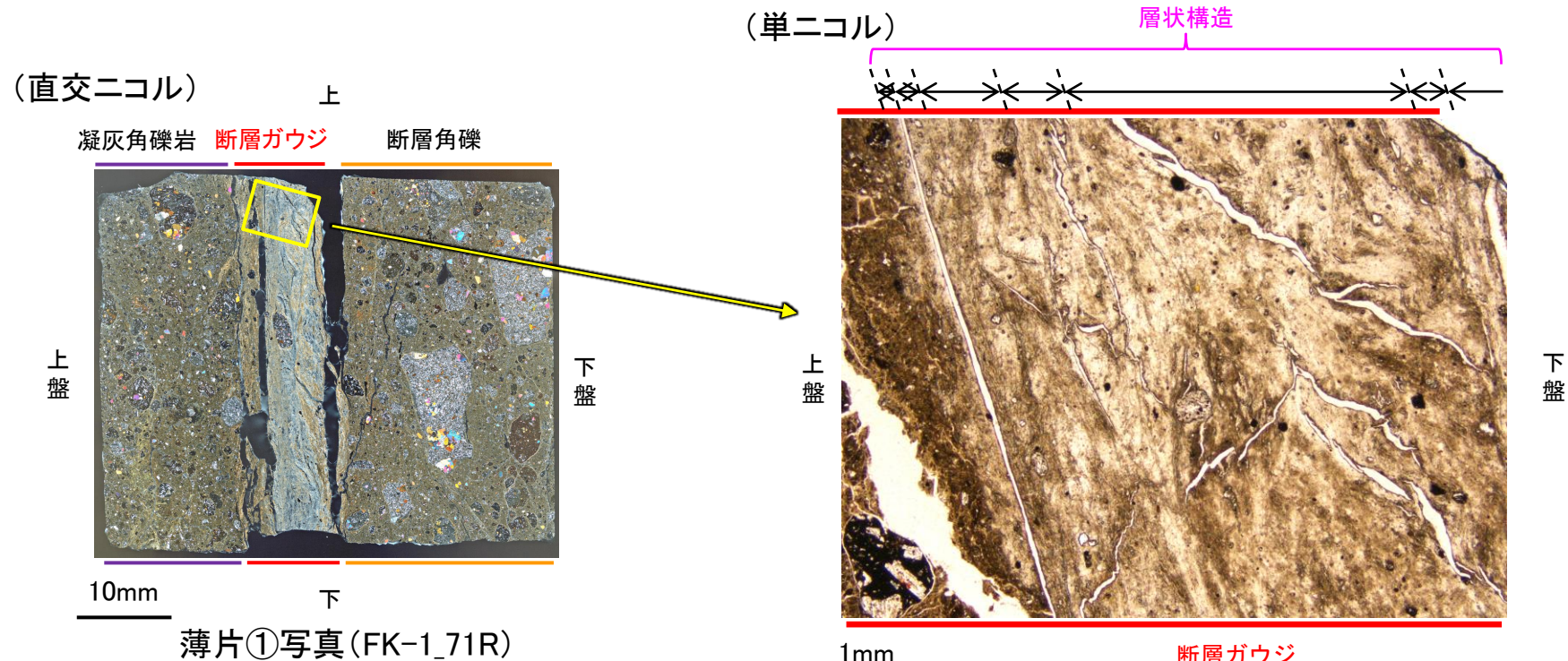
せん断センスを示す複合面構造  
(狩野・村田  
(1998)に加筆)

- ・断層ガウジ中に明瞭な複合面構造が認められ、複数認められるY面は直線性・連続性がよく明瞭である。
- ・複合面構造から逆断層センスを推定した。



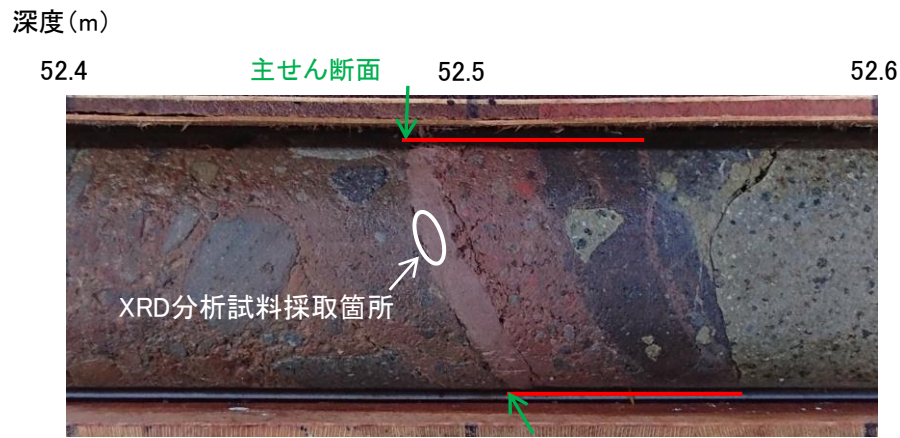
福浦断層\_FK-1孔

【層状構造】



・断層ガウジ中に粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され、繰り返し活動した構造が認められる。





分析試料

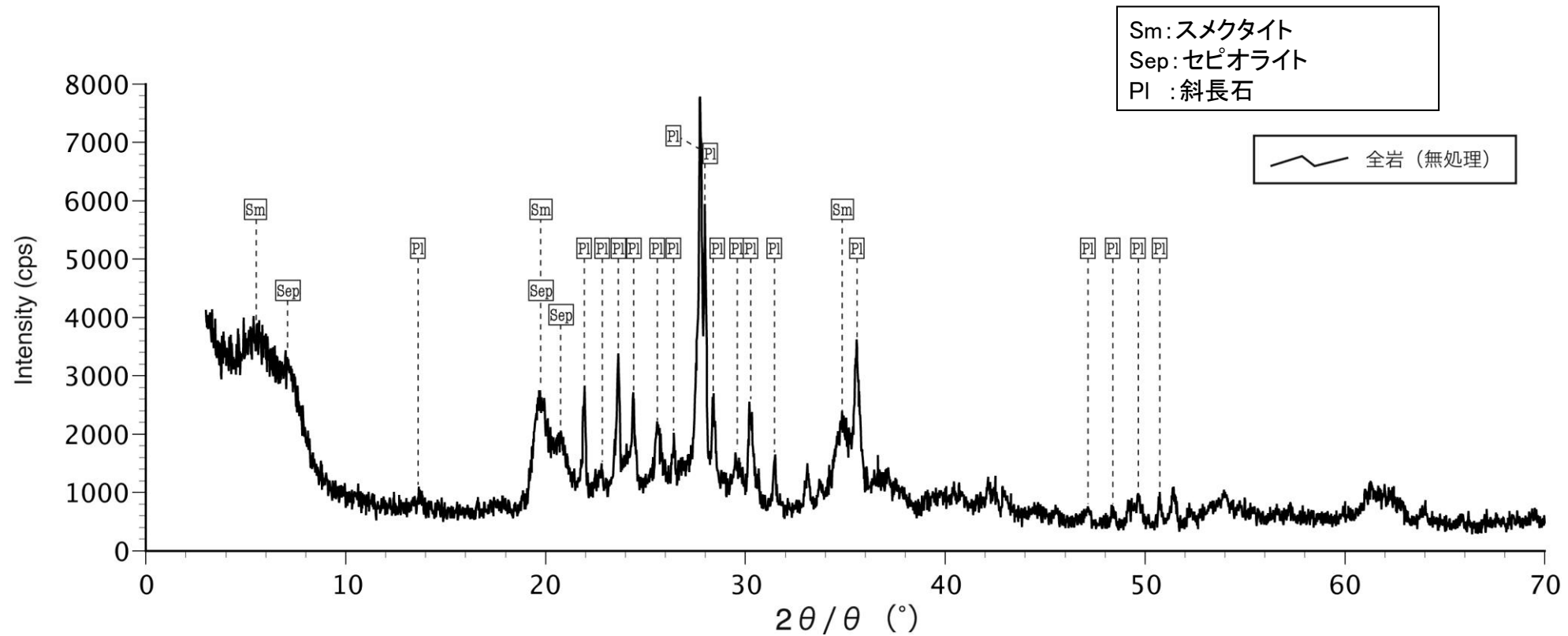
	検出鉱物		
	斜長石	スメクタイト	セピオライト
福浦断層 FK-1孔	○	△	△

XRD分析 測定諸元  
 装置: Rigaku RINT2500V  
 Target: Cu (K $\alpha$ )  
 Voltage: 40kV  
 Detector: SC  
 Divergence Slit: 0.5°  
 Receiving Slit: 0.15mm  
 Step size: 0.02°

◎: 卓越している (>20,000cps)  
 ○: 含まれている (5,000~20,000cps)  
 △: 少量だが検出される (<5,000cps)

== 破碎部

試料採取箇所 (FK-1孔)



回折チャート 不定方位

・FK-1孔の断層位置でXRD分析を実施した結果、主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められる。

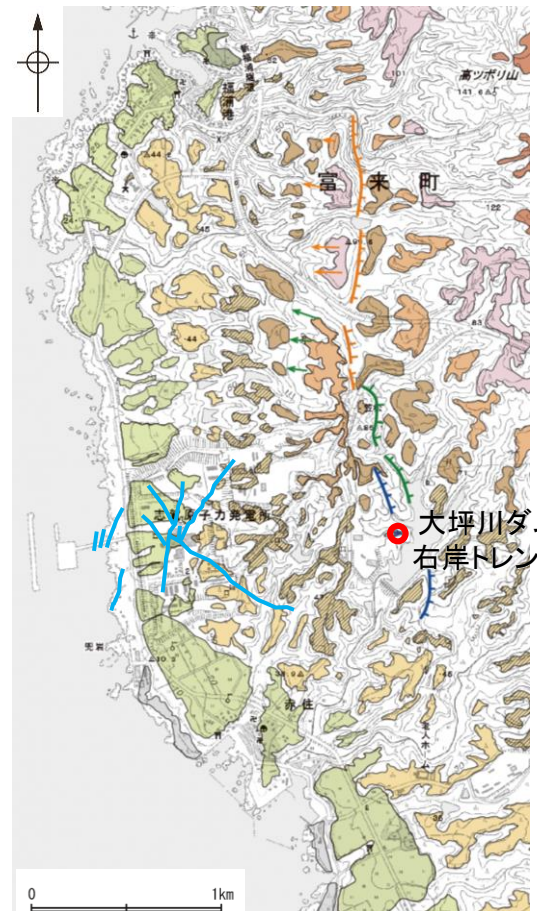


---

## (3)-2 大坪川ダム右岸トレンチ

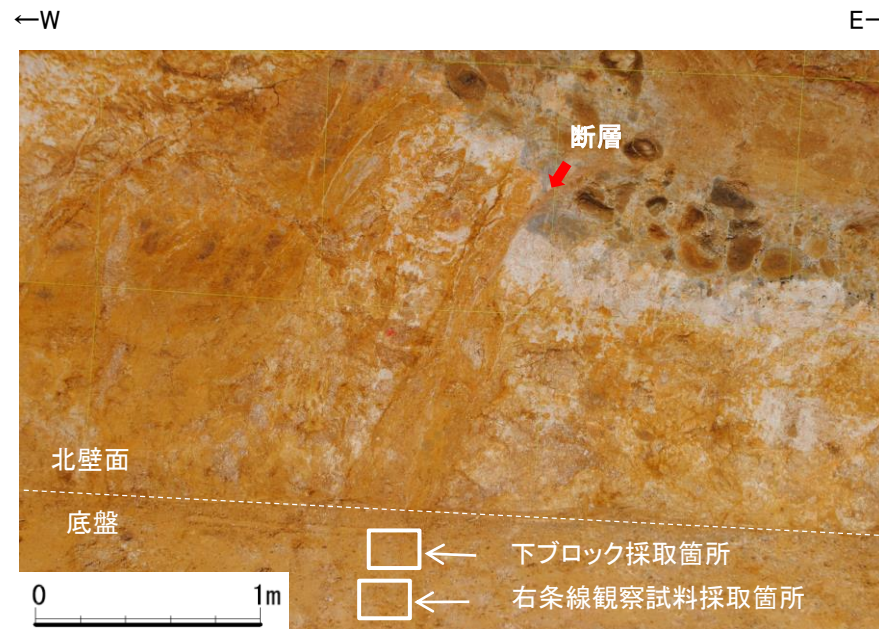


# 大坪川ダム右岸トレンチ ー薄片作成箇所ー

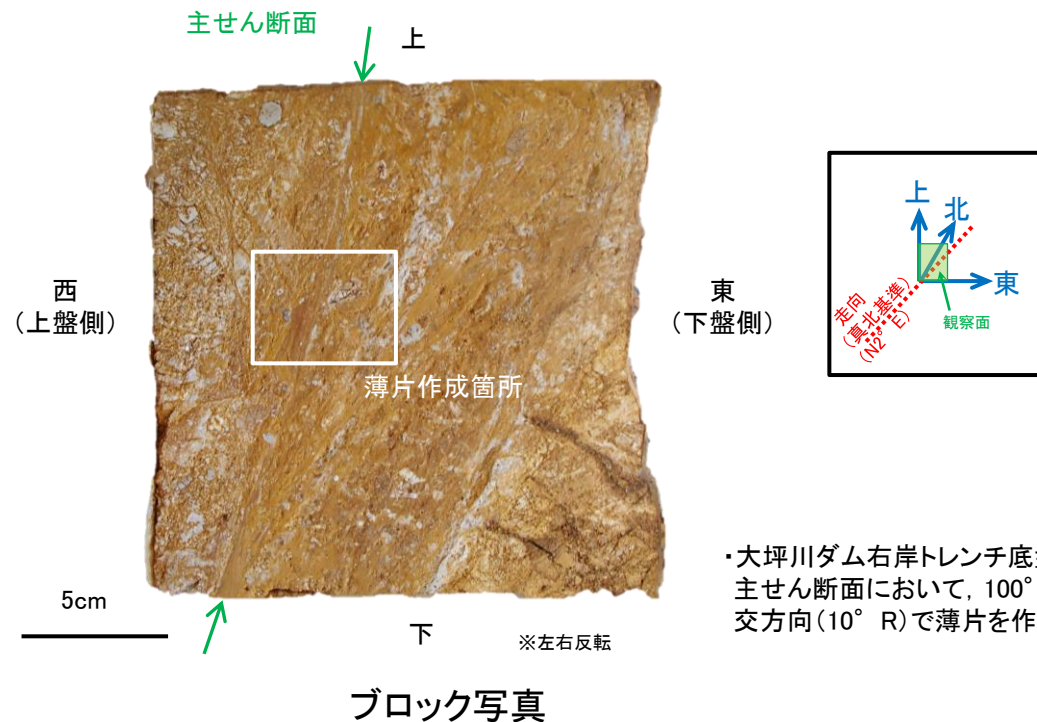


位置図

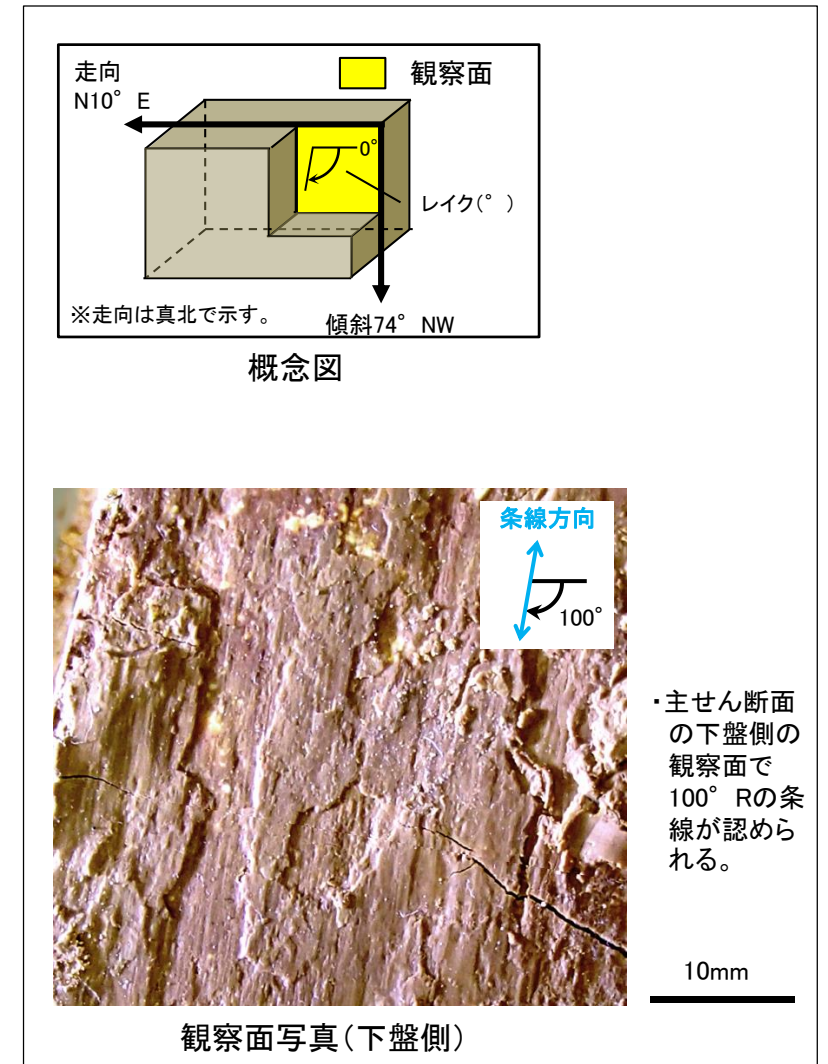
凡例



試料採取箇所  
(大坪川ダム右岸トレンチ)



ブロック写真



条線観察結果

・主せん断面の下盤側の観察面で100° Rの条線方向が認められる。

・大坪川ダム右岸トレンチ底盤から採取したブロックの主せん断面において、100° Rの条線方向及びその直交方向(10° R)で薄片を作成した。



# 大坪川ダム右岸トレンチ ー薄片観察結果ー

## 【薄片観察\_100R(解釈線なし)】

(単ニコル)

上

(直交ニコル)

上

断層角礫

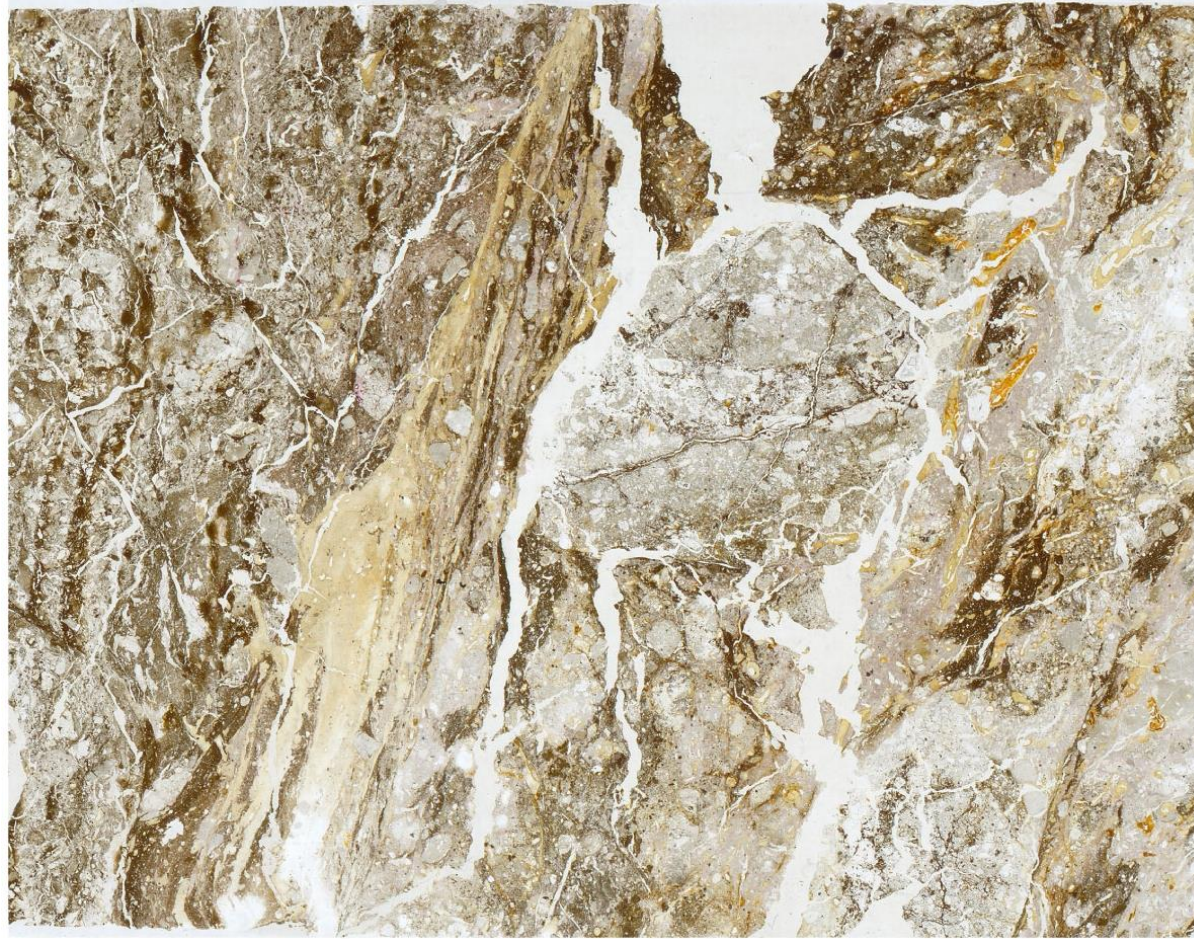
断層ガウジ

断層角礫

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

下盤

10mm

下

下

薄片写真(大坪川ダム右岸トレンチ\_100R)

断層角礫(上盤側):単ニコルで褐灰色,直交ニコルで白~灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層ガウジ:単ニコルで淡褐灰色,直交ニコルで黄~白色の干渉色を呈する,粘土鉱物を含む細粒物からなる。径2mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層角礫(下盤側):単ニコルで褐灰色,直交ニコルで黄~灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径3mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれており,径12~18mmの岩片も含まれる。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。



福浦断層\_大坪川ダム右岸トレンチ

【薄片観察\_100R(解釈線あり)】

(単ニコル)

上

(直交ニコル)

上

断層角礫

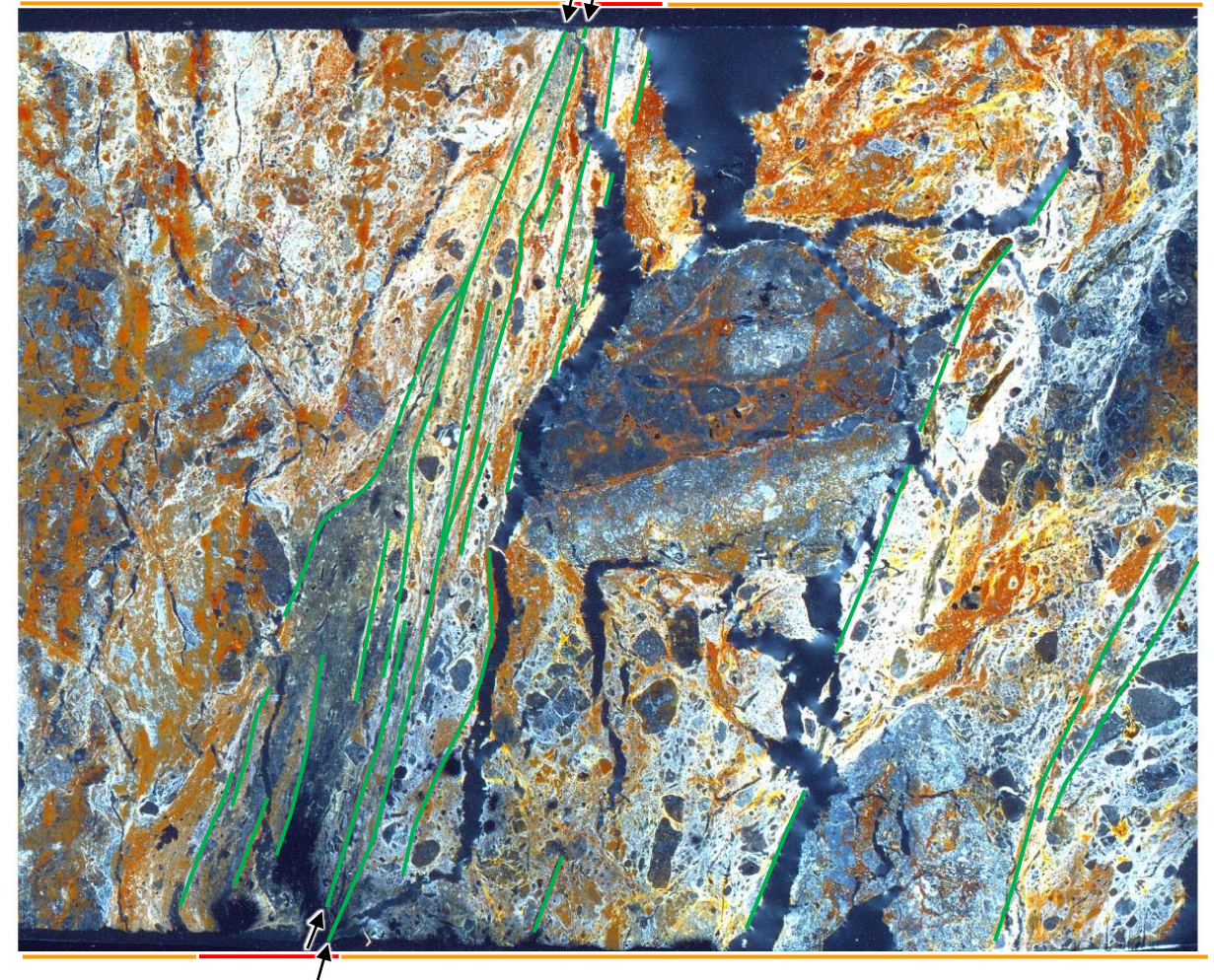
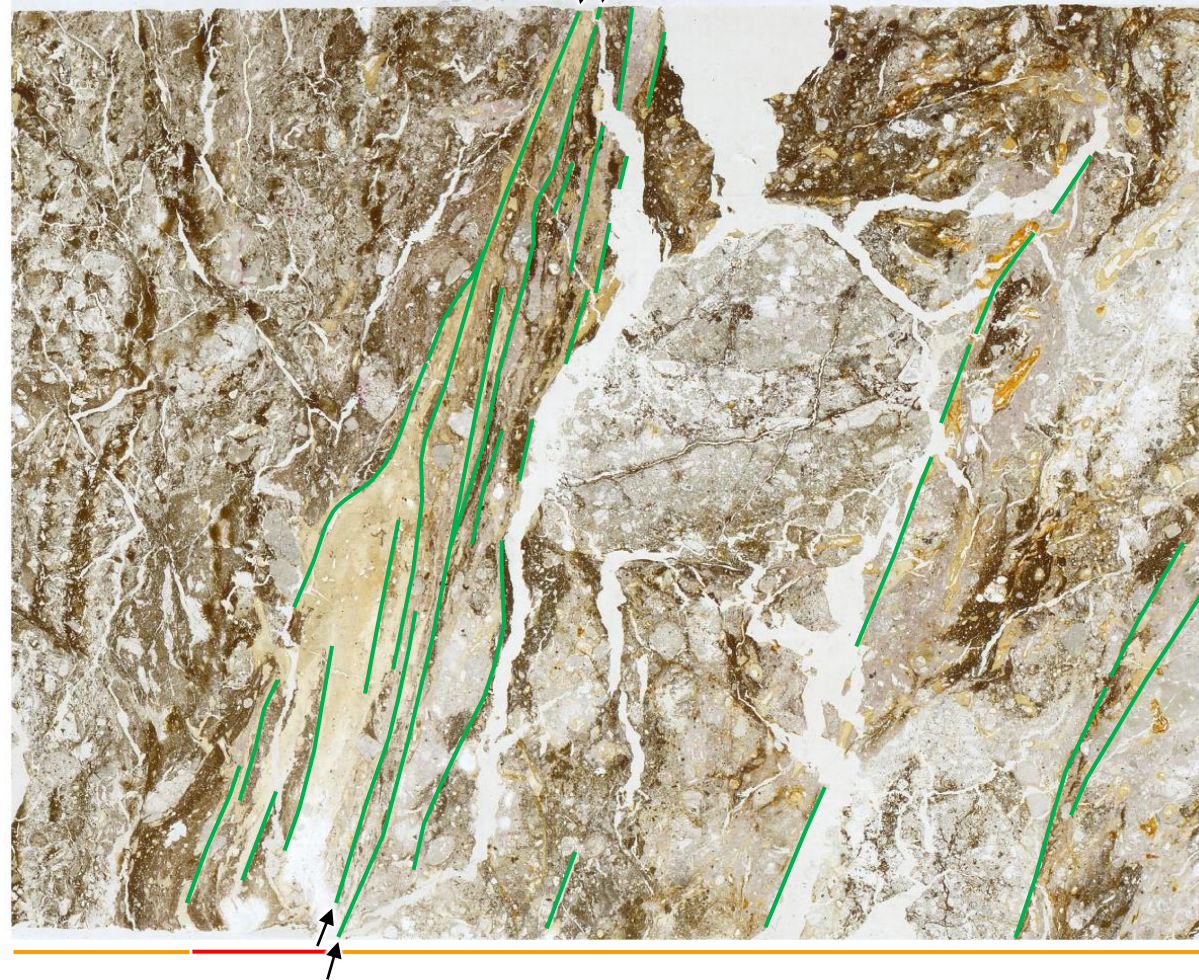
断層ガウジ

断層角礫

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

下盤

10mm

下

下

薄片写真(大坪川ダム右岸トレンチ\_100R)

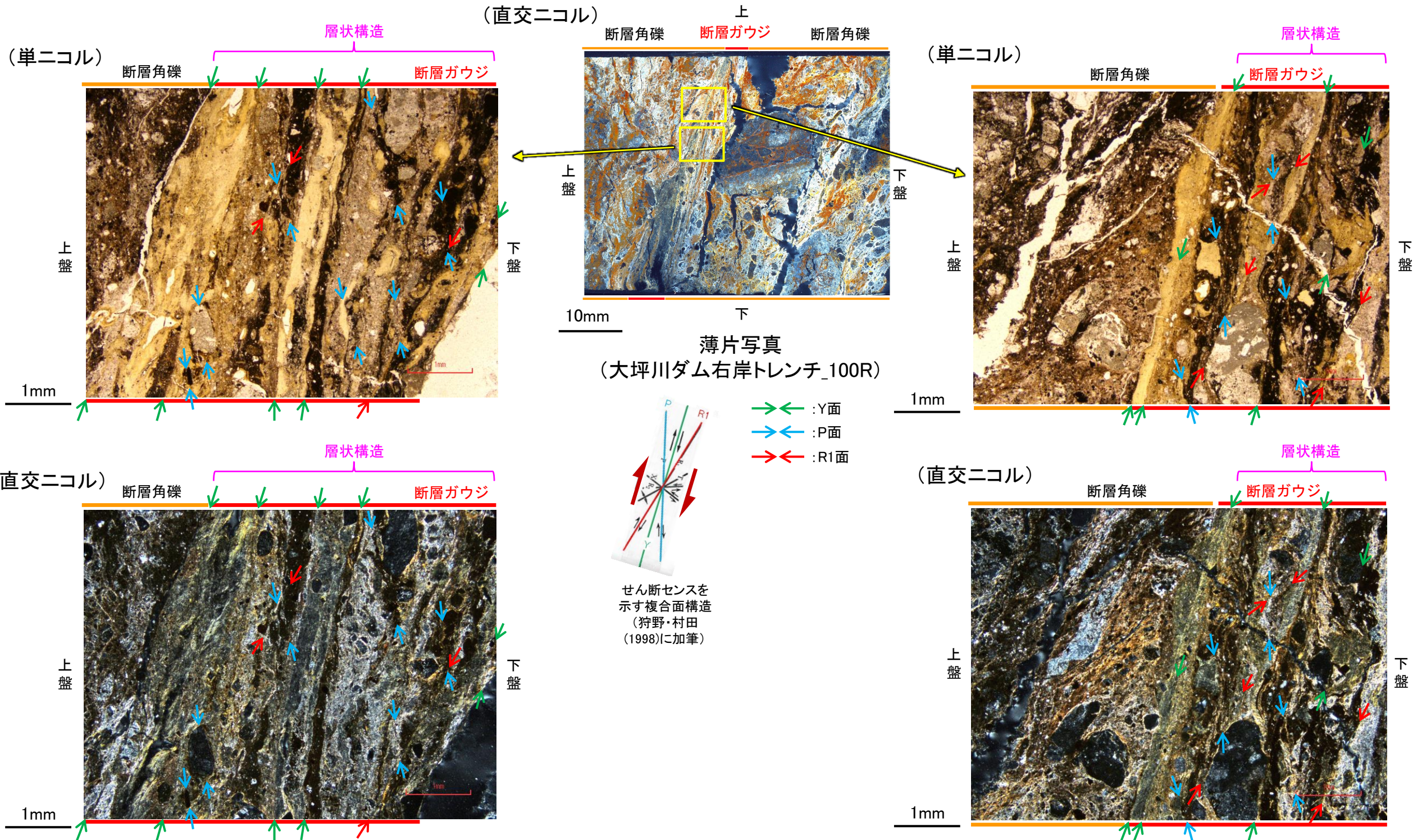
— : Y面  
→ ← 不連続箇所が認められず連続的に観察されるY面  
(一部途切れる箇所は薄片作成時等の乾燥収縮により開口した割れ目)

- ・大坪川ダム右岸トレンチ(100R)の薄片観察の結果、不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
- ・なお、複数認められるY面の一部には、風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。



福浦断層\_大坪川ダム右岸トレンチ

【複合面構造, 層状構造(100R)】



- ・断層ガウジ中に明瞭な複合面構造が認められ, 複数認められるY面は直線性・連続性がよく明瞭である。
- ・複合面構造から逆断層センスを推定した。
- ・断層ガウジ中では, 粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され, 繰り返し活動した構造が認められる。



福浦断層\_大坪川ダム右岸トレンチ

【薄片観察\_10R(解釈線なし)】

(単ニコル)

北

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



下盤

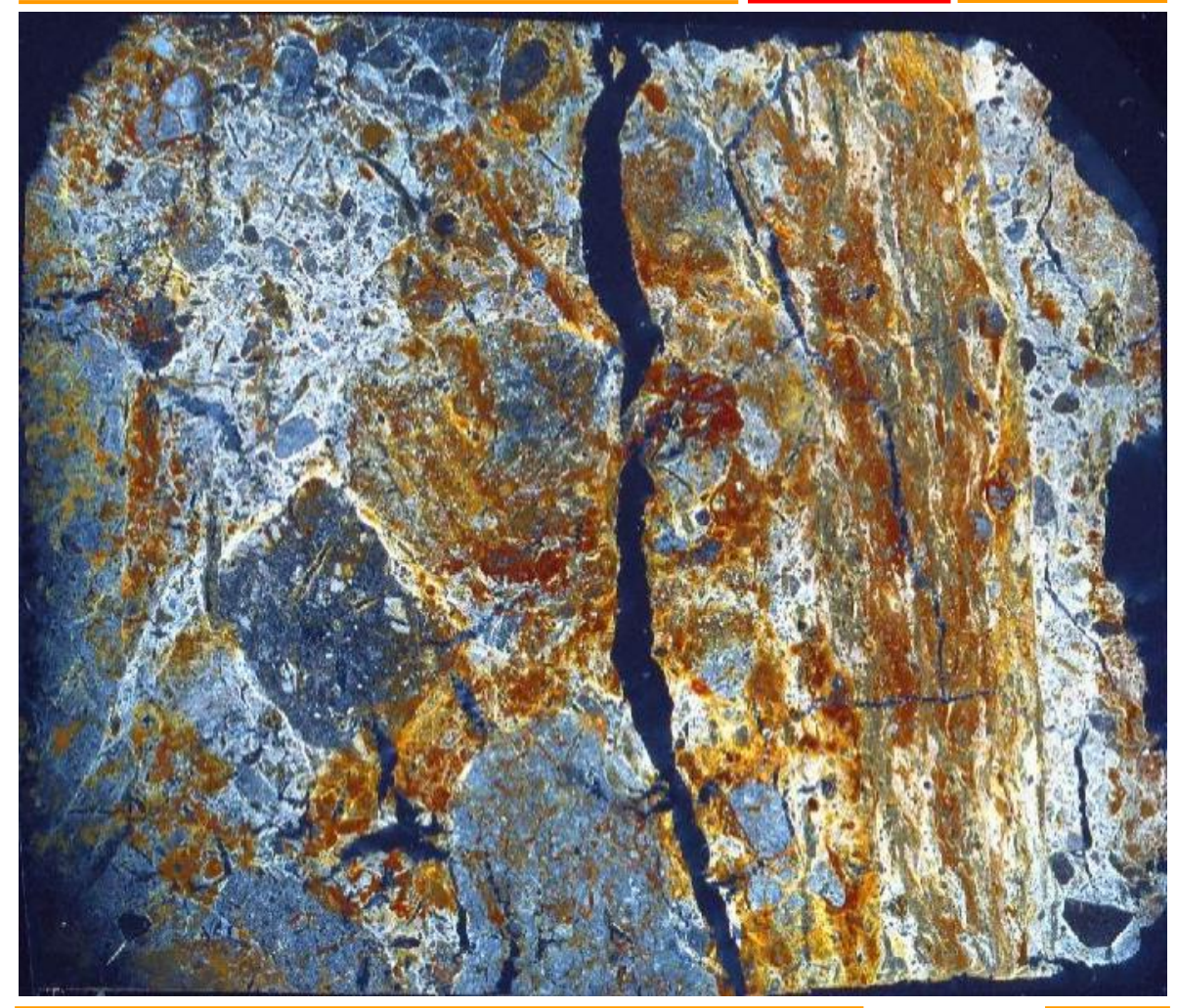
(直交ニコル)

北

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

10mm

南

薄片写真(大坪川ダム右岸トレンチ\_10R)

南

断層角礫(上盤側): 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで白~灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径4mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層ガウジ: 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで黄~白色の干渉色を呈する, 粘土鉱物を含む細粒物からなる。径3mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層角礫(下盤側): 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで黄~灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径4mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれており, 径8~20mmの岩片も含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。



福浦断層\_大坪川ダム右岸トレンチ

【薄片観察\_10R(解釈線あり)】

(単ニコル)

北

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



下盤

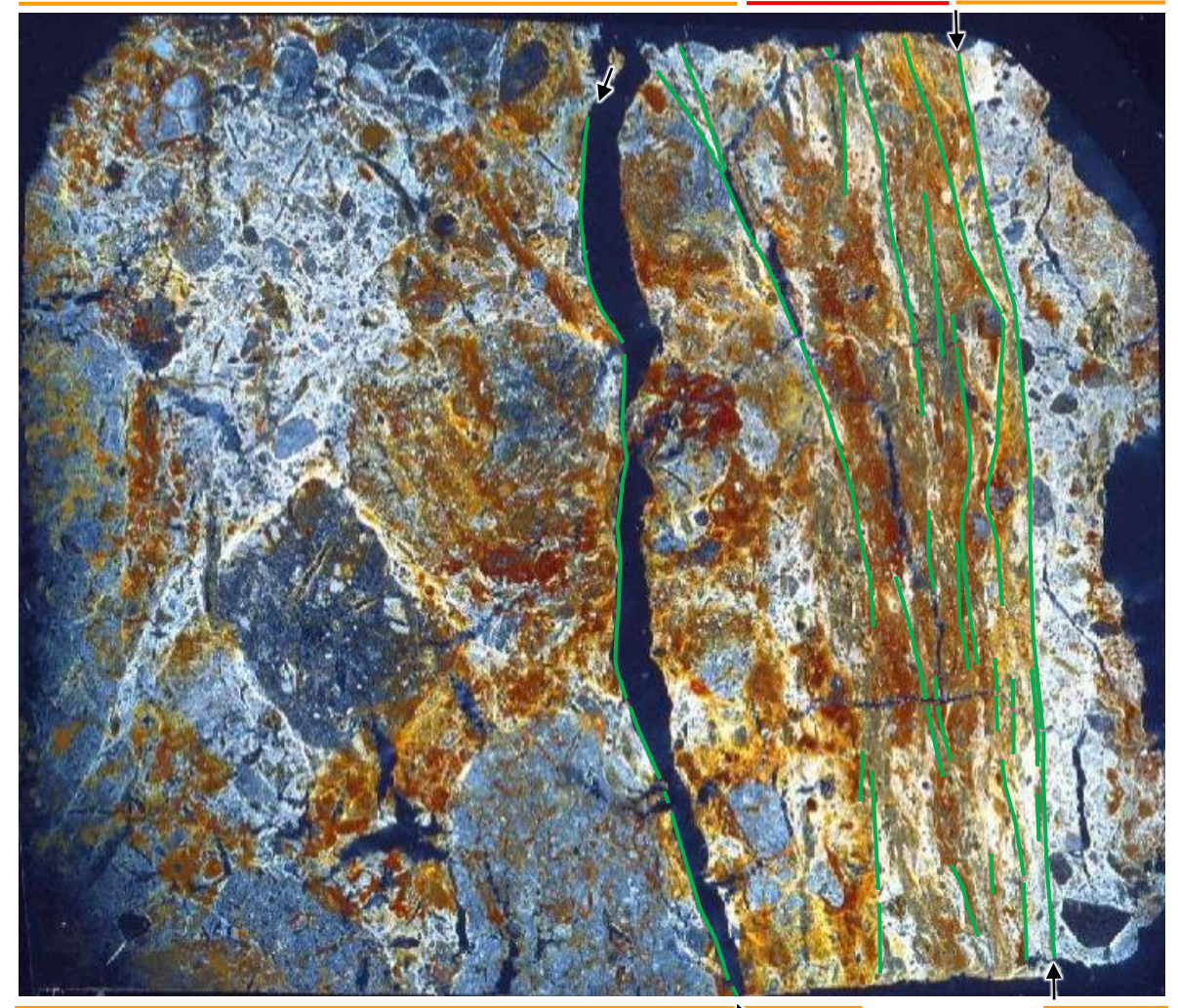
(直交ニコル)

北

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

10mm

薄片写真(大坪川ダム右岸トレンチ\_10R)

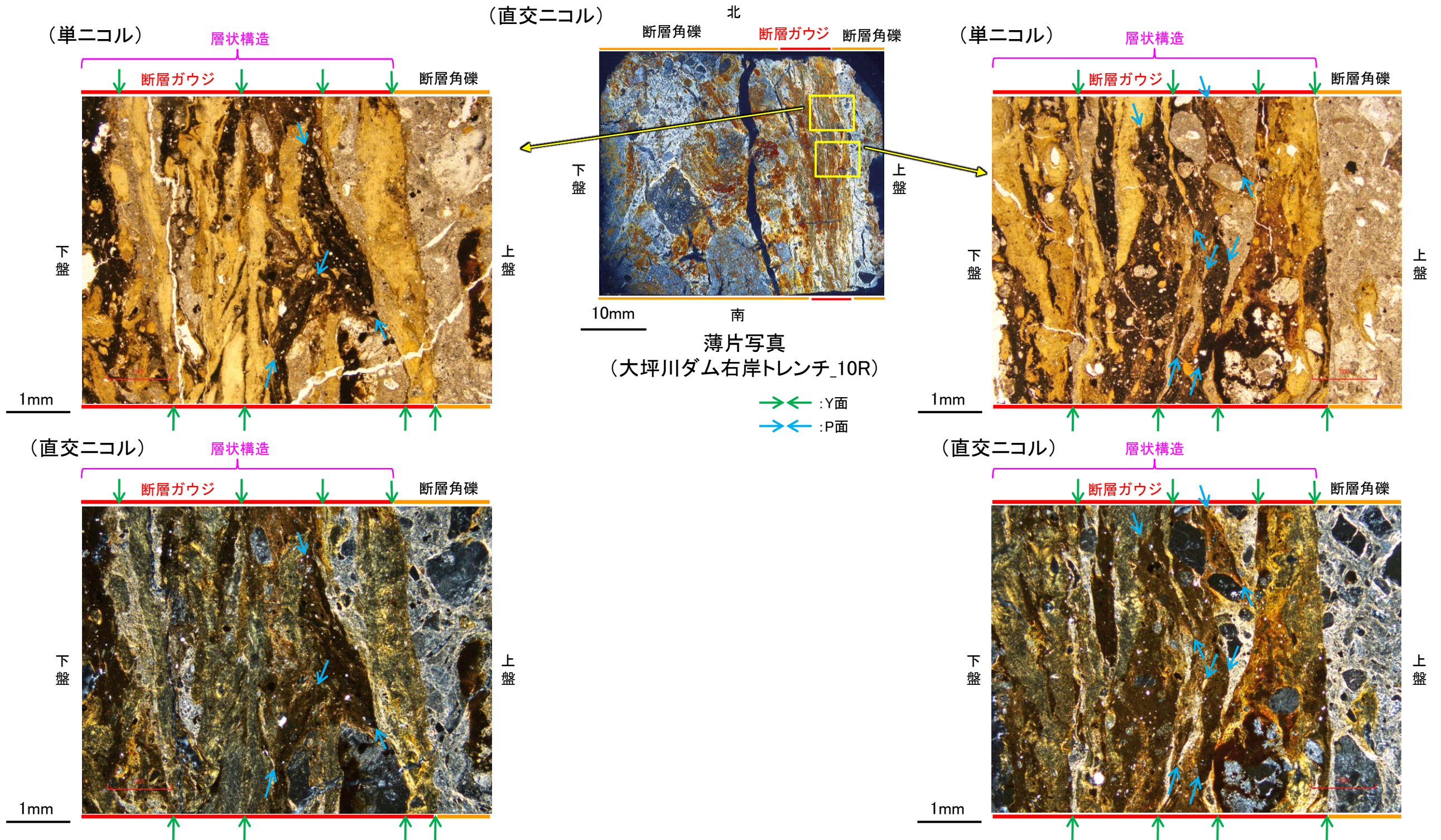
— : Y面  
→ ← 不連続箇所が認められず連続的に観察されるY面  
(一部途切れる箇所は薄片作成時等の乾燥収縮により開口した割れ目)

- ・大坪川ダム右岸トレンチ(10R)の薄片観察の結果, 不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
- ・なお, 複数認められるY面の一部には, 風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。



福浦断層\_大坪川ダム右岸トレンチ

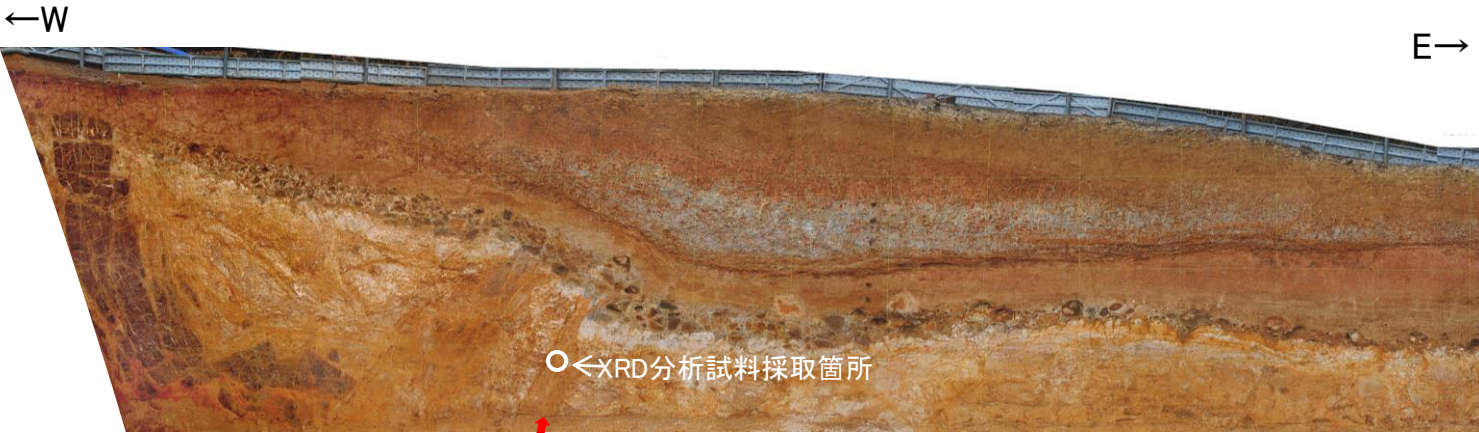
【複合面構造, 層状構造(10R)】



- ・断層ガウジ中の複合面構造はランダムに配置している。
- ・断層ガウジ中では, 粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され, 繰り返し活動した構造が認められる。



# 大坪川ダム右岸トレンチ —XRD分析結果—



試料採取箇所(大坪川ダム右岸トレンチ 北壁面)

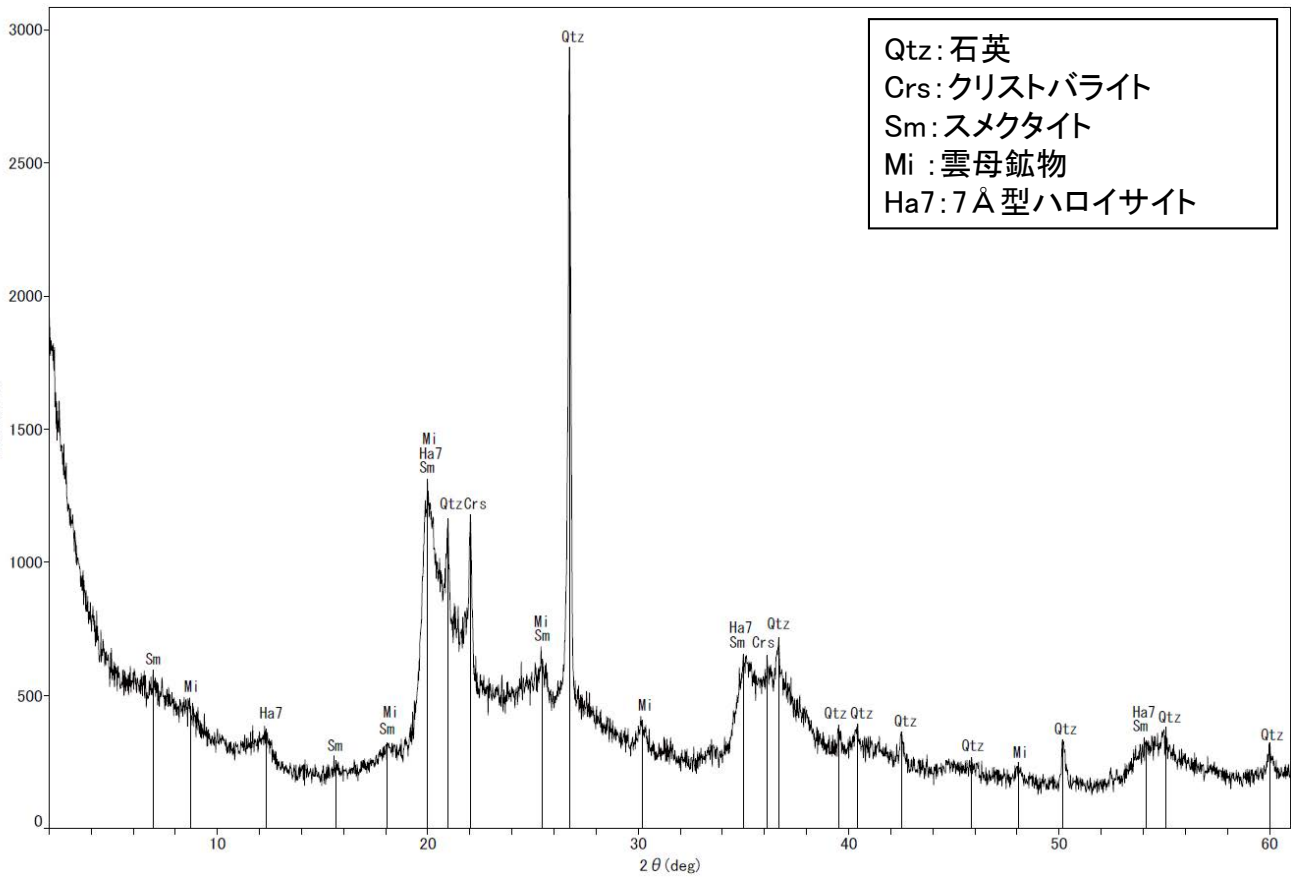


分析試料

	検出鉱物				
	石英	クリストバライト	スメクタイト	雲母鉱物	7 Å型ハロイサイト
福浦断層 大坪川ダム 右岸トレンチ	○	△	+	±	△

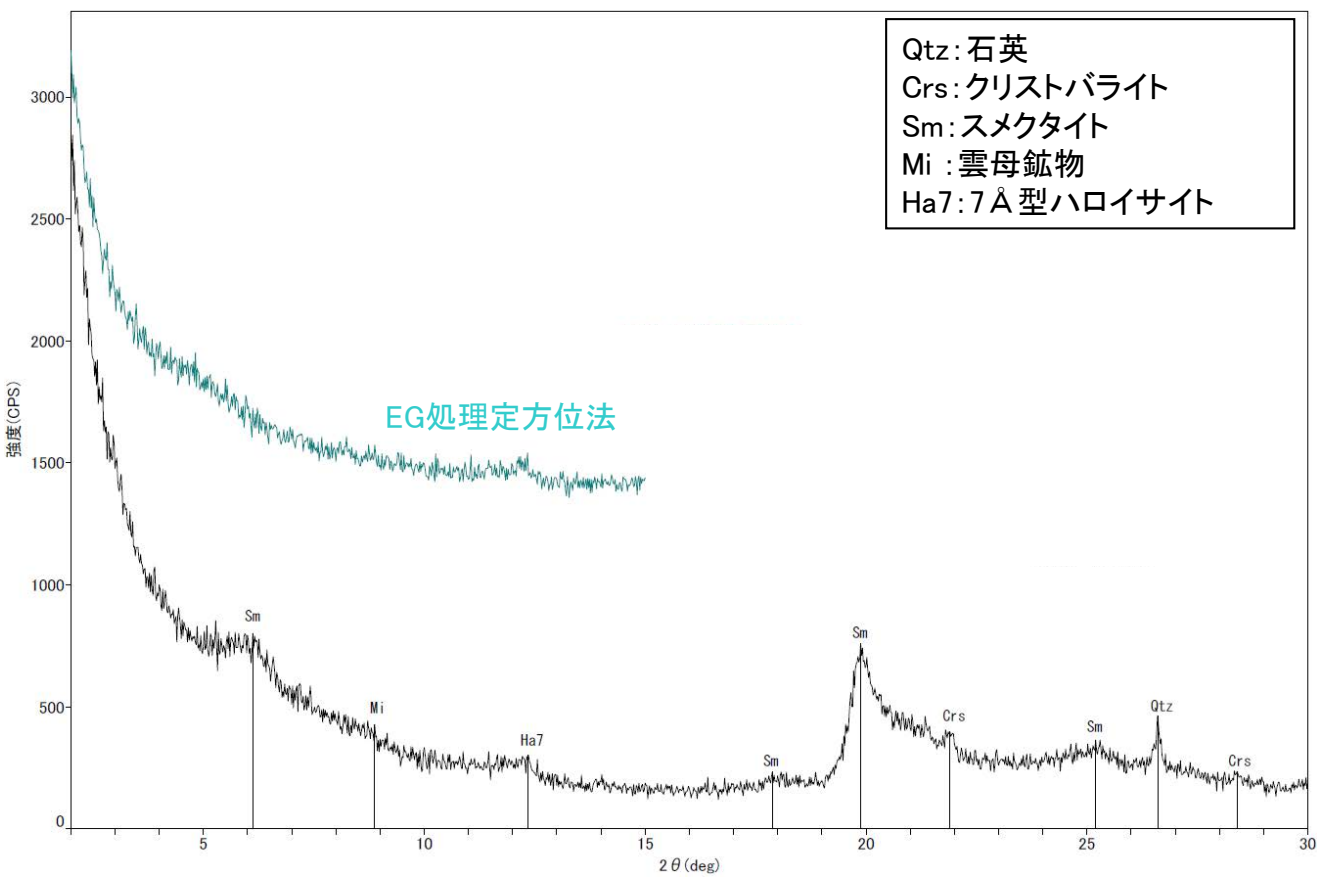
XRD分析 測定諸元  
 装置:理学電気製 MultiFlex  
 Target: Cu(Kα)  
 Voltage: 40kV  
 Detector: SC  
 Divergence Slit: 1°  
 Receiving Slit: 0.3mm  
 Step size: 0.02°

○: 中量(2,500~5,000cps)  
 △: 少量(500~2,500cps)  
 +: 微量(250~500cps)  
 ±: きわめて微量(<250cps)  
 標準石英最強回折線強度  
 (3回繰り返し測定, 平均53,376cps)



回折チャート 不定方位

Qtz: 石英  
 Crs: クリストバライト  
 Sm: スメクタイト  
 Mi : 雲母鉱物  
 Ha7: 7 Å型ハロイサイト



回折チャート 定方位 (EG処理も合わせて表示)

Qtz: 石英  
 Crs: クリストバライト  
 Sm: スメクタイト  
 Mi : 雲母鉱物  
 Ha7: 7 Å型ハロイサイト

・大坪川ダム右岸トレンチの断層位置でXRD分析を実施した結果, 主な粘土鉱物として風化変質鉱物と考えられるハロイサイトが認められる。



---

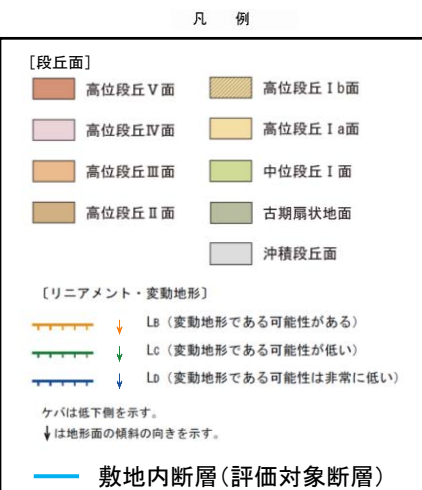
### (3)-3 大坪川ダム右岸北道路



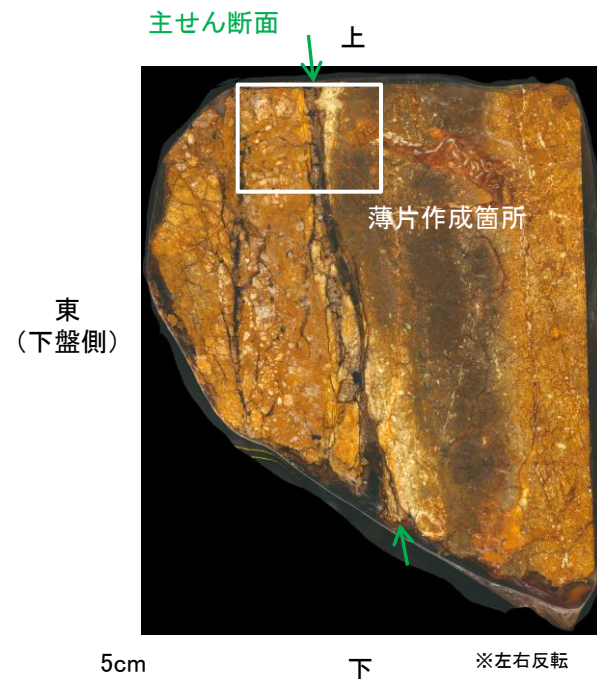
# 大坪川ダム右岸北道路 一薄片作成箇所一



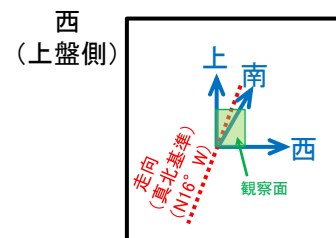
位置図



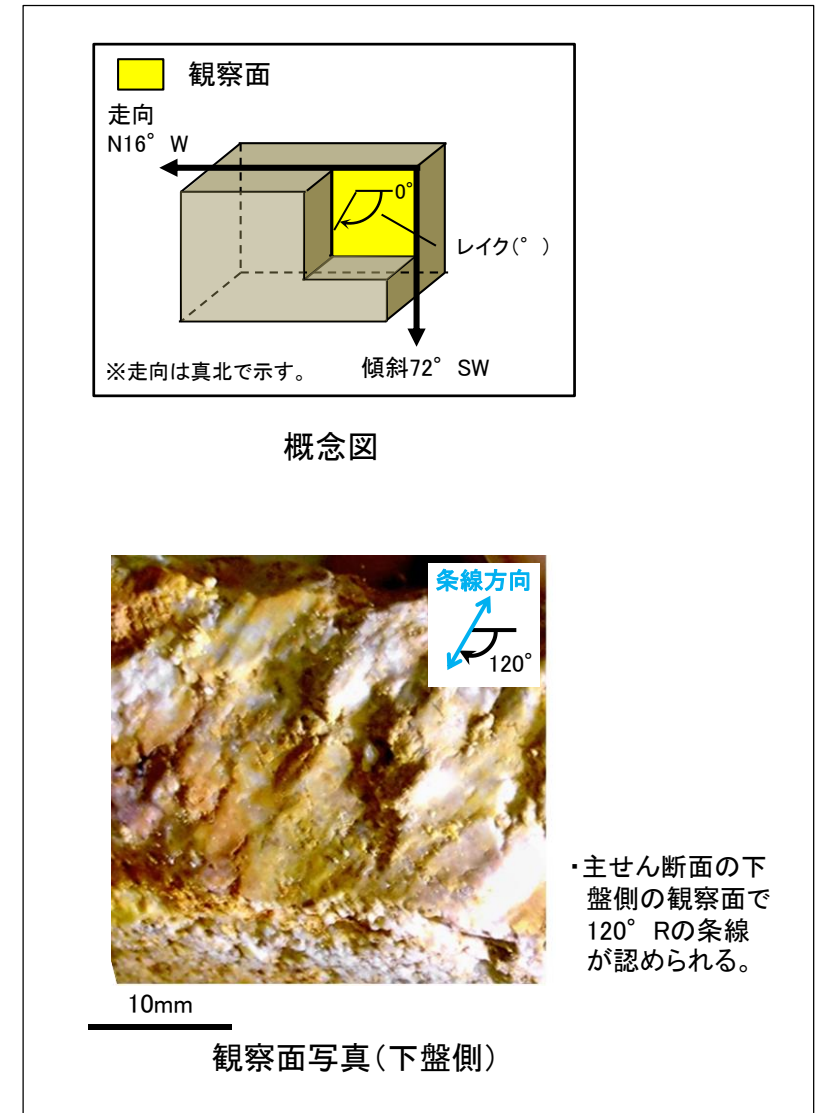
試料採取箇所  
(大坪川ダム右岸北道路)



ブロック写真



・大坪川ダム右岸北道路法面から採取したブロックの主せん断面において、120° Rの条線方向で薄片を作成した。



概念図

観察面写真(下盤側)

条線観察結果

・主せん断面の下盤側の観察面で120° Rの条線が認められる。

・大坪川ダム右岸北道路で認められる福浦断層の主せん断面において、120° Rの条線方向で薄片を作成した。



## 【薄片観察(解釈線なし)】

(単ニコル)

上

(直交ニコル)

上

断層角礫

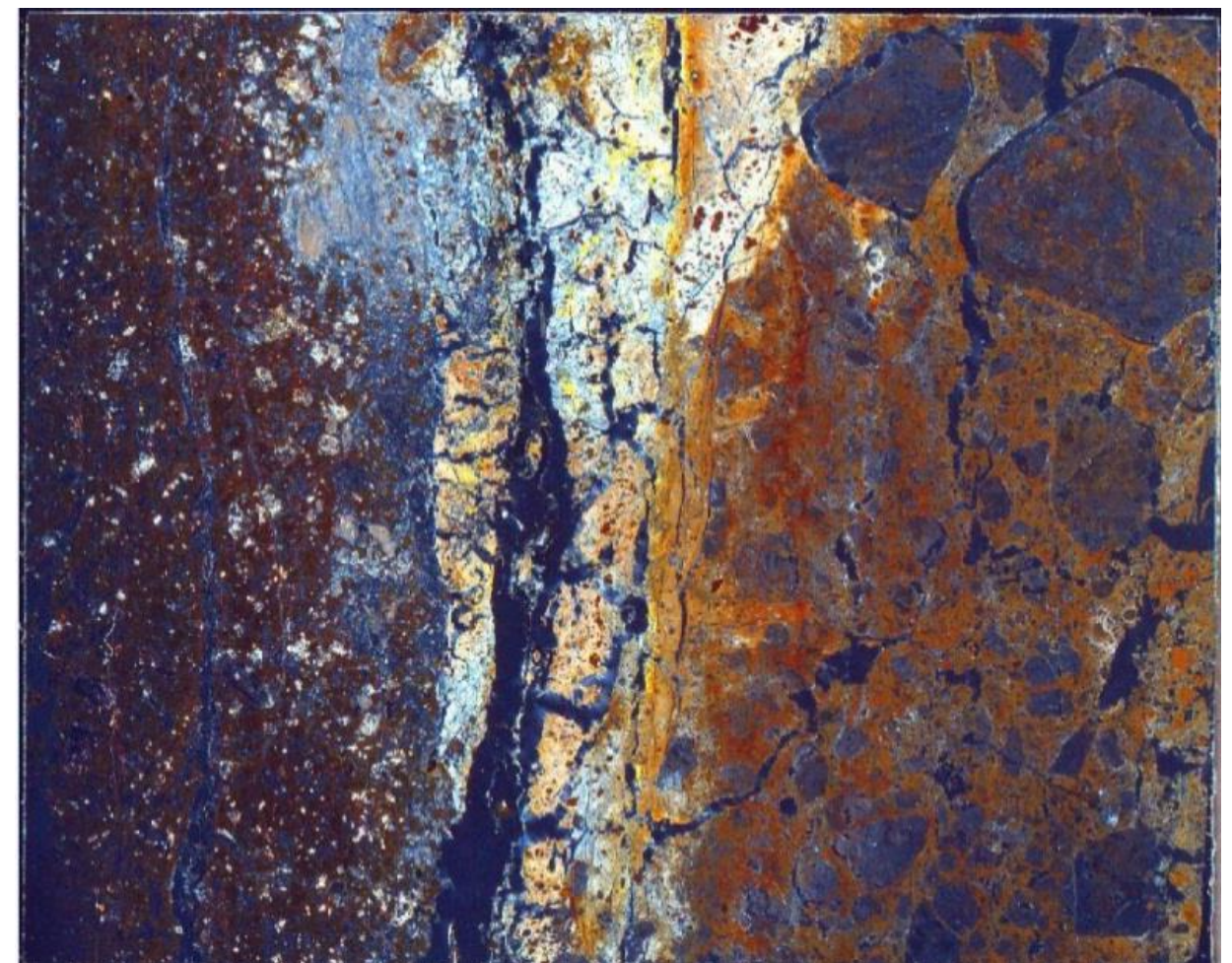
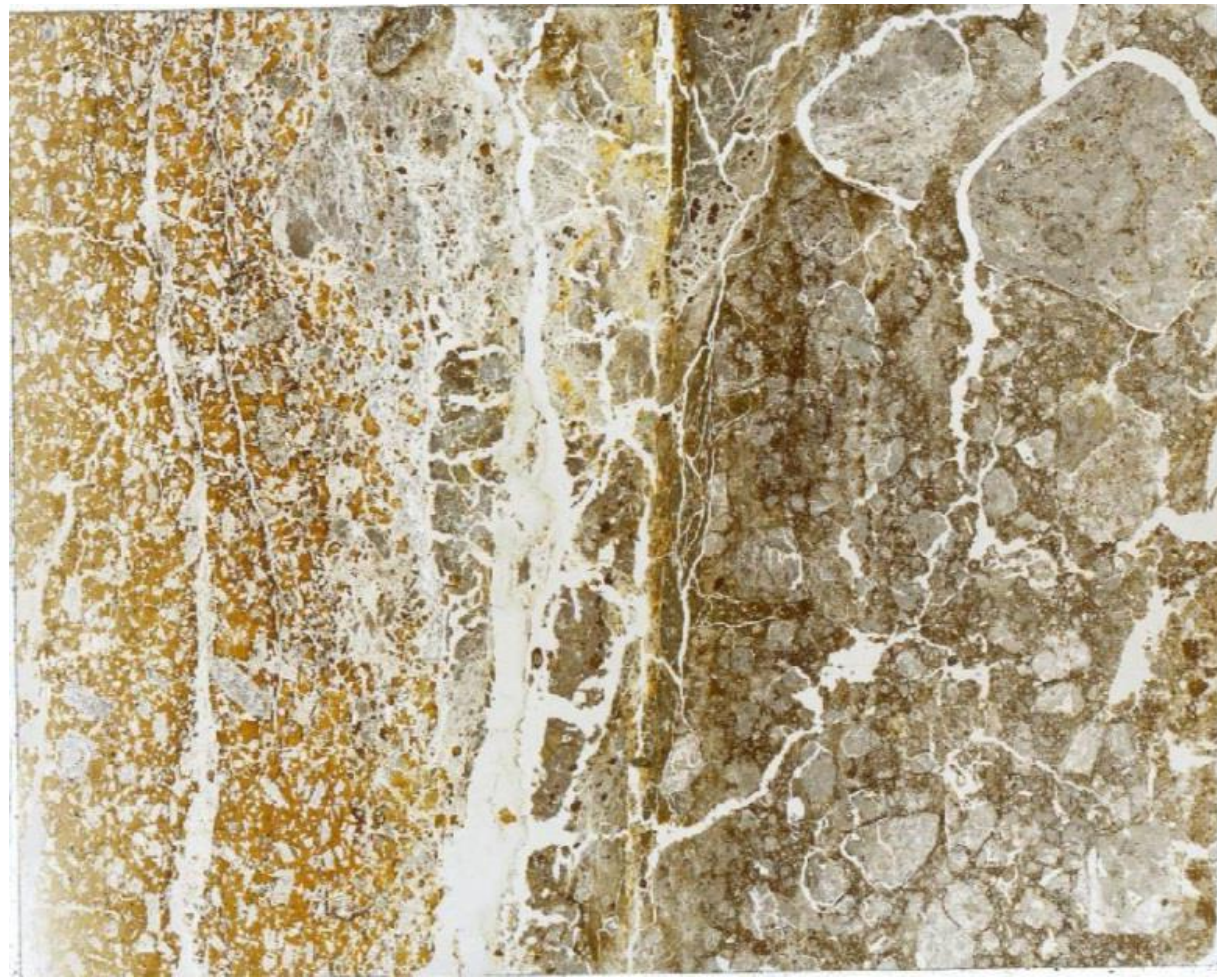
断層ガウジ

断層角礫

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

下盤

10mm

下

下

薄片写真(大坪川ダム右岸北道路\_120R)

断層角礫(上盤側):単ニコルで褐色,直交ニコルで暗褐色の干渉色を呈する安山岩からなる。径4mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれており,径40mm以上の岩片を含む。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層ガウジ:単ニコルで褐灰色,直交ニコルで黄~灰色の干渉色を呈する,粘土鉱物を含む細粒物からなる。径2mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層角礫(下盤側):単ニコルで褐灰色,直交ニコルで白~暗褐色の干渉色を呈する火山礫凝灰岩からなる。径11mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片,鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目,岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。



福浦断層\_大坪川ダム右岸北道路

【薄片観察(解釈線あり)】

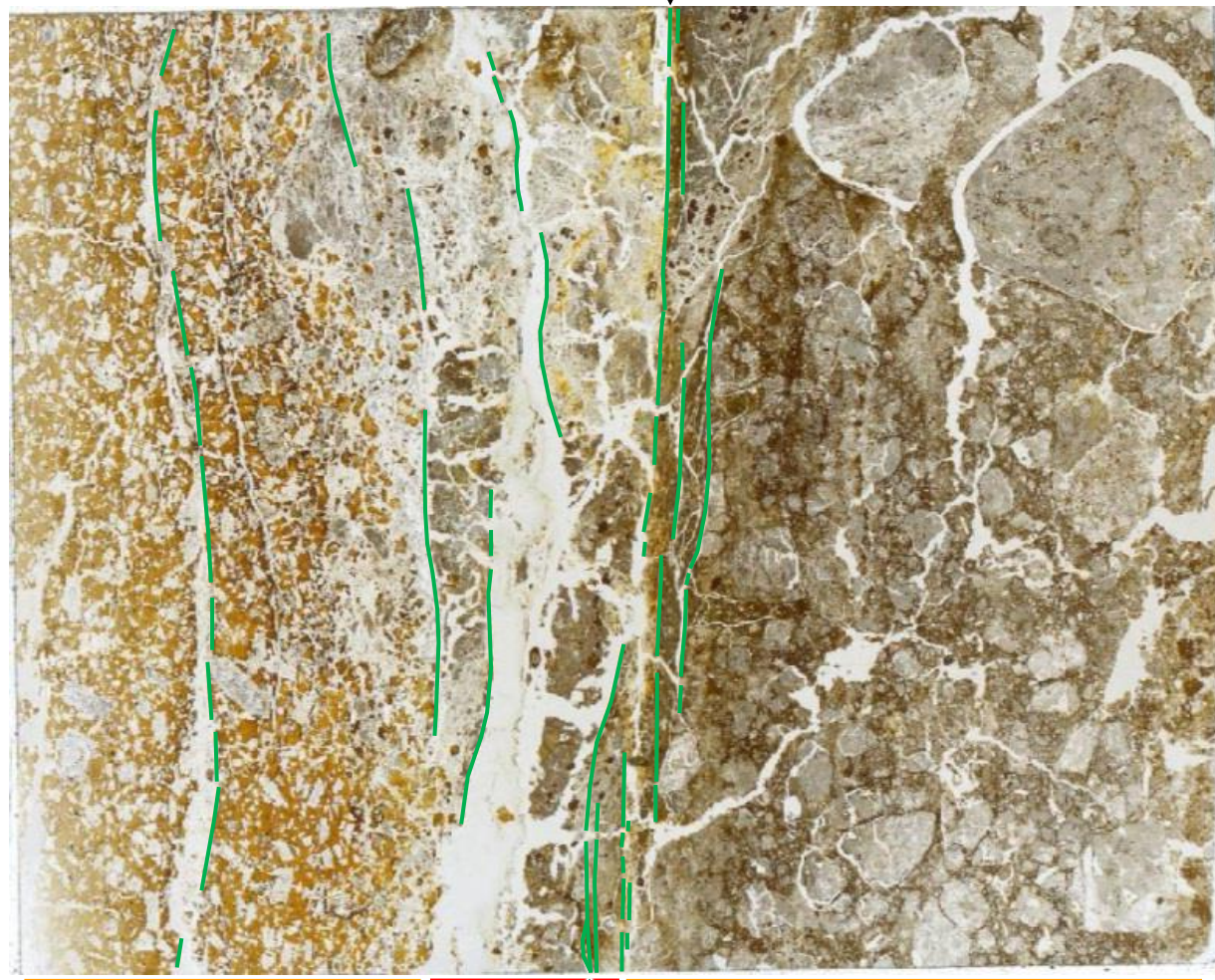
(単ニコル)

上

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



上盤

下

10mm

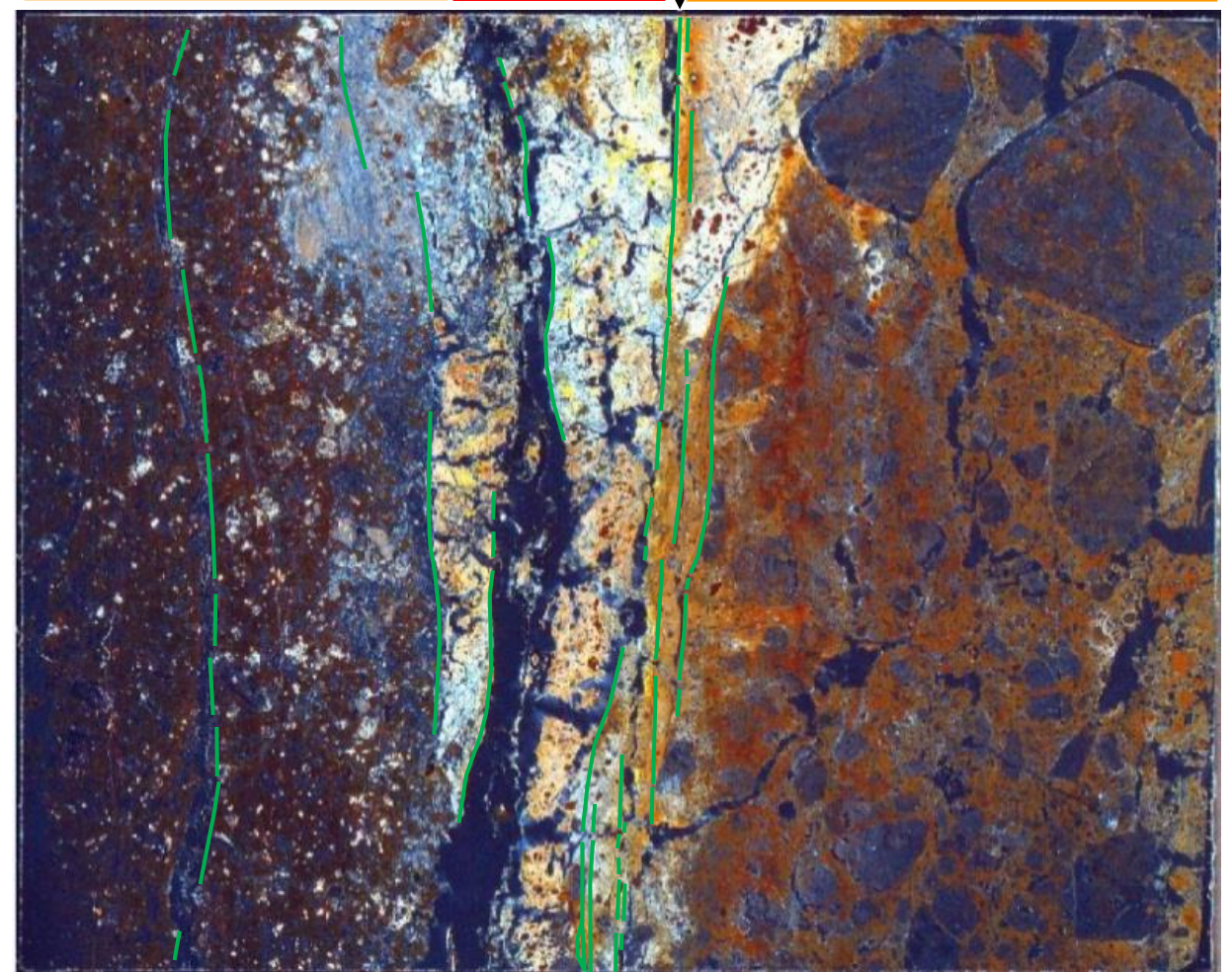
(直交ニコル)

上

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



下盤

下

薄片写真(大坪川ダム右岸北道路\_120R)

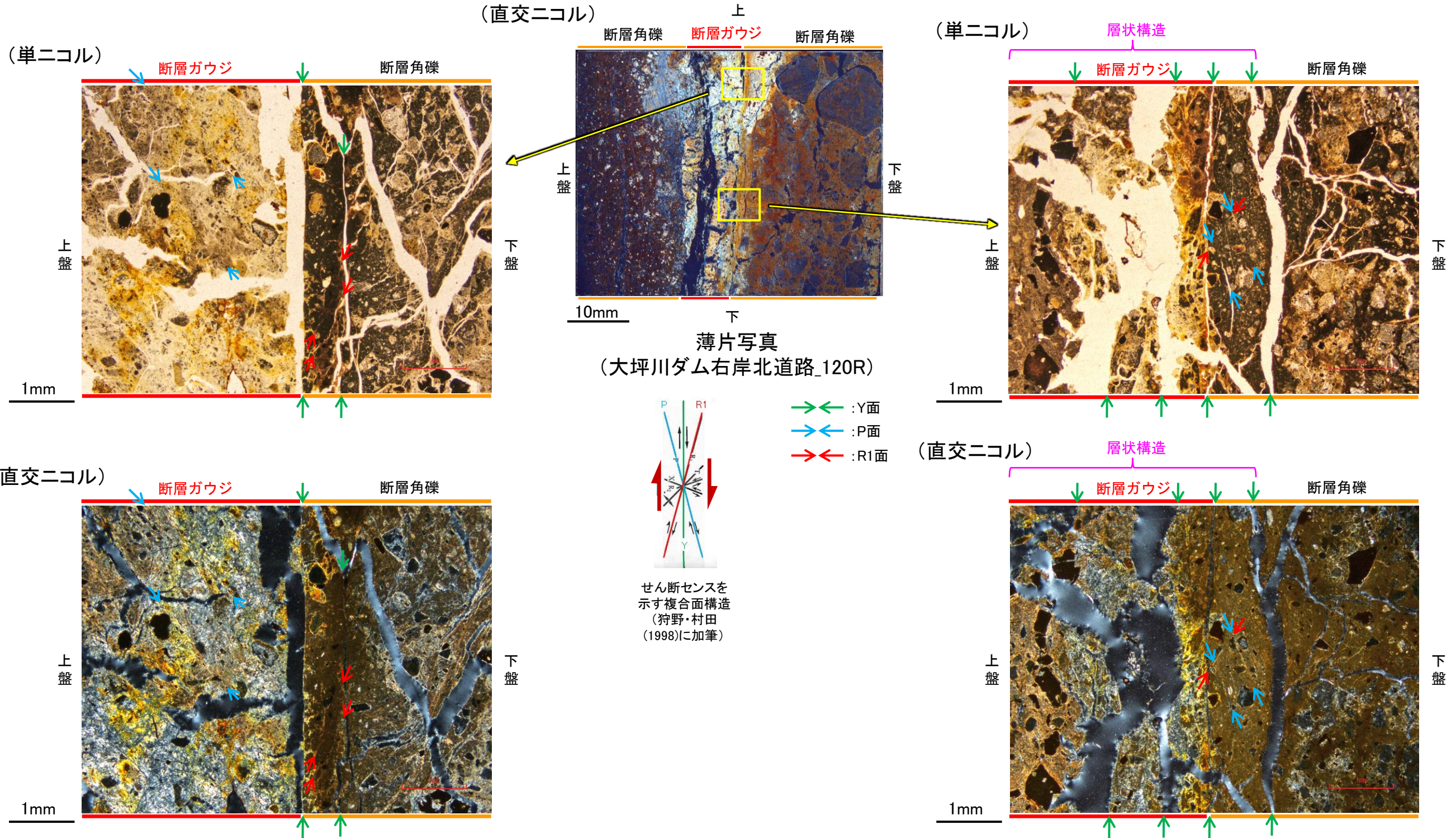
— : Y面  
→ ← 不連続箇所が認められず連続的に観察されるY面  
(一部途切れる箇所は薄片作成時等の乾燥収縮により開口した割れ目)

- ・大坪川ダム右岸北道路の薄片観察の結果、不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
- ・なお、複数認められるY面の一部には、風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。



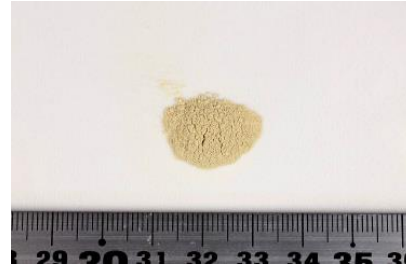
福浦断層\_大坪川ダム右岸北道路

【複合面構造, 層状構造】



- ・断層ガウジ中に明瞭な複合面構造が認められ, 複数認められるY面は直線性・連続性がよく明瞭である。
- ・複合面構造から逆断層センスを推定した。
- ・断層ガウジ中では, 粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され, 繰り返し活動した構造が認められる。





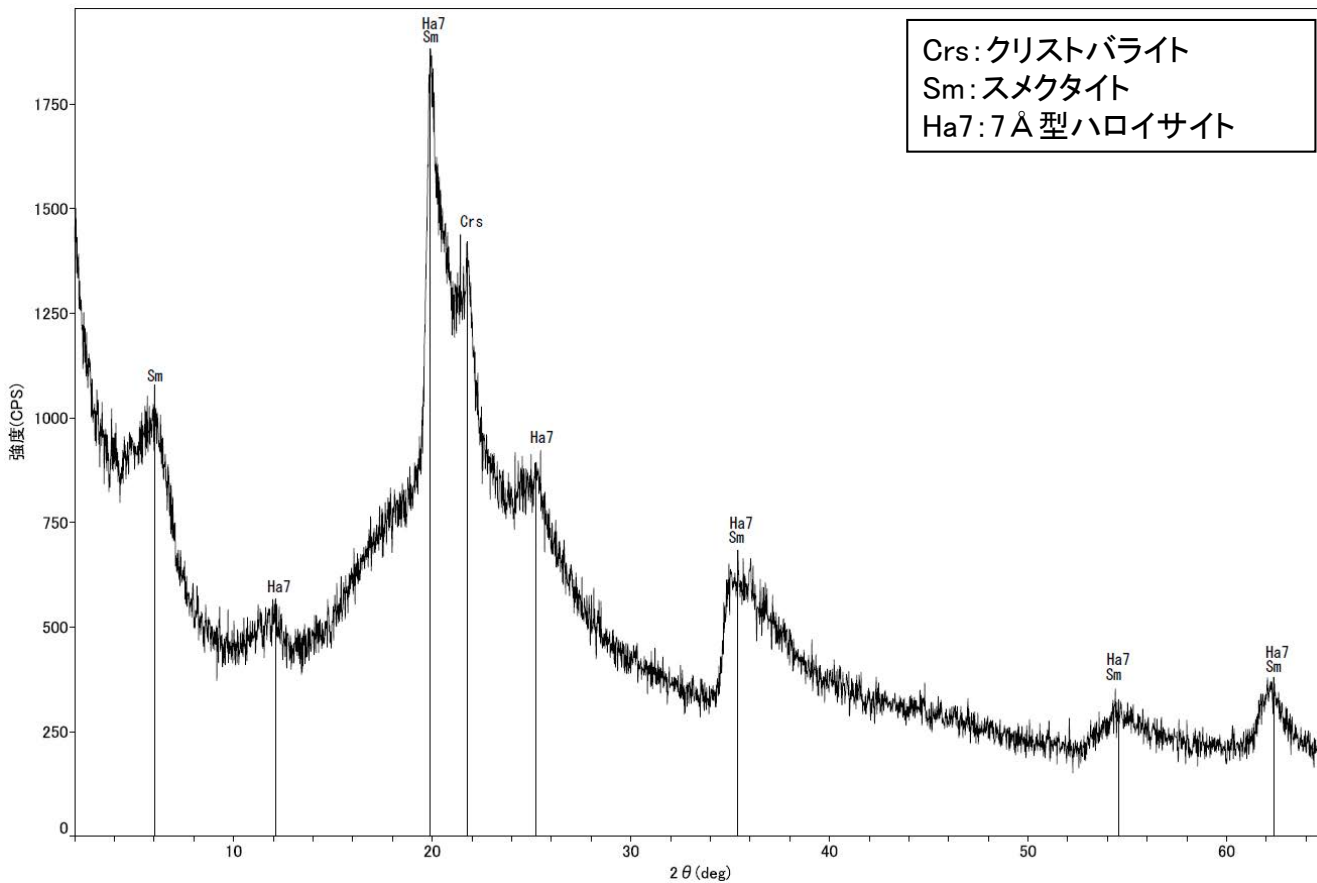
	検出鉱物		
	クリストバライト	スメクタイト	7 Å型ハロイサイト
福浦断層 大坪川ダム 右岸北道路	+	△	±

XRD分析 測定諸元  
 装置:理学電気製 MultiFlex  
 Target: Cu(Kα)  
 Voltage: 40kV  
 Detector: SC  
 Divergence Slit: 1°  
 Receiving Slit: 0.3mm  
 Step size: 0.02°

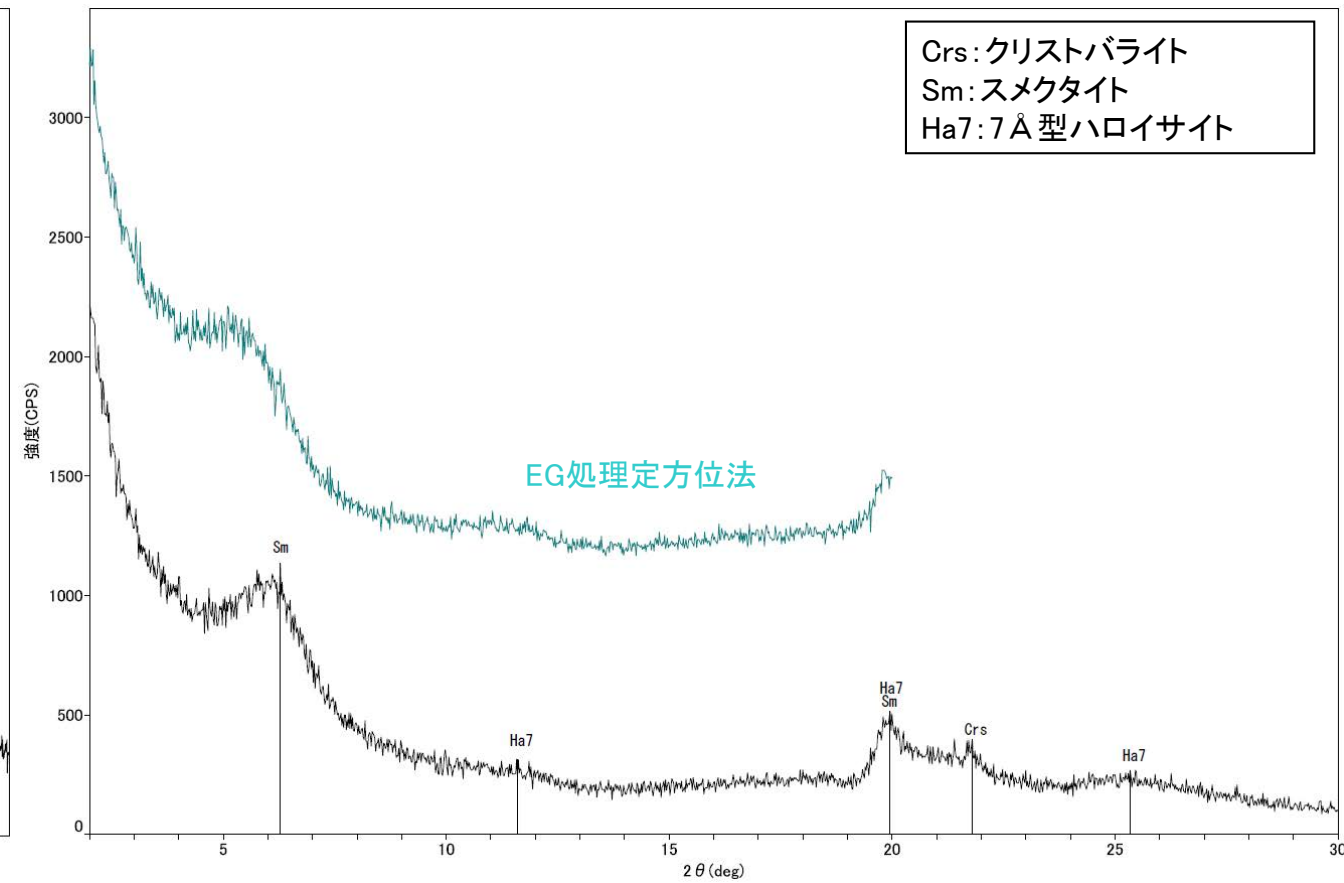
○: 中量(2,500~5,000cps)  
 △: 少量(500~2,500cps)  
 +: 微量(250~500cps)  
 ±: きわめて微量(<250cps)  
 標準石英最強回折線強度  
 (3回繰り返し測定, 平均53,376cps)

試料採取箇所(大坪川ダム右岸北道路)

分析試料



回折チャート 不定方位



回折チャート 定方位(EG処理も合わせて表示)

・大坪川ダム右岸北道路の断層位置でXRD分析を実施した結果, 主な粘土鉱物としてスメクタイト及び風化変質鉱物と考えられるハロイサイトが認められる。



---

## (3)-4 大坪川ダム右岸南道路

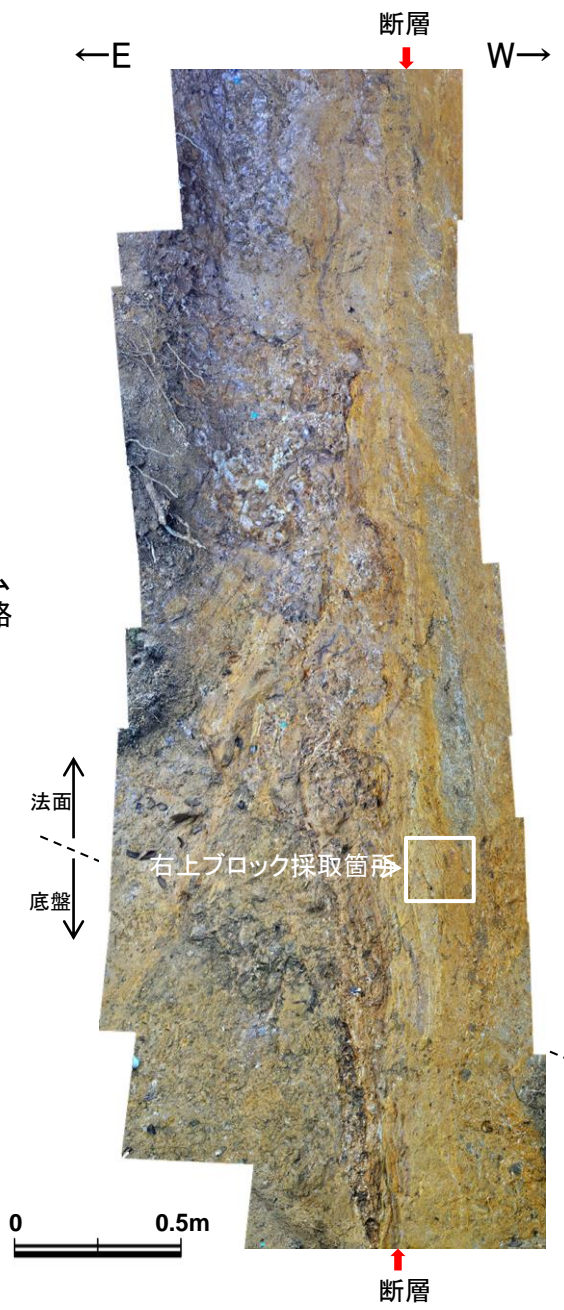




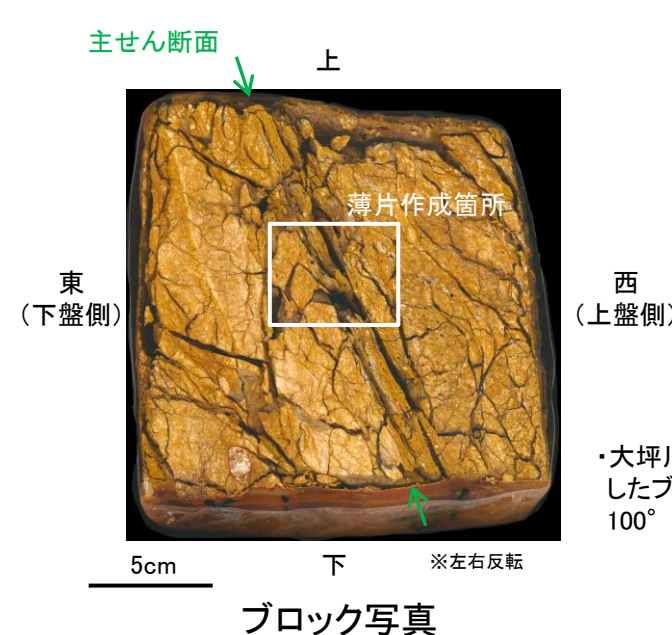
位置図

凡例

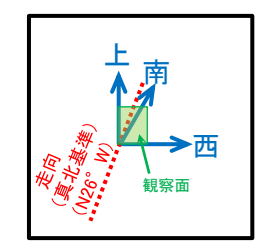
- [段丘面]
- 高位段丘V面
- 高位段丘IV面
- 高位段丘III面
- 高位段丘II面
- 高位段丘Ib面
- 高位段丘Ia面
- 中段段丘I面
- 古期扇状地面
- 沖積段丘面
- [リニアメント・変動地形]
- Lb (変動地形である可能性がある)
- Lc (変動地形である可能性が低い)
- Ld (変動地形である可能性は非常に低い)
- ケバは低下側を示す。
- ↓ は地形面の傾斜の向きを示す。
- 敷地内断層(評価対象断層)



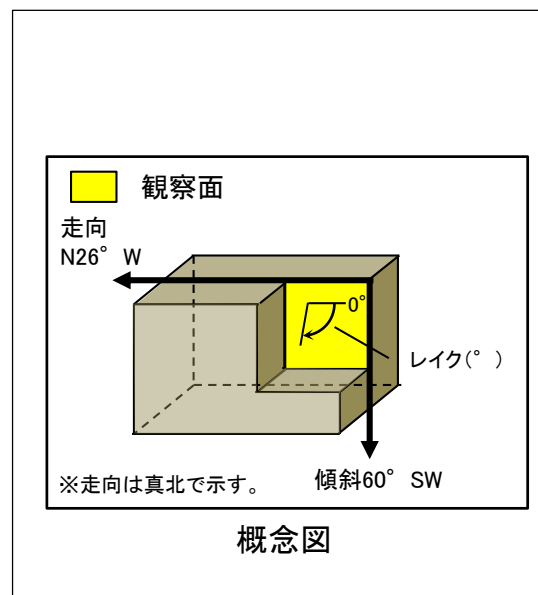
試料採取箇所  
(大坪川ダム右岸南道路)



ブロック写真



・大坪川ダム右岸南道路法面から採取したブロックの主せん断面において、100° Rの条線方向で薄片を作成した。



概念図



観察面写真(下盤側)

・主せん断面の下盤側の観察面で100° Rの条線が認められる。

条線観察結果

・大坪川ダム右岸南道路で認められる福浦断層の主せん断面において、100° Rの条線方向で薄片を作成した。



## 【薄片観察(解釈線なし)】

(単ニコル)

上

(直交ニコル)

上

断層角礫

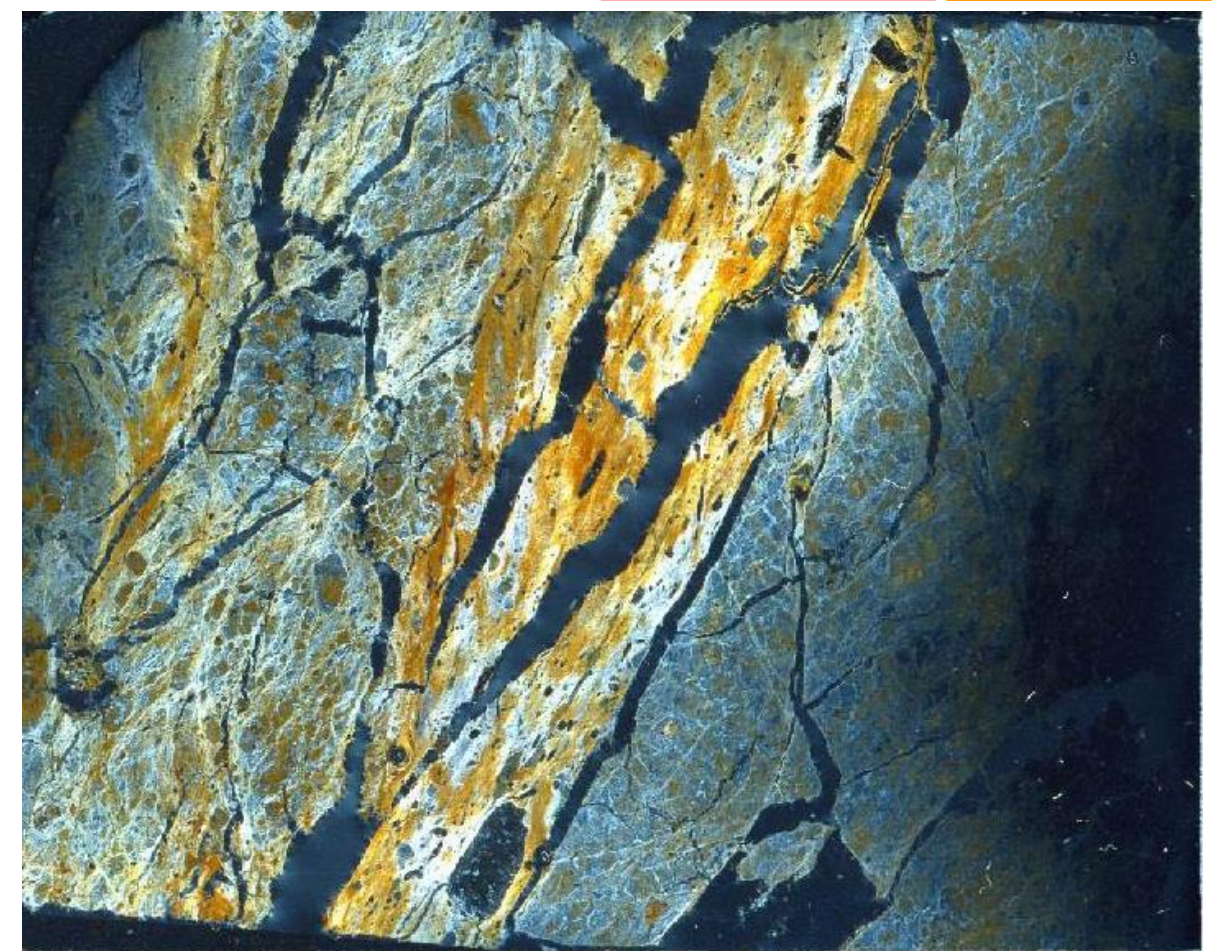
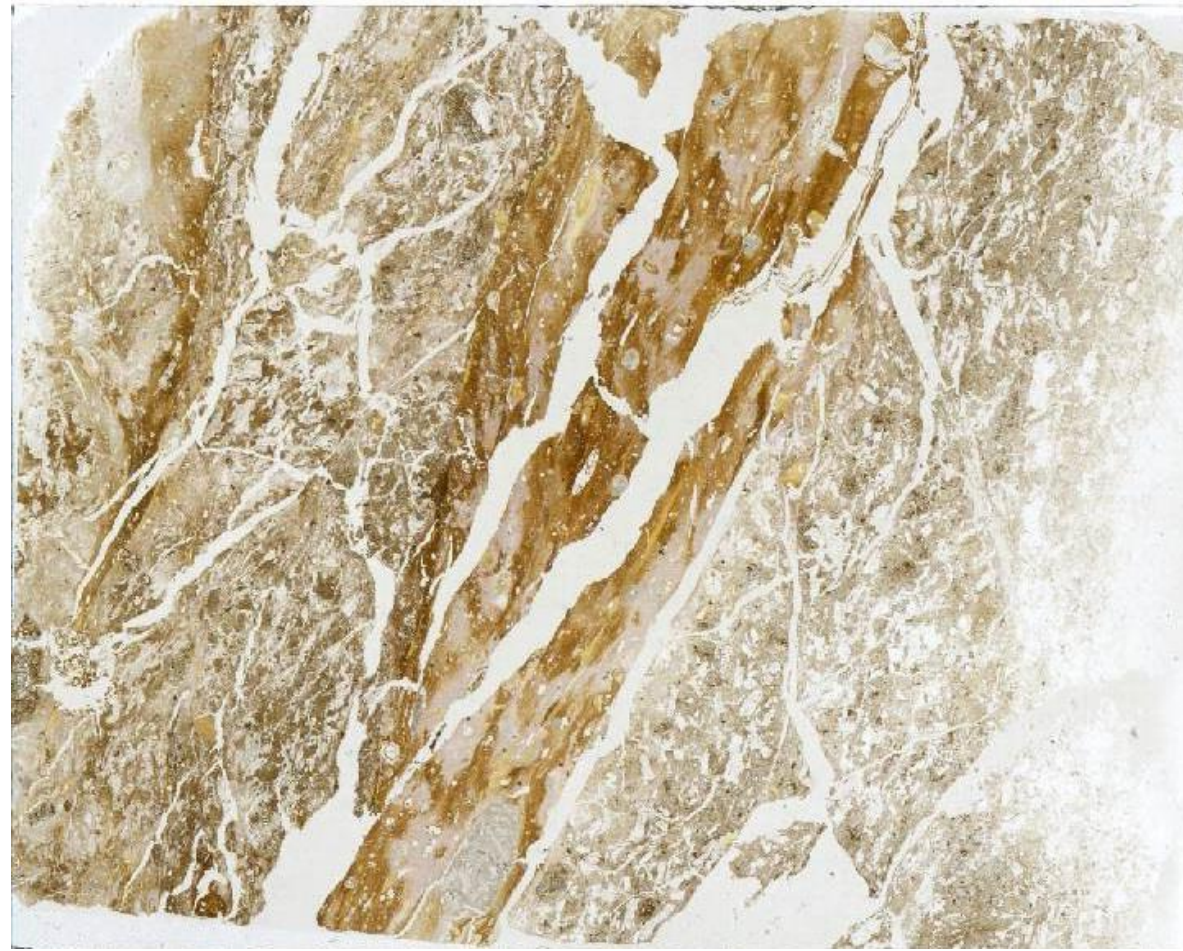
断層ガウジ

断層角礫

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



10mm

下

下

薄片写真(大坪川ダム右岸南道路\_100R)

断層角礫(上盤側): 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで黄~灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれており, 径10mmの岩片も含まれる。岩片, 鉱物片は角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層ガウジ: 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで黄~白色の干渉色を呈する, 粘土鉱物を含む細粒物からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。

断層角礫(下盤側): 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで灰色の干渉色を呈する安山岩からなる。径6mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片, 鉱物片は垂角~垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部には粘土鉱物が生成している。



福浦断層\_大坪川ダム右岸南道路

【薄片観察(解釈線あり)】

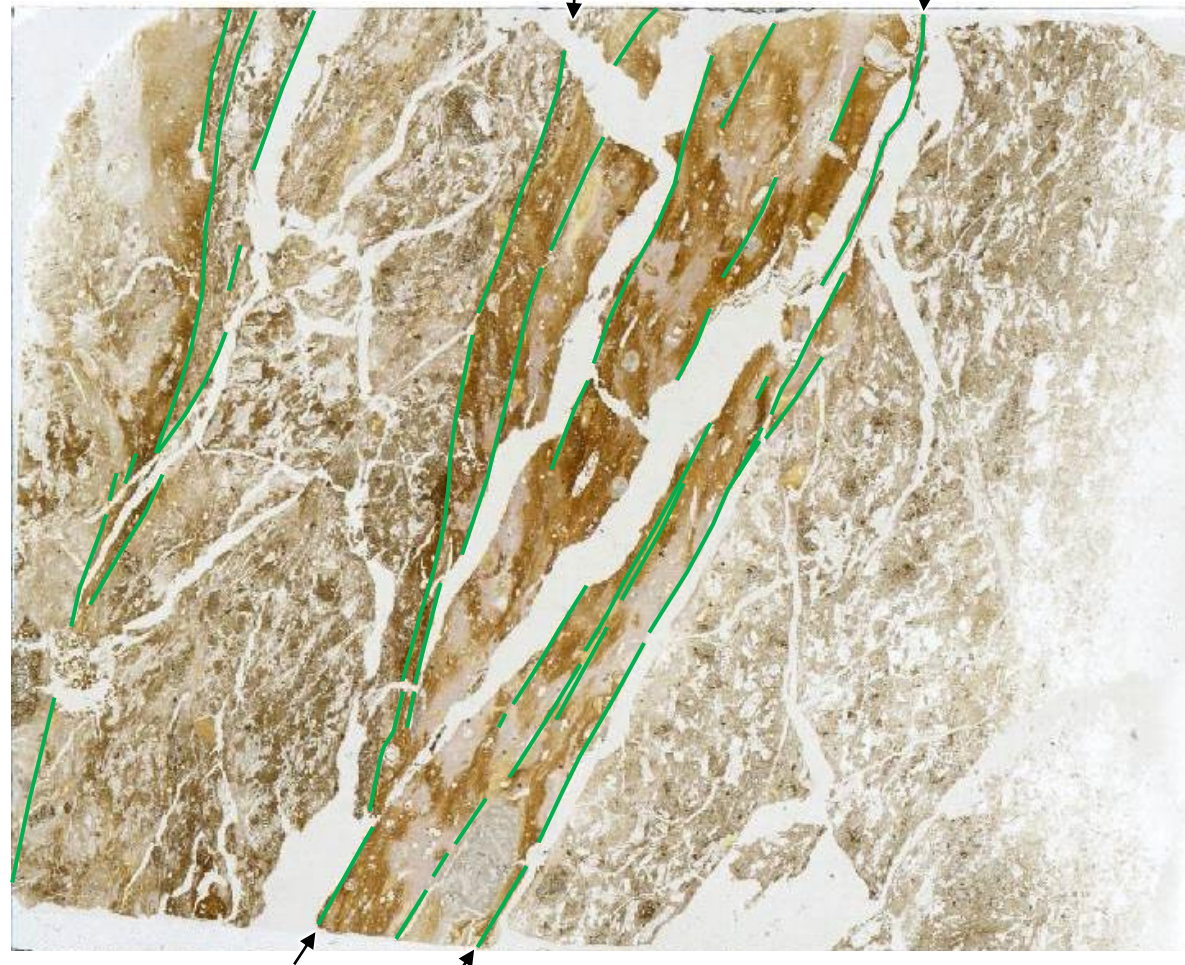
(単ニコル)

上

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



10mm

下

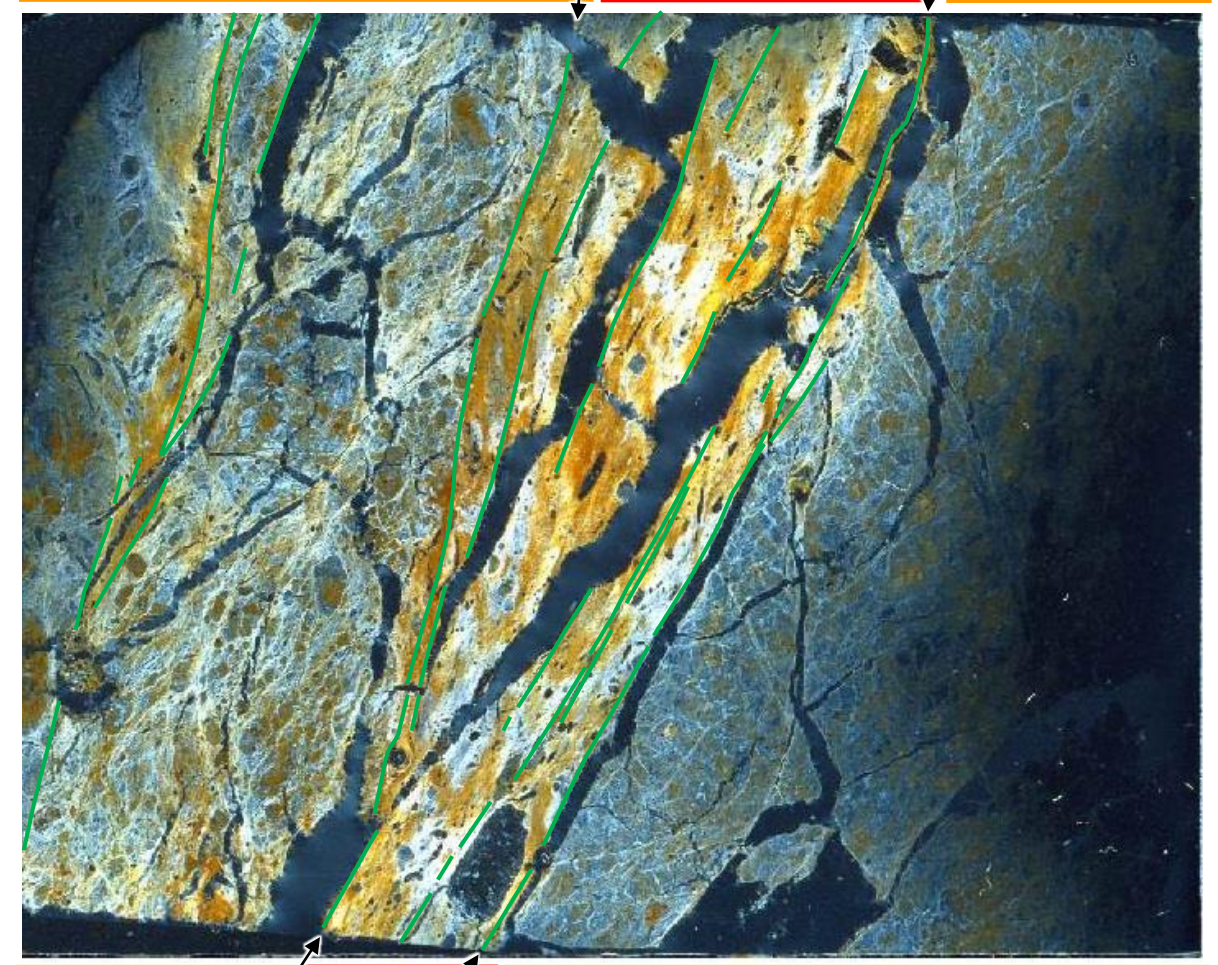
(直交ニコル)

上

断層角礫

断層ガウジ

断層角礫



下

薄片写真(大坪川ダム右岸南道路\_100R)

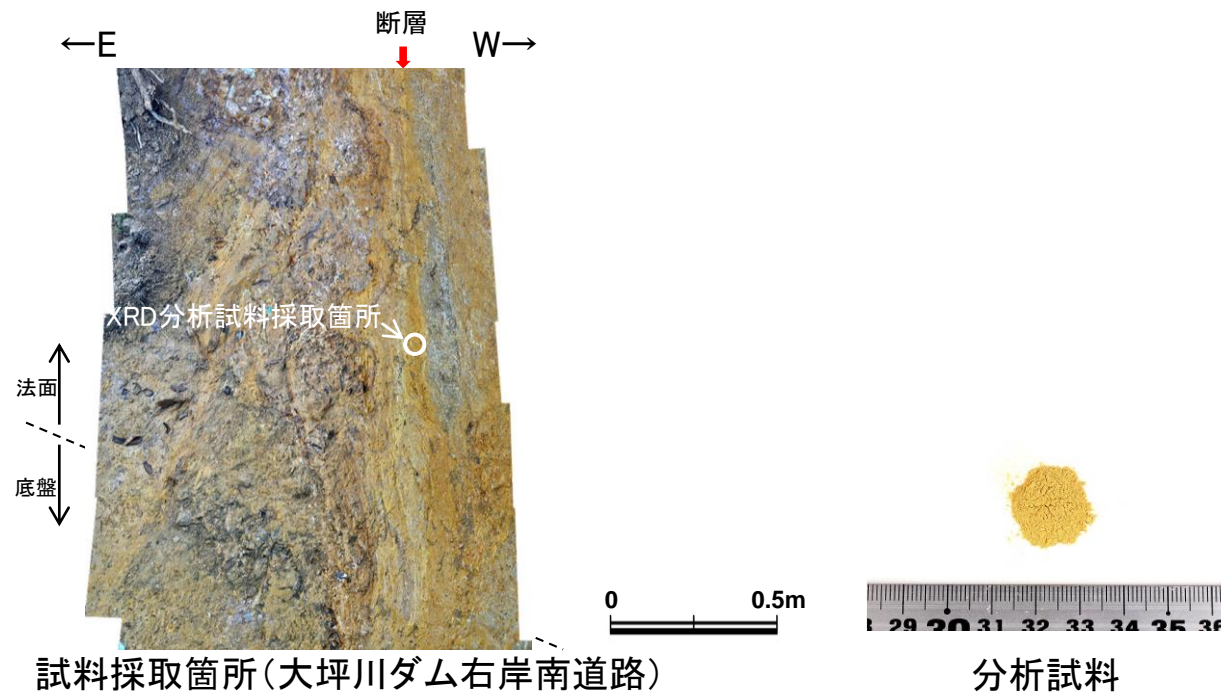
— : Y面  
→ ← 不連続箇所が認められず連続的に観察されるY面  
(一部途切れる箇所は薄片作成時等の乾燥収縮により開口した割れ目)

- ・大坪川ダム右岸南道路の薄片観察の結果、不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
- ・なお、複数認められるY面の一部には、風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。





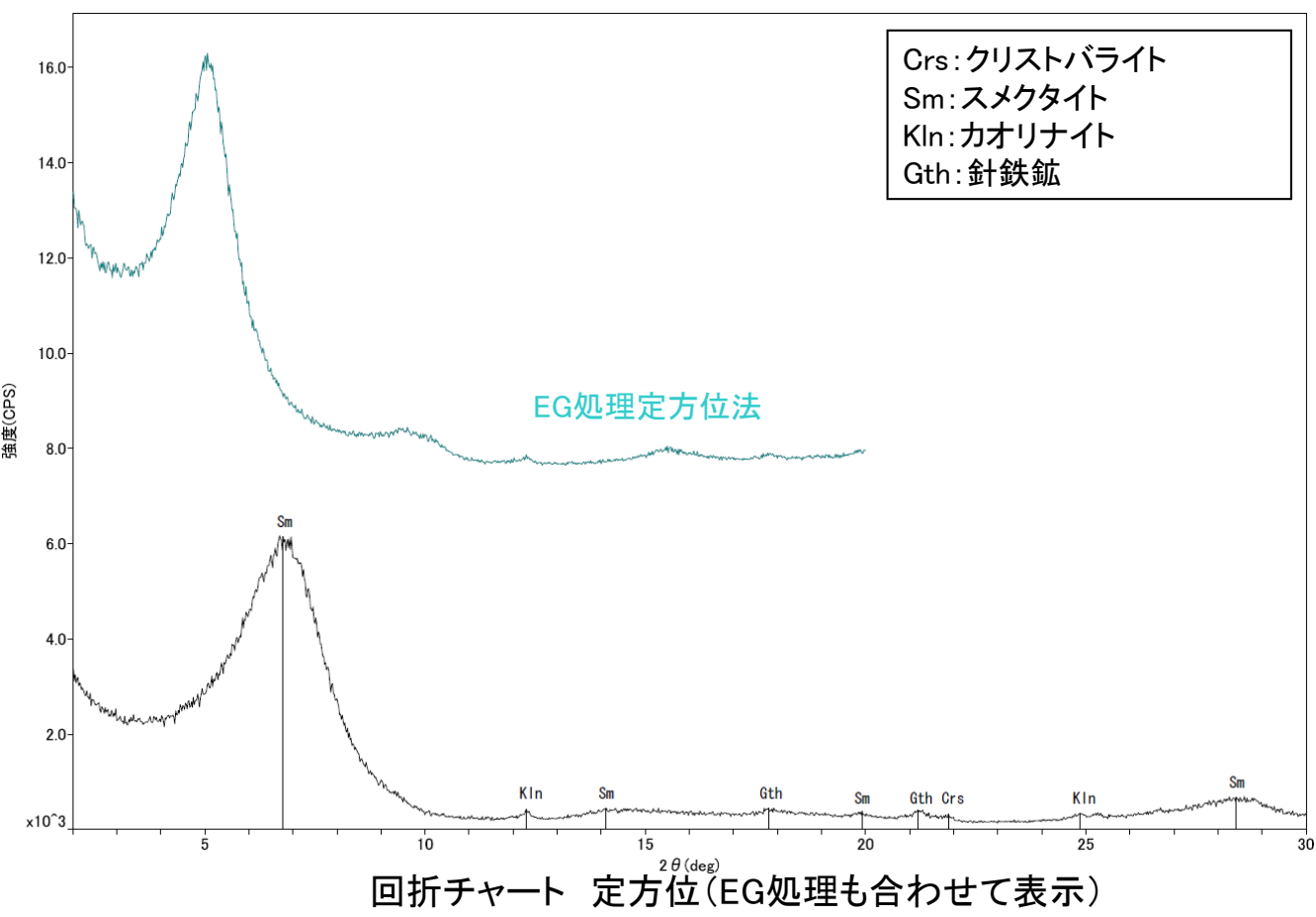
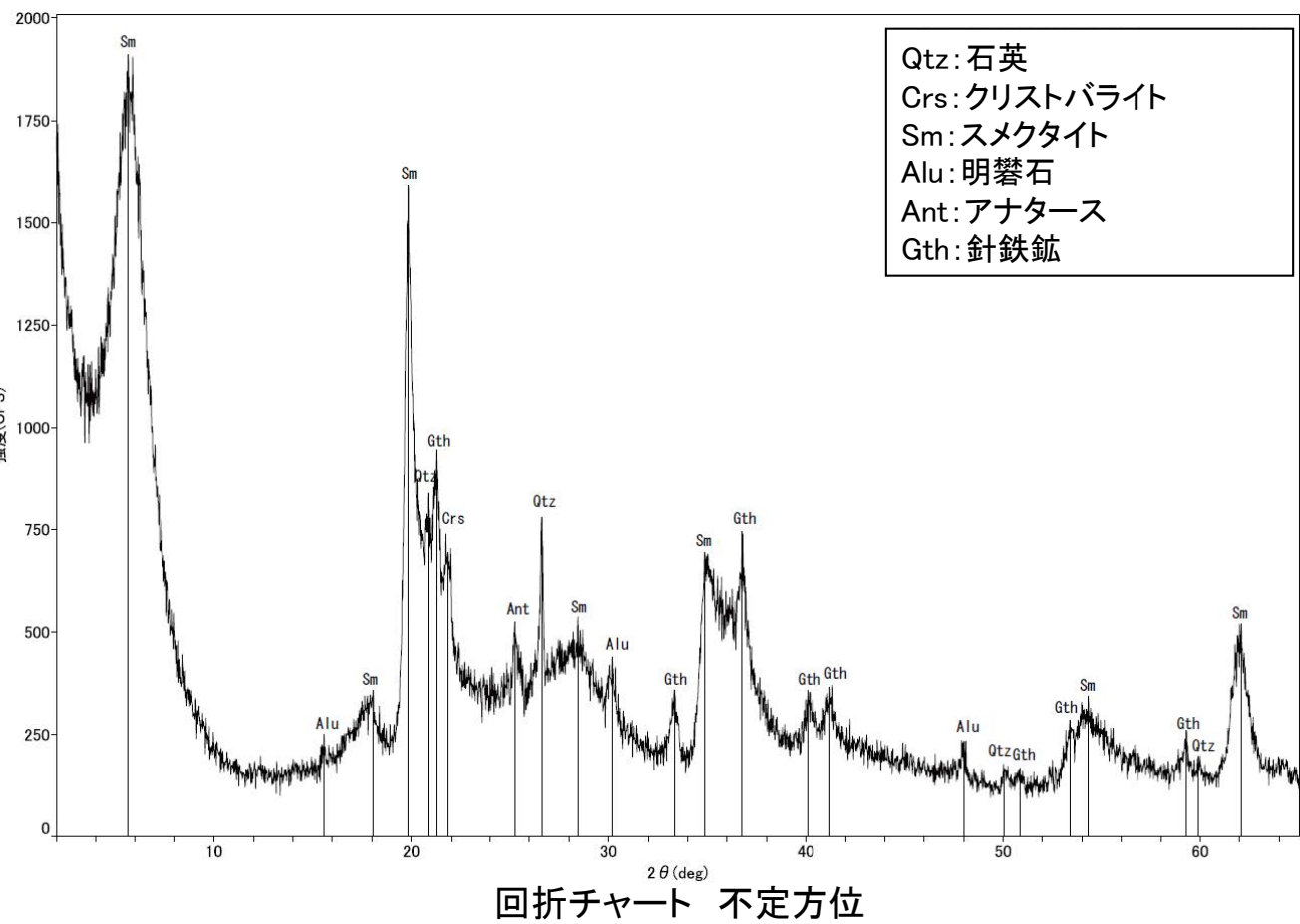




	検出鉱物						
	石英	クリストバライト	スメクタイト	カオリナイト	明礬石	アナターズ	針鉄鉱
福浦断層 大坪川ダム 右岸南道路	+	±	△	±	±	±	+

**XRD分析 測定諸元**  
 装置:理学電気製 MultiFlex  
 Target: Cu(Kα)  
 Voltage: 40kV  
 Detector: SC  
 Divergence Slit: 1°  
 Receiving Slit: 0.3mm  
 Step size: 0.02°

○: 中量(2,500~5,000cps)  
 △: 少量(500~2,500cps)  
 +: 微量(250~500cps)  
 ±: きわめて微量(<250cps)  
 標準石英最強回折線強度  
 (3回繰り返し測定, 平均53,376cps)



・大坪川ダム右岸南道路の断層位置でXRD分析を実施した結果, 主な粘土鉱物としてスメクタイト及びカオリナイト等が認められる。



---

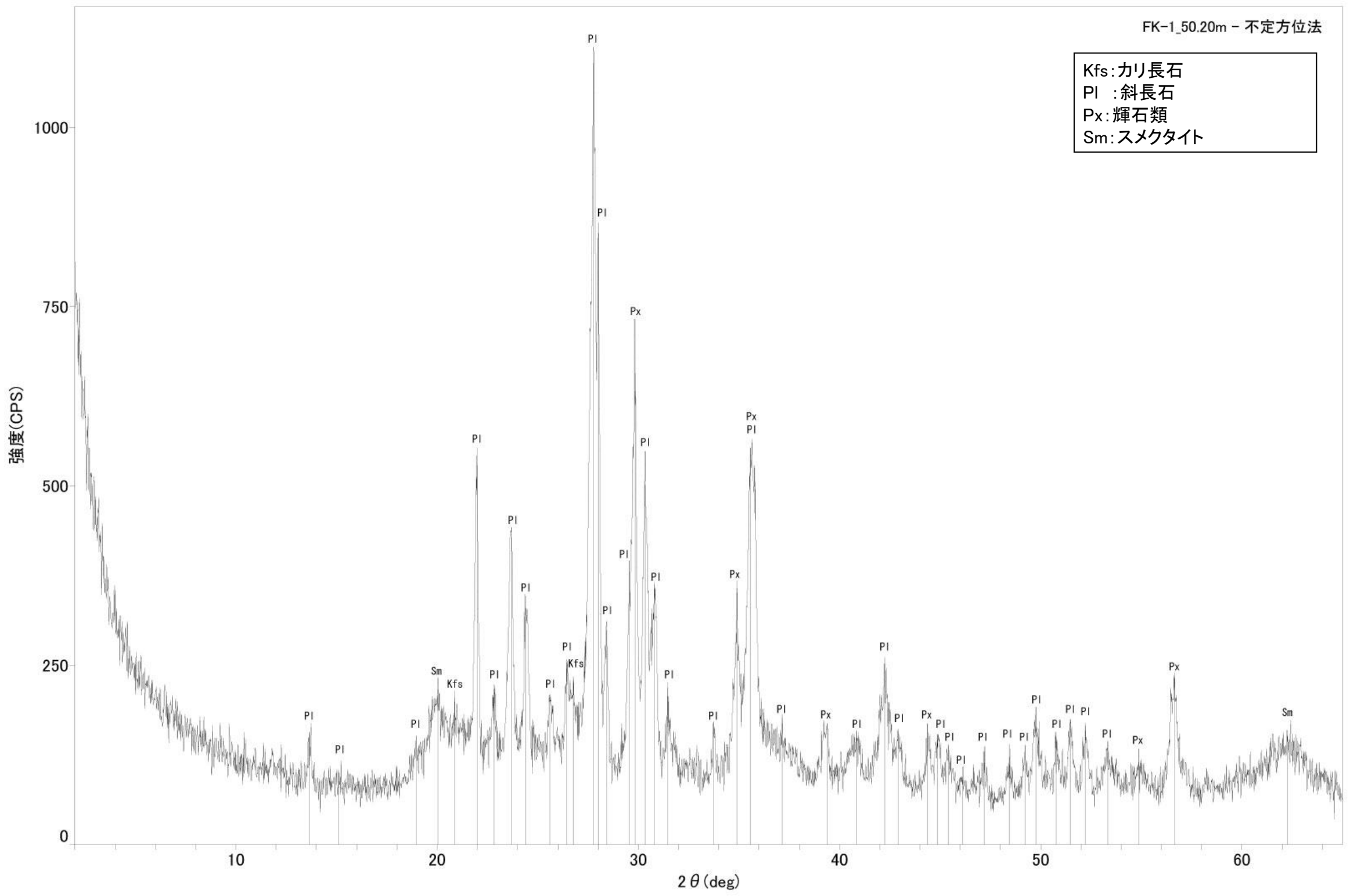
余白



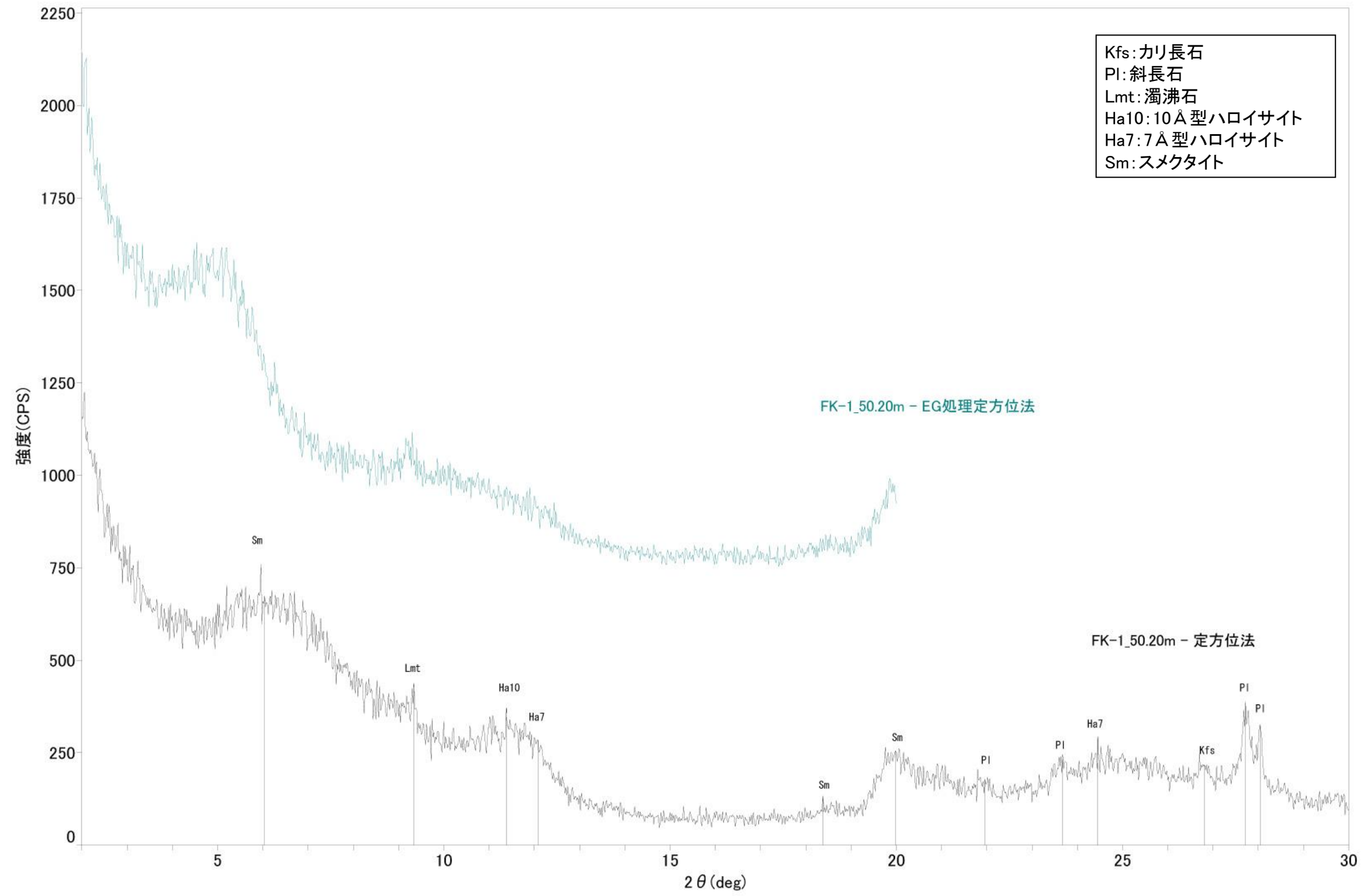
---

## (4)FK-1孔, 大坪川ダム右岸トレンチ XRD分析

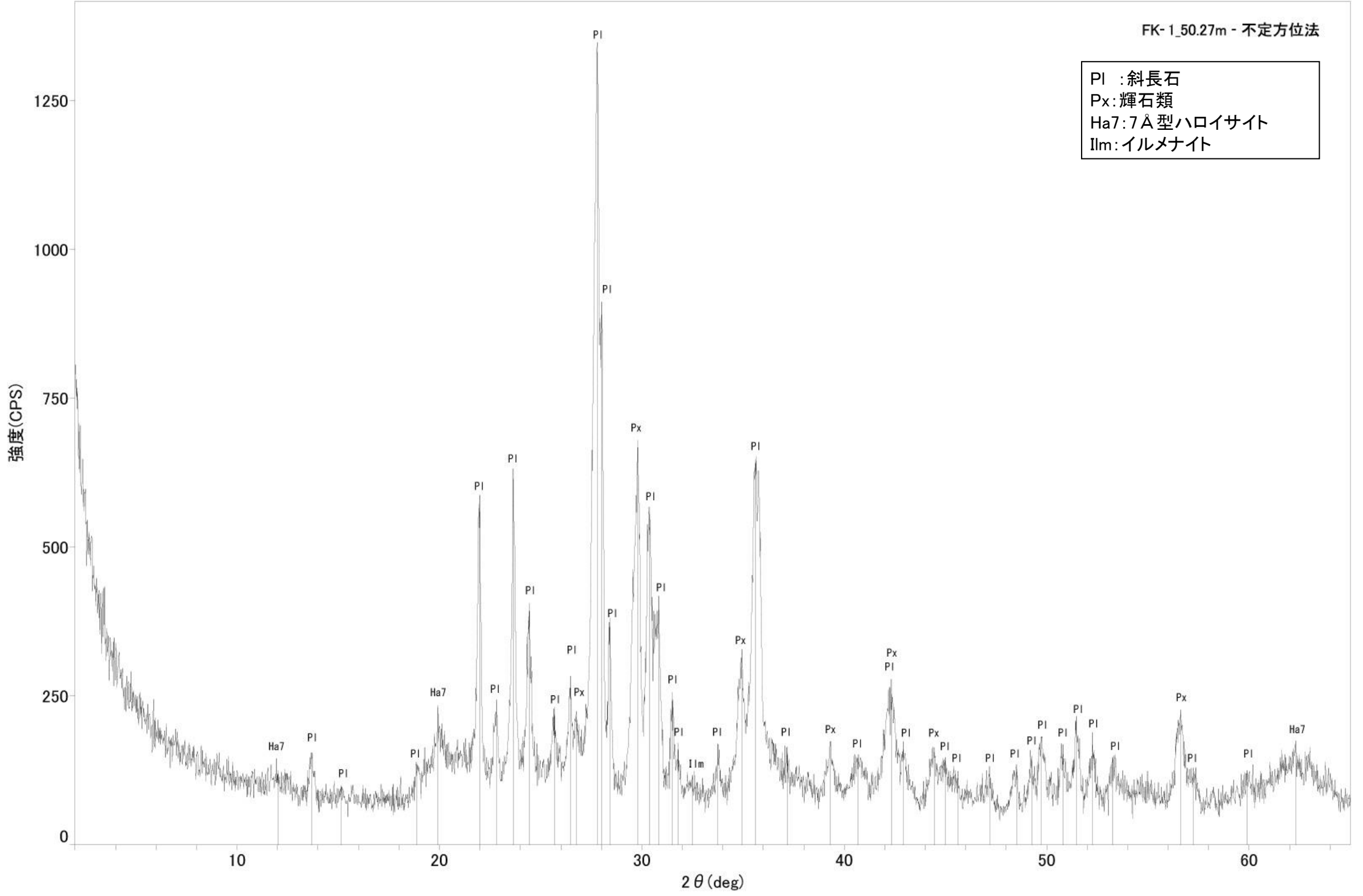




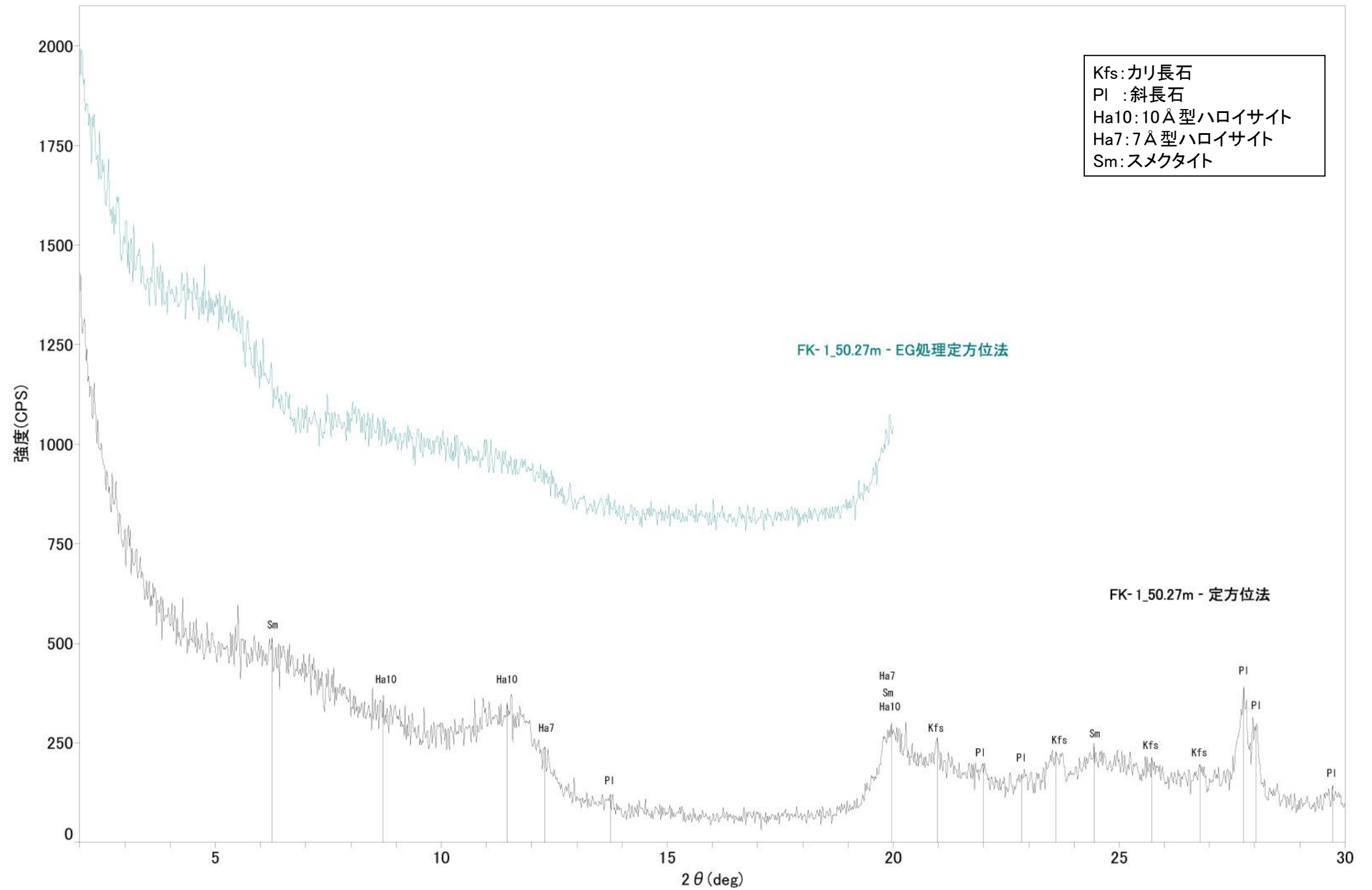




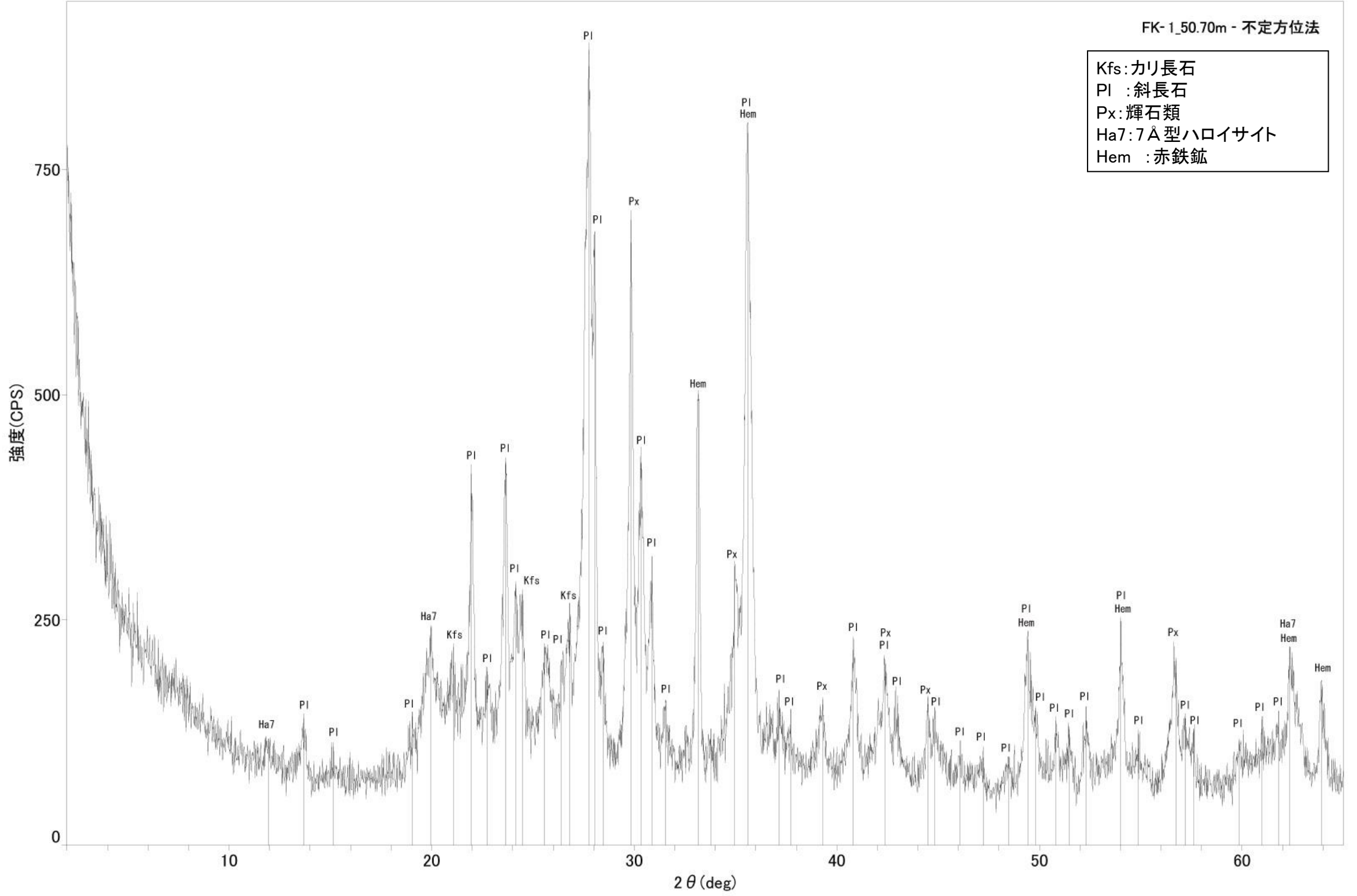




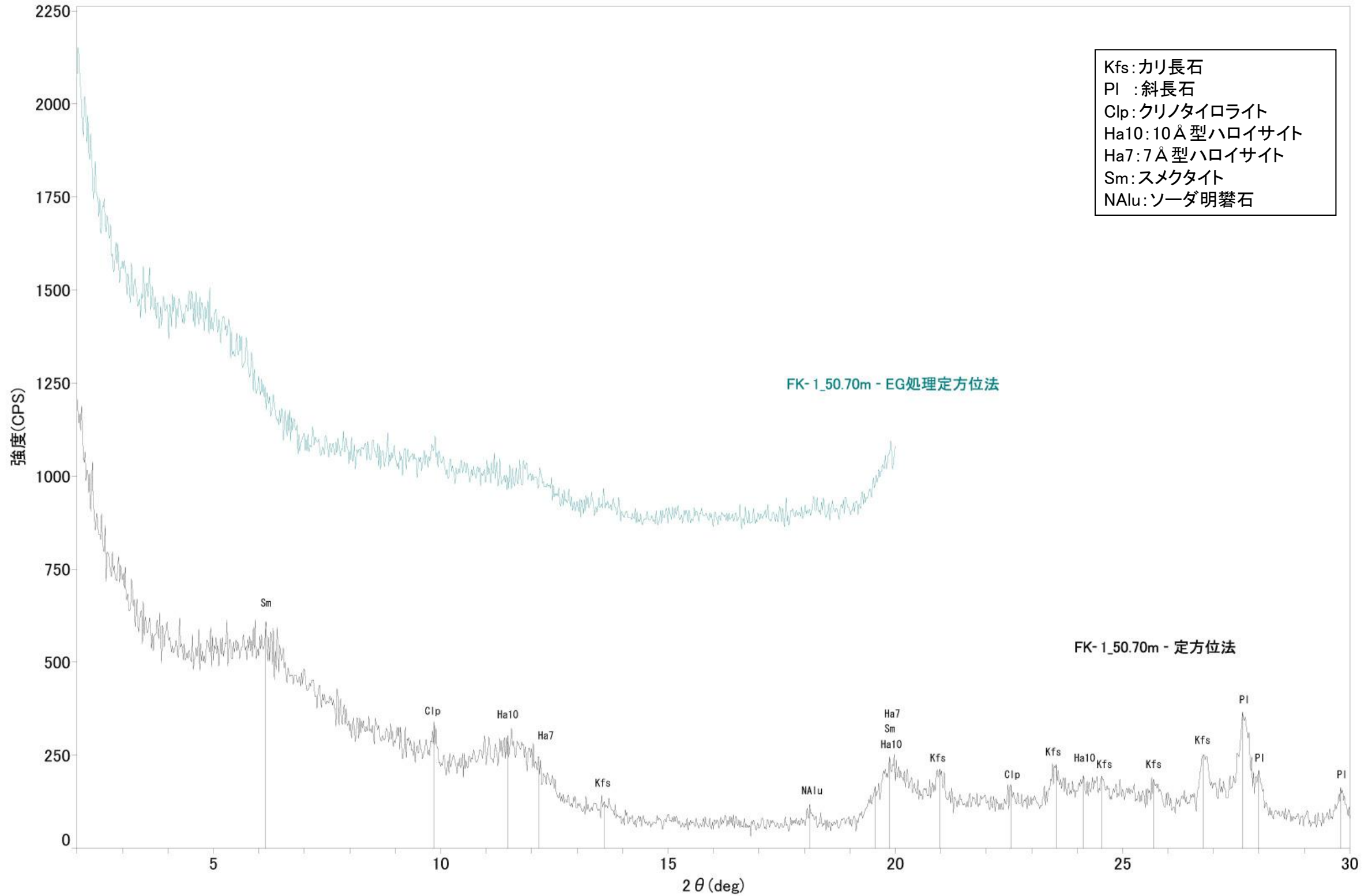






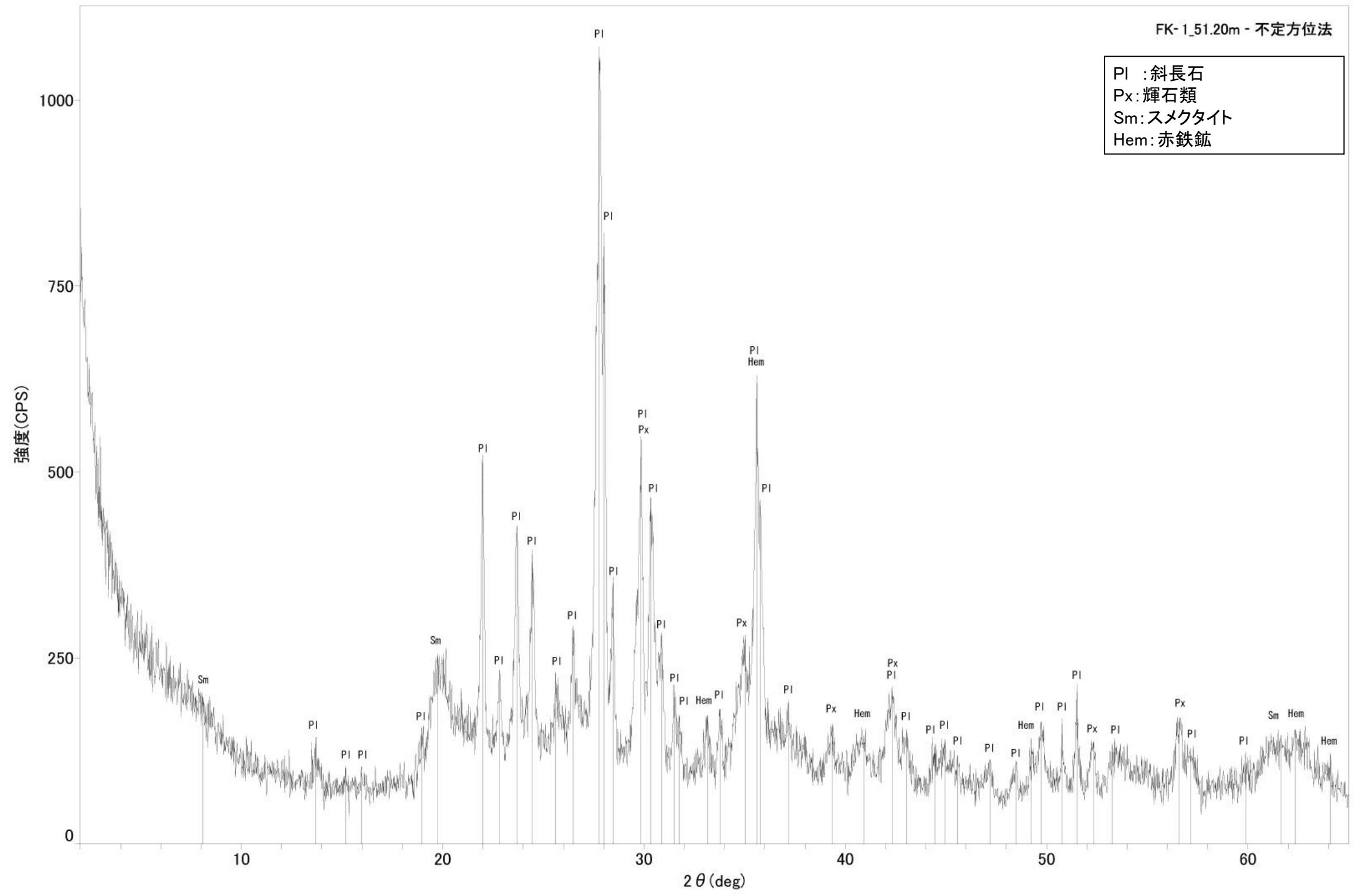




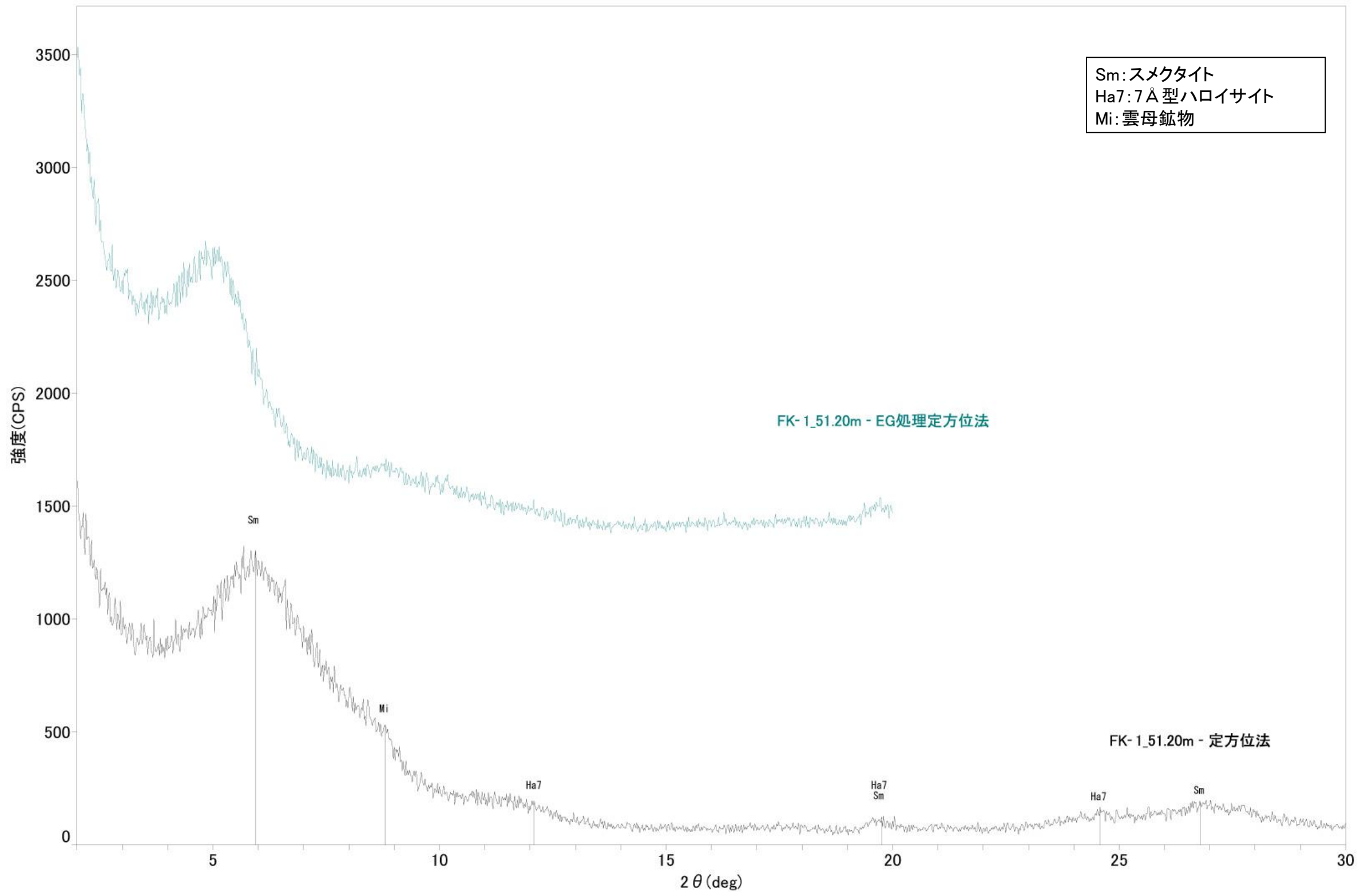


Kfs: カリ長石  
 Pl : 斜長石  
 Clp: クリノタイロライト  
 Ha10: 10Å型ハロイサイト  
 Ha7: 7Å型ハロイサイト  
 Sm: スメクタイト  
 NA1u: ソーダ明礬石

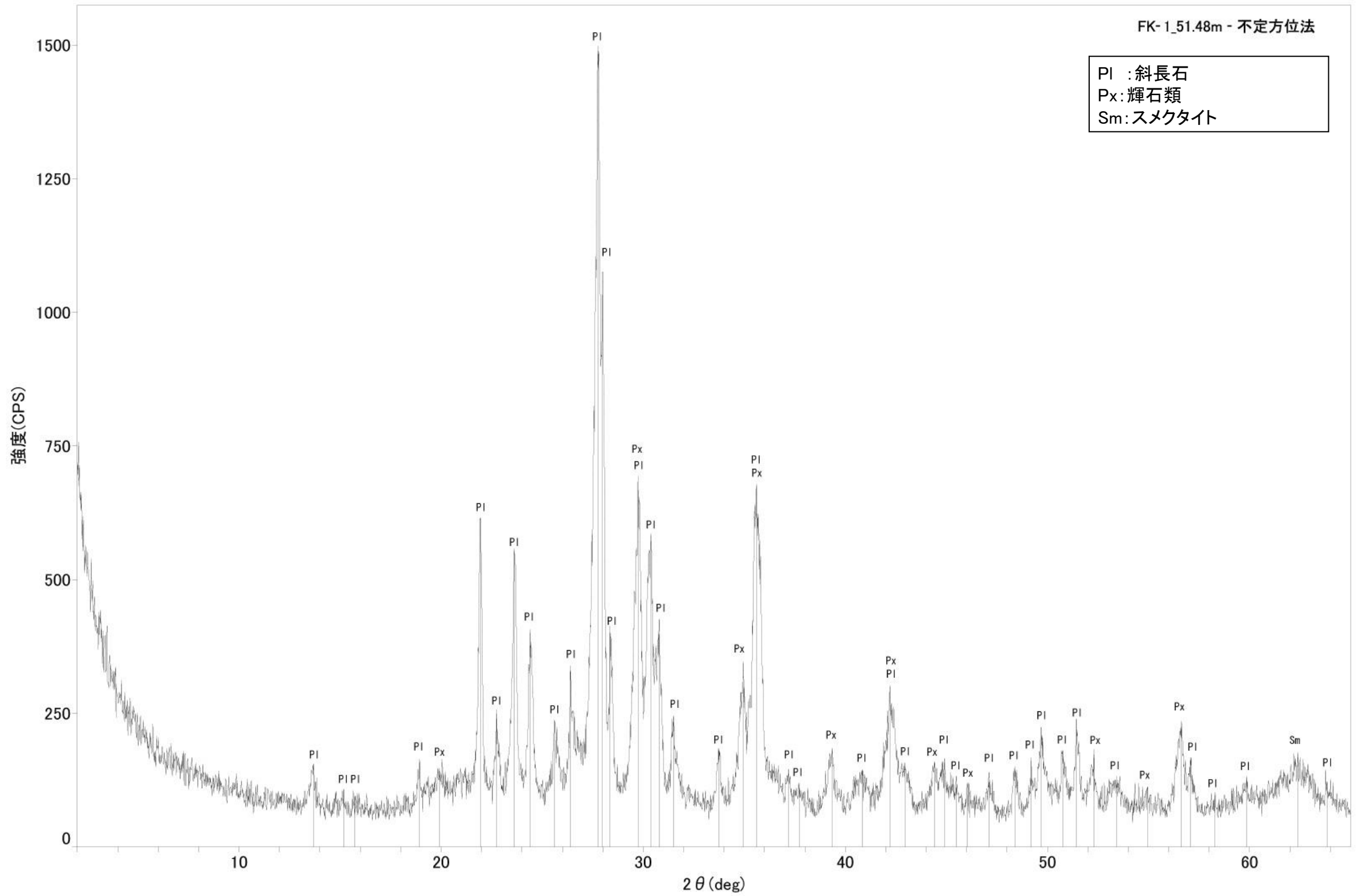




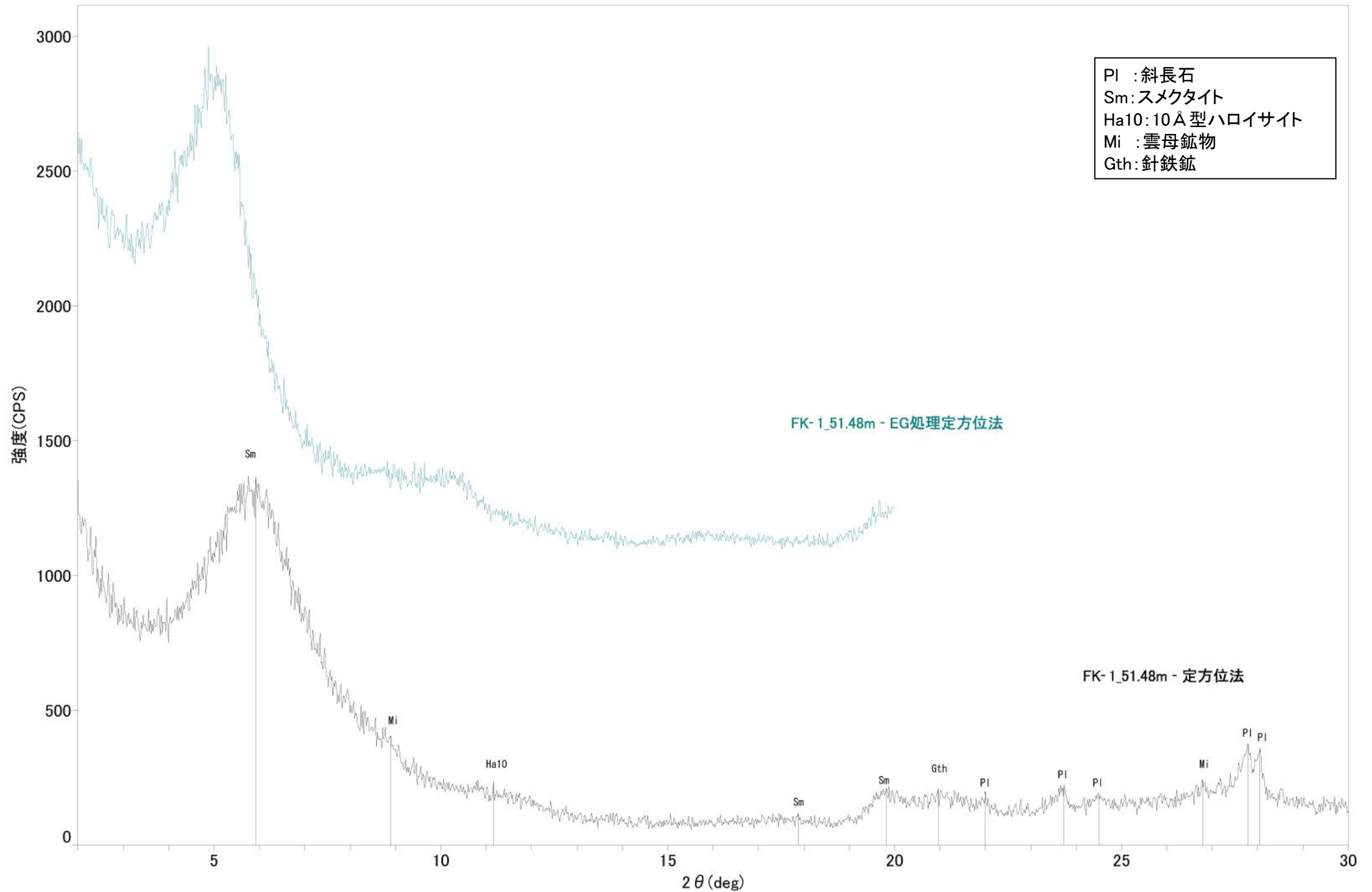




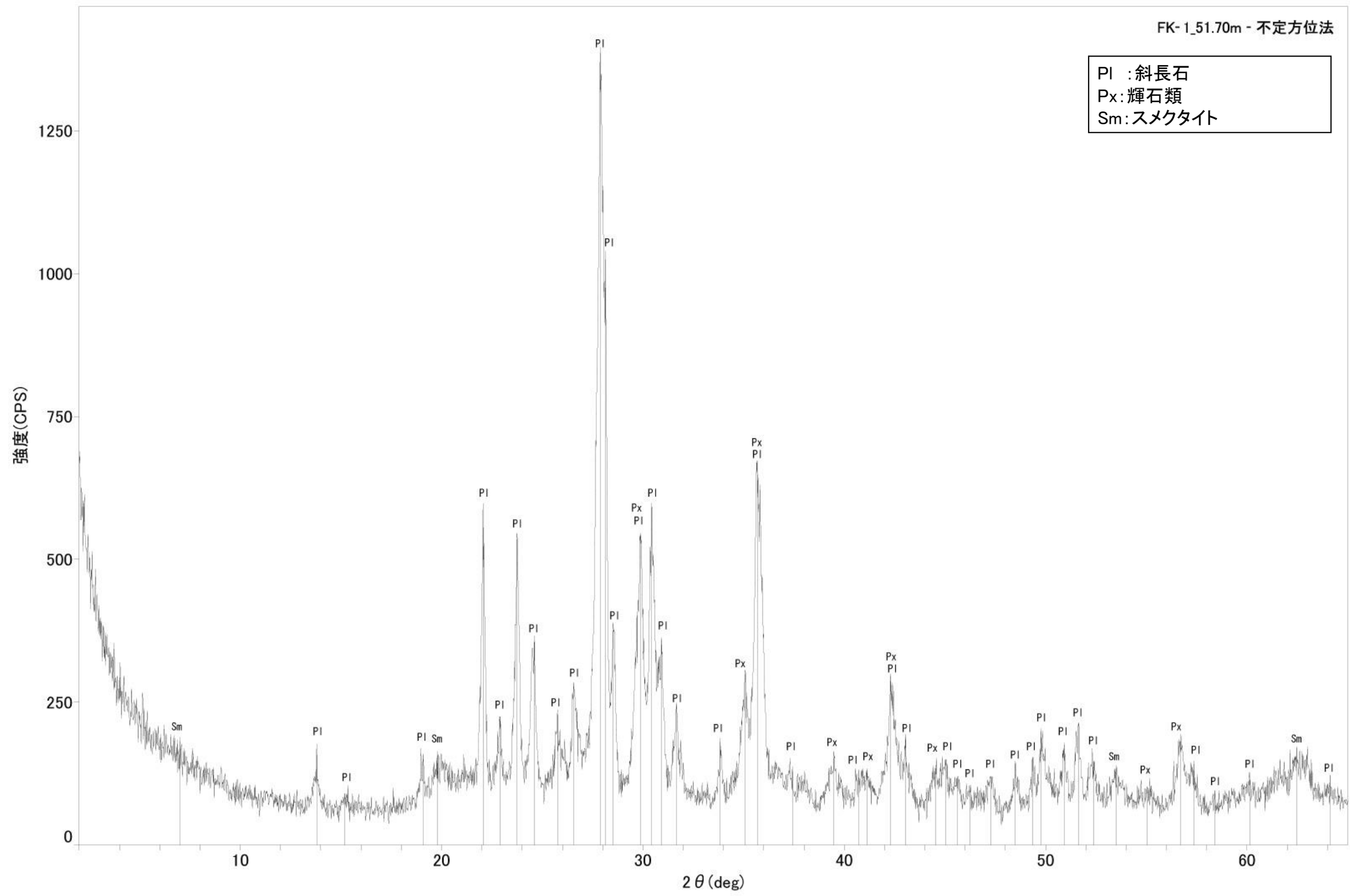




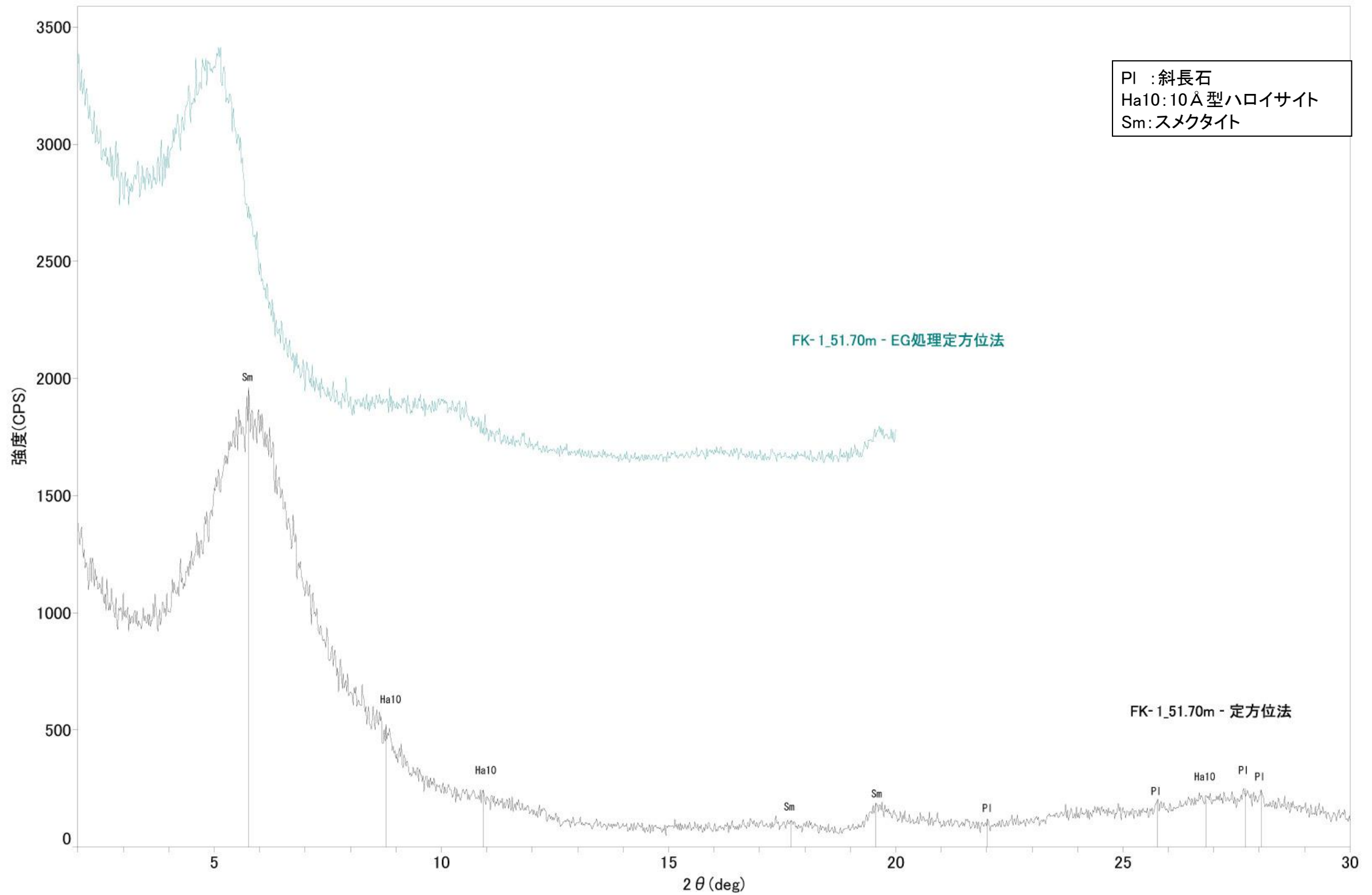










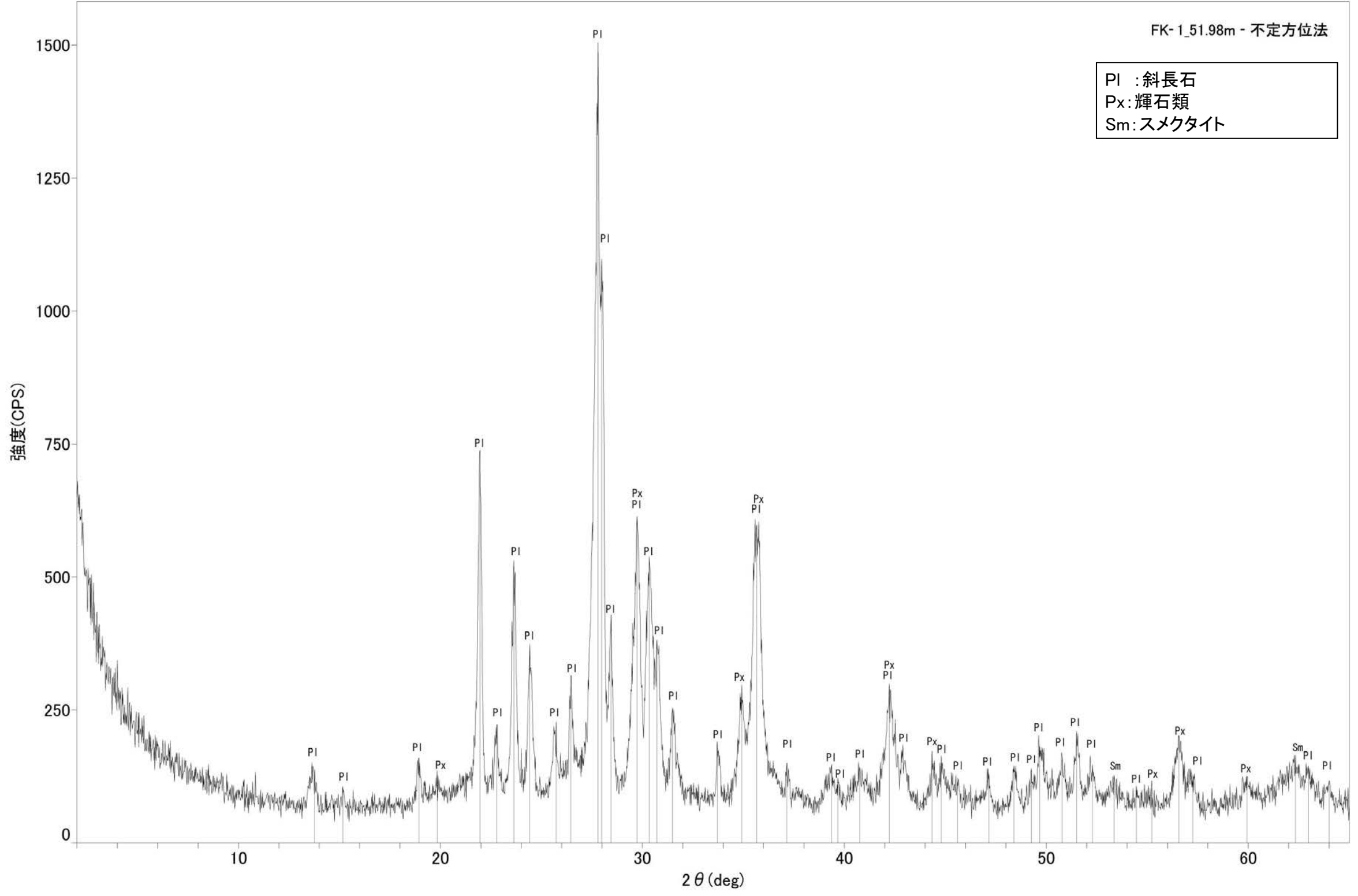


PI : 斜長石  
Ha10: 10Å型ハロイサイト  
Sm: スメクタイト

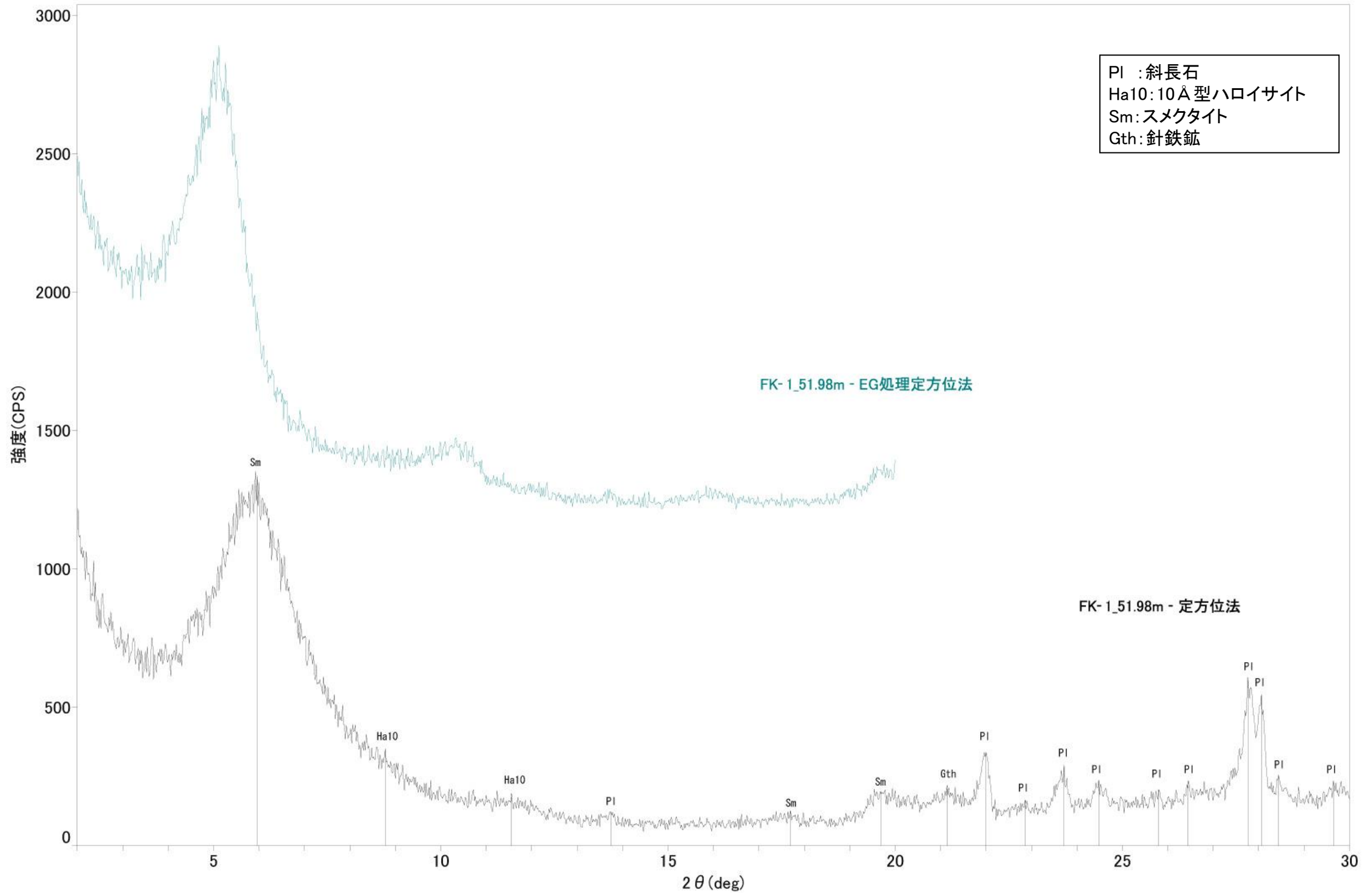
FK-1\_51.70m - EG処理定方位法

FK-1\_51.70m - 定方位法

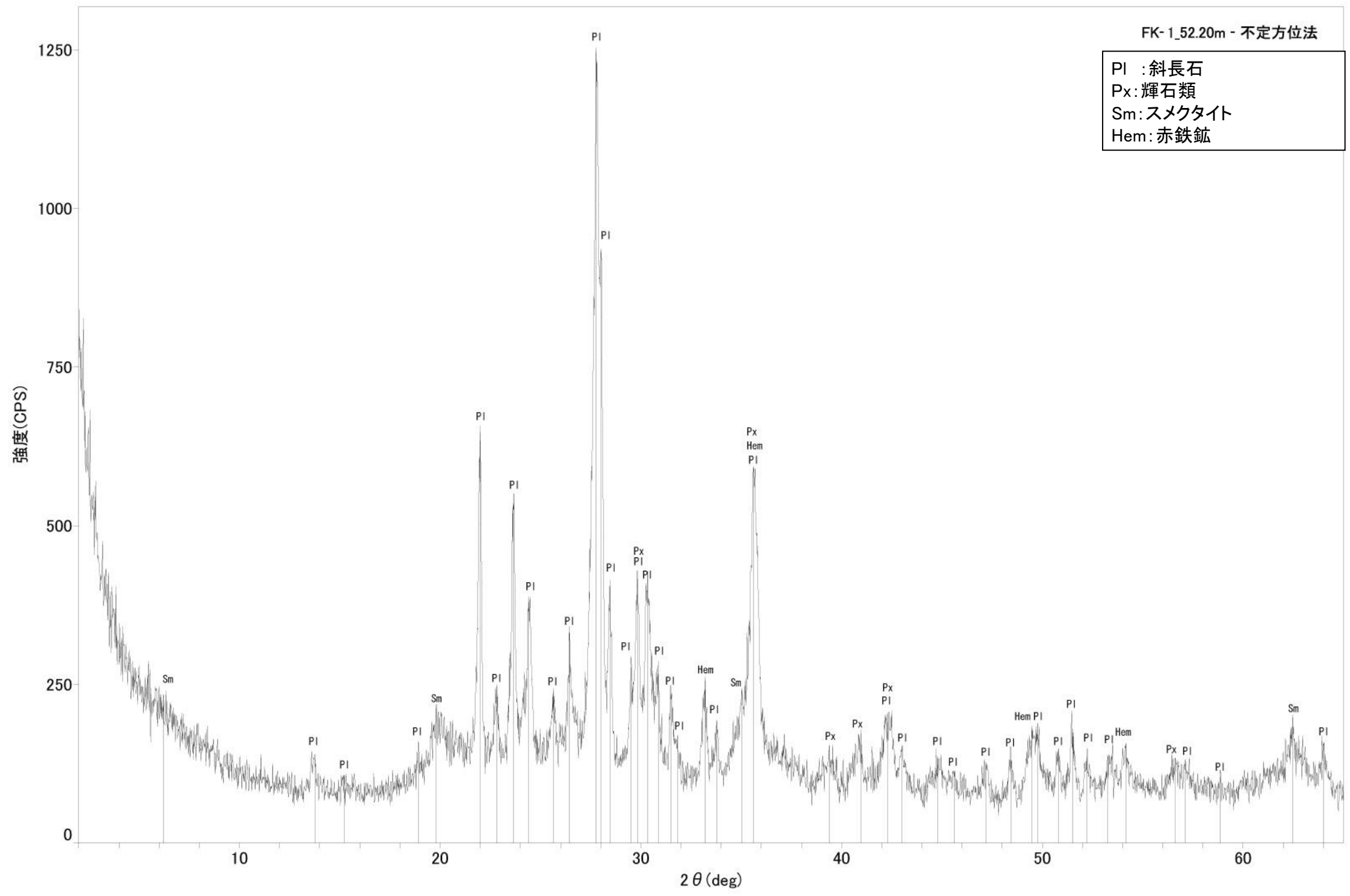




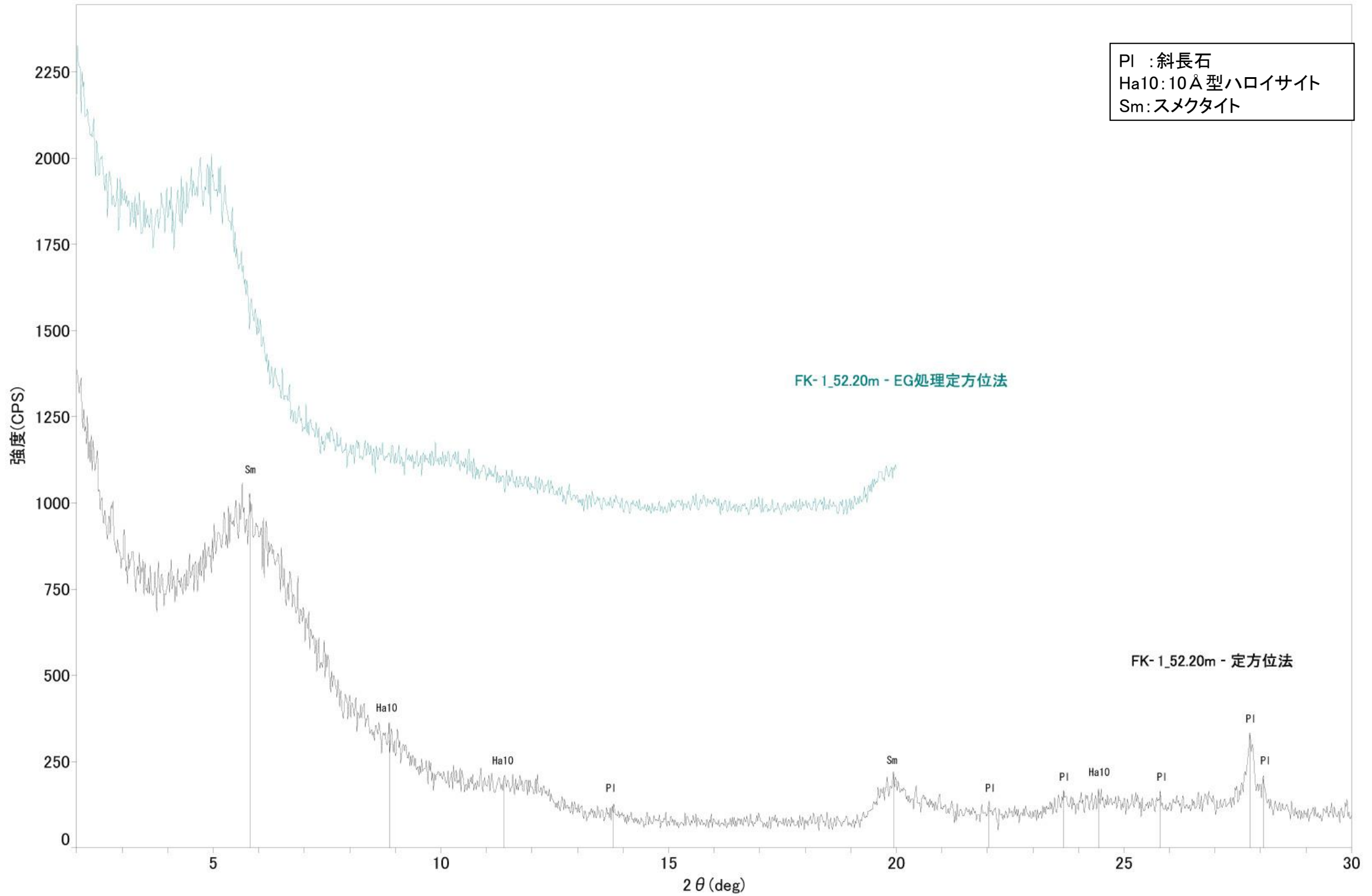




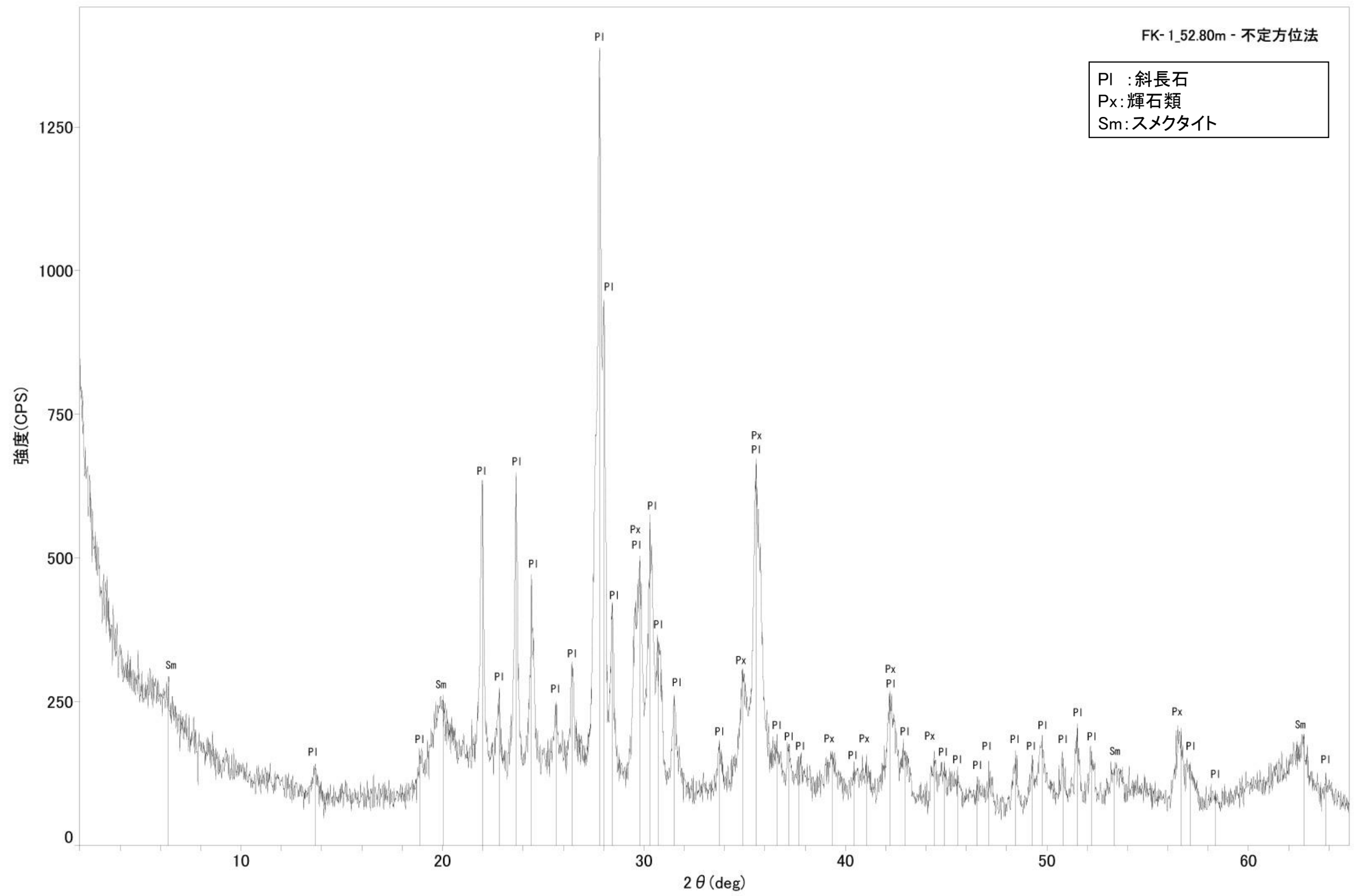




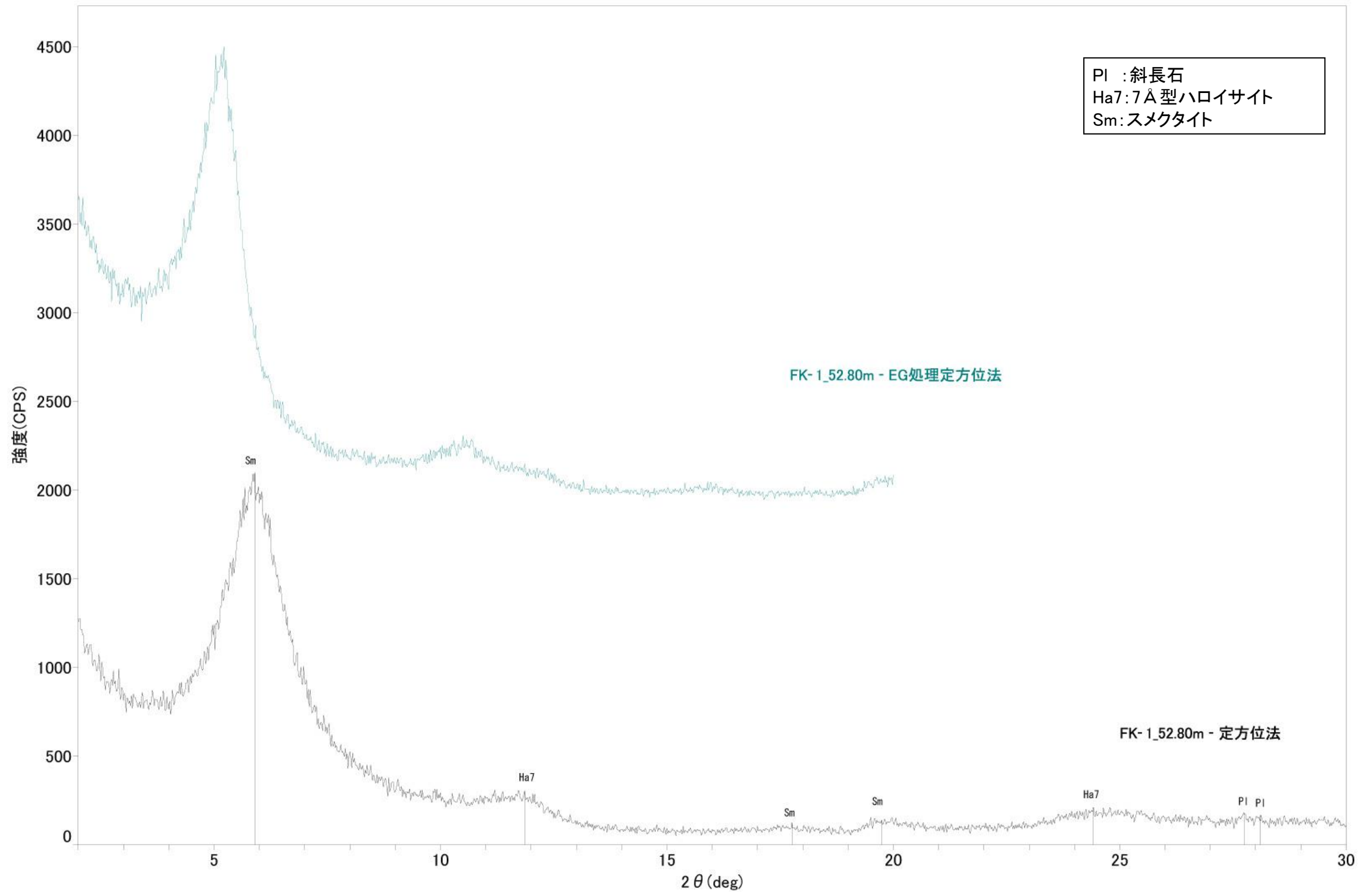




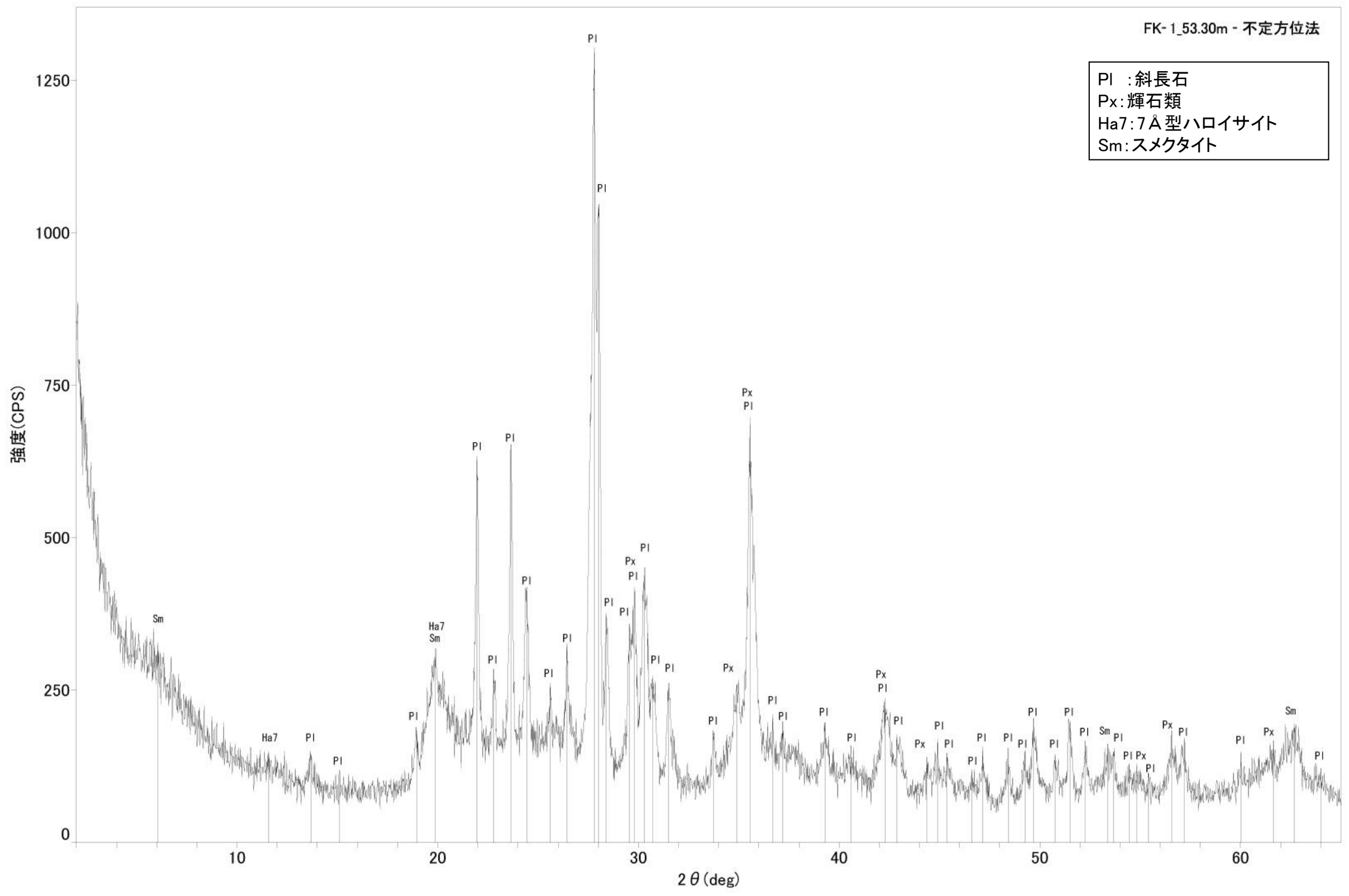




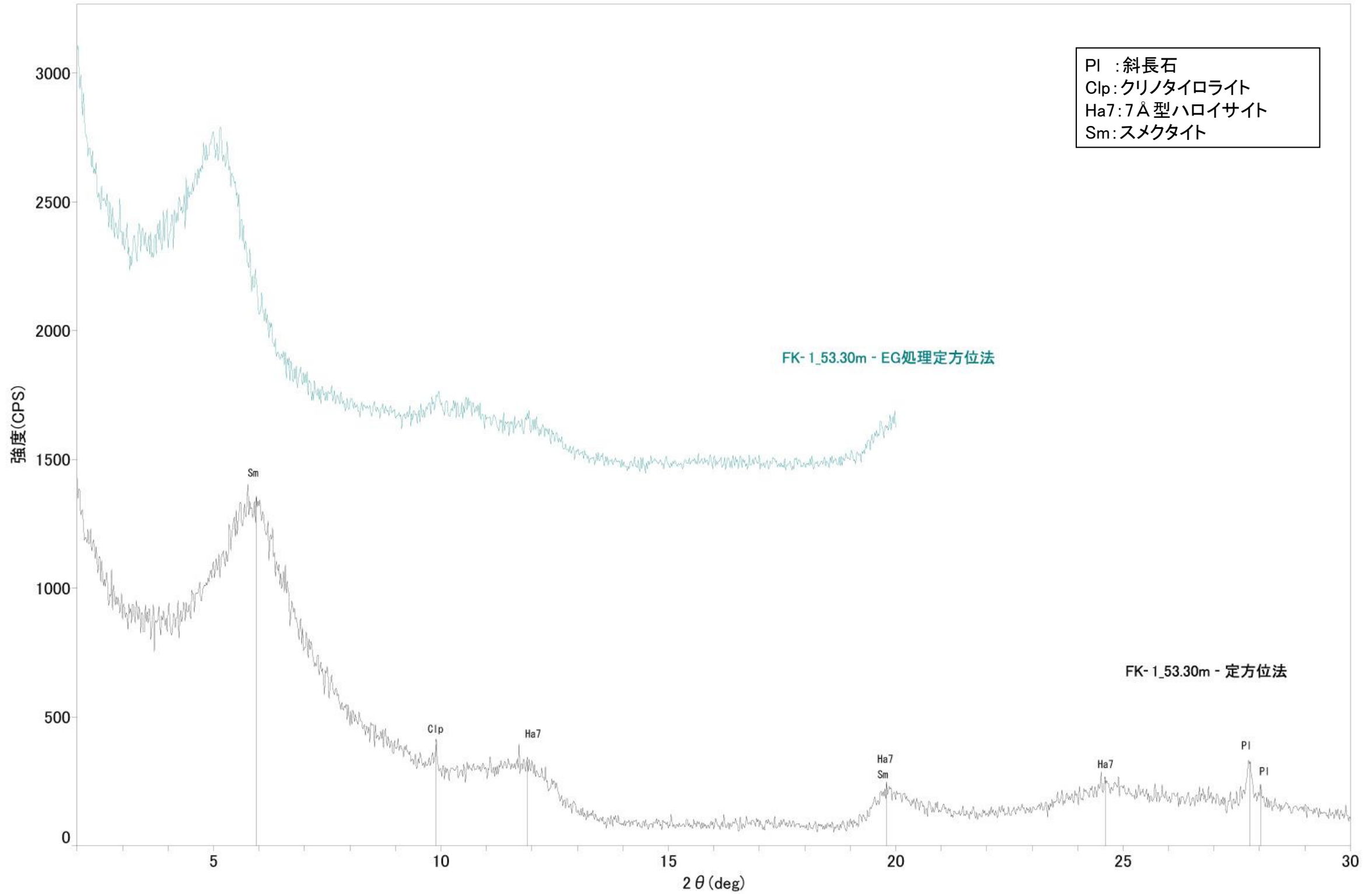




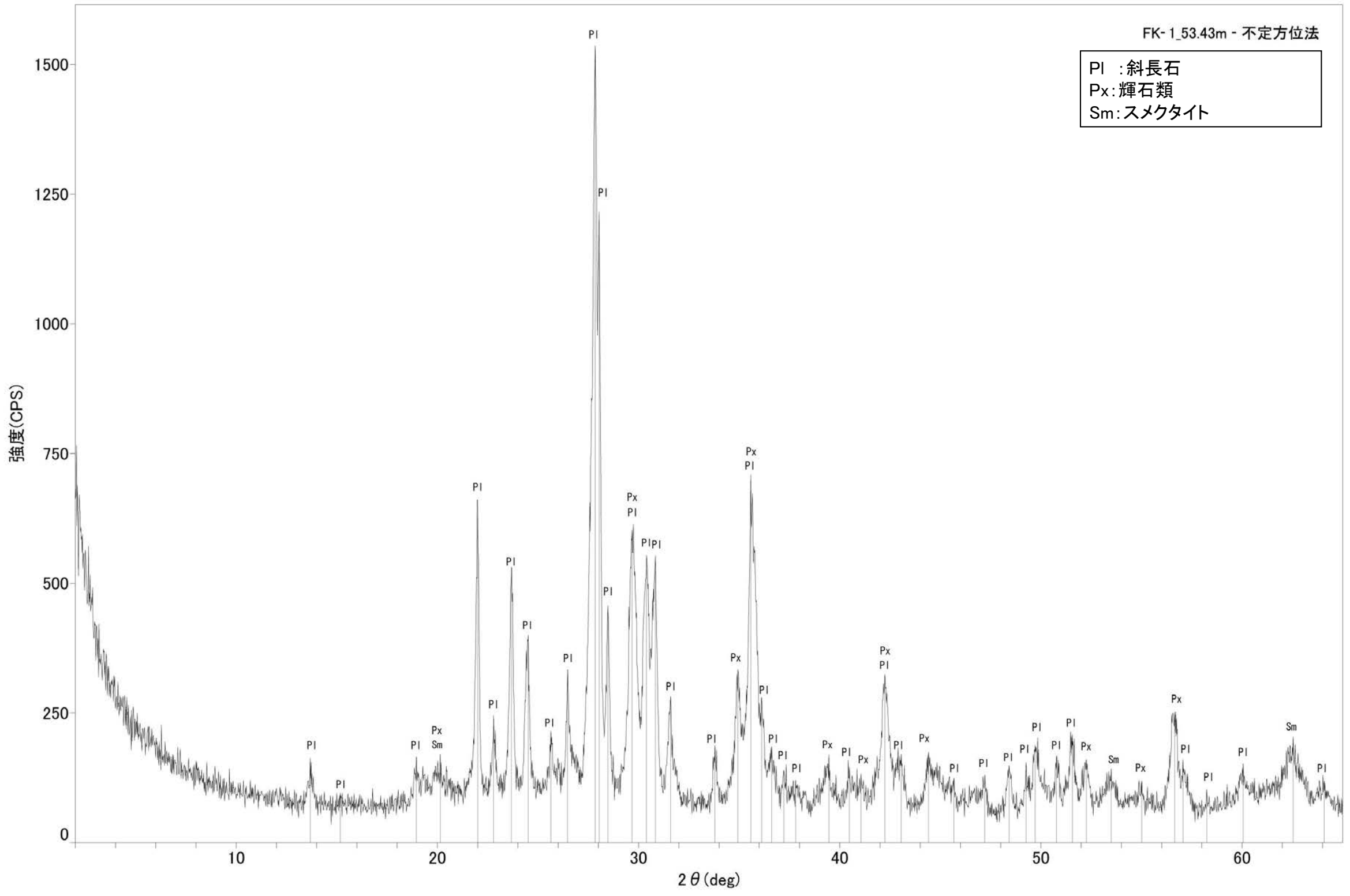




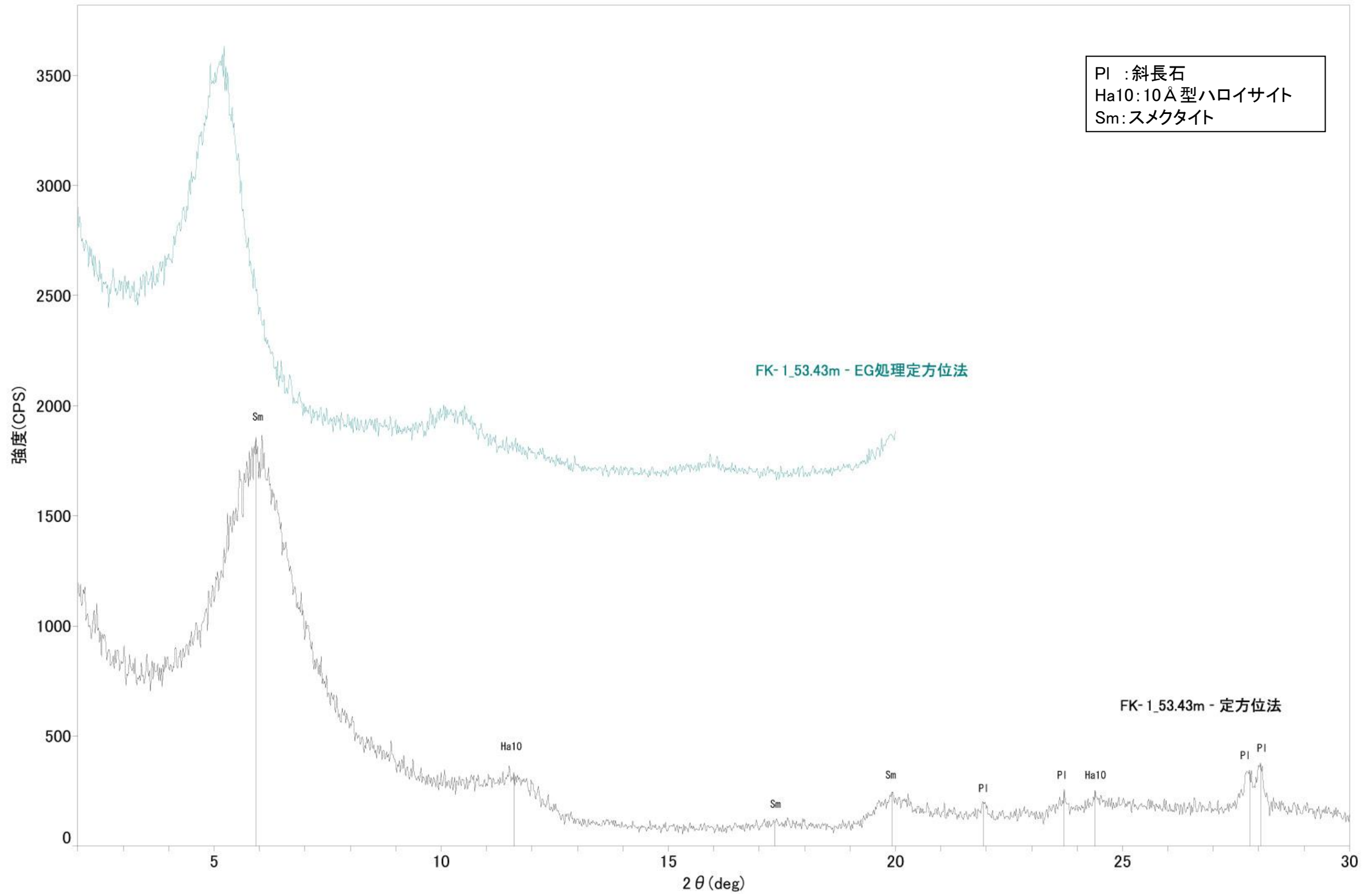




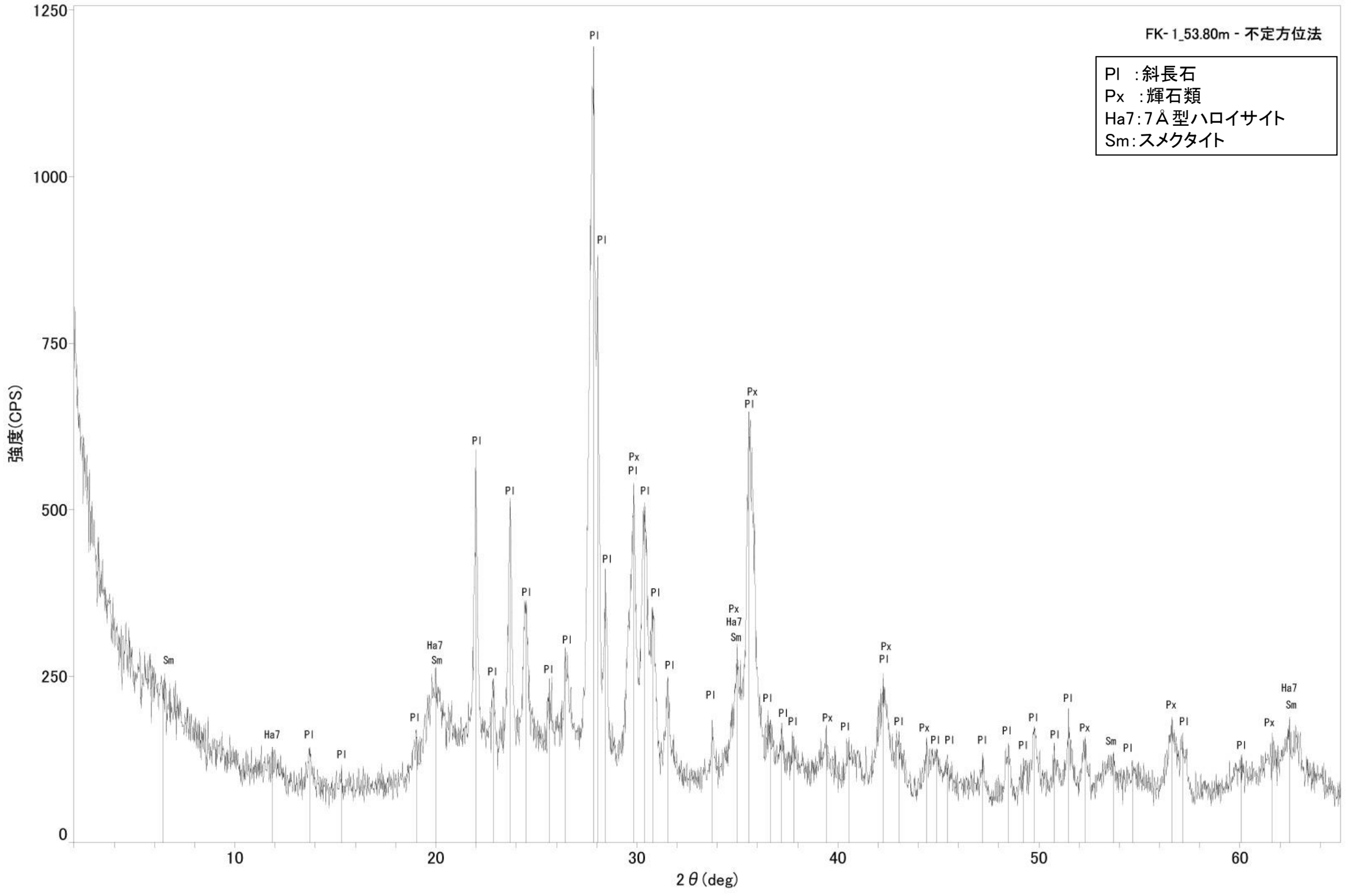




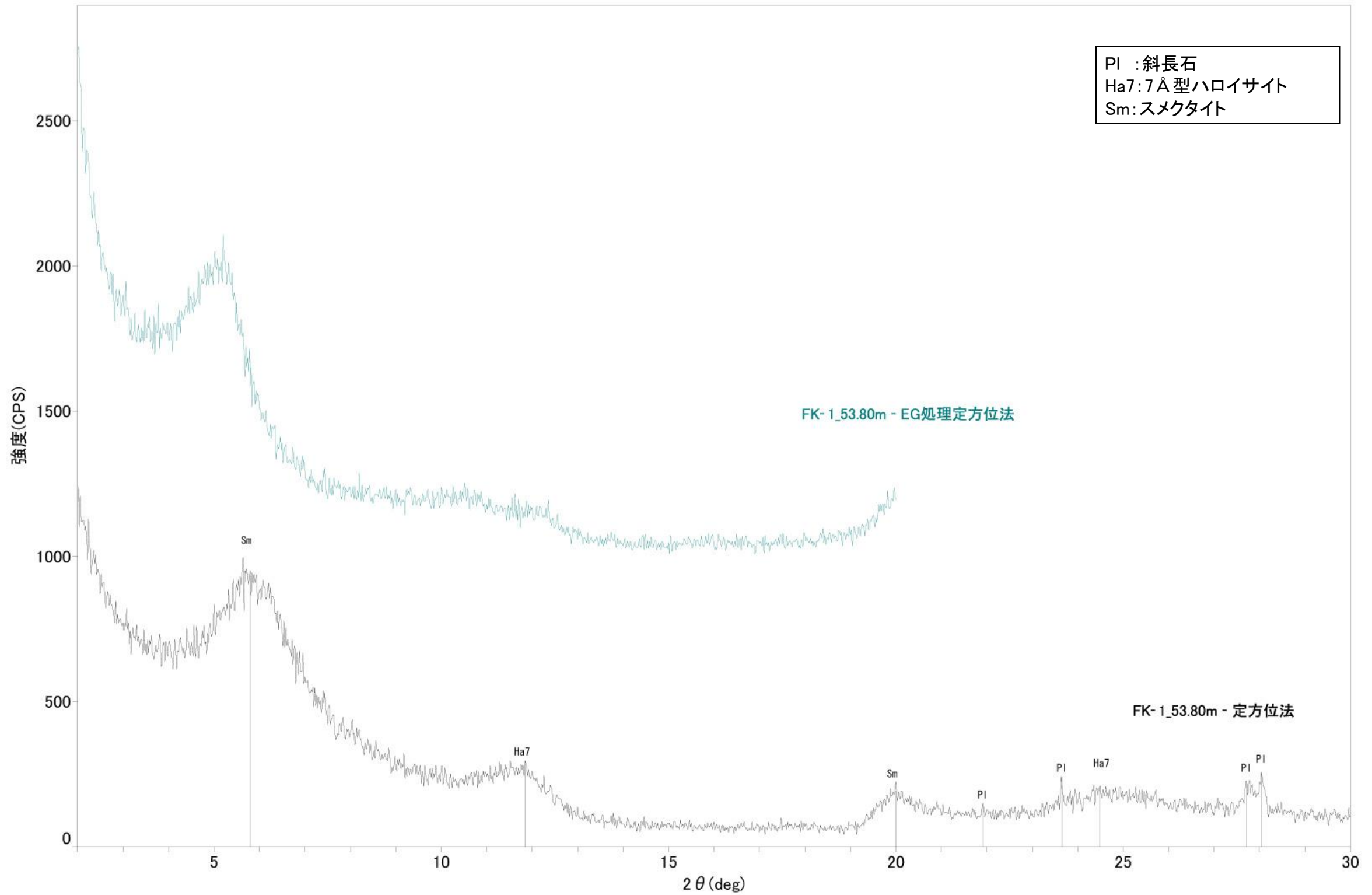




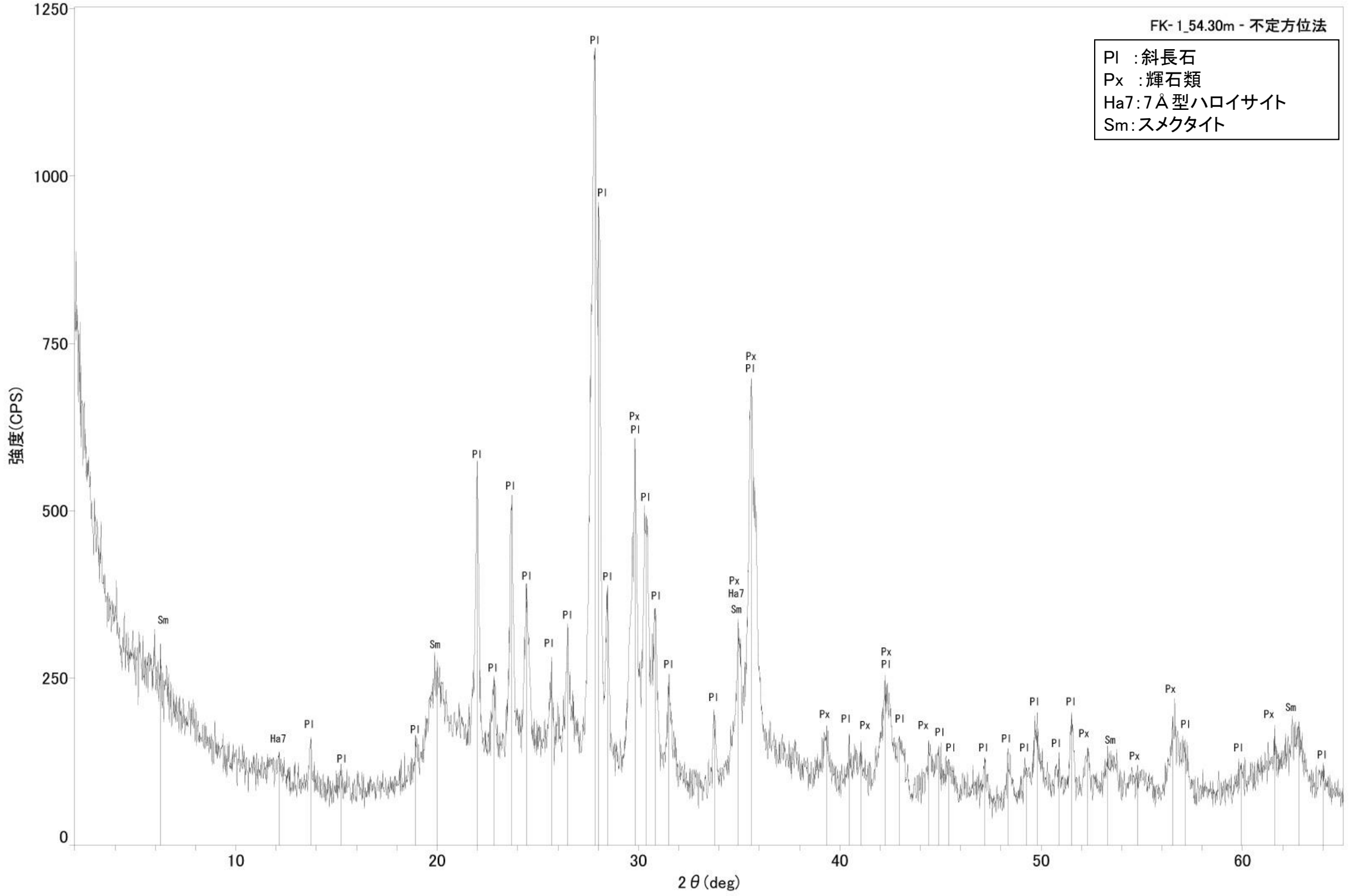




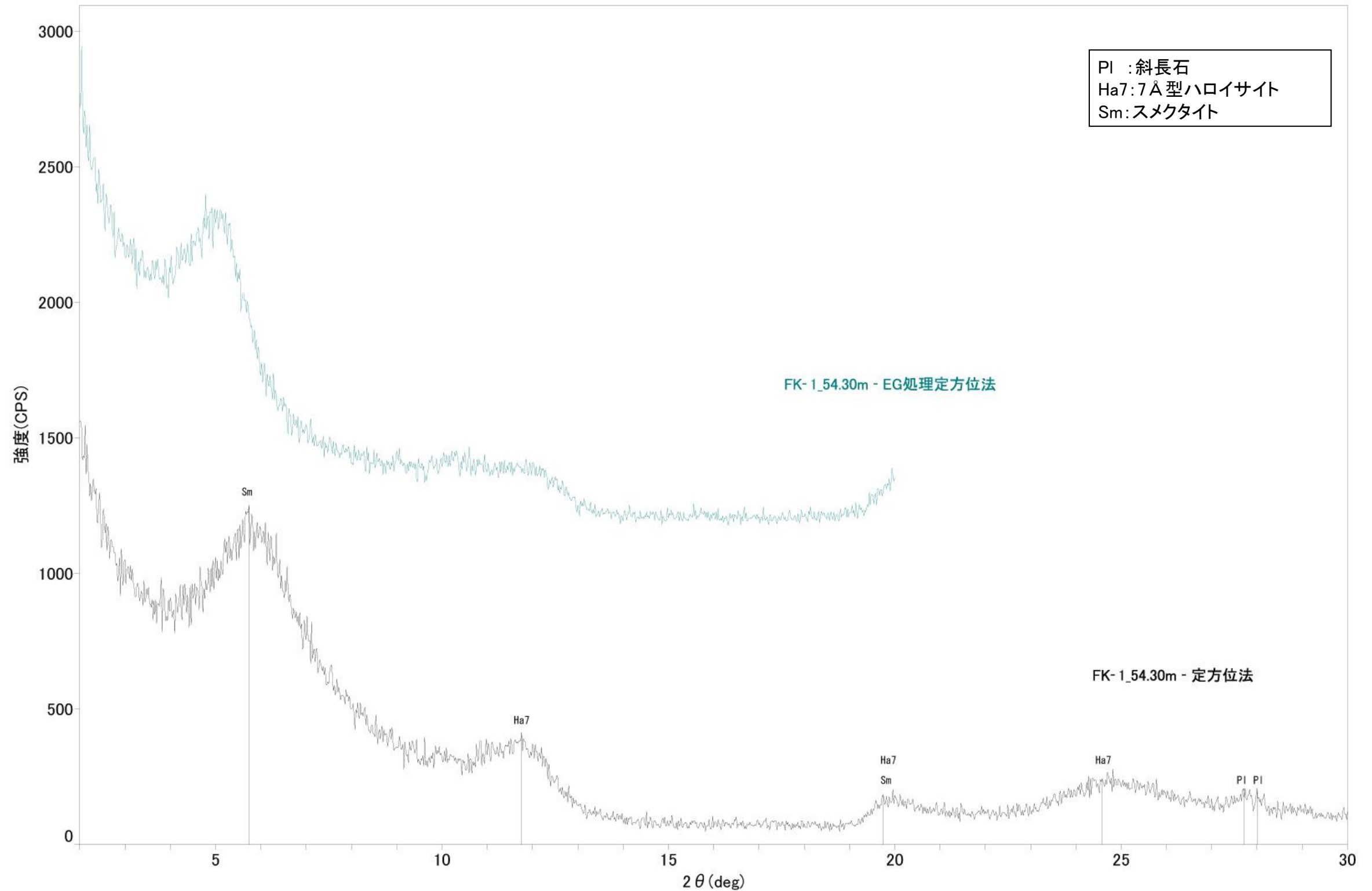




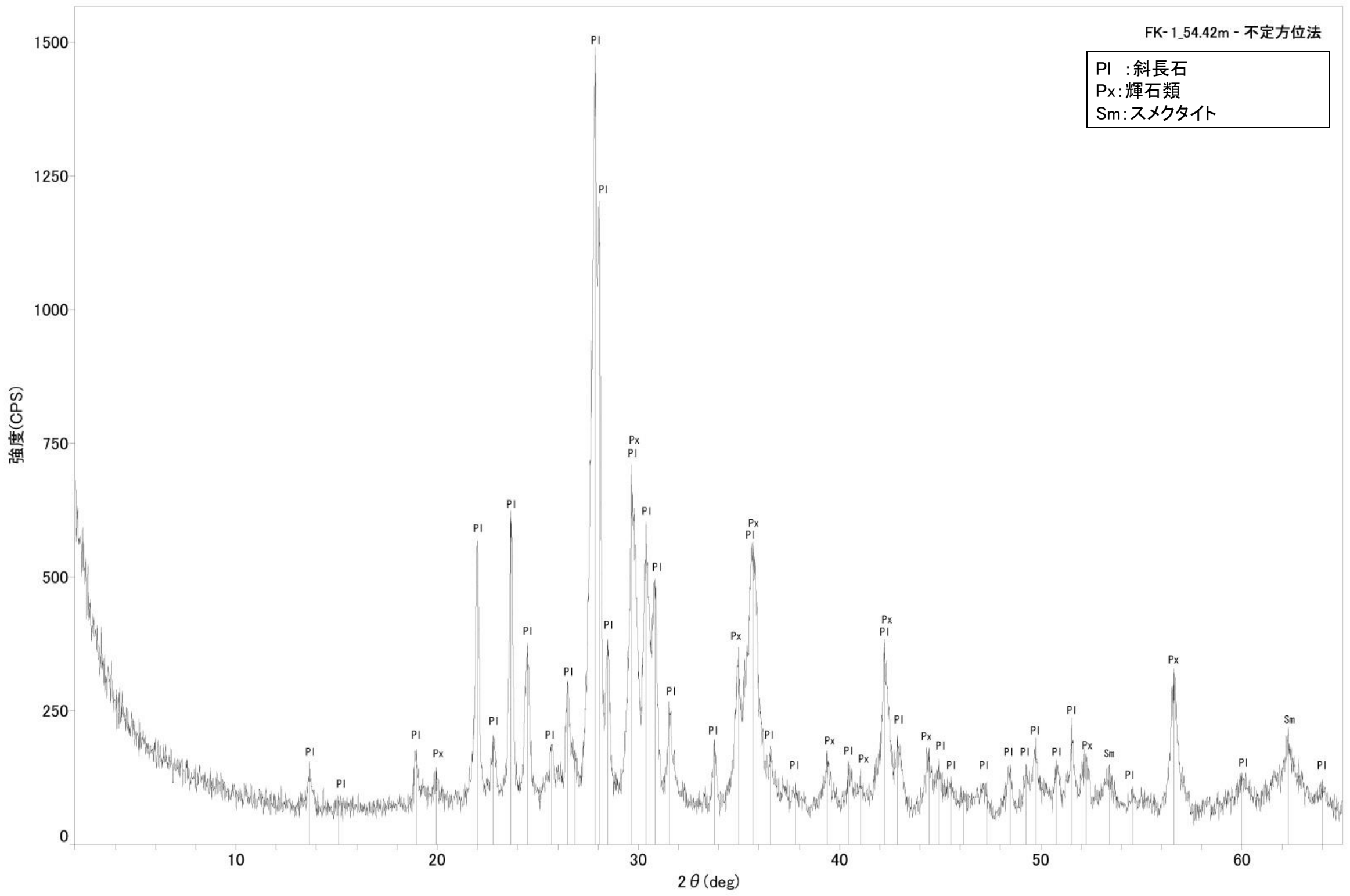




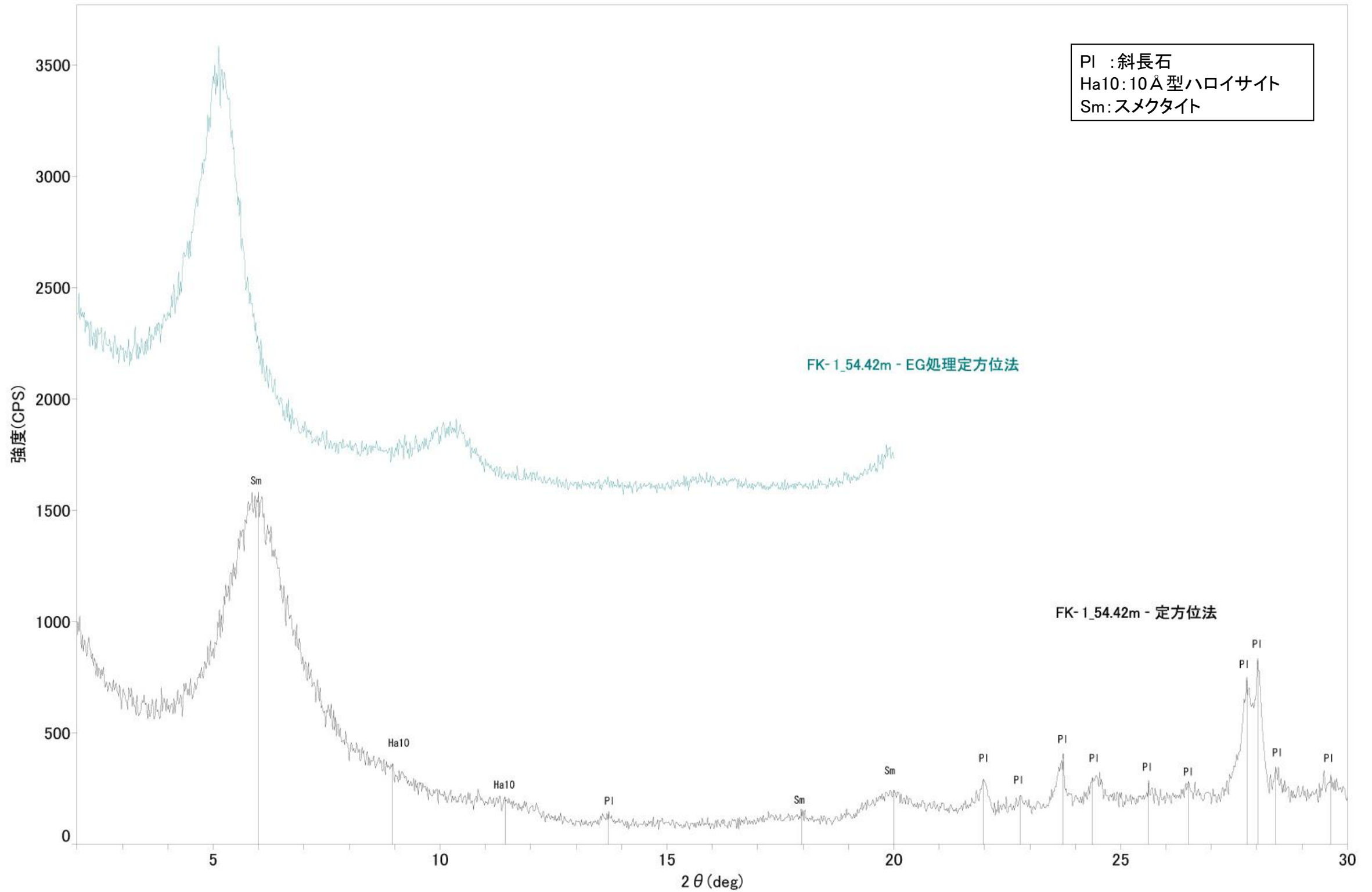




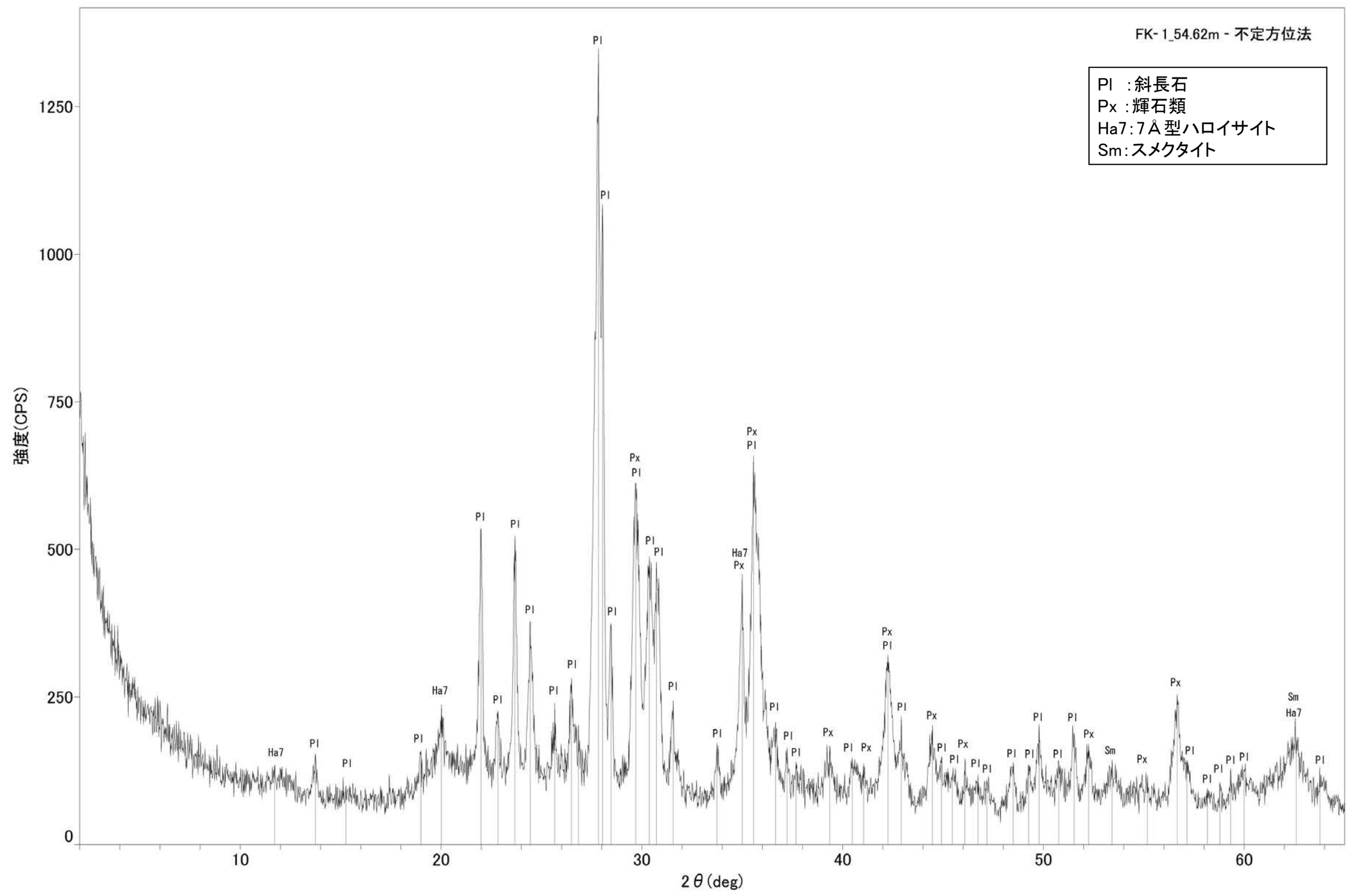




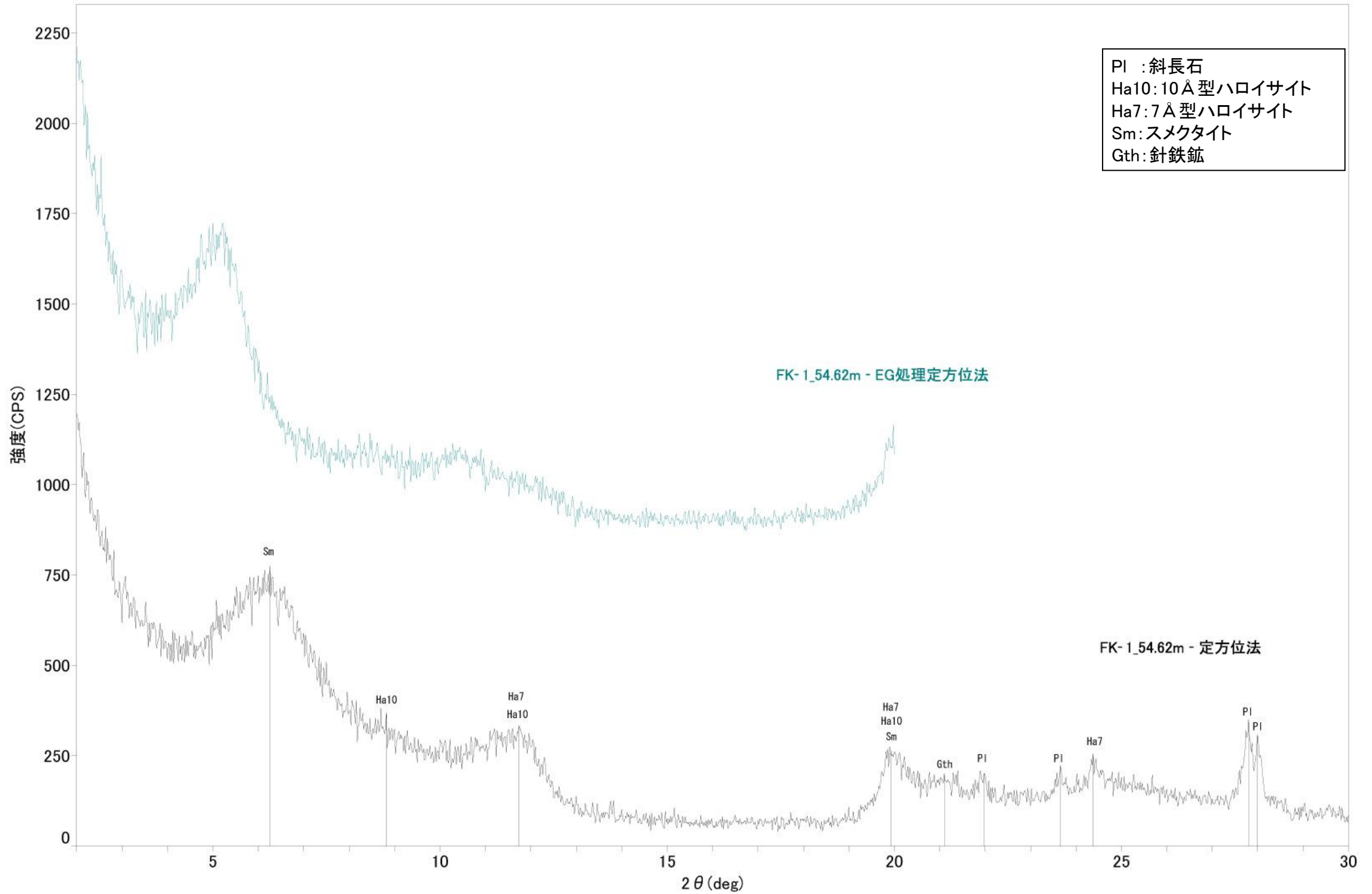




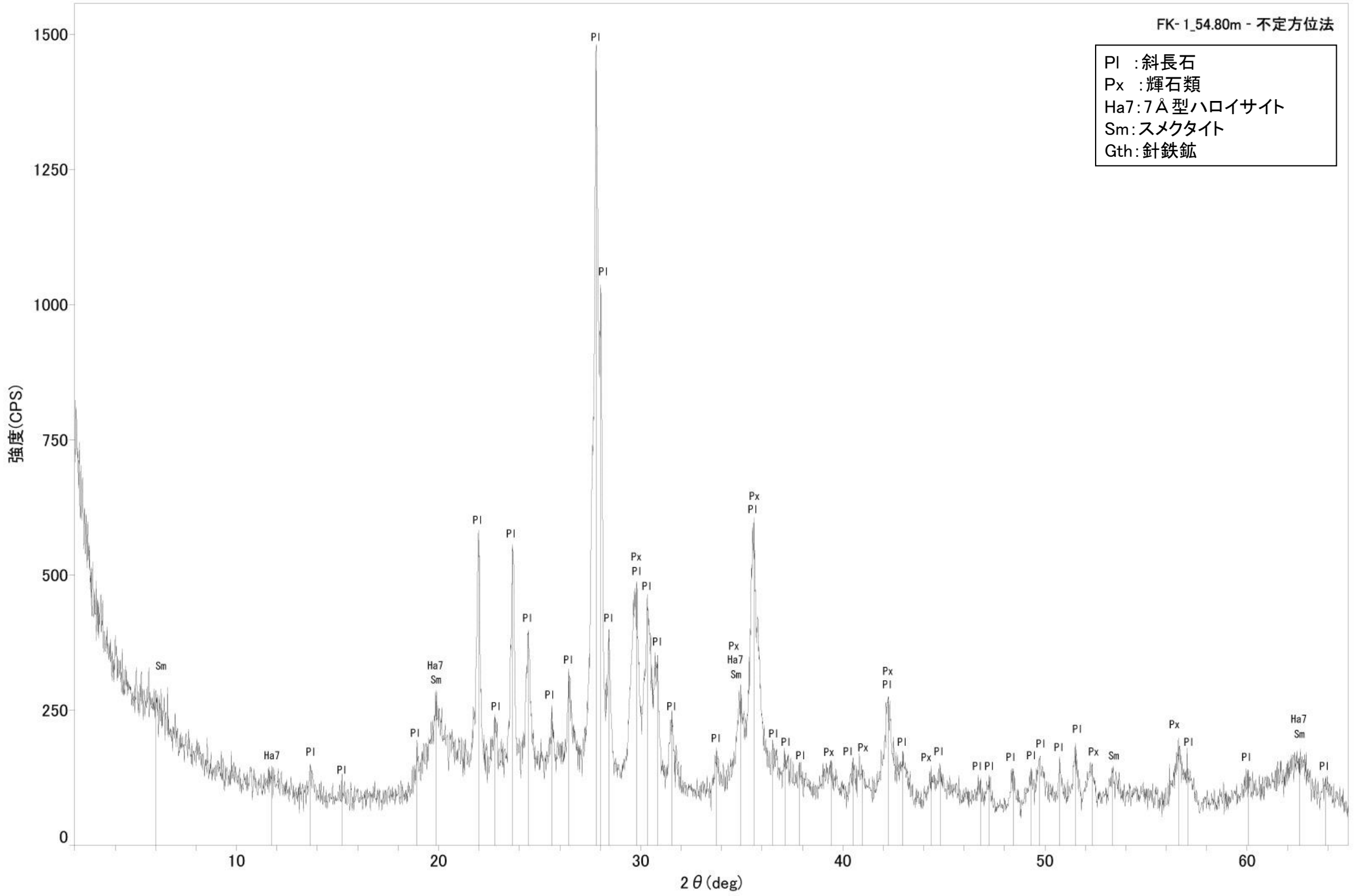


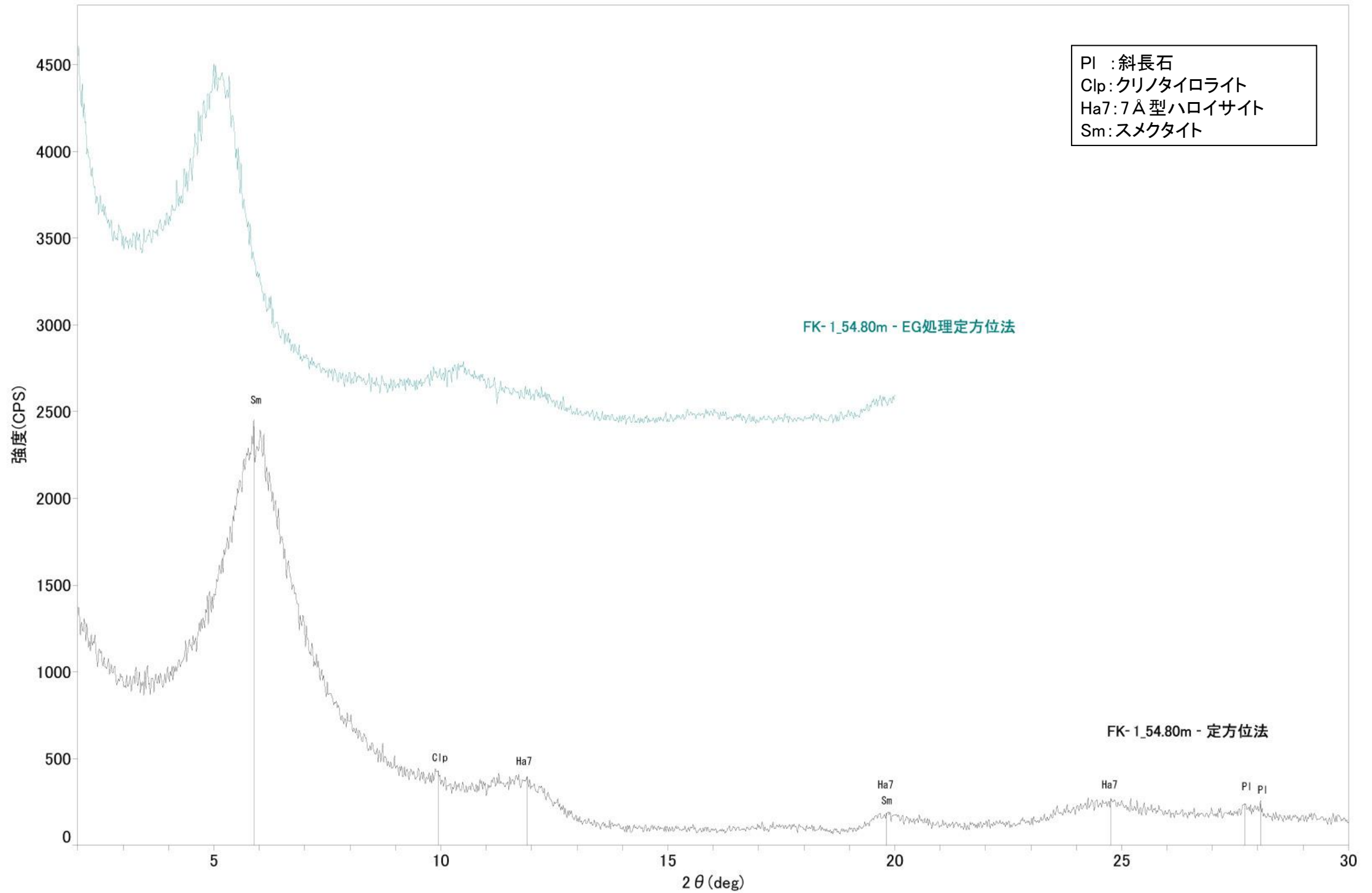






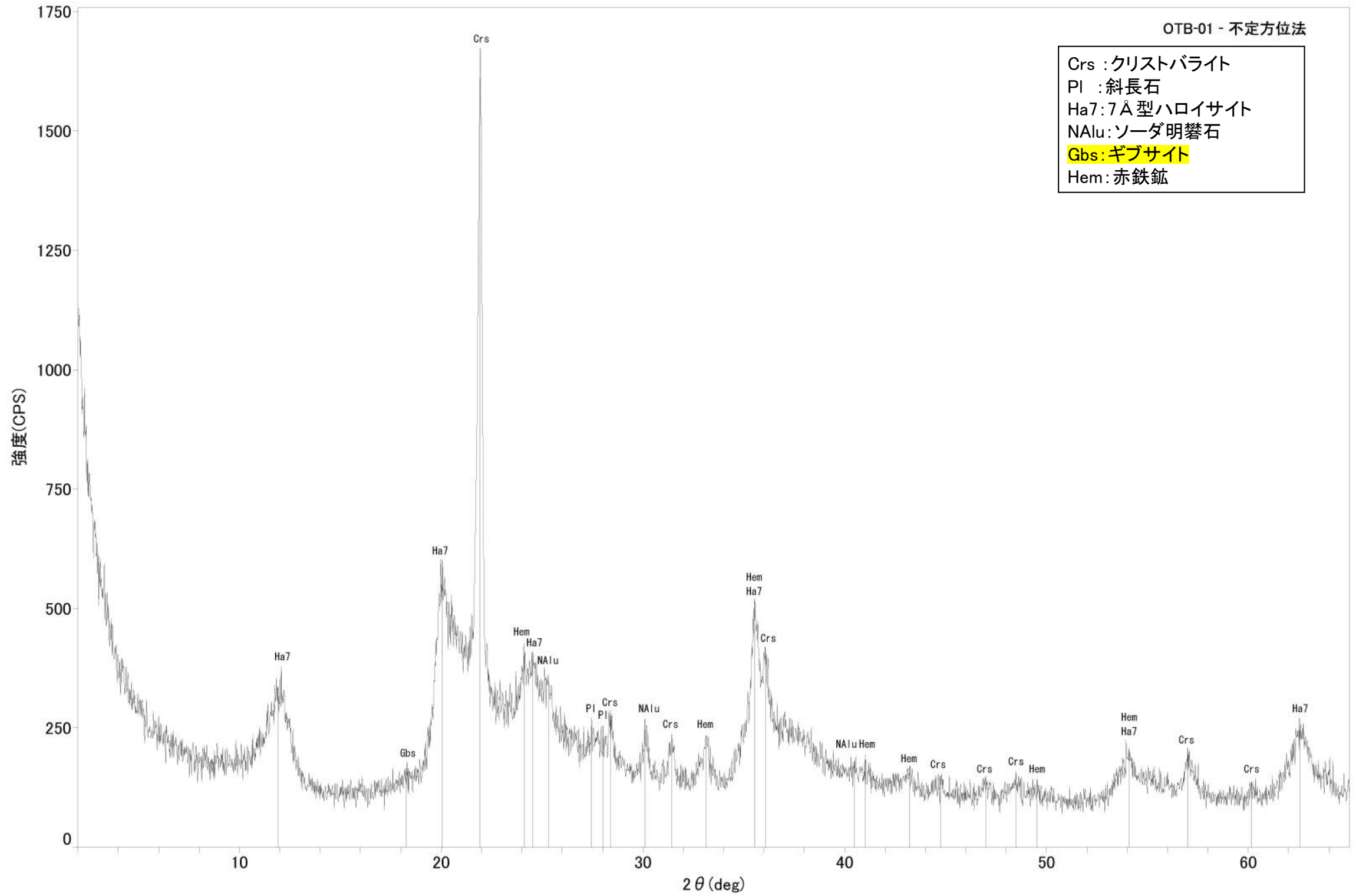


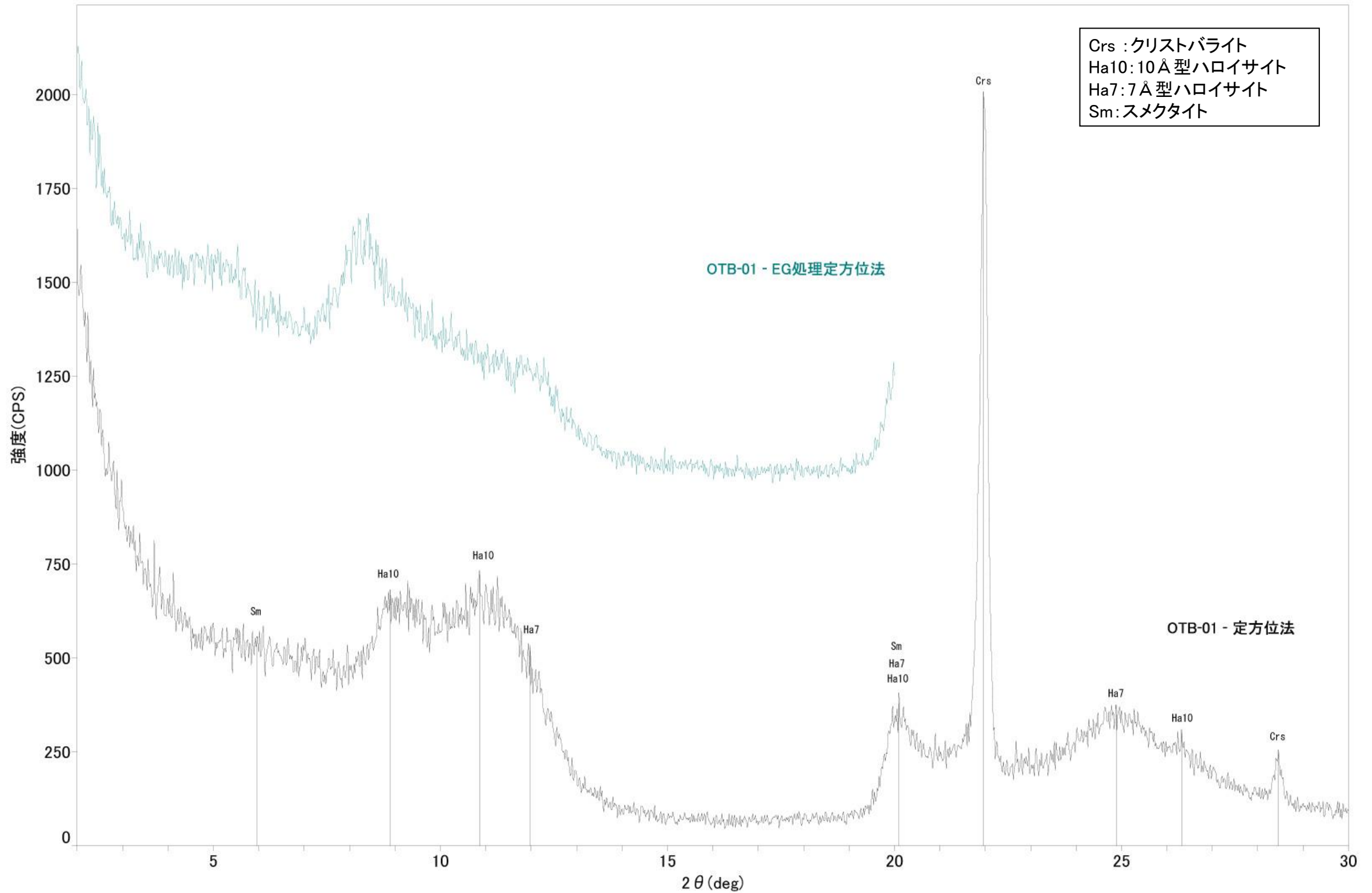




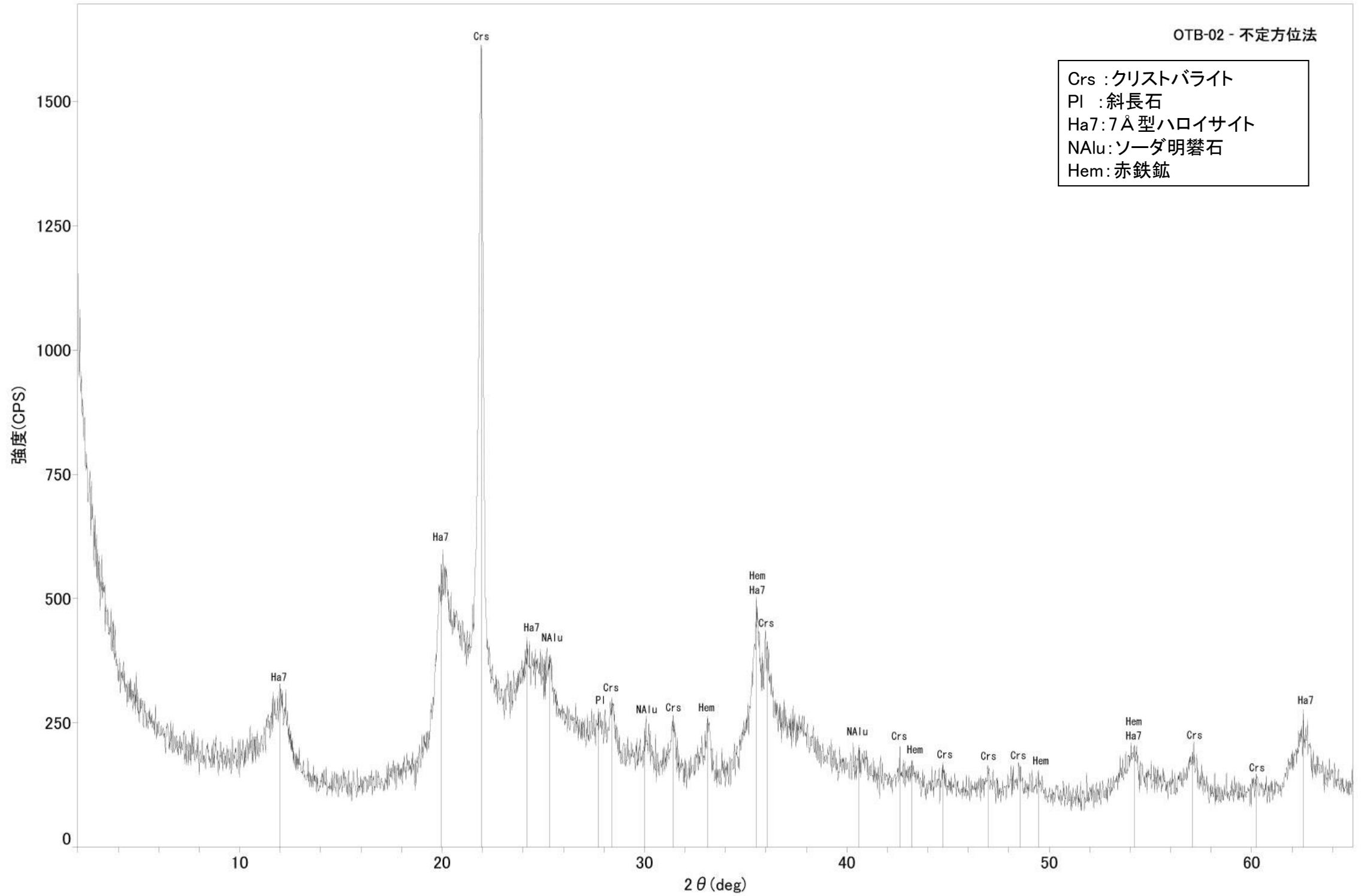
Pl : 斜長石  
Clp : クリノタイロライト  
Ha7 : 7 Å型ハロイサイト  
Sm : スメクタイト

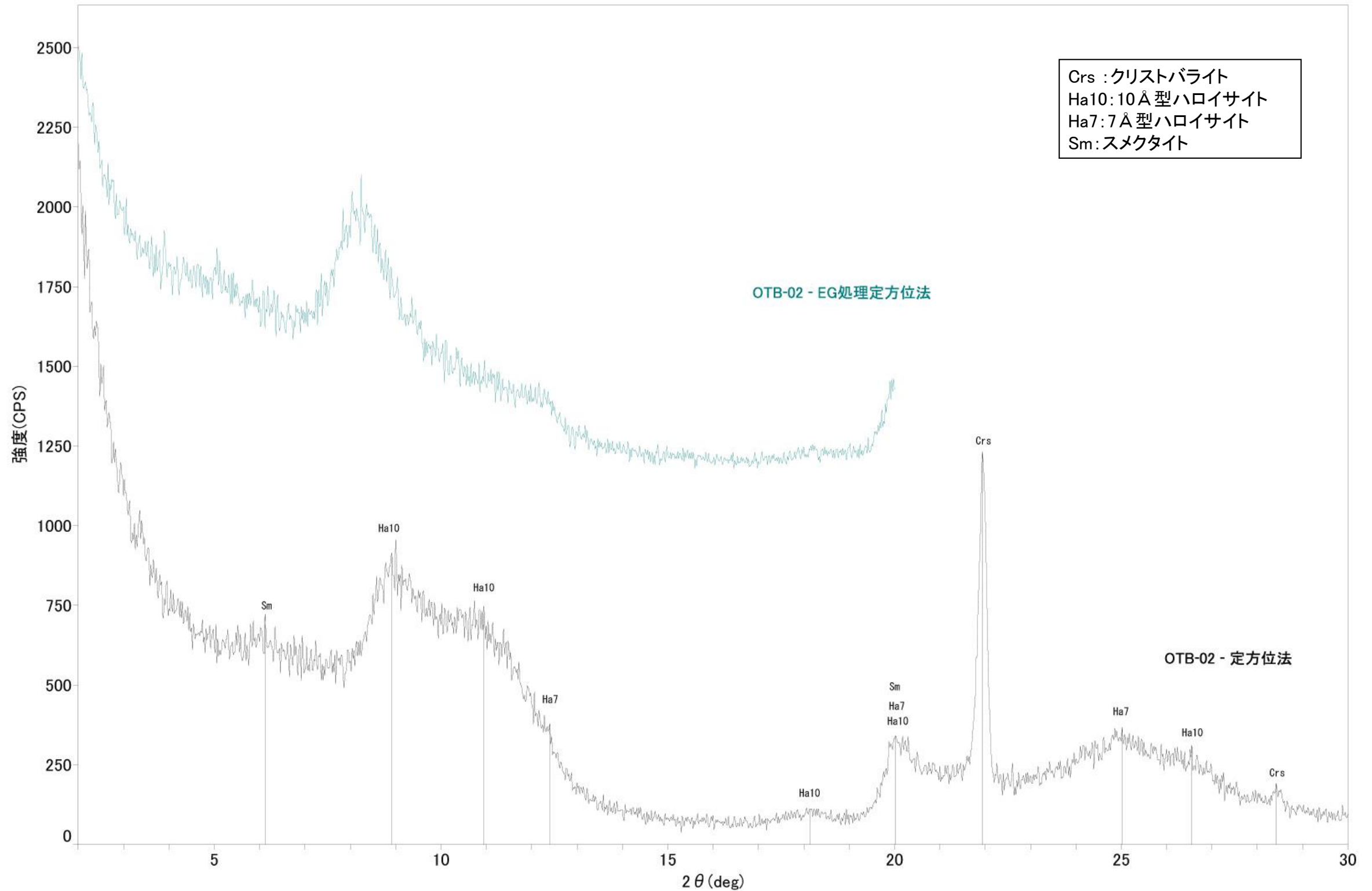




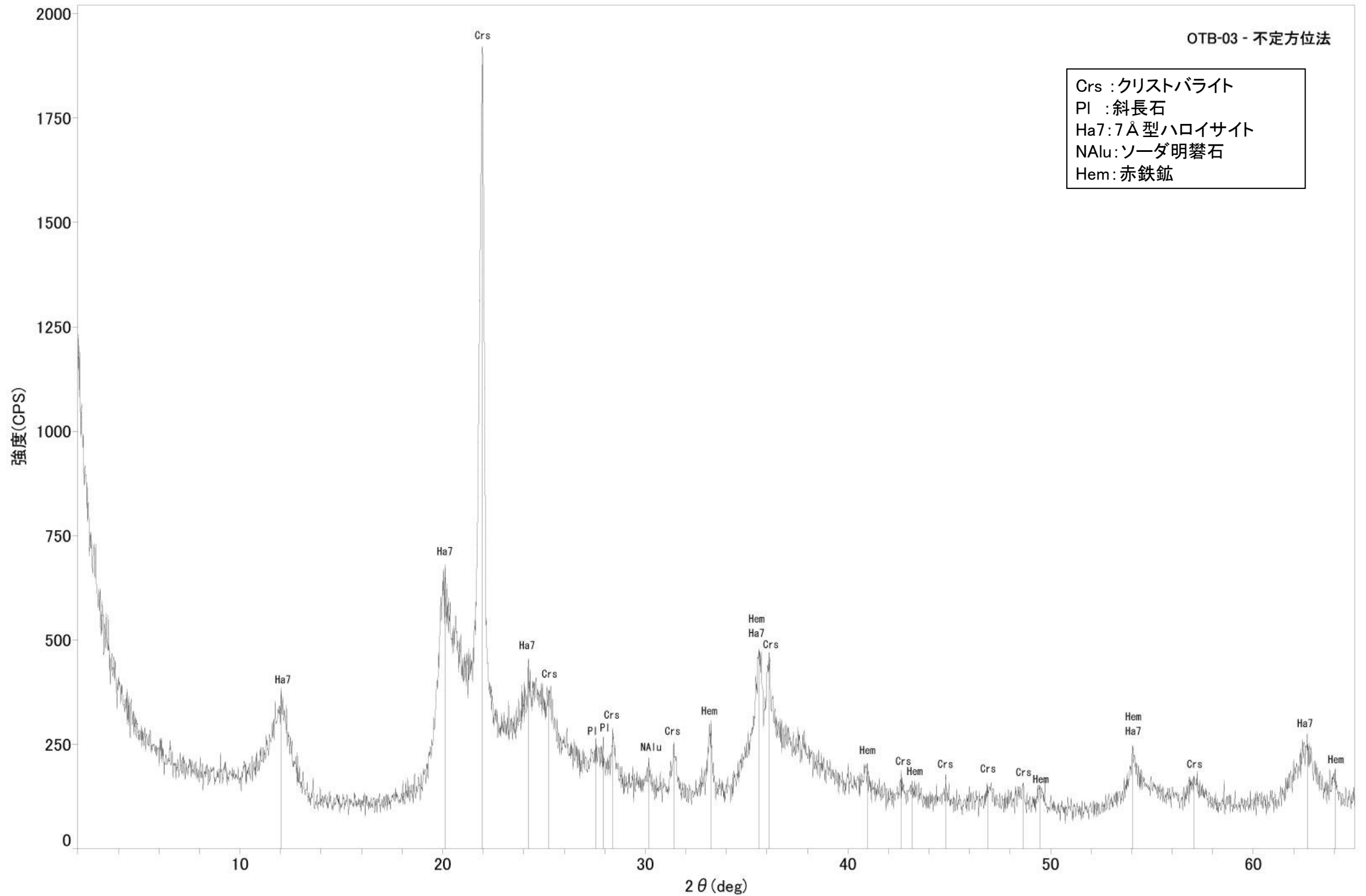


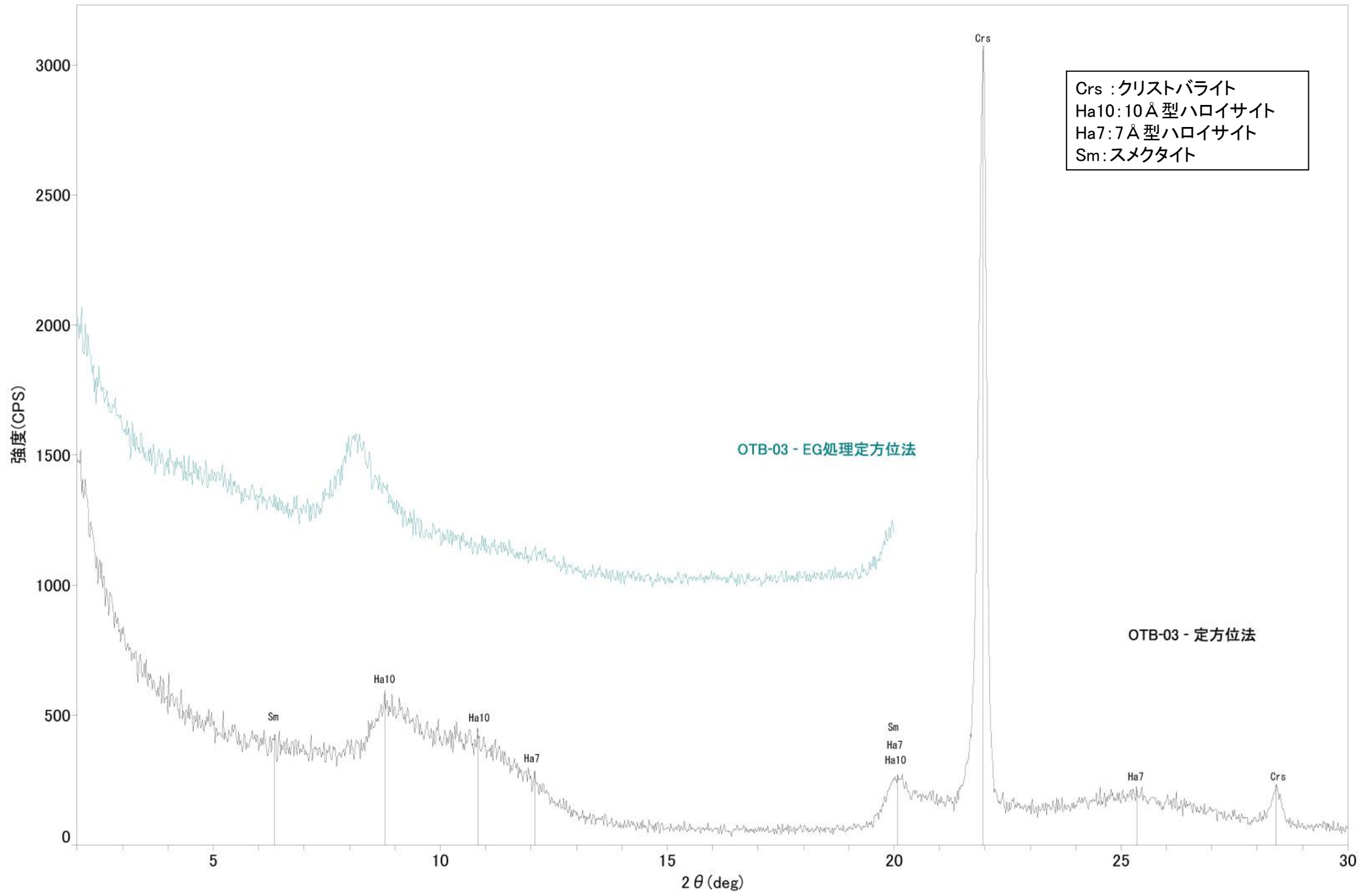




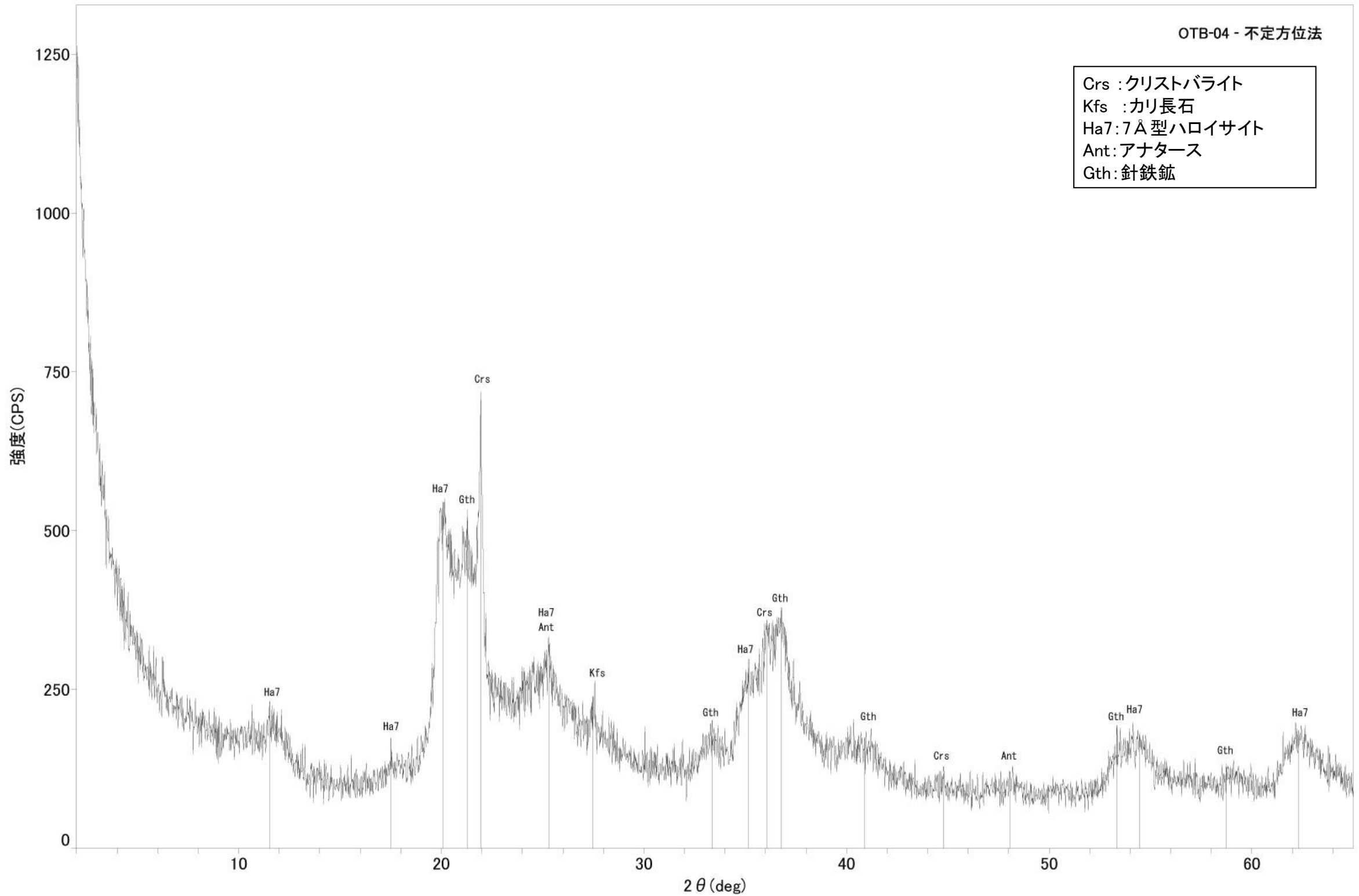


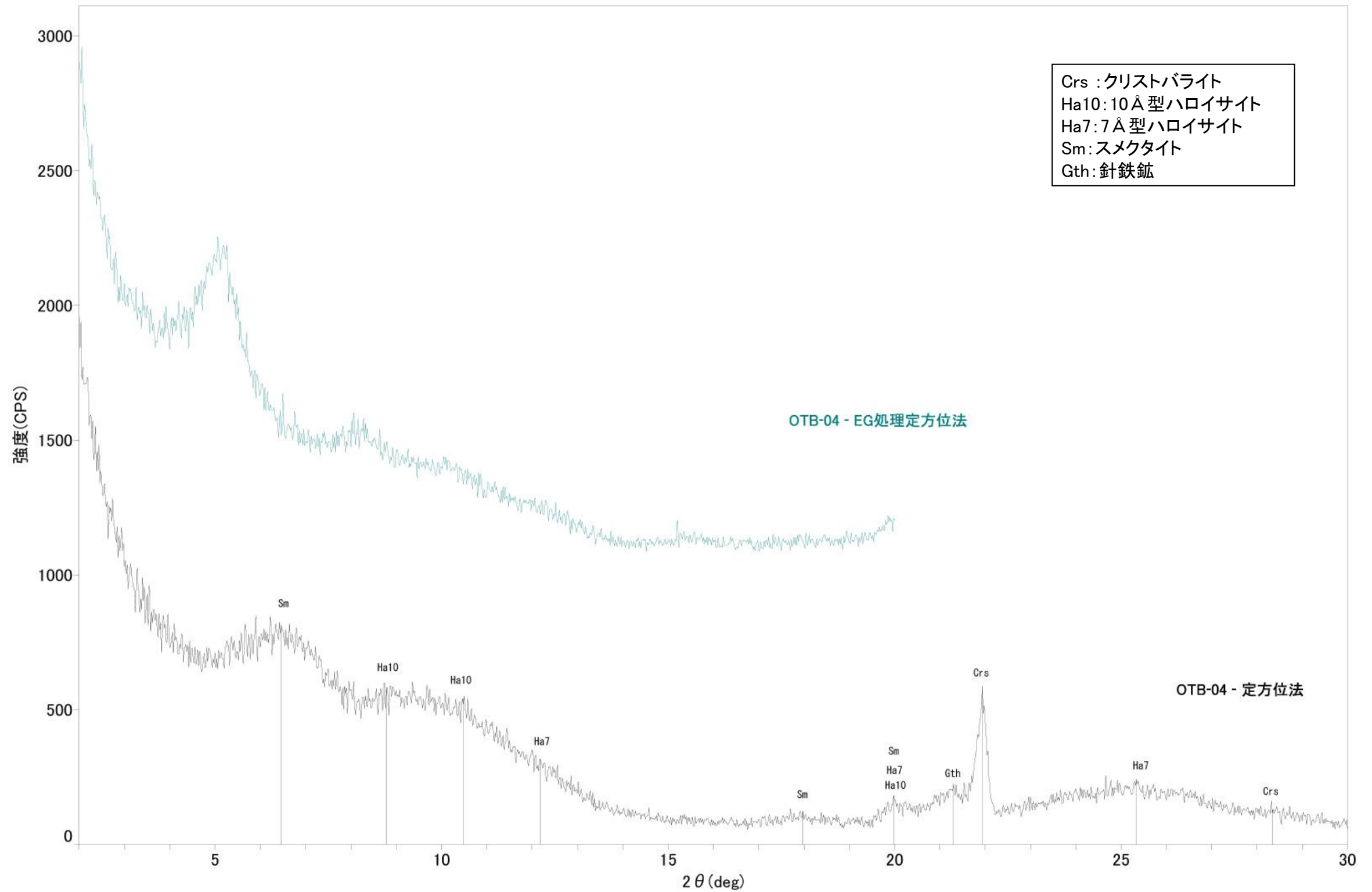




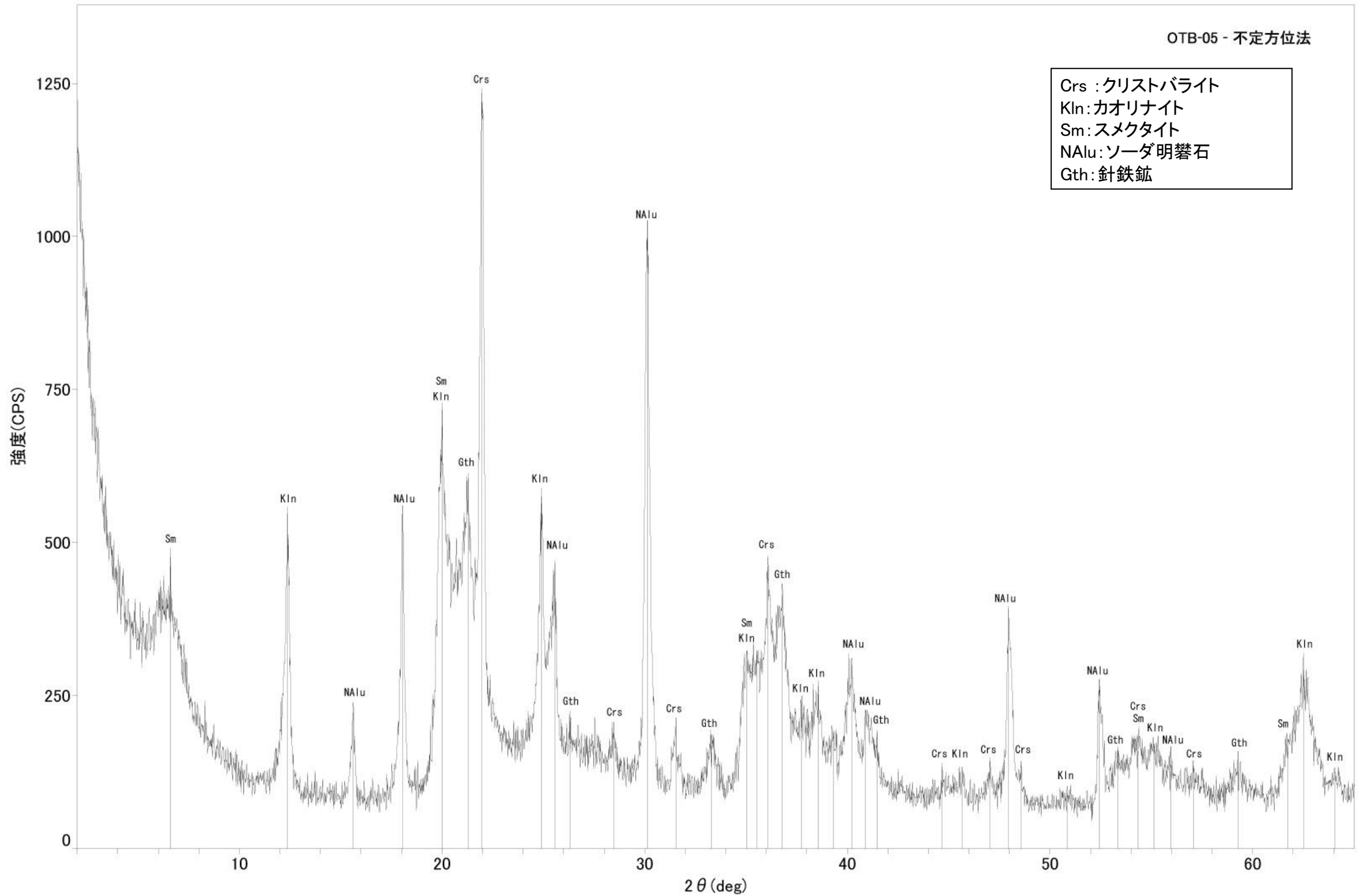


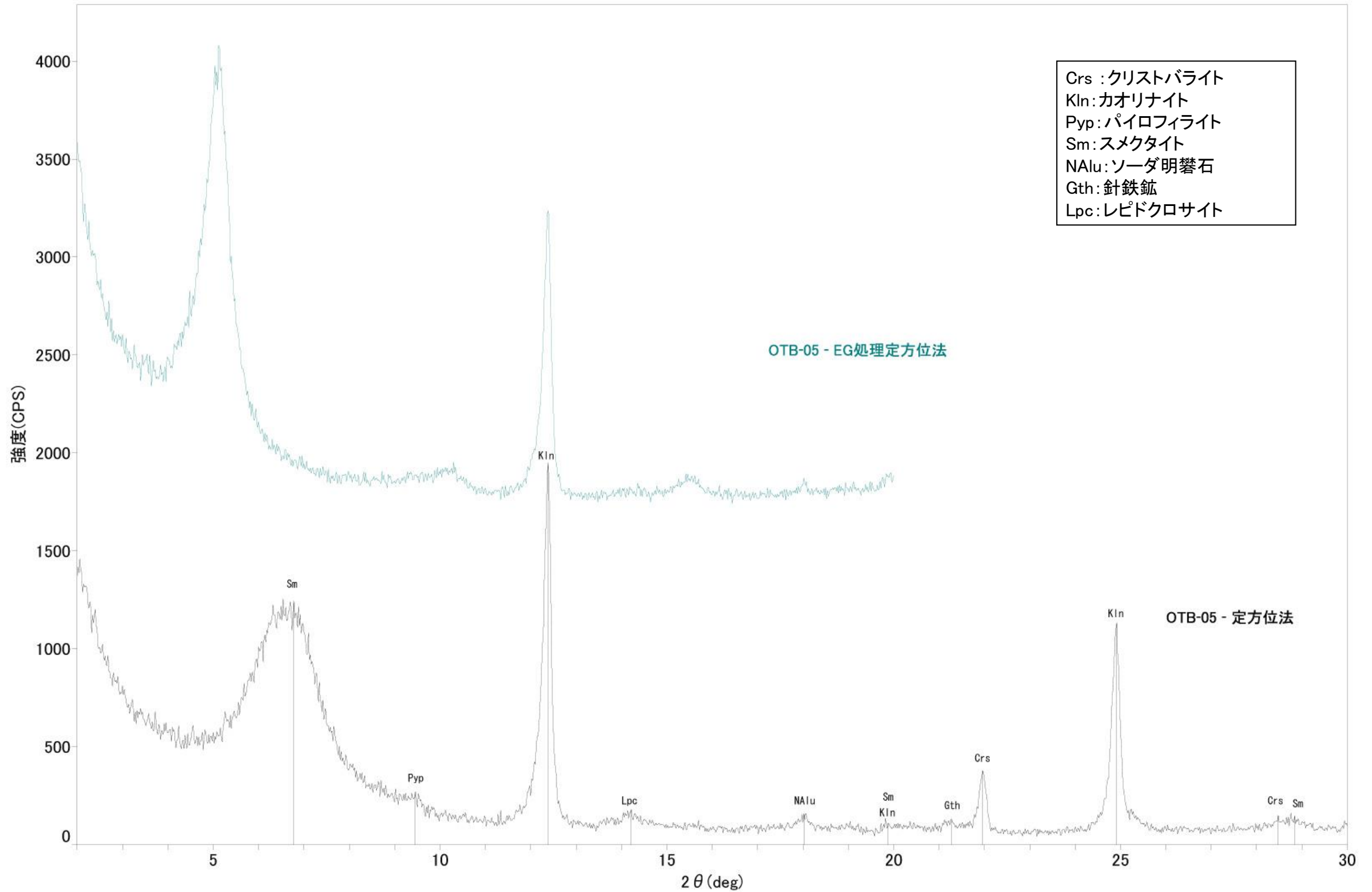




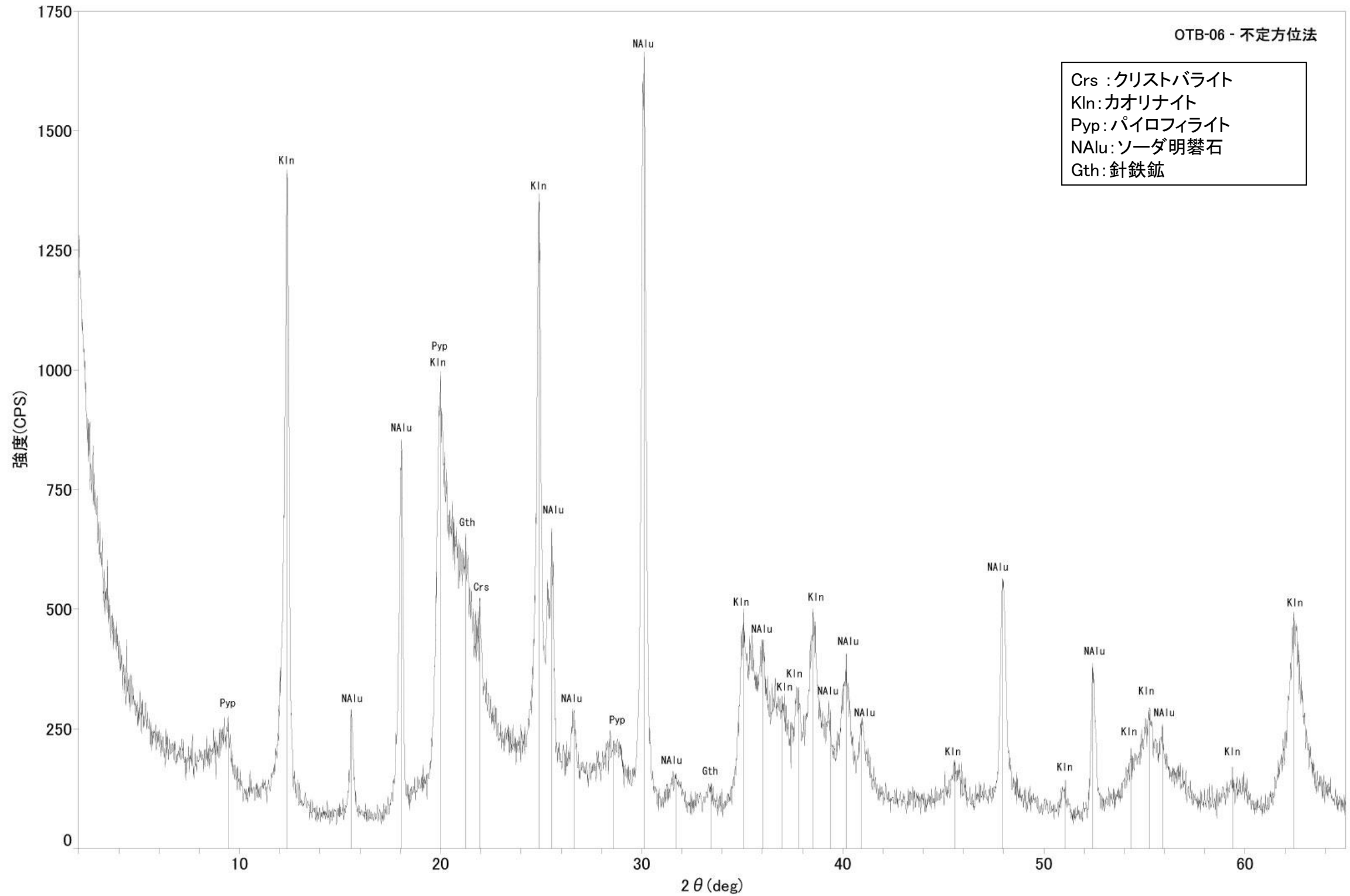


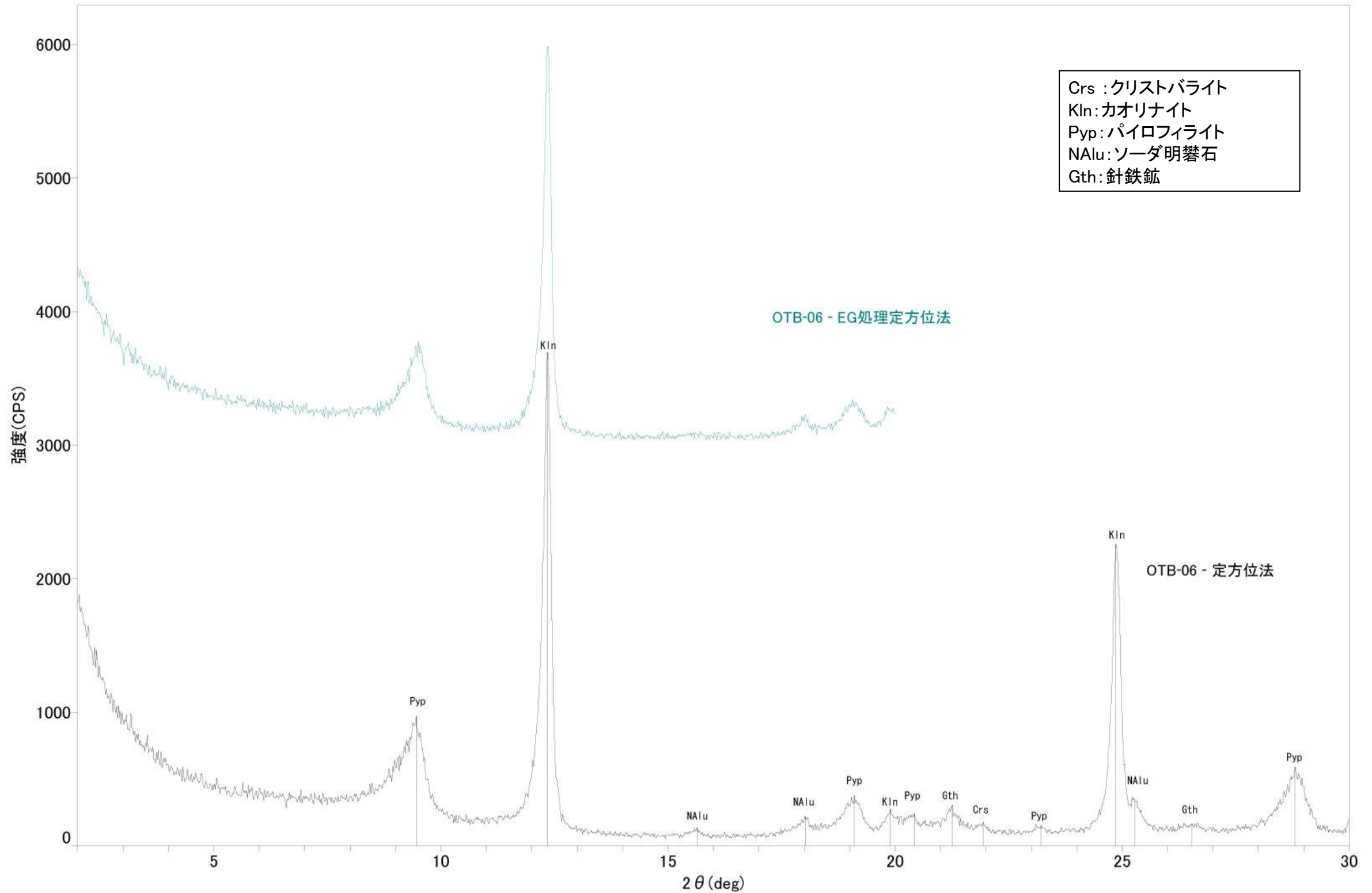




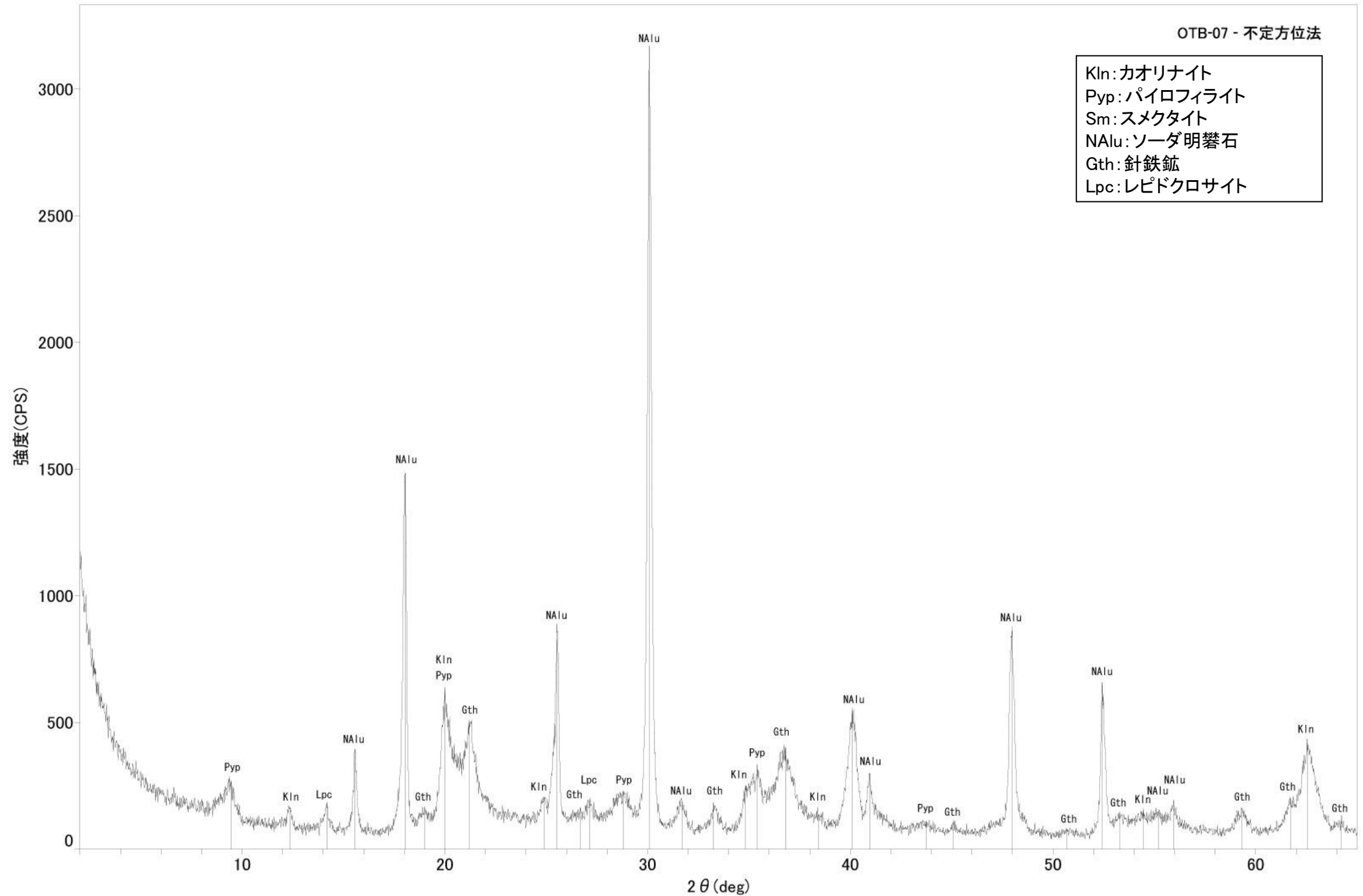


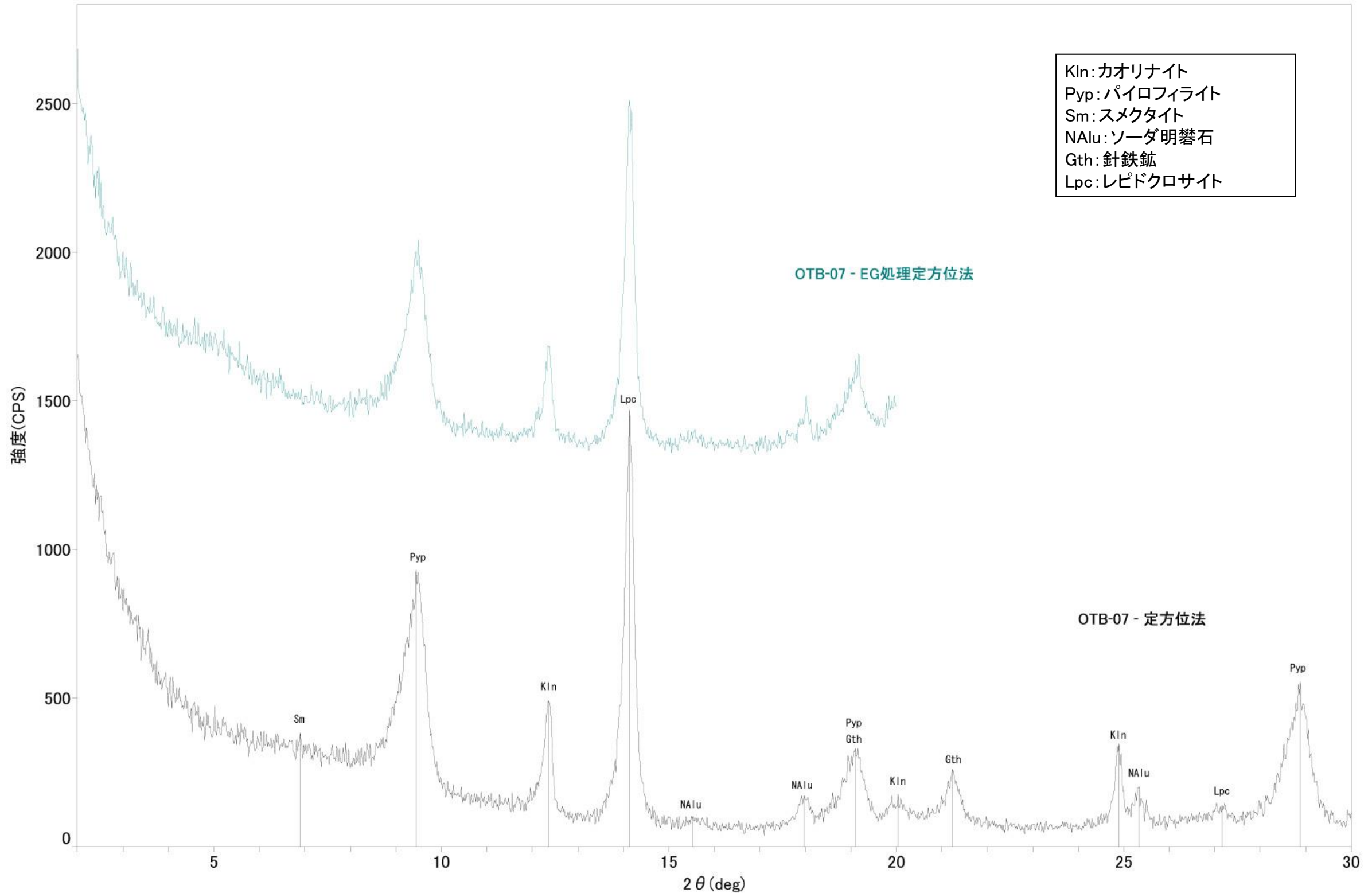




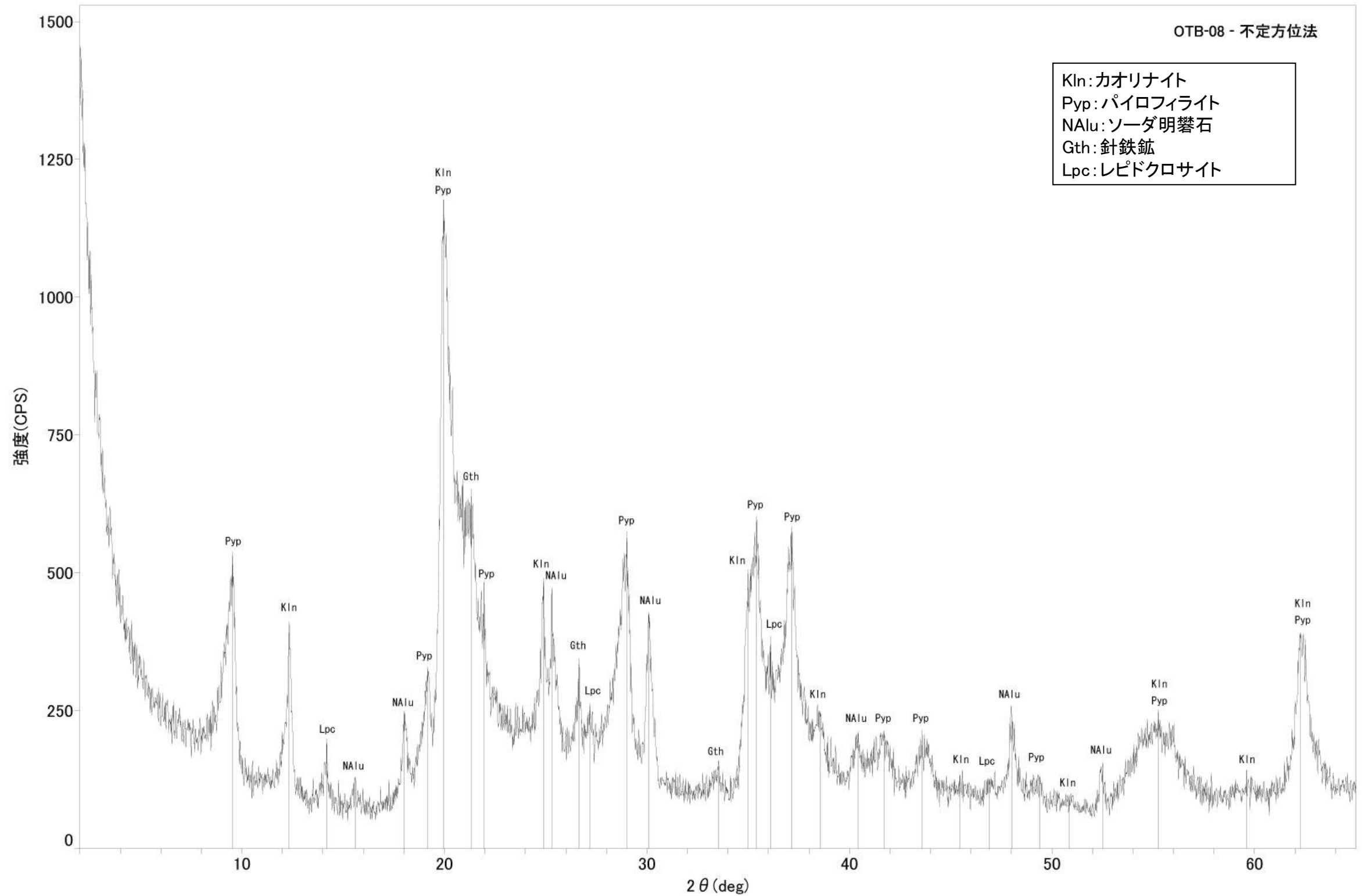


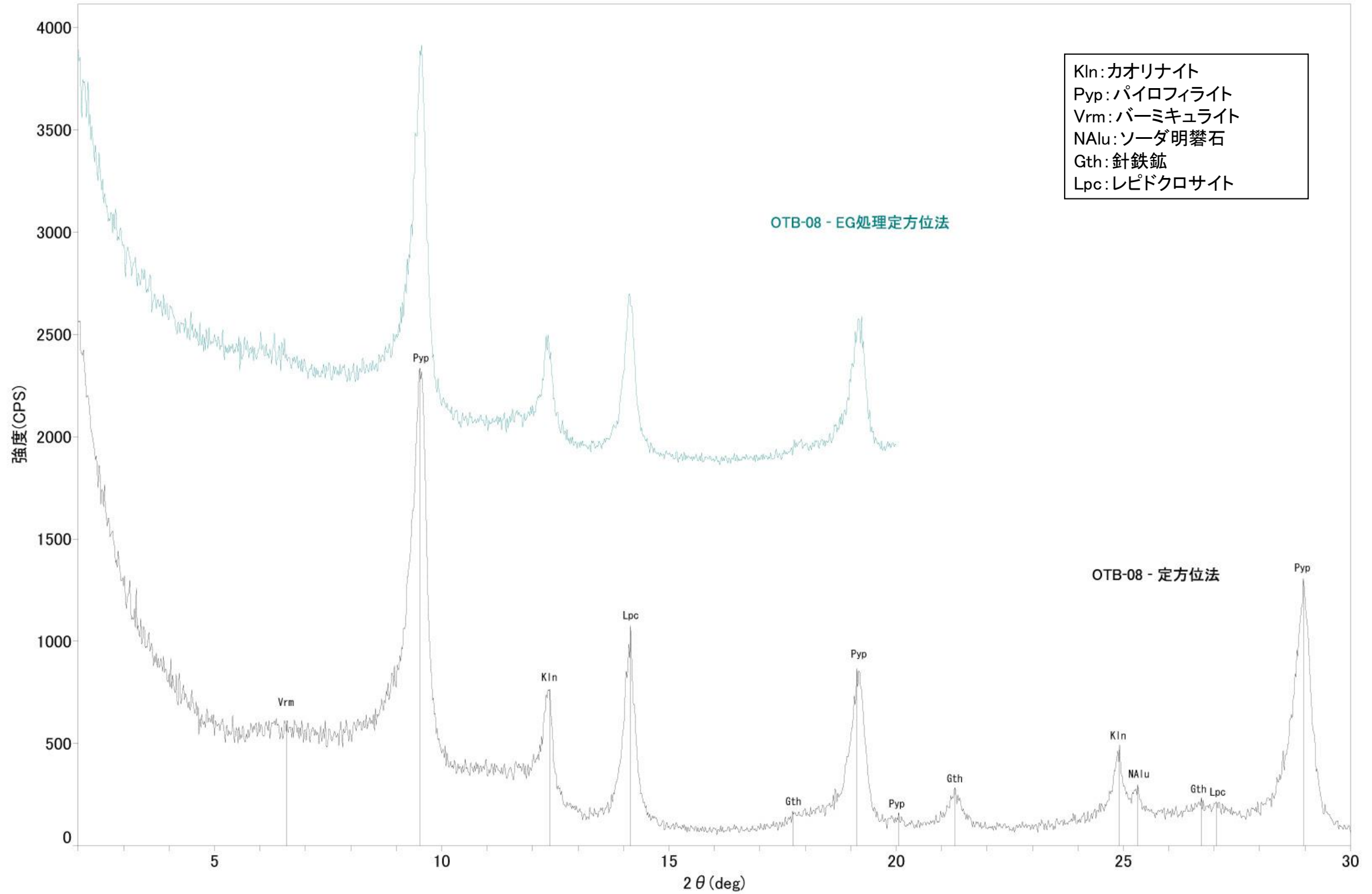




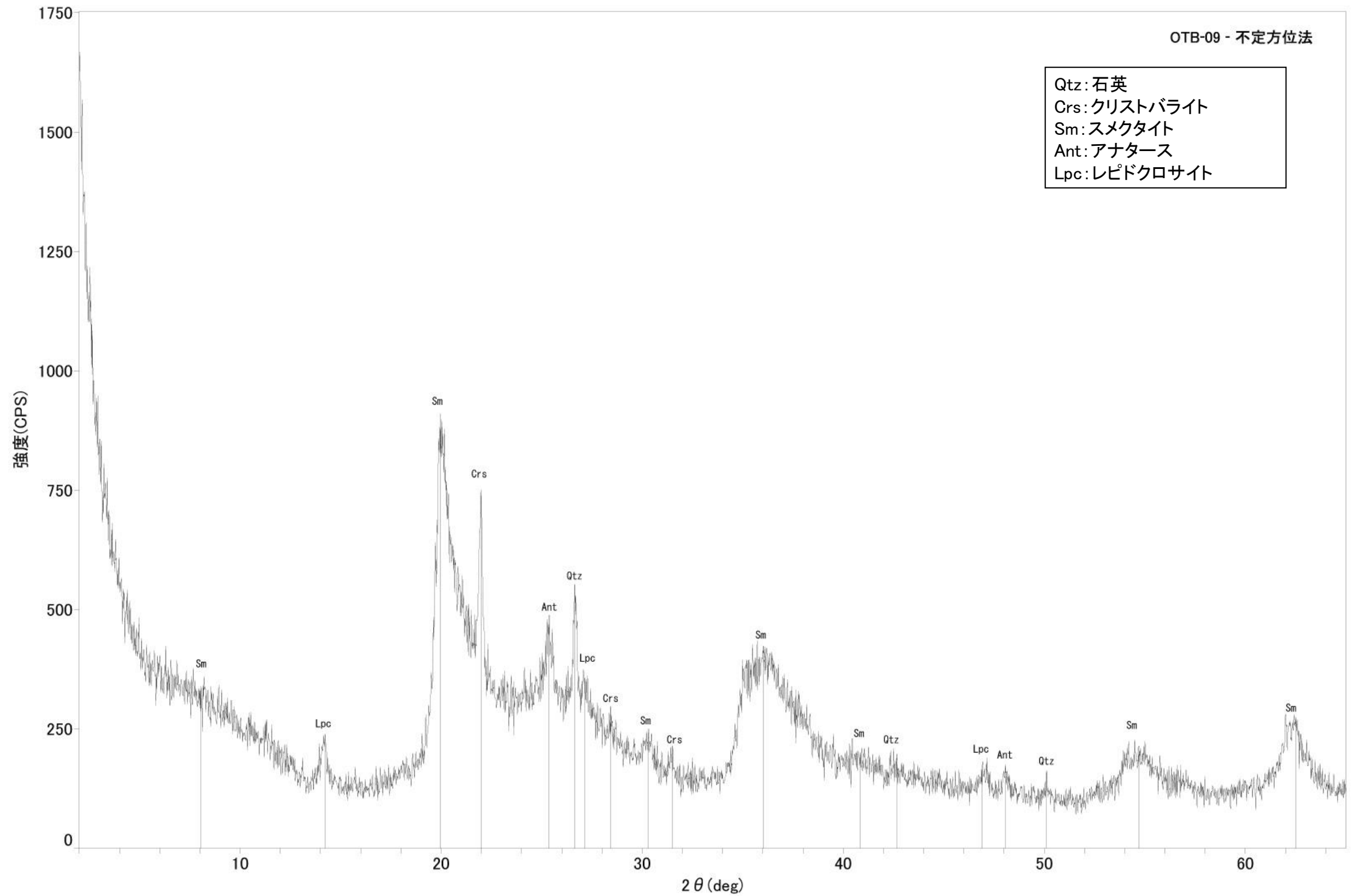


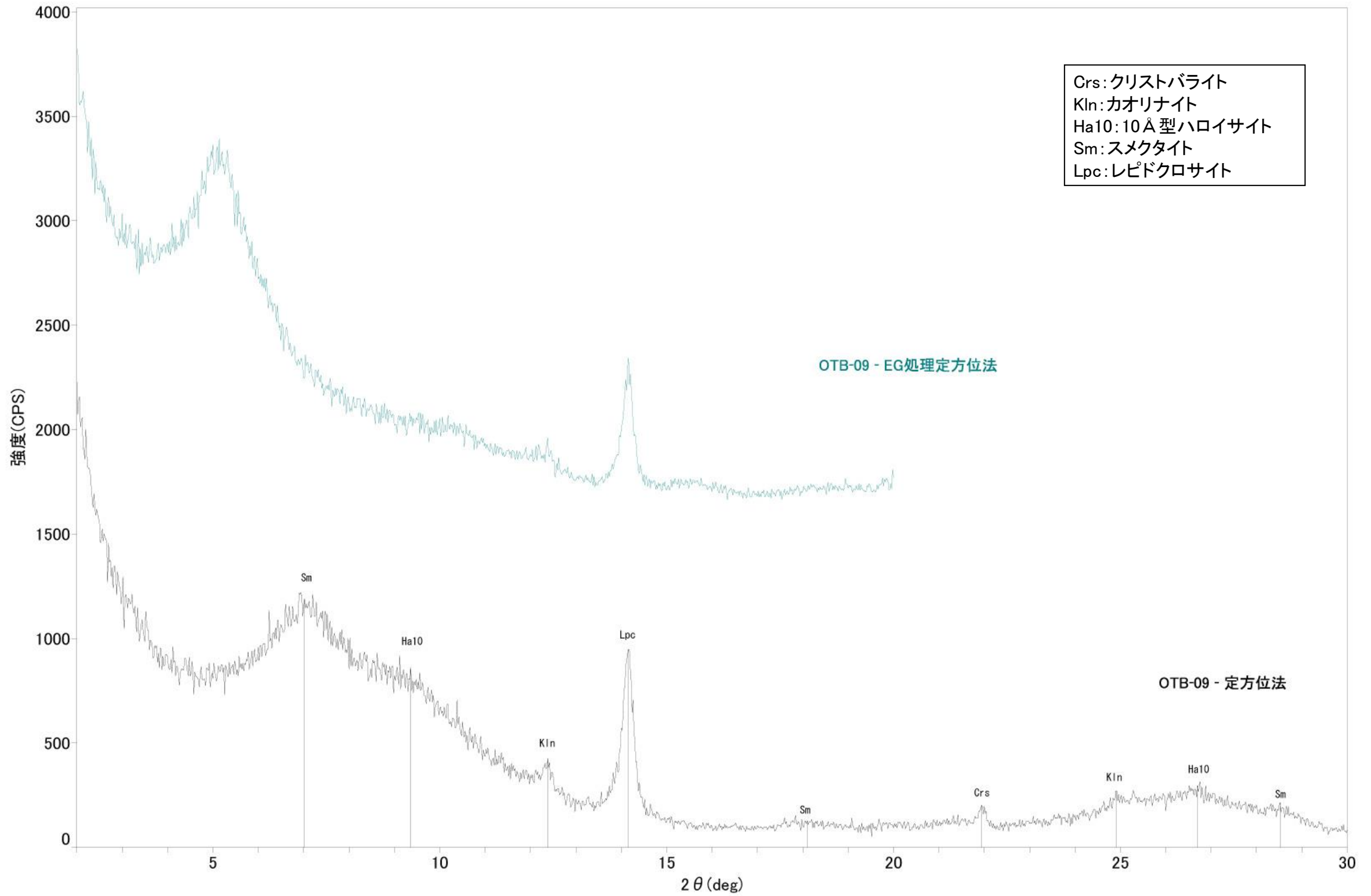




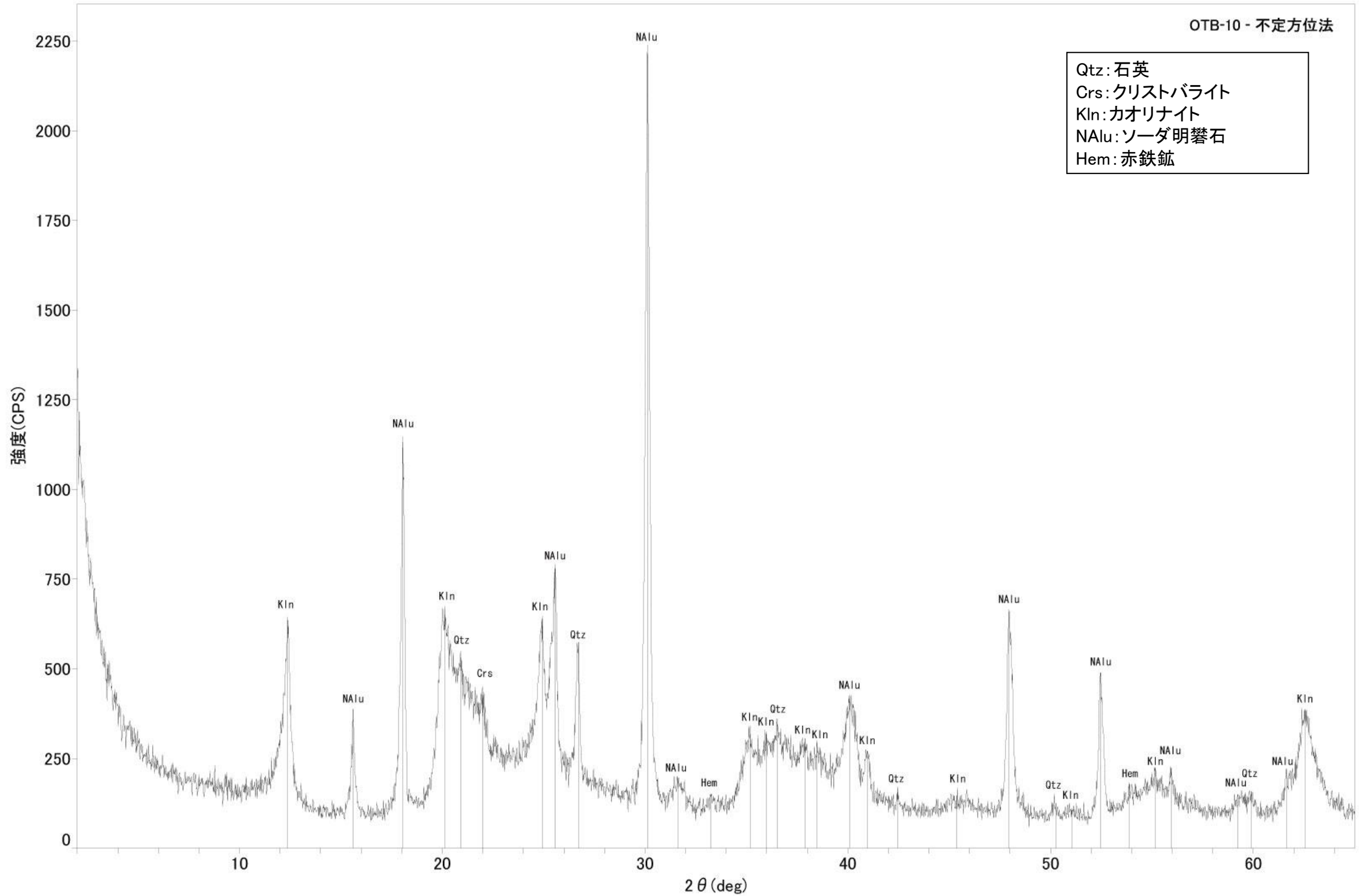


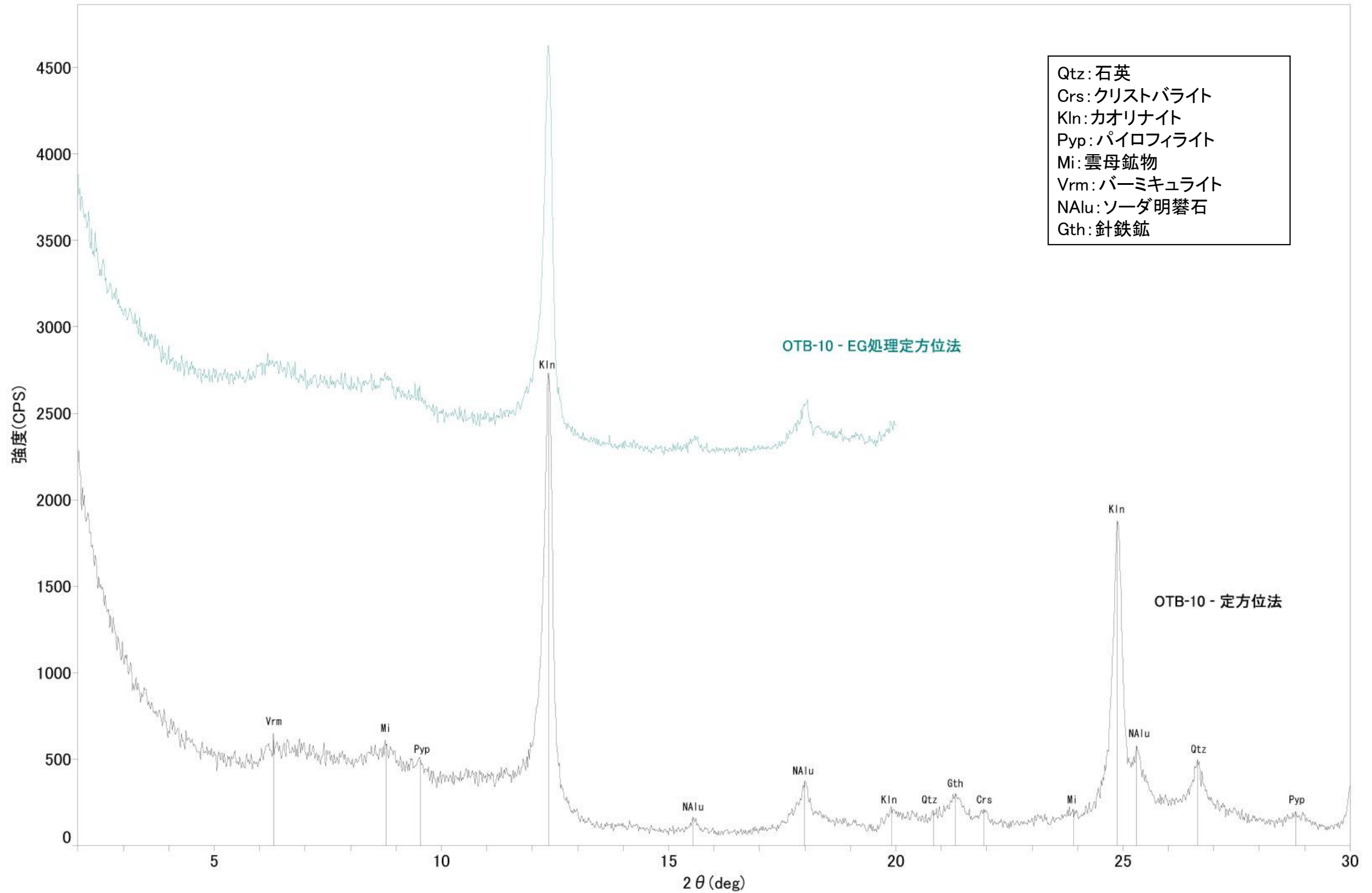




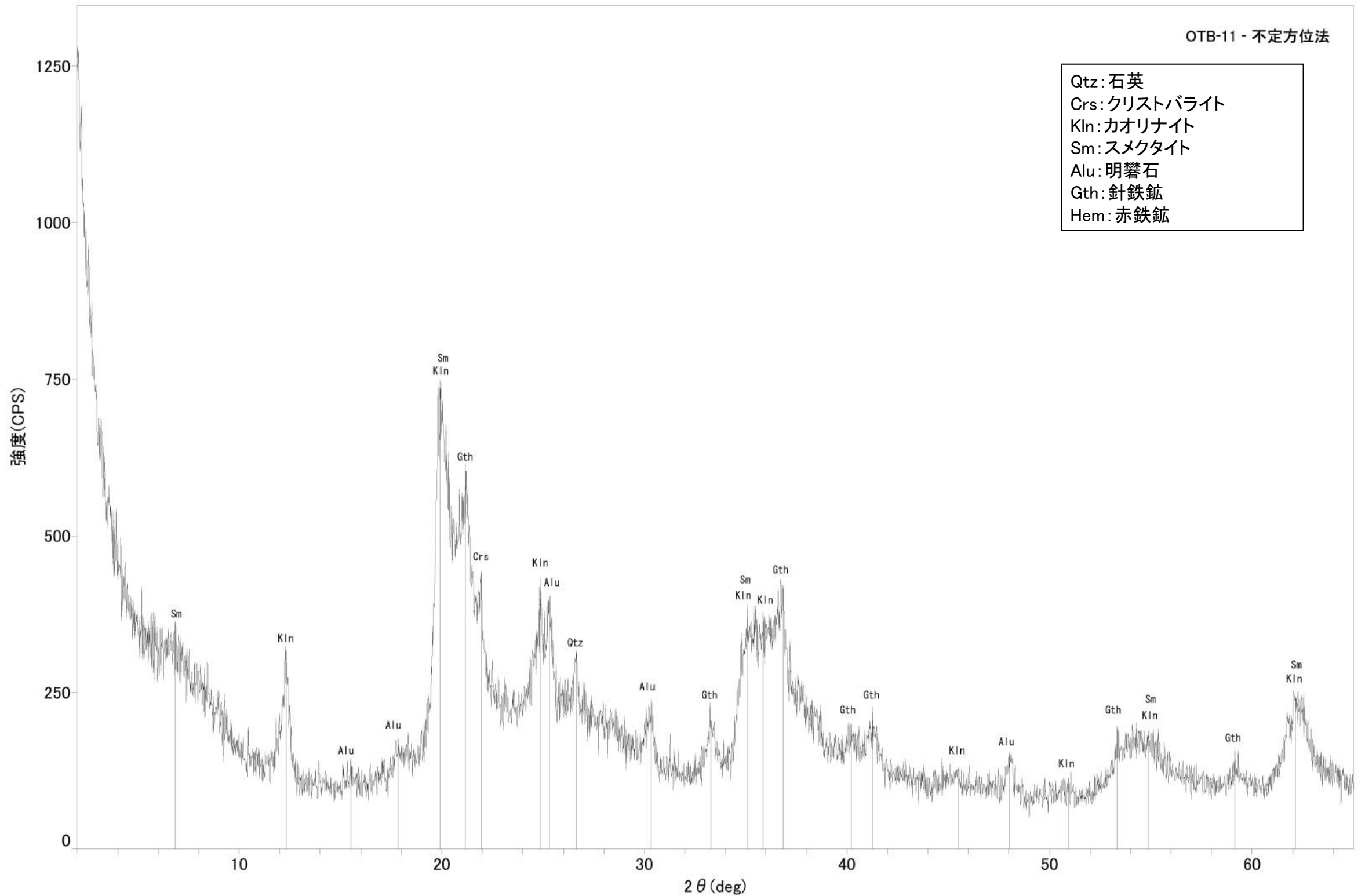


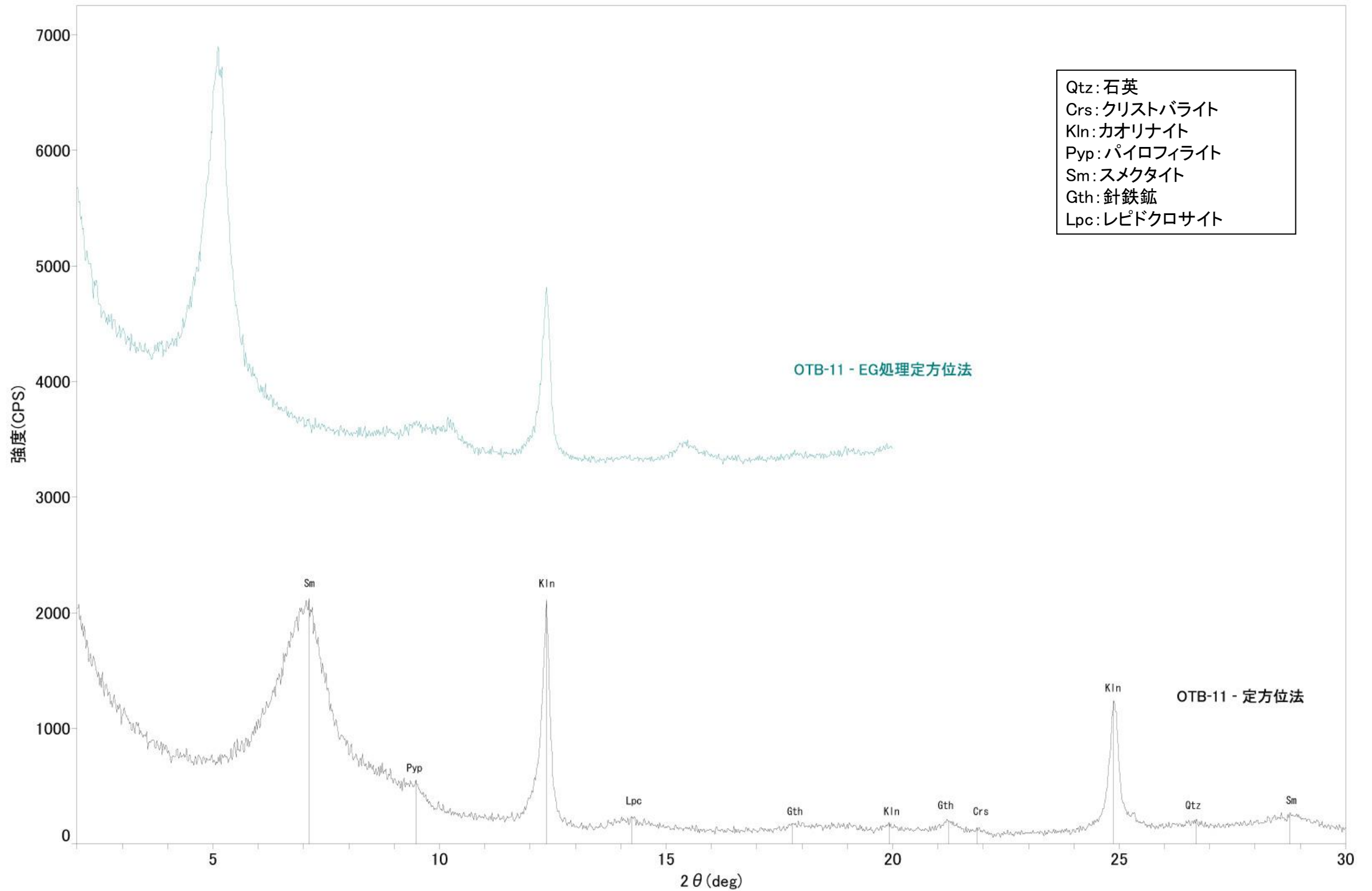




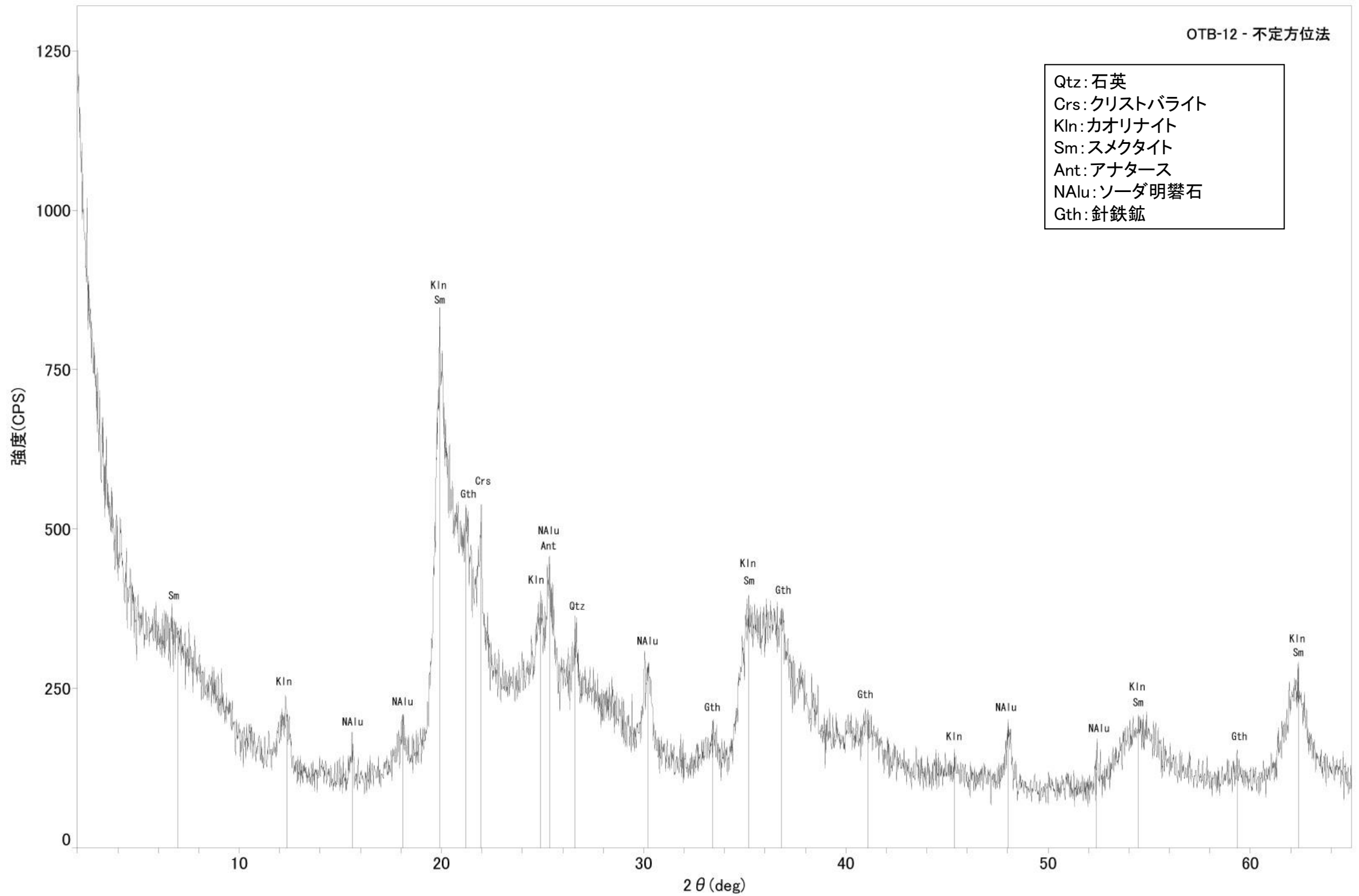


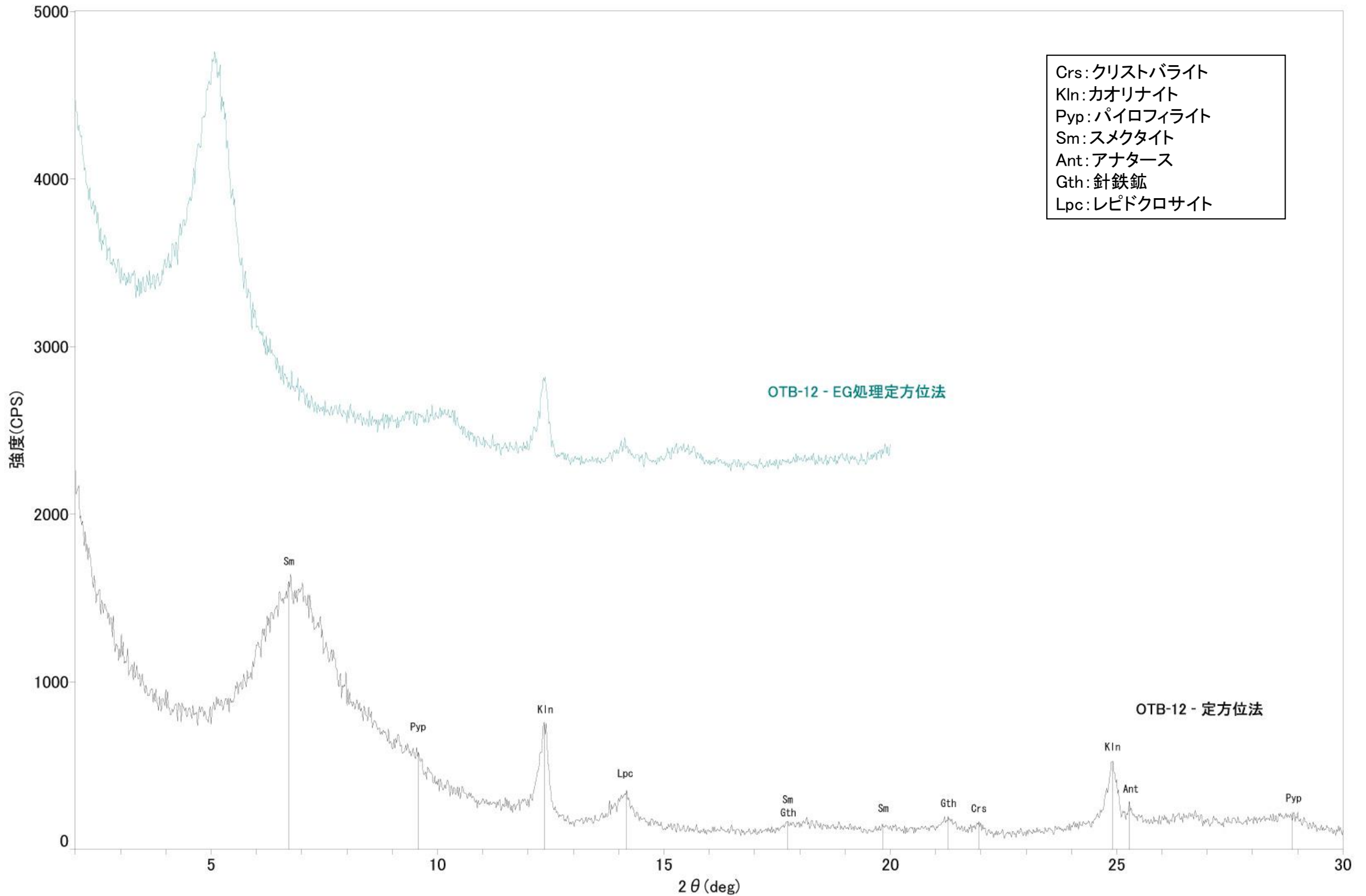






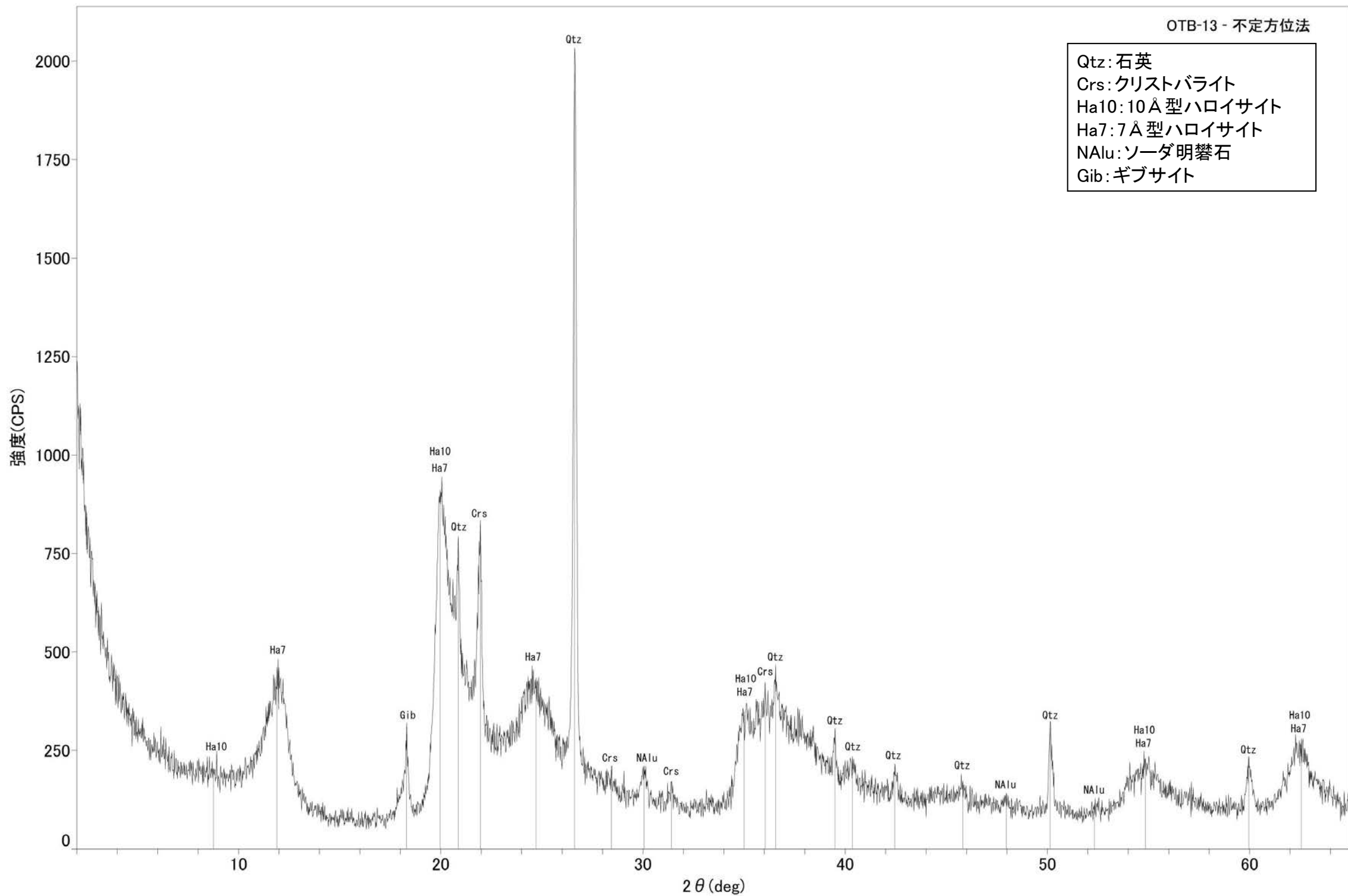




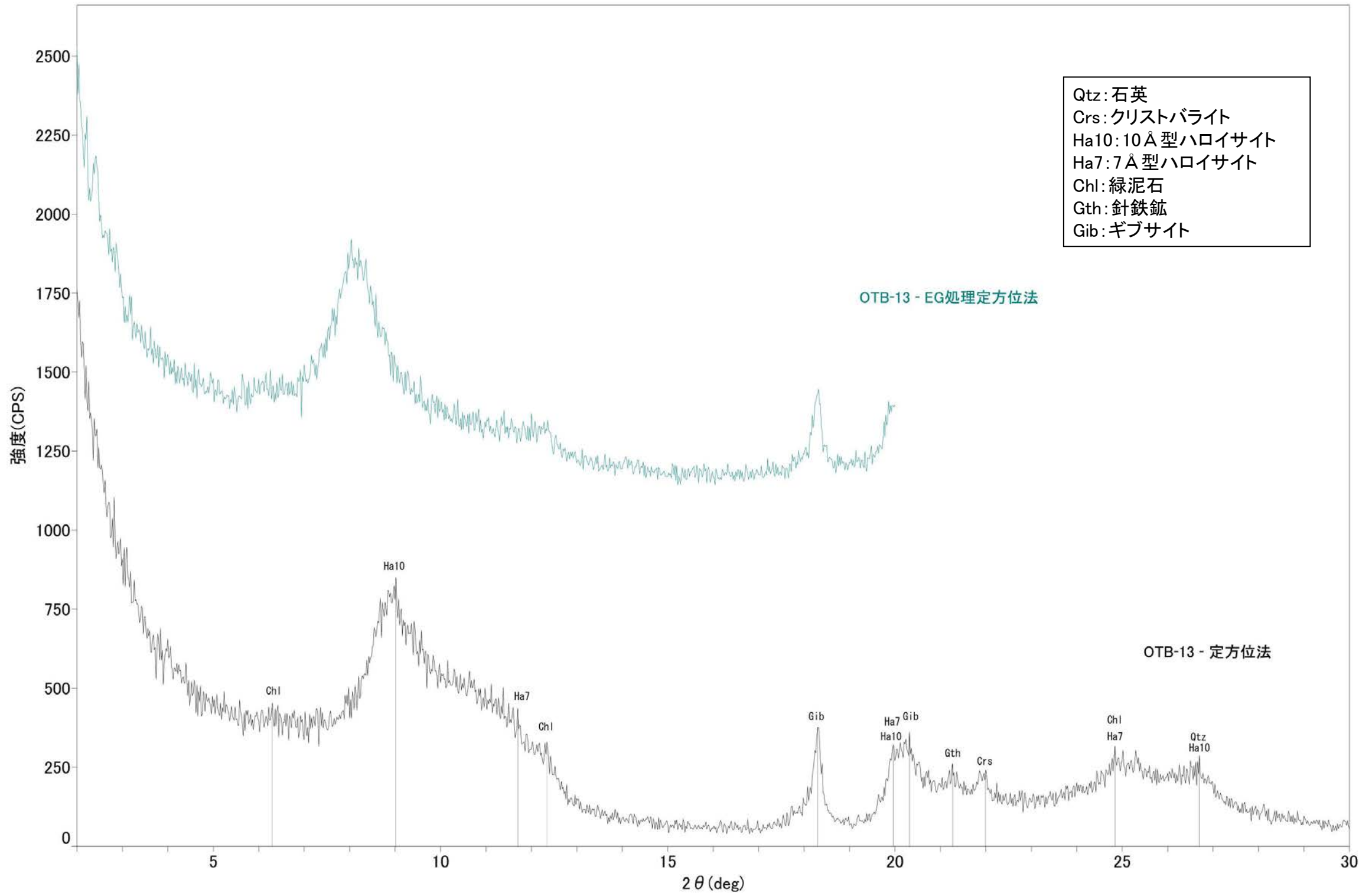




# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-13 -X線回折チャート 不定方位-

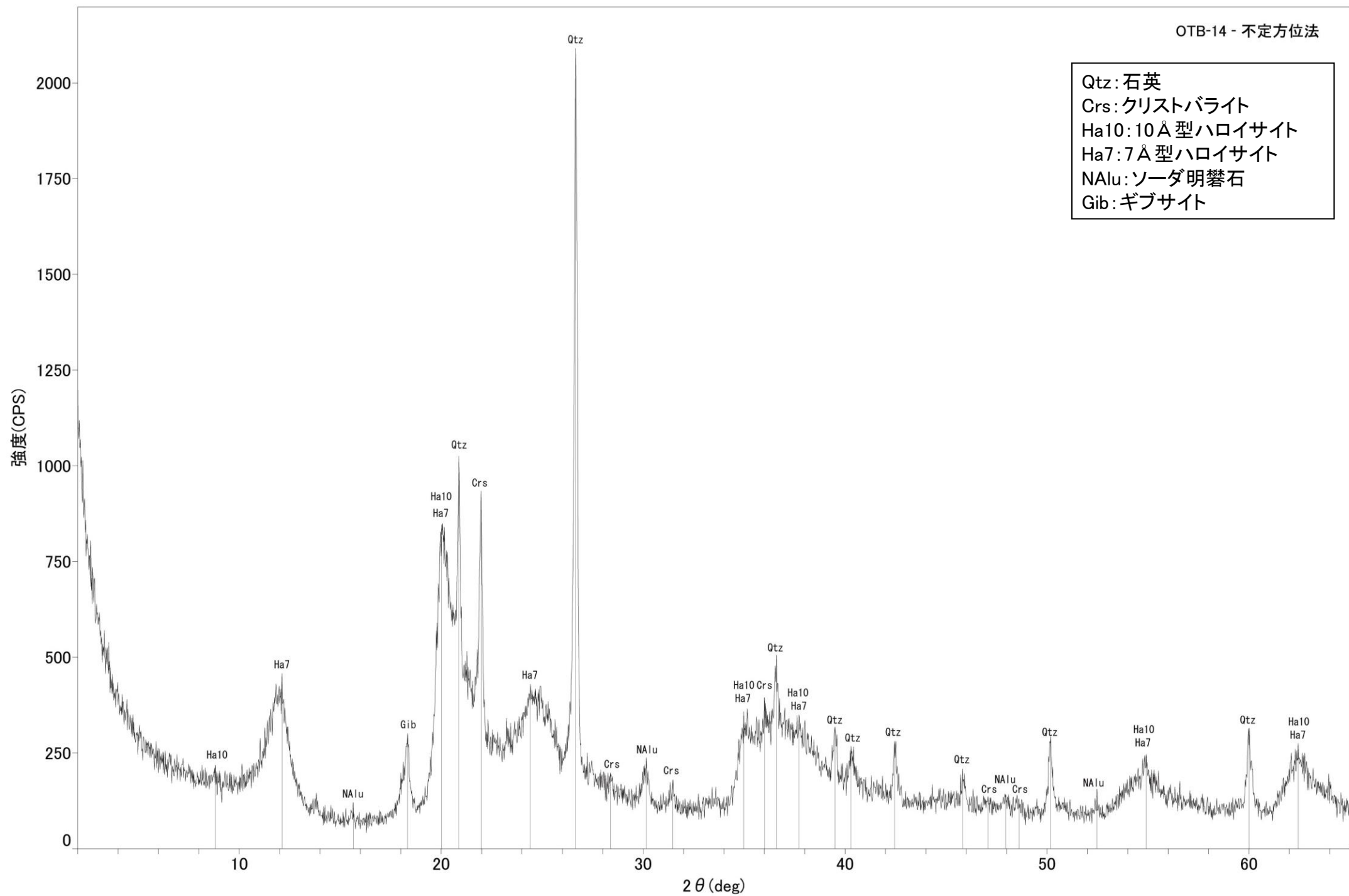


# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-13 -X線回折チャート 定方位-

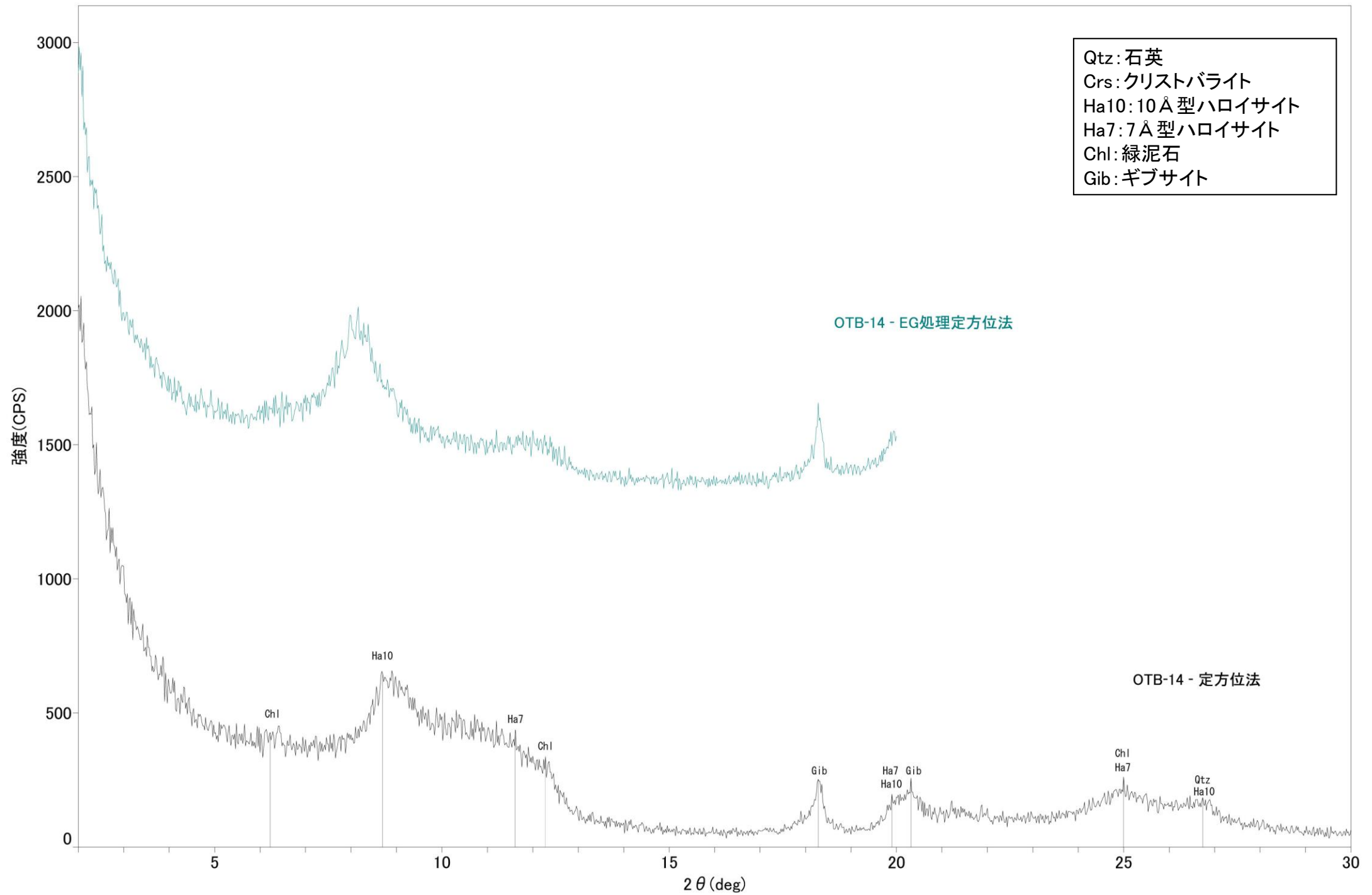




# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-14 -X線回折チャート 不定方位-

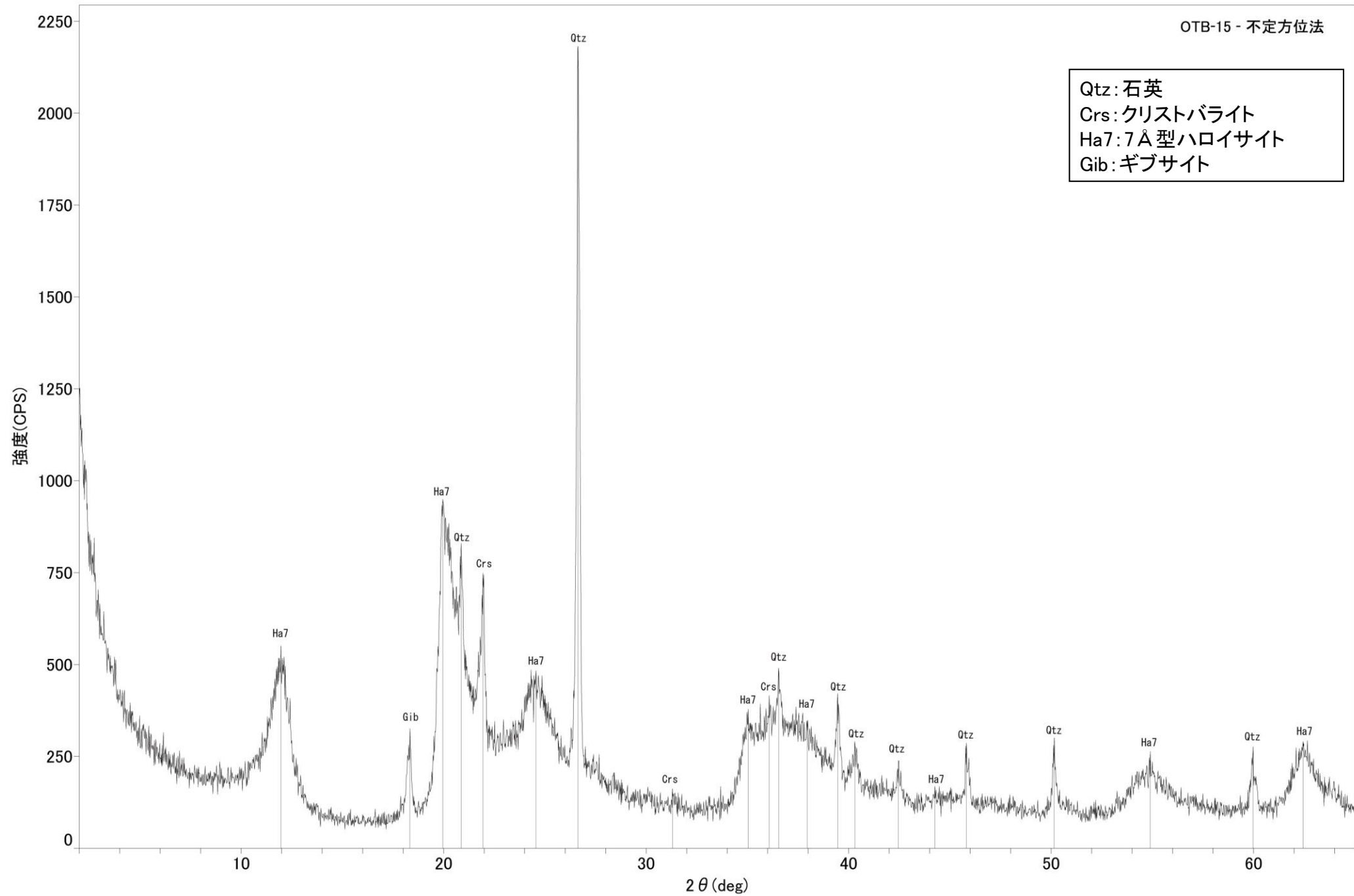


# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-14 -X線回折チャート 定方位-

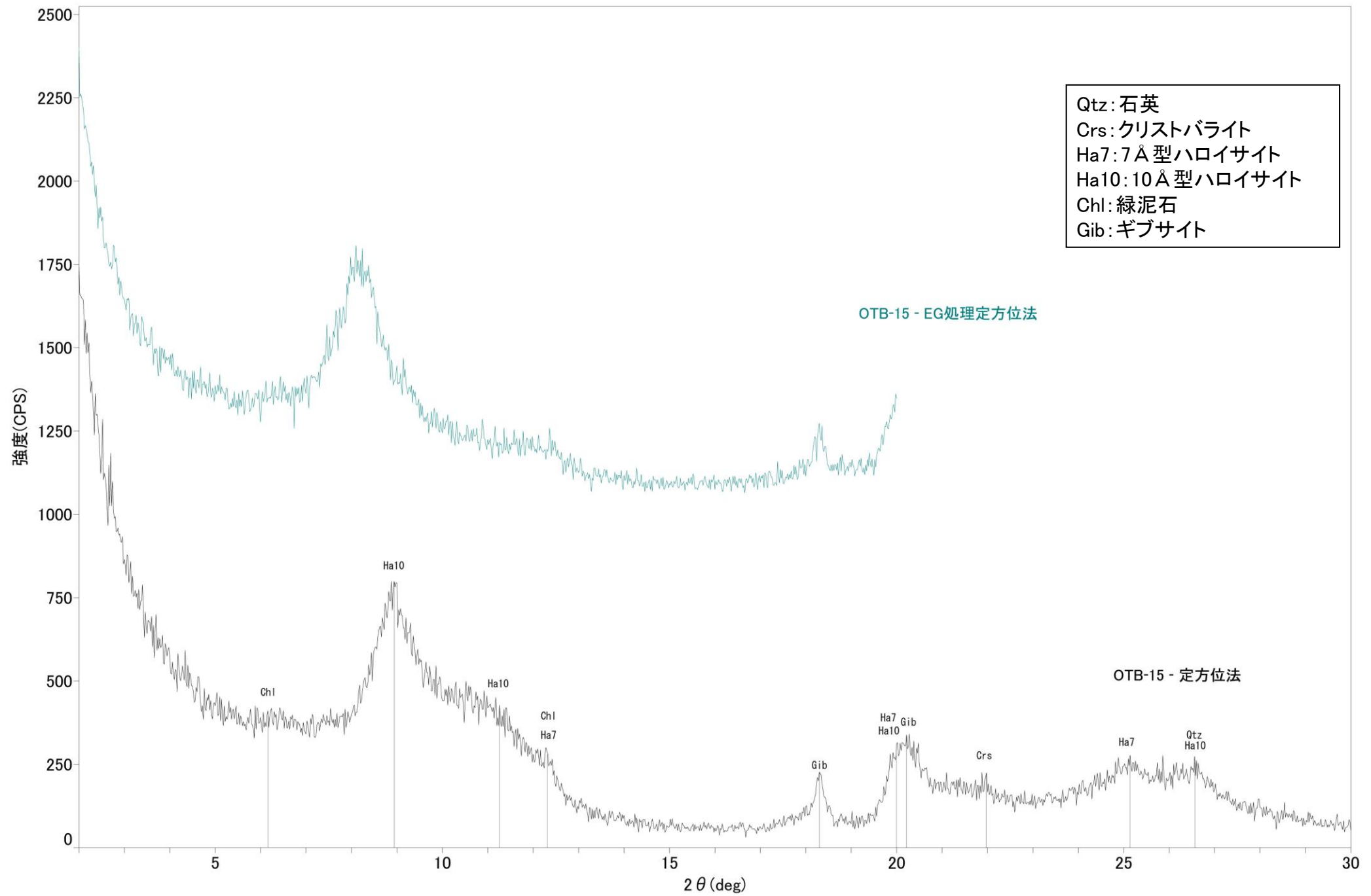




# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-15 -X線回折チャート 不定方位-

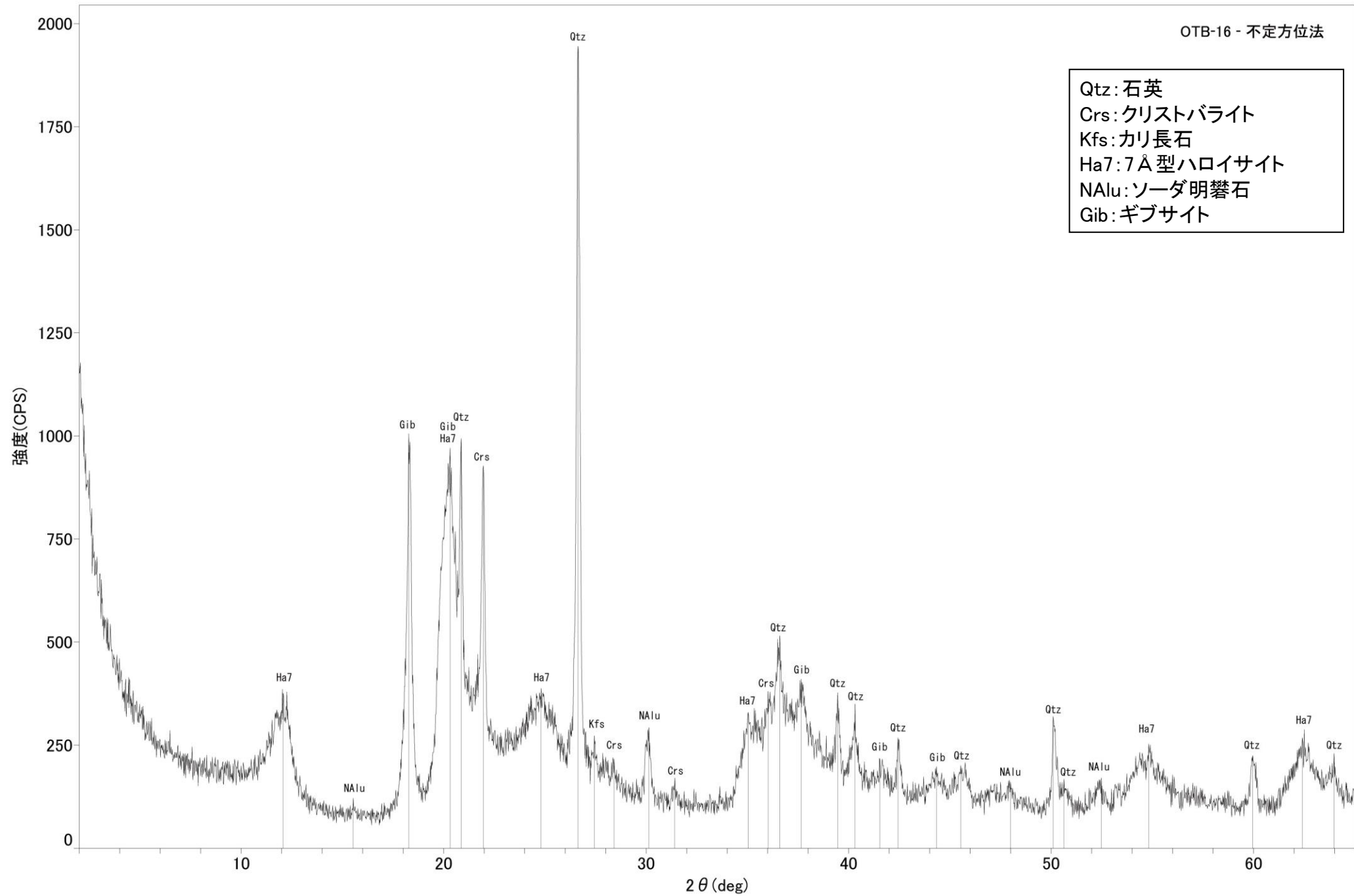


# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-15 -X線回折チャート 定方位-

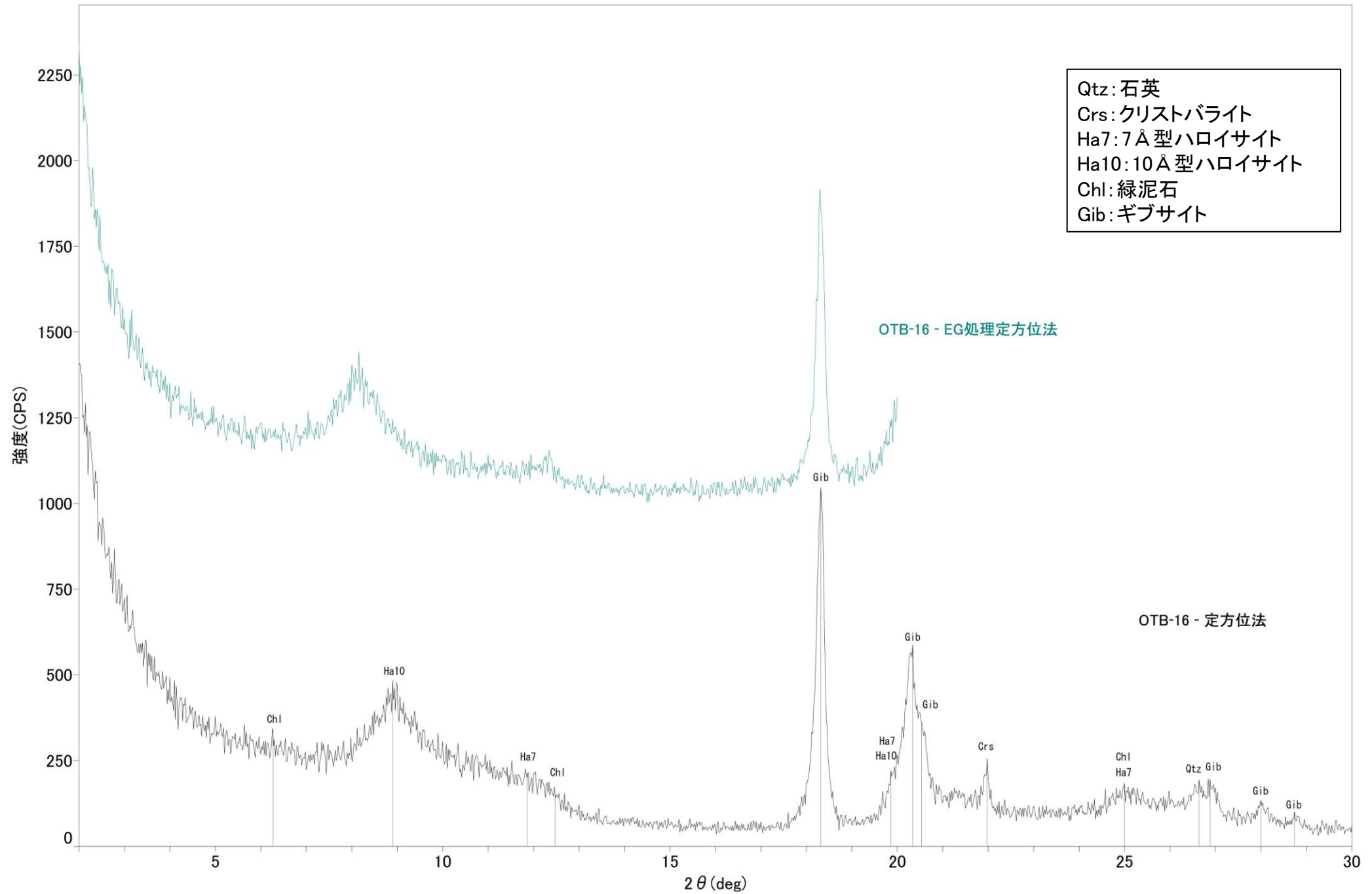




# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-16 -X線回折チャート 不定方位-



# 大坪川ダム右岸トレンチ OTB-16 -X線回折チャート 定方位-





---

余白

---

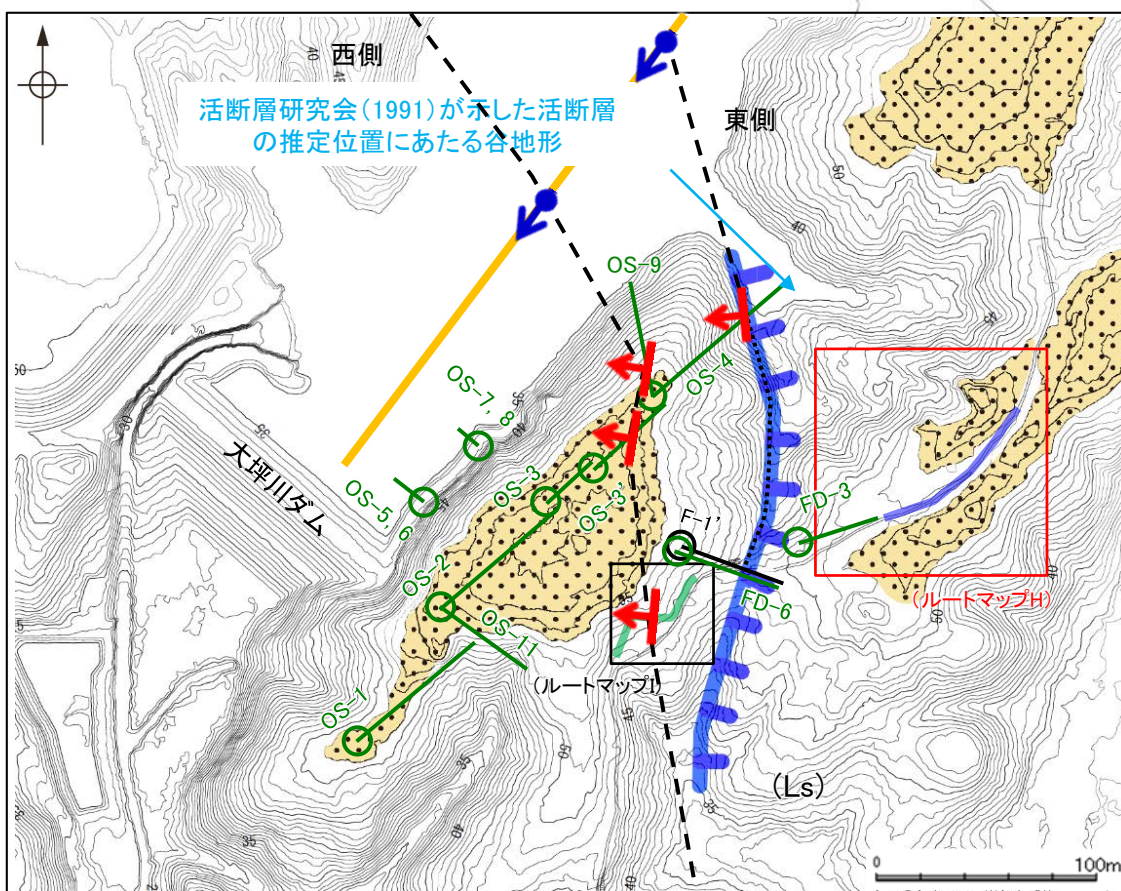
## (5) 大坪川ダム左岸 表土はぎ調査



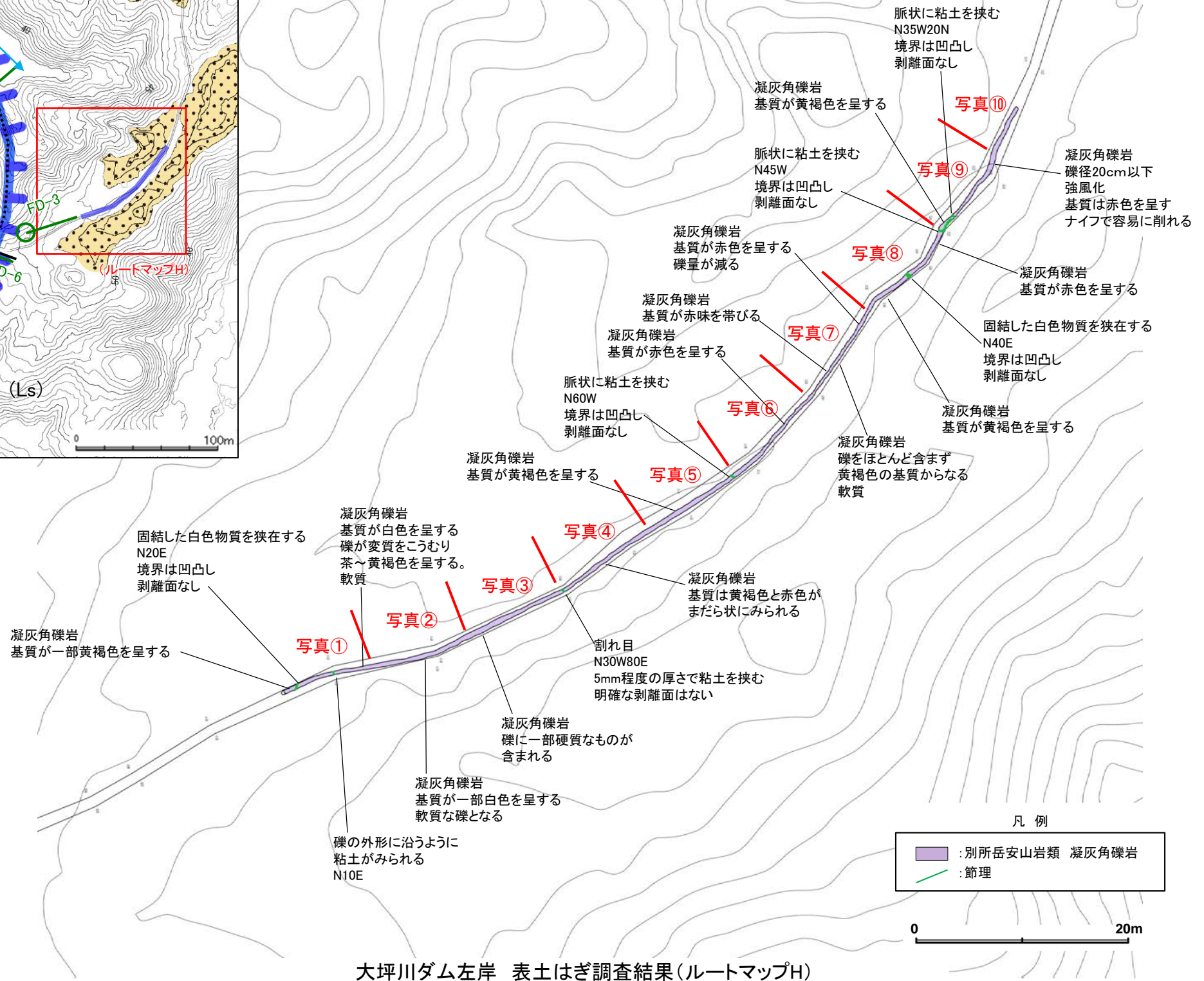
---

## (5)-1 ルートマップH

# 大坪川ダム左岸 表土はぎ調査 ルートマップH 写真位置図



位置図



大坪川ダム左岸 表土はぎ調査結果(ルートマップH)

- ・ルートマップHにおける表土はぎ調査の結果、福浦断層に対応する断層は認められない。
- ・また、活断層研究会(1991)が示した活断層の推定位置にあたる谷地形の延長位置にも断層は認められない。



←SW

NE→



写真①



写真②



写真③



写真④



←SW

NE→



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧



←SW

NE→



写真⑨



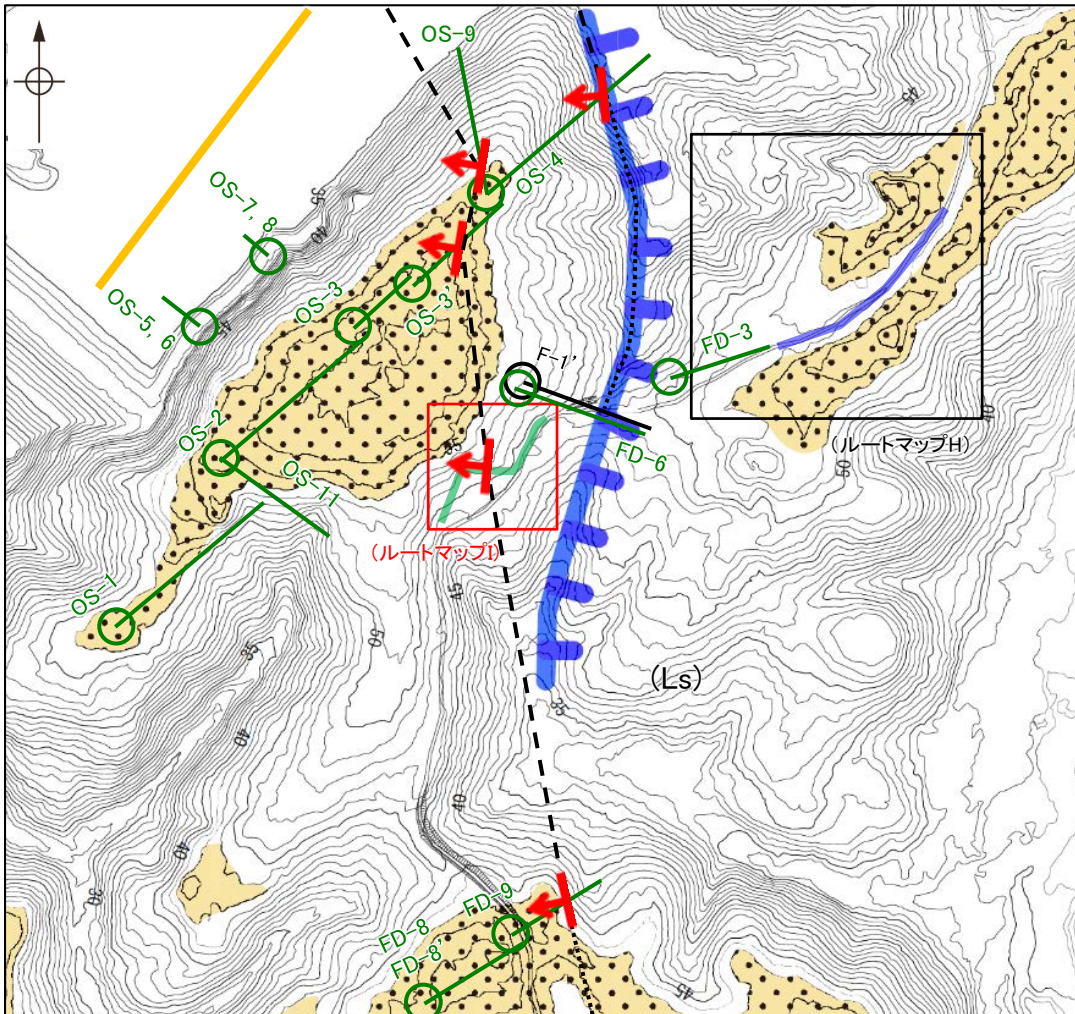
写真⑩

---

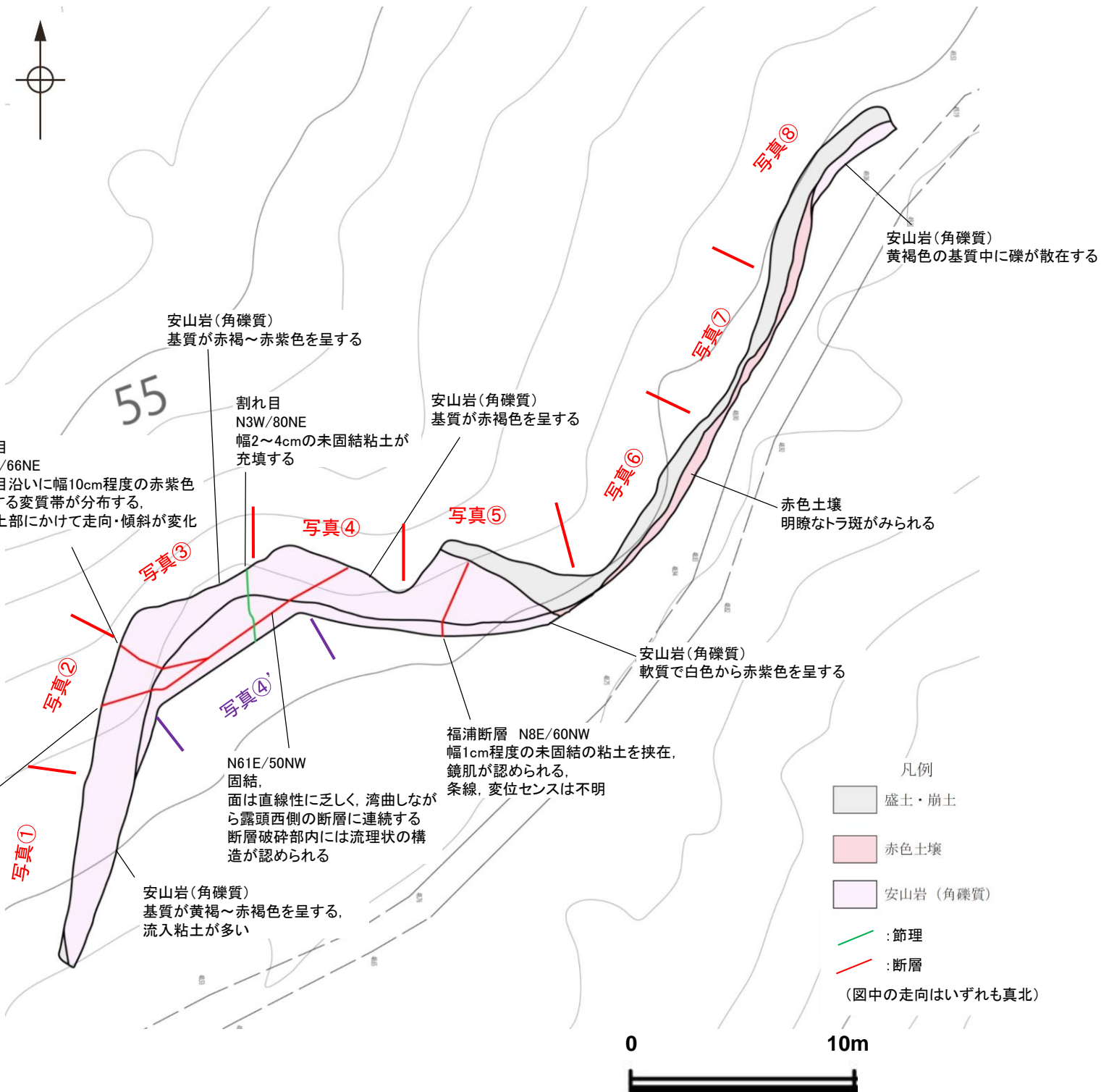
## (5)-2 ルートマップI



紫字: 第1064回審査会合以降の追加箇所



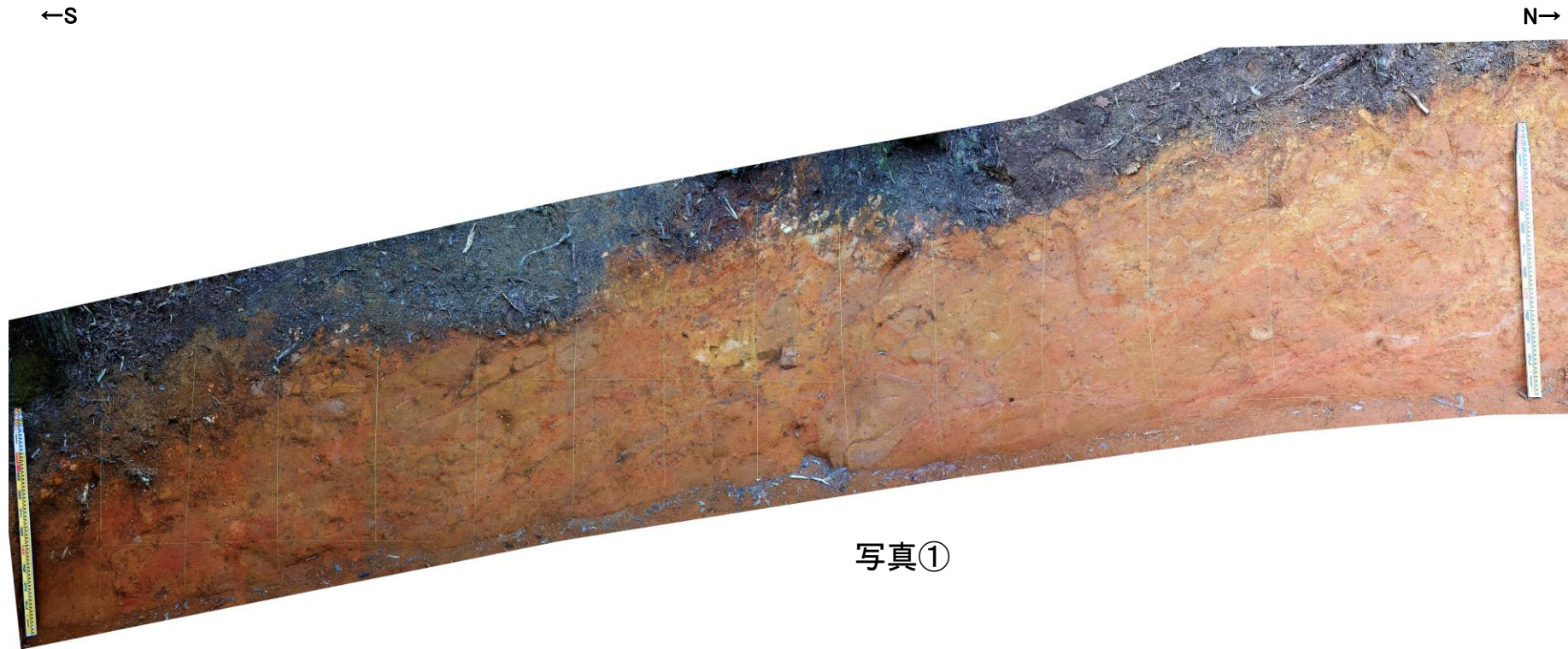
福浦断層南端付近 調査位置図



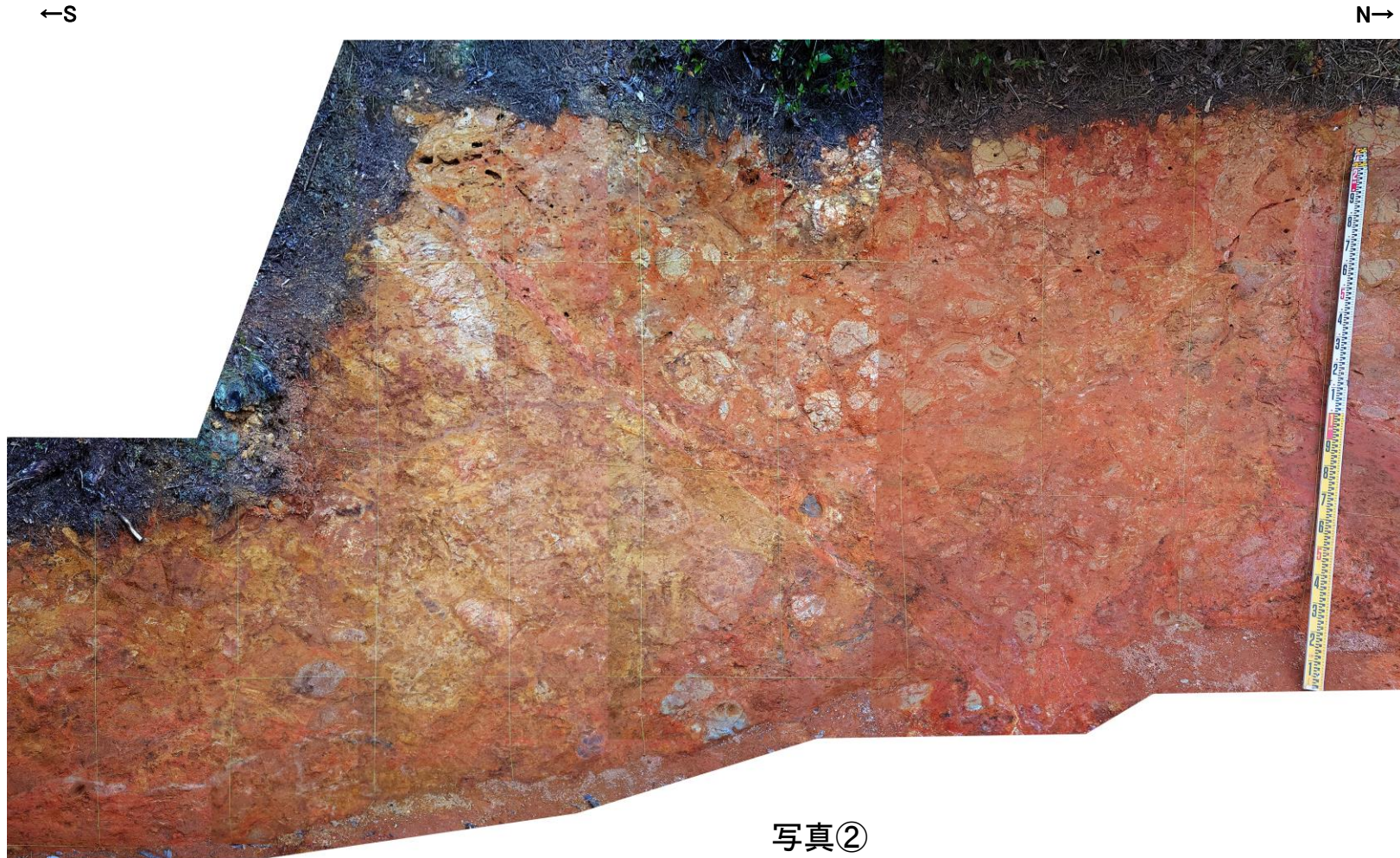
大坪川左岸 表土はぎ調査結果(ルートマップI)

・ルートマップIにおける表土はぎ調査の結果, 福浦断層南部の西側リニアメント・変動地形のほぼ延長位置に, 福浦断層と走向傾斜が調和的な断層が認められた。  
・なお, 福浦断層の西側に分布する断層は固結しており, 福浦断層と走向・傾斜が異なる。また, 隣接孔(FD-6孔)に対応する破碎部は認められない。



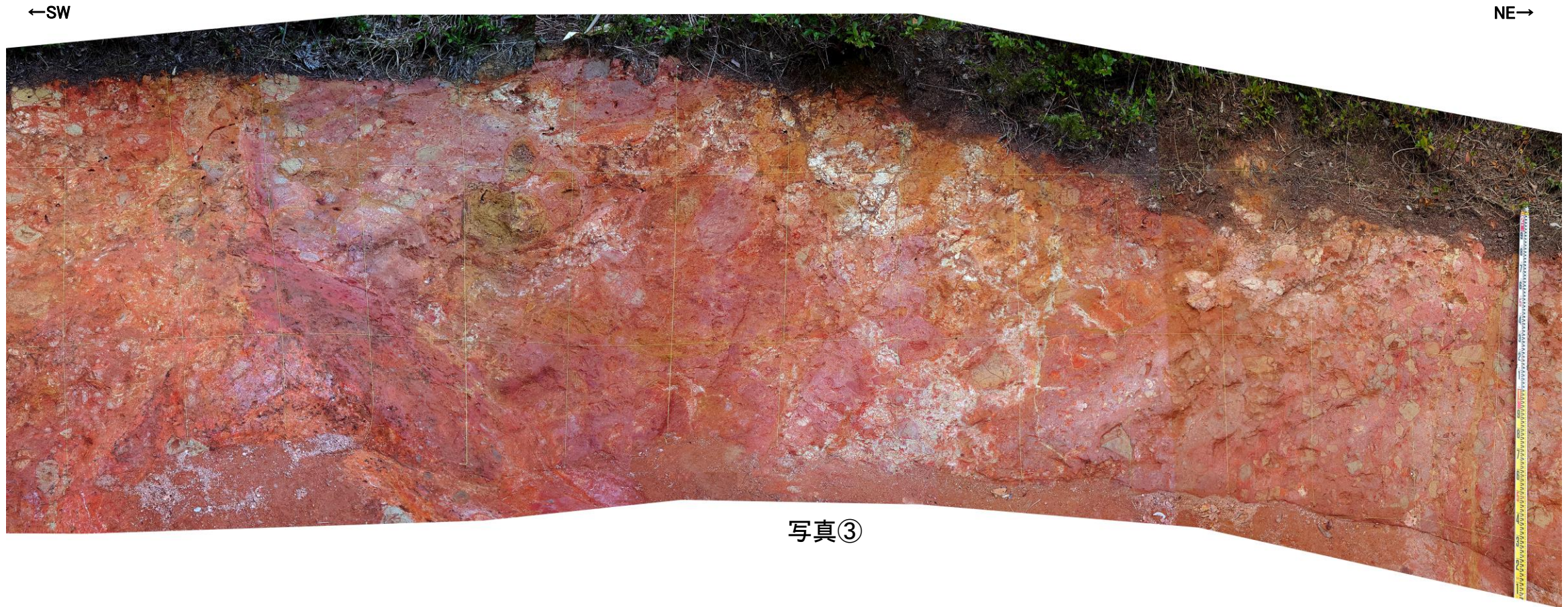


写真①

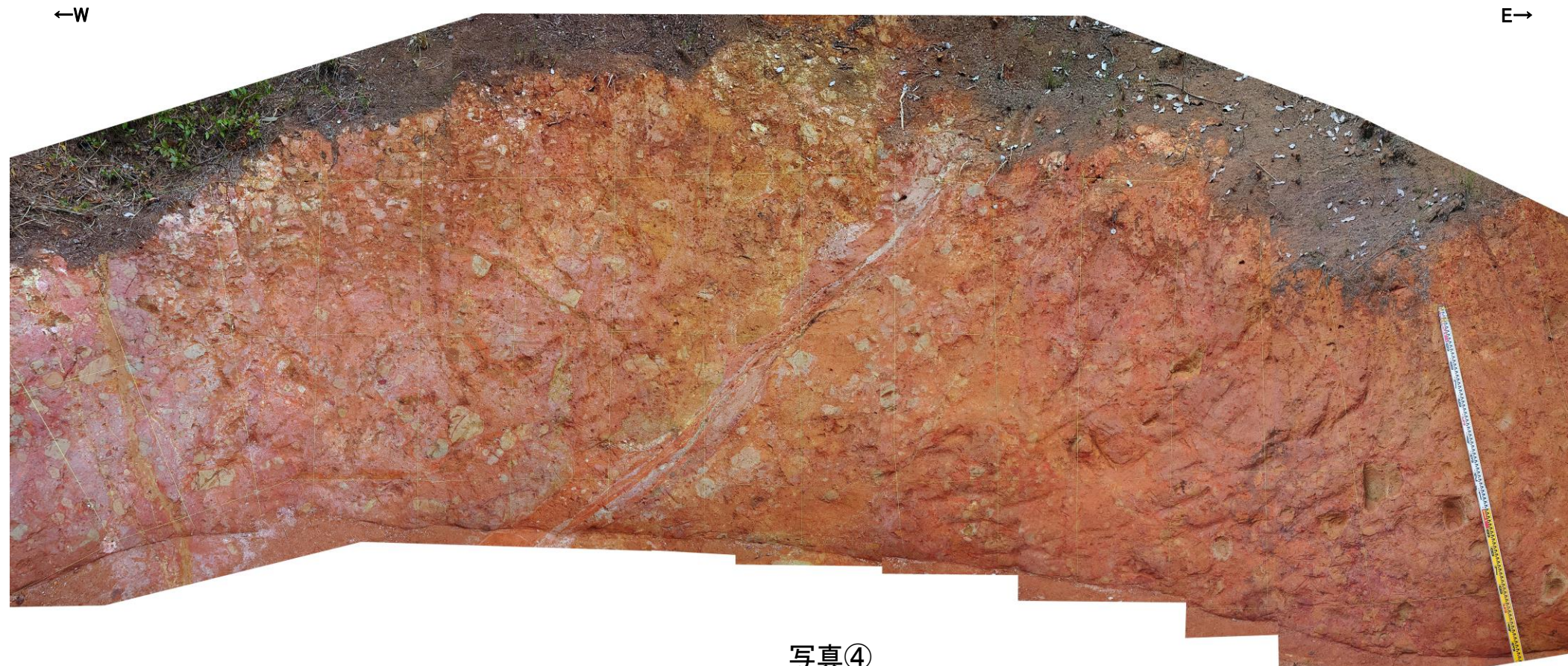


写真②





写真③



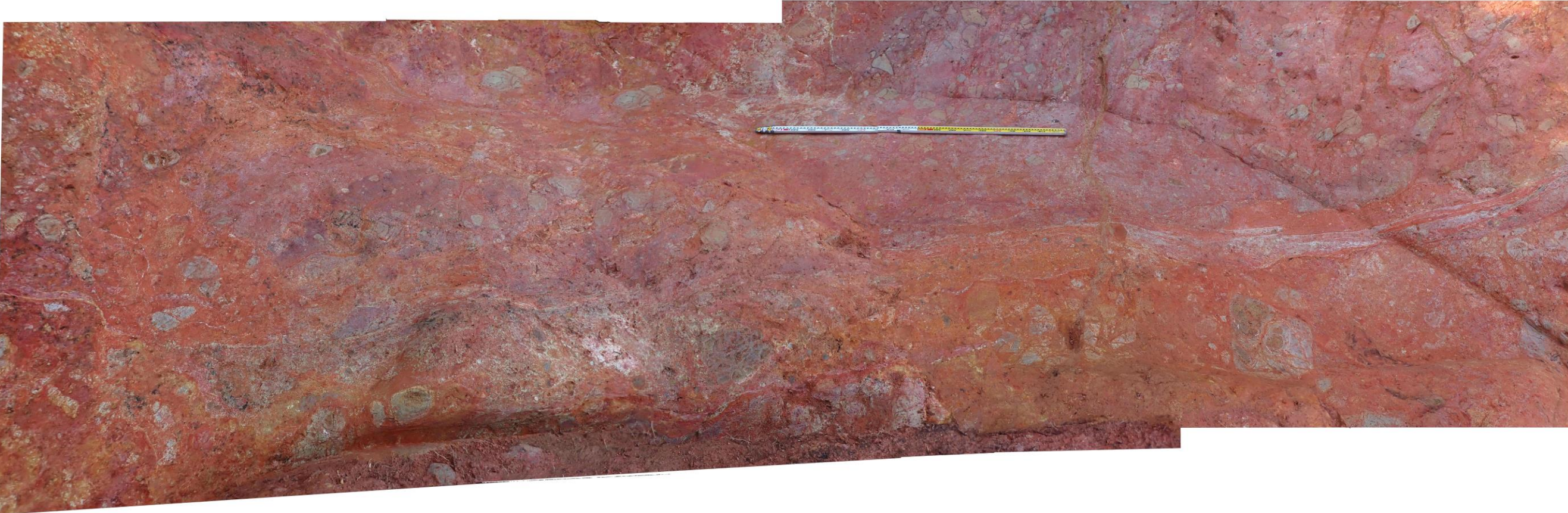
写真④



# 大坪川ダム左岸 表土はぎ調査 ルートマップI 写真④'

←SW

NE→



写真④'





写真⑤



写真⑥



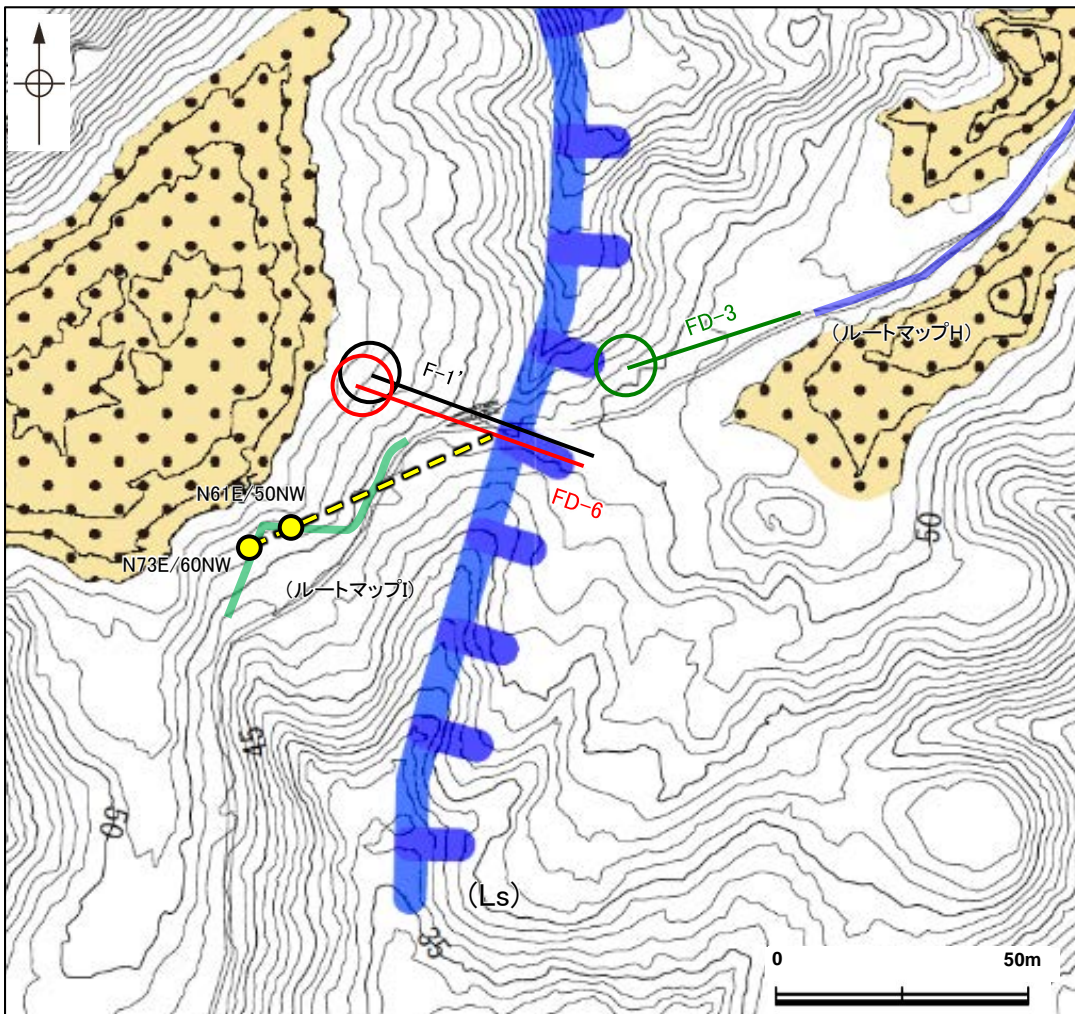


写真⑦

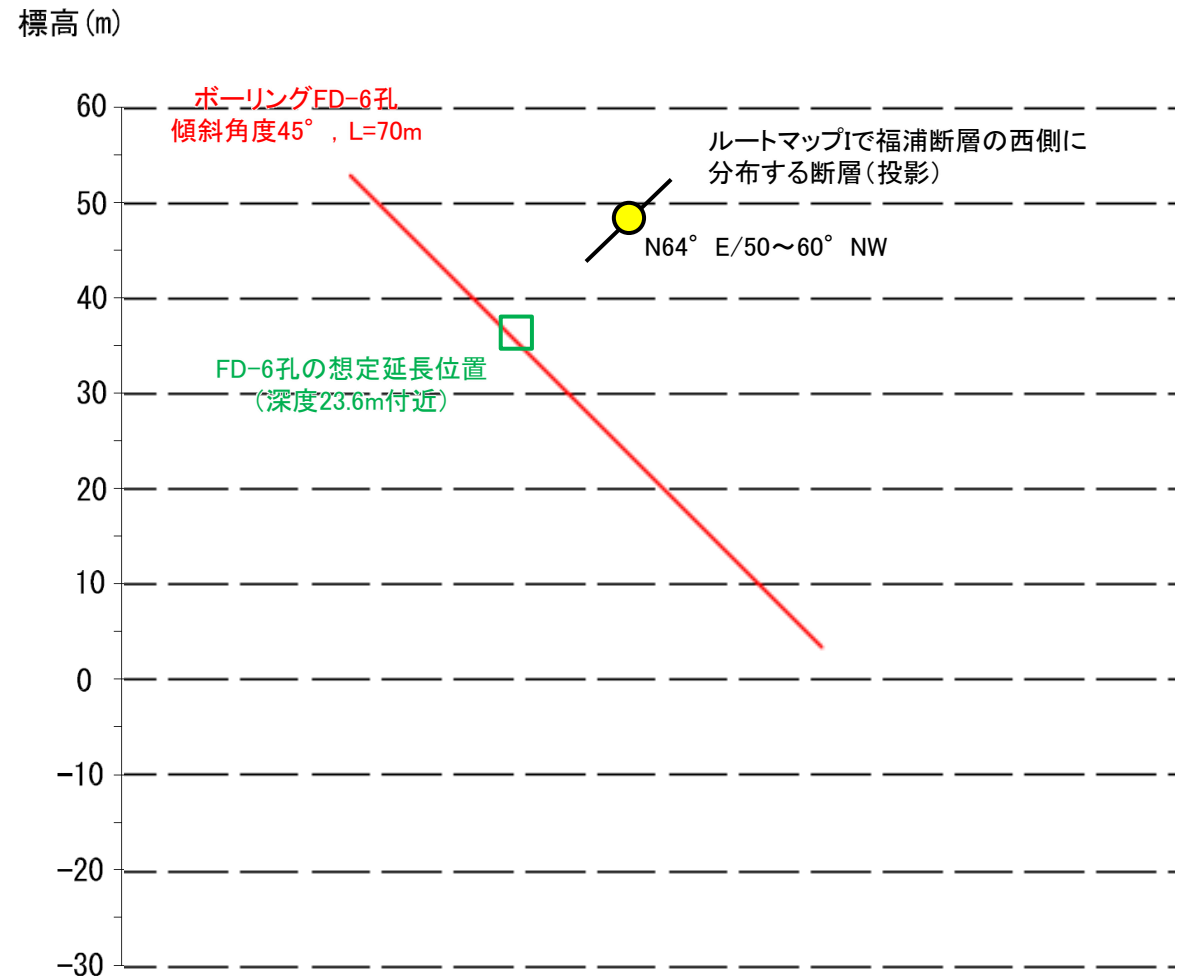


写真⑧





ルートマップI付近 調査位置図



断面図

隣接孔(FD-6孔)の想定延長位置(23.6m付近)に対応する破碎部が認められない。

---

余白



---

## (6) 福浦断層以外の破砕部の連続性確認

# 福浦断層以外の破砕部の連続性確認

○大坪川ダム左岸付近の福浦断層南部の分布を把握するためのボーリング調査において、福浦断層に対応しないと評価した破砕部の検討結果について、以下に示す。

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破砕部のうち、未固結な破砕部を伴うものについても、連続性の検討を行った。

## 【福浦断層以外の破砕部性状一覧①】

OS-1							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
1	11.94~11.96	EL 43.25~43.23	測定区間外	2.0	—	—	性状が福浦断層と異なる。
2	17.19~17.20	EL 39.53~39.53	N74W/20NE	1.9	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
3	33.61~33.63	EL 27.92~27.91	N17E/61NW	2.1	0.1	—	隣接孔(OS-2孔 0.0~19.9m)に連続しない。
4	41.93~41.95	EL 22.04~22.03	N49W/9SW	1.9	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
5	42.04~42.06	EL 21.96~21.95	N1W/21SW	3.6	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
6	42.32~42.39	EL 21.77~21.72	N8W/13SW	7.3	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
7	54.86~54.94	EL 12.90~12.84	N15E/61NW	6.4	—	1.1	隣接孔(OS-2孔 13.8~33.8m)に連続しない。
8	74.38~74.77	EL -0.90~-1.18	N71E/83SE	21	—	19	走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔 15.4~38.1m)に連続しない。
9	86.59~86.65	EL -9.54~-9.58	N18E/60NW	3.5	1.4	—	隣接孔(OS-2孔 46.0~66.4m)に連続しない。
10	87.88~87.92	EL -10.45~-10.48	N50W/80SW	3.0	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
11	92.36~92.40	EL -13.62~-13.65	N1E/86NW	2.6	1.4	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(OS-2孔 11.2~33.6m)に連続しない。
12	92.71~92.74	EL -13.87~-13.89	N4W/85SW	2.5	1.6	—	隣接孔(OS-2孔 9.3~32.3m)に連続しない。

OS-2							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
13	24.91~24.94	EL 38.30~38.27	N35E/30NW	1.8	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
14	37.95~39.54	EL 29.08~27.95	N89E/74NW	68	—	3.2 2.8	走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔 32.5~32.8m)に連続しない。
15	80.71~80.77	EL -1.17~-1.21	N26W/40SW	6.4	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
16	91.84~91.90	EL -9.03~-9.07	N6W/40SW	5.4	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
17	97.63~97.66	EL -13.12~-13.15	N23W/35SW	3.6	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。

OS-3							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
18	35.64~35.68	EL31.98~31.95	N21W/71SW	3.4	—	—	性状が福浦断層と異なり, 隣接孔(OS-3' 孔 3.3~11.2m)に連続しない。

OS-3'							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
19	29.87~30.13	EL36.05~35.86	N64W/83NE	15	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
20	42.80~42.82	EL26.91~26.89	N9E/76NW	1.6	—	—	性状が福浦断層と異なり, 隣接孔(OS-4孔 0.5~11.0m)に連続しない。

OS-4							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
21	18.39~18.44	EL 42.44~42.40	N85E/57SE	4.0	—	4.0	走向・傾斜が福浦断層と異なり, 大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
22	18.70~18.79	EL 42.22~42.15	N73W/78SW	6.2	—	6.2	走向・傾斜が福浦断層と異なり, ルートマップHに連続しない。
23	19.02~19.06	EL 41.99~41.96	N56W/80SW	4.0	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
24	23.06~23.12	EL 39.13~39.09	N84W/13NE	5.8	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
25	38.39~38.42	EL 28.29~28.27	N56E/42SE	2.5	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
26	40.91~40.93	EL 26.51~26.50	N5W/48SW	3.0	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔 31.7~33.4m)に連続しない。
27	43.78~43.79	EL 24.48~24.48	N42W/89SW	1.2	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
28	44.40~44.41	EL 24.04~24.04	N36W/81NE	1.2	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
29	44.64~44.73	EL 23.87~23.81	N27W/80NE	7.4	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
30	45.02~45.05	EL 23.61~23.58	N85W/17SW	2.2	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。
31	45.57~45.92	EL 23.22~22.97	N85E/80NW	14	1.8	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり, 大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
32	46.89~47.10	EL 22.28~22.14	N13E/85SE	9.3	—	—	走向・傾斜, 性状が福浦断層と異なる。



## 【福浦断層以外の破碎部性状一覧②】

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破碎部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破碎部のうち、未固結な破碎部を伴うものについても、連続性の検討を行った。

OS-4							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
33	47.18~47.23	EL 22.08~22.04	N28E/66NW	3.2	—	—	性状が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-11孔 64.7~70.0m)に連続しない。
34	47.71~48.16	EL 21.70~21.39	N58W/81NE	26	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
35	48.44~48.46	EL 21.19~21.17	N71W/16SW	1.2	1.2	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-2孔 63.7~100.0m)に連続しない。
36	48.82~48.88	EL 20.92~20.88	N49E/21NW	6.6	—	6.6	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-3'孔 34.1~57.9m)に連続しない。
37	49.41~49.48	EL 20.50~20.45	N60W/36SW	7.0	7.0	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。
38	49.67~49.71	EL 20.32~20.29	N60W/85NE	4.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
39	50.28~50.90	EL 19.89~19.45	N76W/77NE	33	3.4	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。
40	52.21~52.25	EL 18.52~18.49	N33E/64SE	1.2	—	1.2	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-11孔 57.9~65.9m)に連続しない。
41	58.64~58.79	EL 13.98~13.87	N11E/17NW	16	—	16	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。
42	60.89~61.12	EL 12.38~12.22	N36E/56NW	17	—	17	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-11孔 50.6~53.5m)に連続しない。
43	62.57~62.67	EL 11.20~11.13	N24W/73SW	10	—	—	性状が福浦断層と異なり、隣接孔(FD-3孔 16.3~25.8m)に連続しない。
44	62.84~62.87	EL 11.01~10.98	N78W/42SW	2.6	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
45	63.16~63.22	EL 10.78~10.74	N30W/87NE	3.8	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
46	63.35~63.38	EL 10.64~10.62	N51E/49NW	3.4	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
47	63.75~63.82	EL 10.36~10.31	N22W/40SW	4.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
48	65.15~65.18	EL 9.37~9.35	N56E/37NW	2.2	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
49	65.55~66.09	EL 9.09~8.71	N11W/85NE	30	0.4 10	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(F-1'孔 67.8~70.3m)に連続しない。
50	66.31~66.35	EL 8.55~8.52	N32W/84NE	4.0	4.0	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(FD-3孔 35.4~41.3m)に連続しない。
51	78.67~78.70	EL -0.19~-0.21	N86E/84NW	2.7	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
52	84.39~85.05	EL -4.23~-4.70	N76E/69SE	44	—	2.6 9.0	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
53	85.17~85.35	EL -4.78~-4.83	N62E/77SE	12	—	12	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-5孔 23.1~33.6m, OS-6孔 29.2~37.3m)に連続しない。
54	86.00~86.20	EL -5.37~-5.51	N71E/36SE	15	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
55	86.70~86.79	EL -5.87~-5.93	N84E/76NW	5.2	1.9	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。

OS-4							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
56	89.66~89.70	EL -7.96~-7.99	N65W/86NE	3.5	0.3	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。
57	90.77~91.13	EL -8.74~-9.00	N75E/79NW	6.3	0.8	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
58	91.45~91.47	EL -9.22~-9.24	N10E/49NW	2.4	0.6	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(FD-3孔 0.0~19.5m)に連続しない。
59	91.95~92.83	EL -9.58~-10.20	N48W/77SW	72	1.0	6.9	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。
60	94.45~94.47	EL -11.35~-11.36	N86E/58SE	2.1	0.3	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
61	97.82~97.89	EL -13.73~-13.78	N24W/69NE	2.4	—	2.4	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(FD-3孔 0.0~35.6m)に連続しない。
62	98.52~98.58	EL -14.22~-14.27	N80E/88NW	2.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
63	99.49~99.55	EL -14.91~-14.95	N58E/72SE	5.4	—	5.4	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
64	100.46~100.49	EL -15.60~-15.62	N84W/77SW	3.6	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
65	100.81~100.86	EL -15.84~-15.88	N74E/50SE	5.1	1.4	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
66	106.03~106.08	EL -19.53~-19.57	N58E/77SE	1.4	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。

FD-8							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
67	48.88~48.96	EL 13.74~13.68	N22E/13SE	6.0	2.5	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-4孔 0~68.9m)に連続しない。
68	61.78~61.96	EL 4.61~4.49	N29E/22NW	12	1.5	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップFIに連続しない。

FD-8'							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
破碎部は認められない							

FD-9							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破碎部の幅 (cm)	粘土状破碎部の幅 (cm)	砂状・角礫状破碎部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
69	19.44~19.52	EL 33.37~33.32	N89W/42SW	8.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
70	24.63~24.82	EL 29.70~29.57	N42E/17SE	13	1.0	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHIに連続しない。

### 【福浦断層以外の破砕部性状一覧③】

- ・福浦断層と走向・傾斜が対応する破砕部は □ で示す。
- ・福浦断層と走向・傾斜が対応しない破砕部のうち、未固結な破砕部を伴うものについても、連続性の検討を行った。

OS-11							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
71	13.59~13.63	EL 46.30~46.27	N30W/21SW	4.0	1.2	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-2孔 10.7~12.4m)に連続しない。
72	35.37~35.39	EL 30.90~30.89	N37E/58NW	2.6	0.6	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-3'孔 38.7~40.8m)に連続しない。
73	37.70~37.71	EL 29.25	N5W/72SW	1.1	—	—	性状が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-2孔 35.3~35.9m)に連続しない。
74	40.95~40.96	EL 26.95	N31W/18SW	1.2	1.2	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-2孔 32.5~38.1m)に連続しない。
75	59.77~59.83	EL 13.65~13.60	N75E/77SE	5.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
76	60.77	EL 12.94	N12W/81SW	1.4	—	1.4	隣接孔(OS-2孔 46.1~50.0m)に連続しない。
77	61.44~61.54	EL 12.47~12.39	N64E/78SE	4.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
78	61.80~61.81	EL 12.21~12.20	N80E/74NW	1.4	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
79	65.14~65.55	EL 9.85~9.56	N82E/83SE	31	—	0.5	走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップ1に連続しない。

FD-3							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
破砕部は認められない							

FD-6							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
80	44.92~45.00	EL 21.20~21.14	N11W/19SW	7.5	—	7.5	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(F-1'孔 44.7~45.3m)に連続しない。

FD-1							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
破砕部は認められない							

FD-2							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
破砕部は認められない							

FD-4							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
破砕部は認められない							

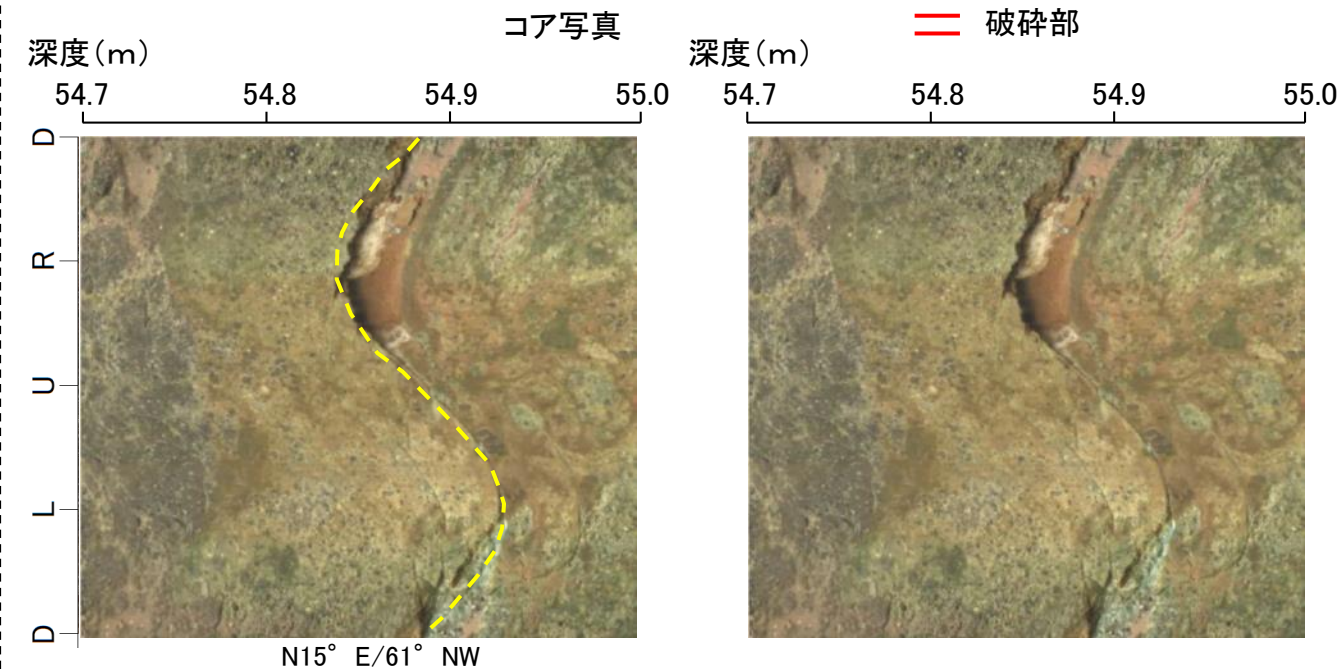
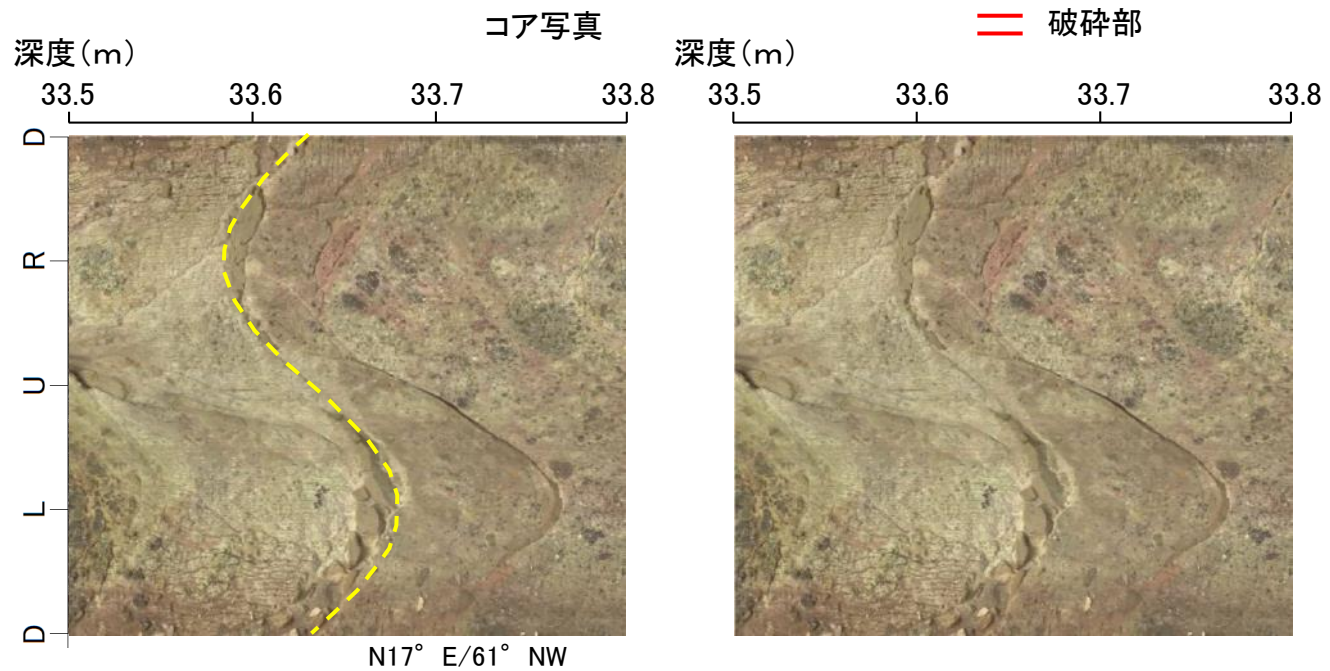
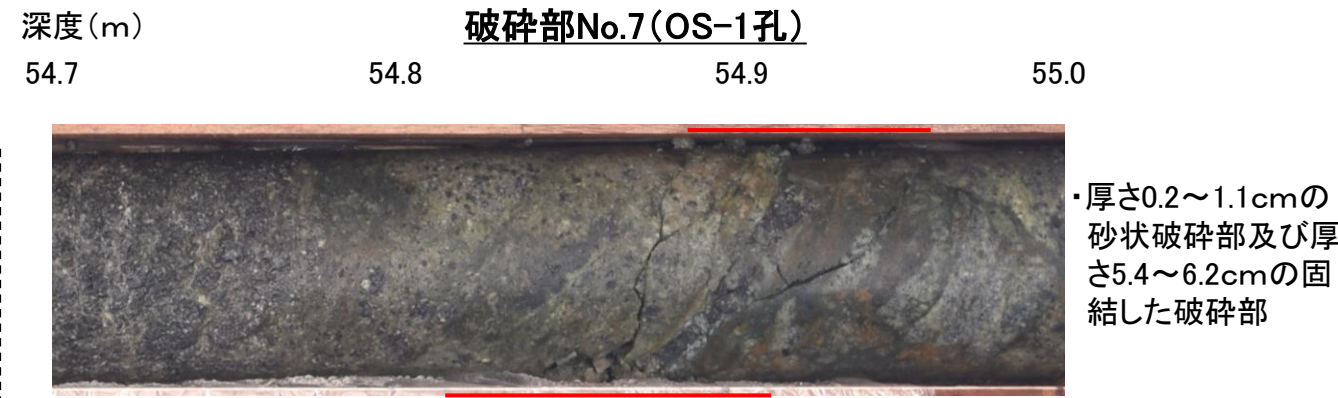
FD-5							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
81	37.50~37.61	EL 10.66~10.59	N44E/68NW	7.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。

FD-7							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
82	21.40~21.56	EL 23.90~23.78	N52E/64NW	15	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
83	38.22~38.24	EL 12.00~11.99	N83E/29NW	3.0	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
84	41.02~41.39	EL 10.02~9.76	N50E/77NW	30	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。

OS-9							
No.	確認深度 (m)	標高 (m)	走向・傾斜 (走向は真北)	破砕部の幅 (cm)	粘土状破砕部の幅 (cm)	砂状・角礫状破砕部の幅 (cm)	福浦断層に対応しないと判断した根拠
85	19.12~19.14	EL 42.03~42.02	N17W/82SW	1.4	—	—	性状が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-4孔:1.4~6.0m, OS-3'孔:51.9~60.0m)に連続しない。
86	20.73~20.93	EL 40.89~40.75	N29W/79SW	15	2.0	—	隣接孔(OS-4孔:6.5~10.1m, OS-3'孔:54.4~60.0m)に連続しない。
87	53.38~53.40	EL 17.80~17.79	N75E/48SE	1.5	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
88	54.38~54.40	EL 17.10~17.08	N46W/80SW	1.5	0.7	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-4孔 31.5~37.4m)に連続しない。
89	55.42~55.50	EL 16.36~16.31	N30E/74SE	6.1	0.2 0.5	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-1孔)の想定延長範囲(56.3~100.0m)に対応する破砕部が認められない。
90	61.51~61.53	EL 12.06~12.04	N19W/88SW	1.1	1.1	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、隣接孔(OS-4孔)の想定延長範囲(1.4~18.6m)に対応する破砕部が認められない。
91	68.25~68.33	EL 7.29~7.23	N19E/16NW	5.7	—	—	走向・傾斜、性状が福浦断層と異なる。
92	70.66~70.72	EL 5.59~5.54	N71E/57SE	5.4	—	5.4	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
93	71.04~71.06	EL 5.32~5.30	N53E/47SE	2.5	0.5	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。
94	79.63~79.67	EL -0.76~-0.79	N62E/71SE	4.0	0.7	—	走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面に連続しない。

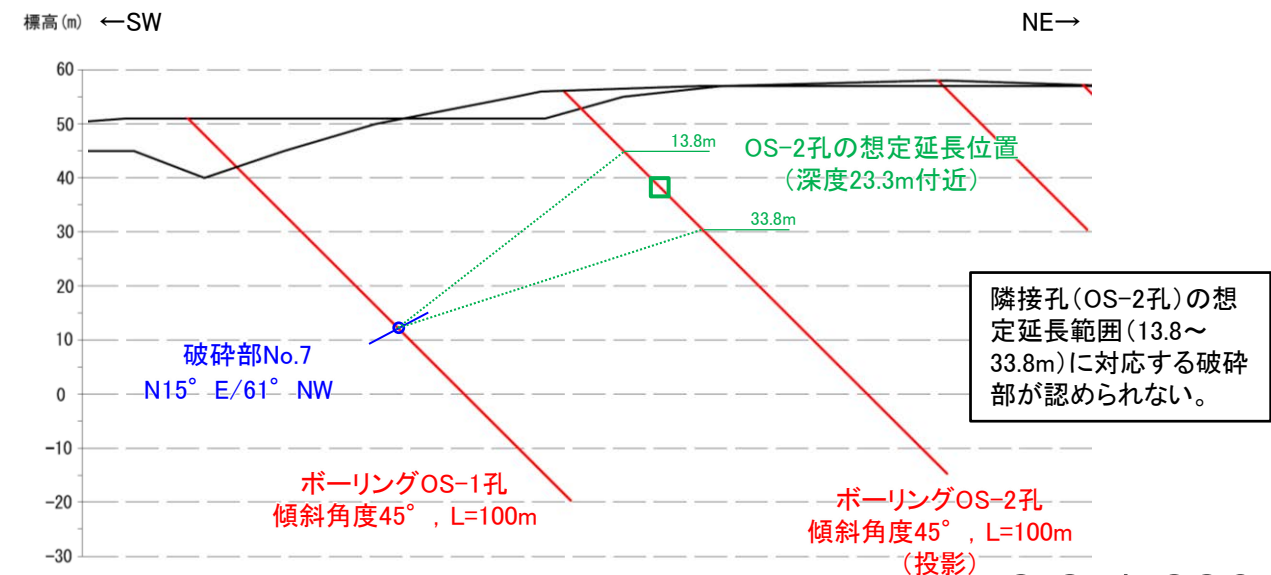
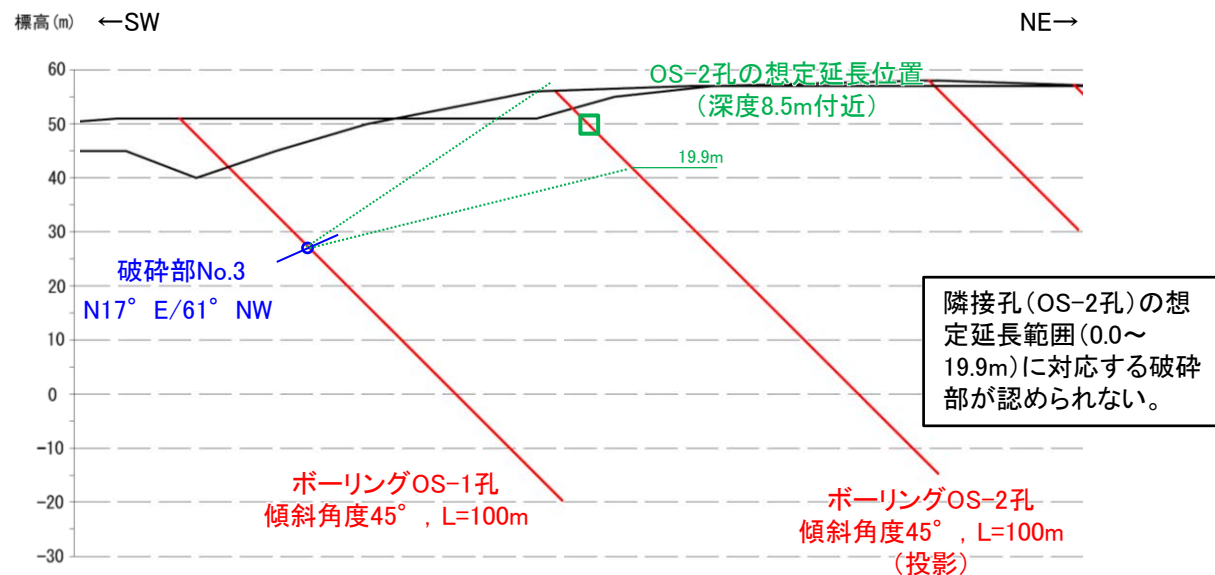


## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-1孔) (1/4)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

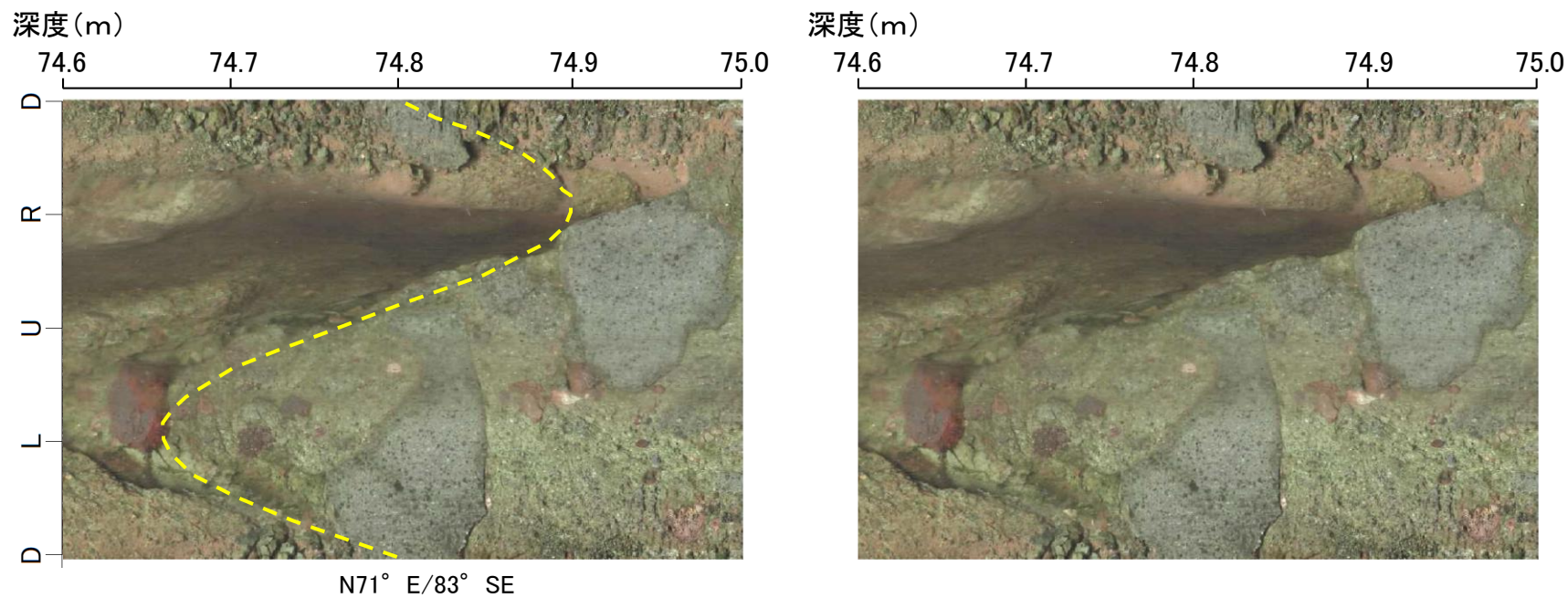
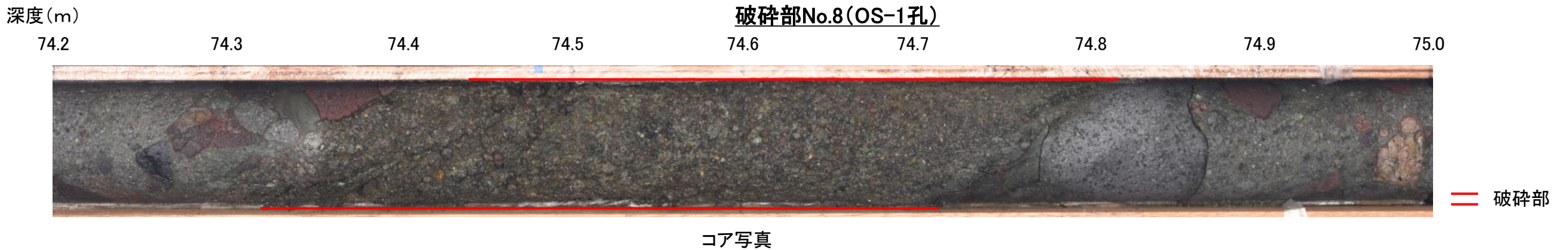


断面図

断面図

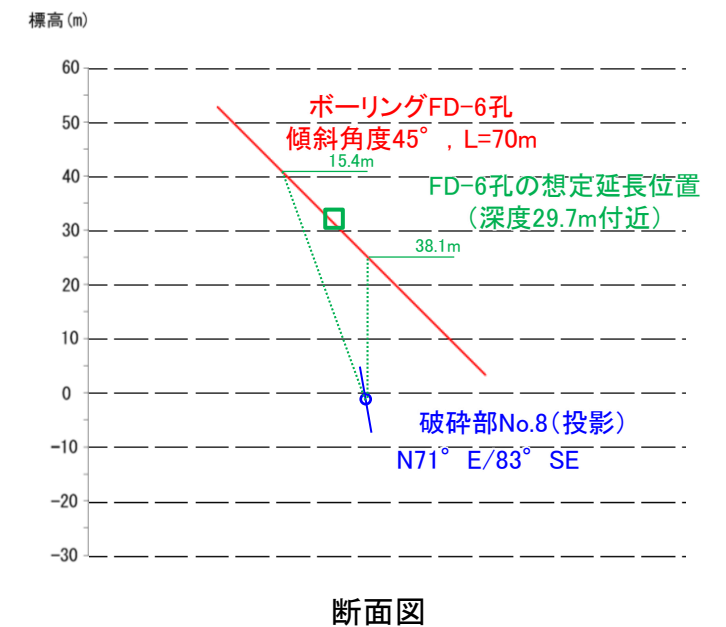


## 【福浦断層以外の破砕部の連続性確認(OS-1孔) (2/4)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

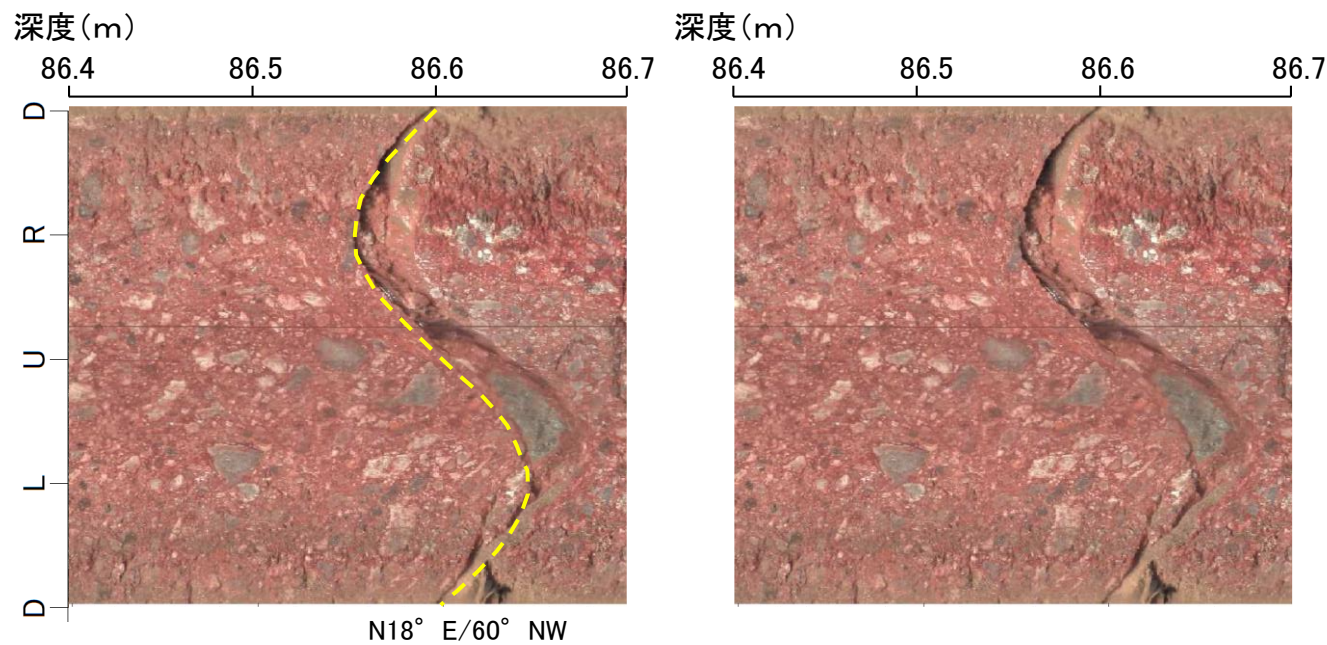
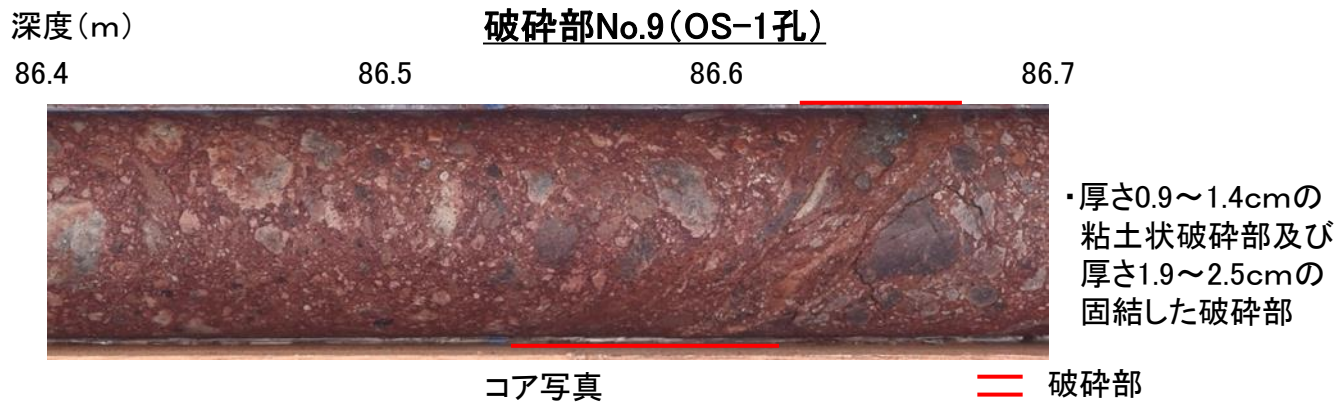
・厚さ16~19cmの砂状破砕部及び厚さ3.4~3.8cmの固結した破砕部



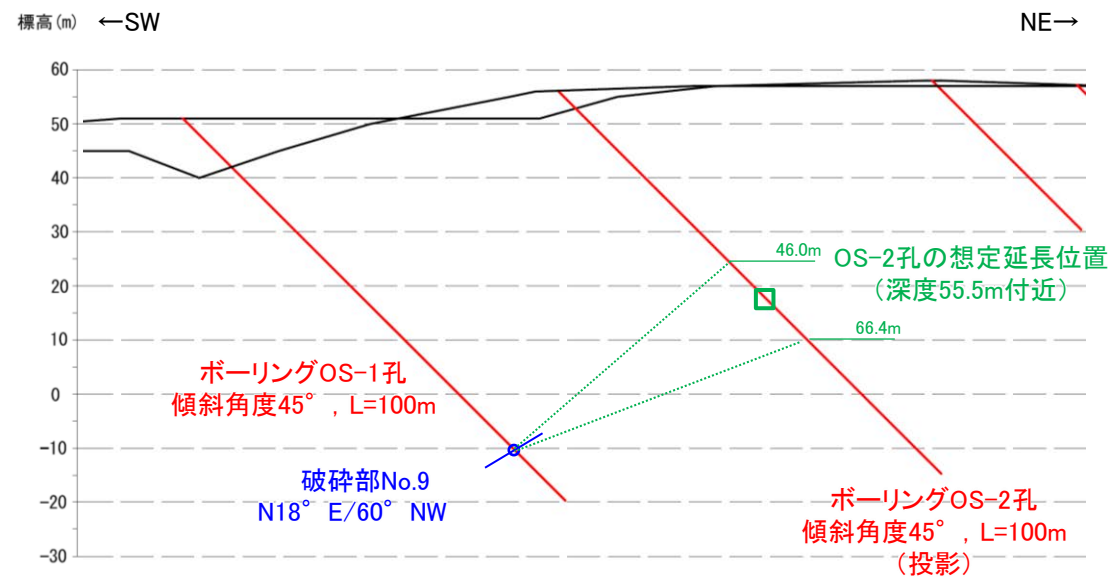
走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔)の想定延長範囲(15.4~38.1m)に対応する破砕部が認められない。



## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-1孔) (3/4)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

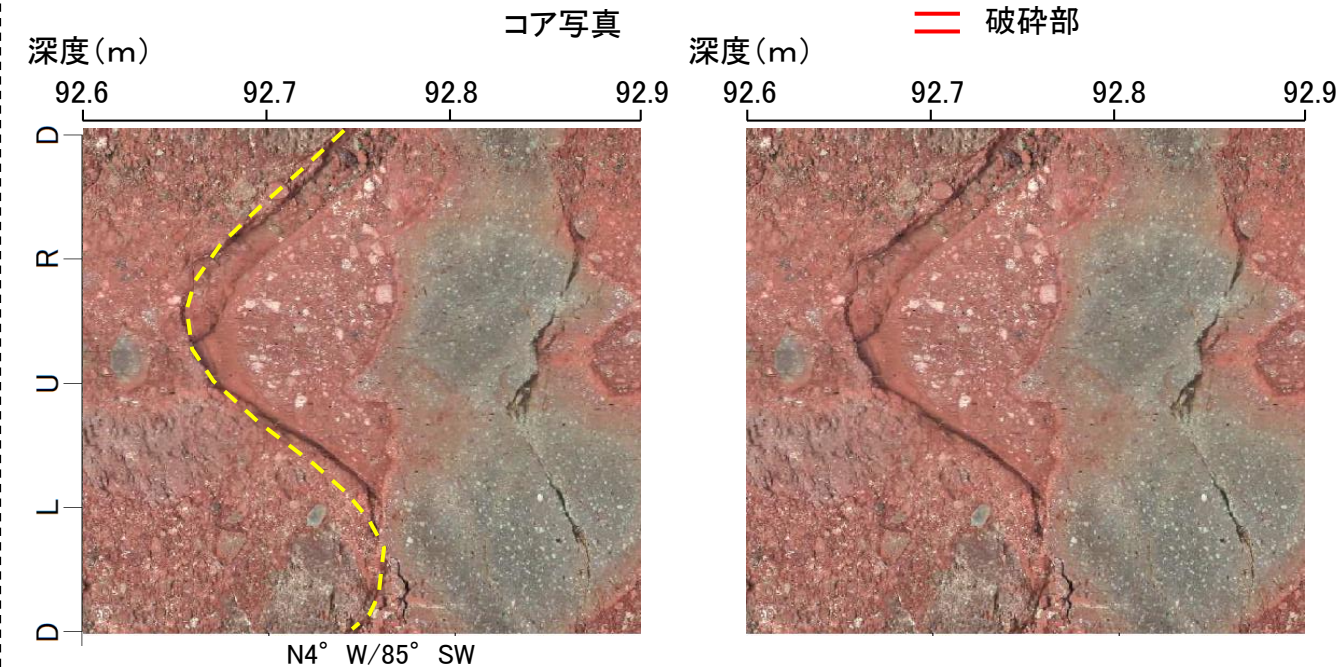
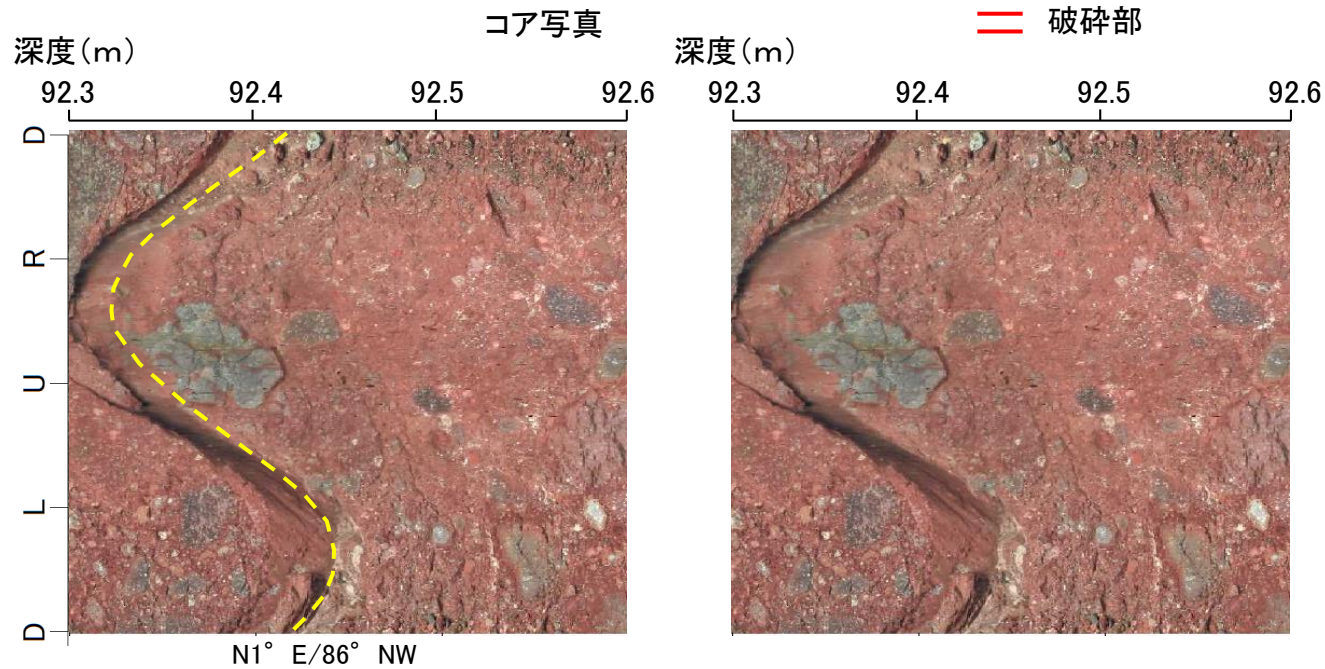
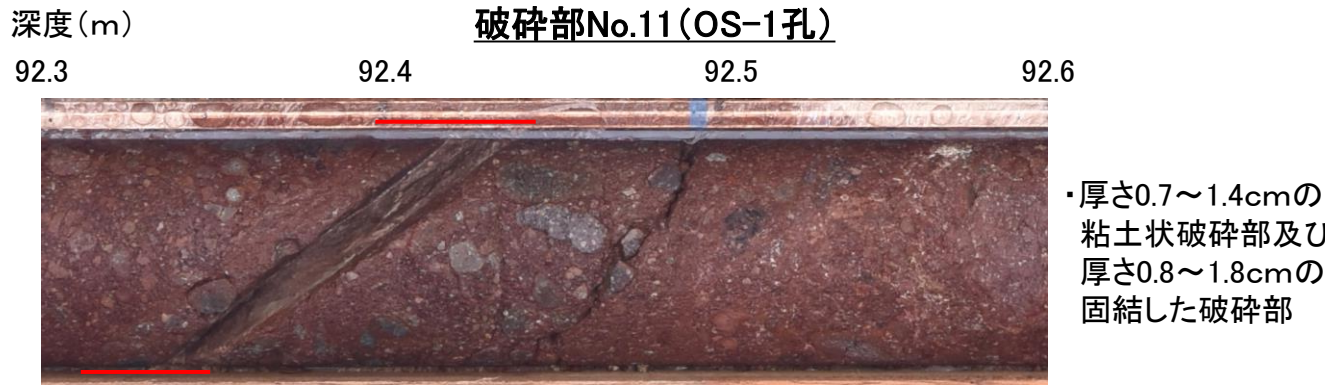


隣接孔(OS-2孔)の想定  
延長範囲(46.0~66.4m)  
に対応する破碎部が認め  
られない。

断面図

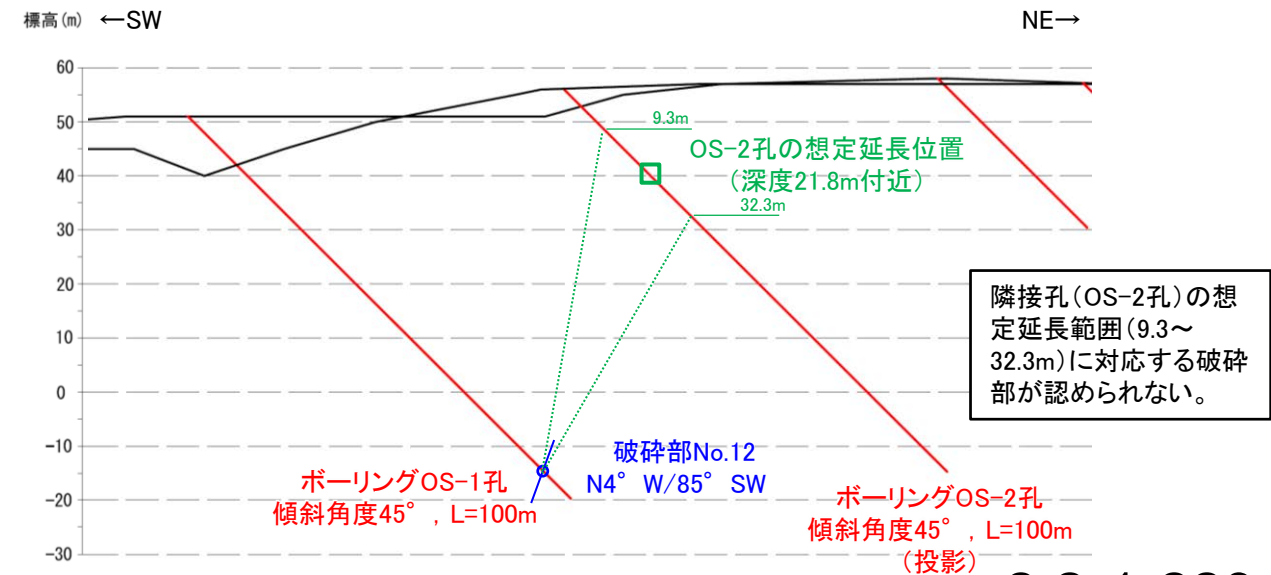
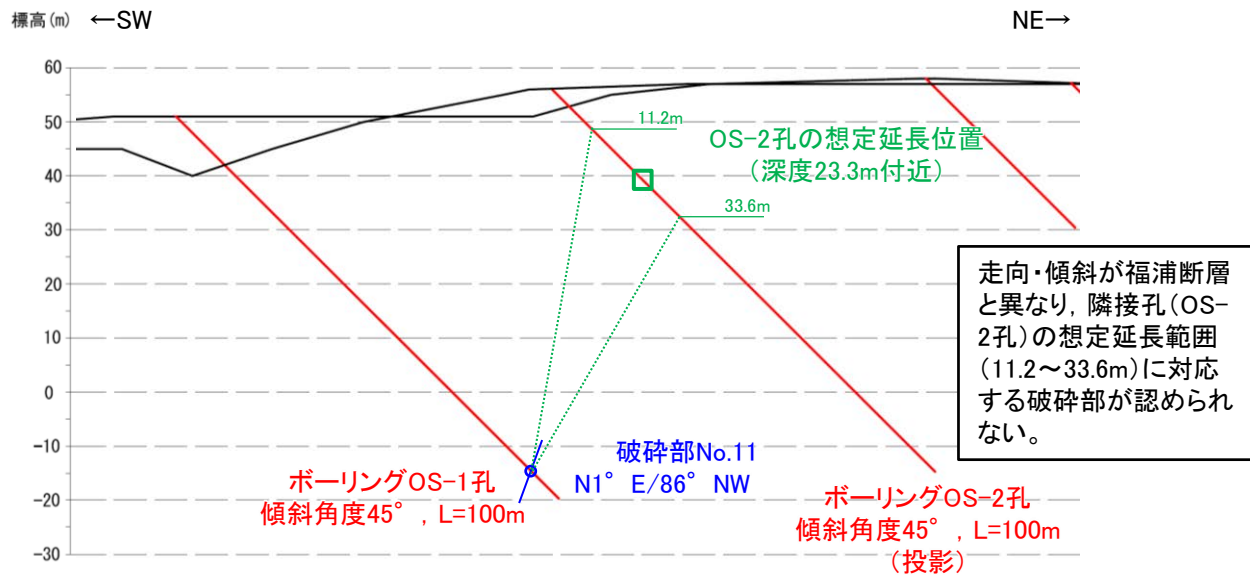


【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-1孔) (4/4)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)



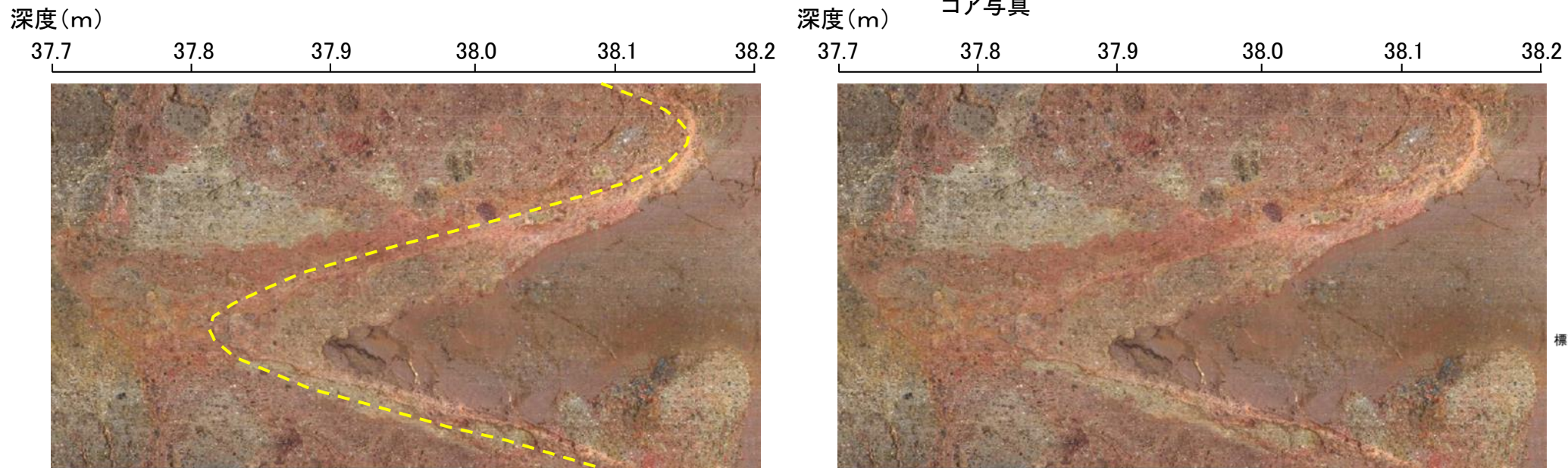
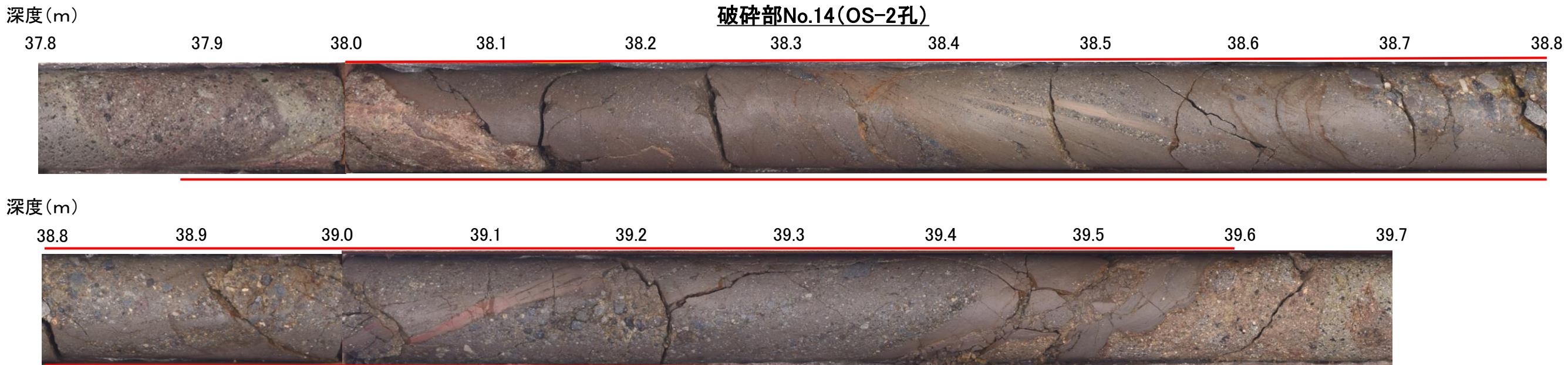
断面図

断面図



# 【福浦断層以外の破砕部の連続性確認(OS-2孔) (1/1)】

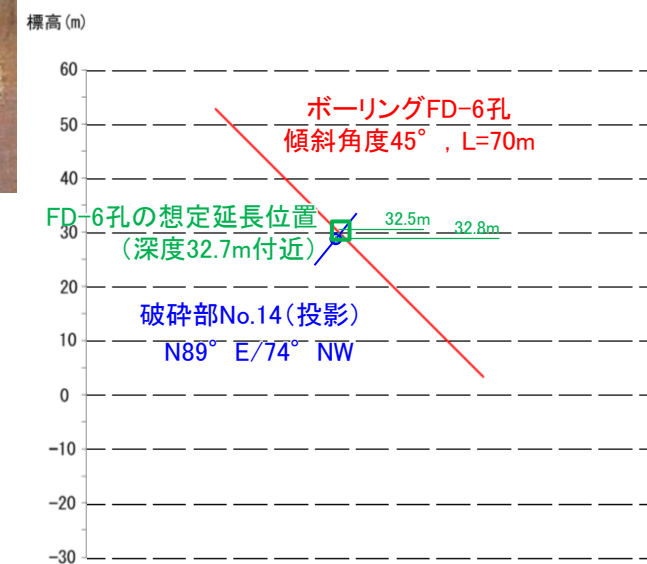
破砕部



N89° E/74° NW

BHTV画像(上:加筆あり,下:加筆なし)

・厚さ1.8~3.2cmの灰白色の角礫状破砕部, 厚さ2.0~2.8cmの暗灰黄色の角礫状破砕部及び厚さ63cmの固結した破砕部

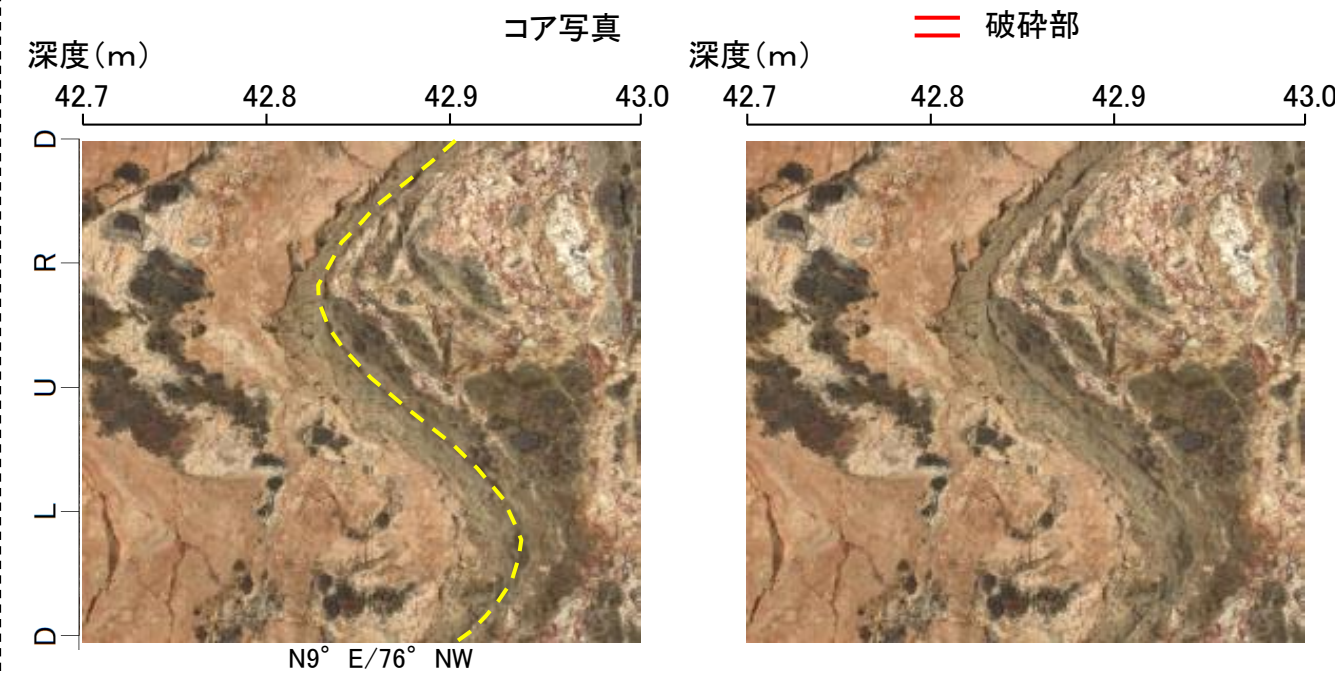
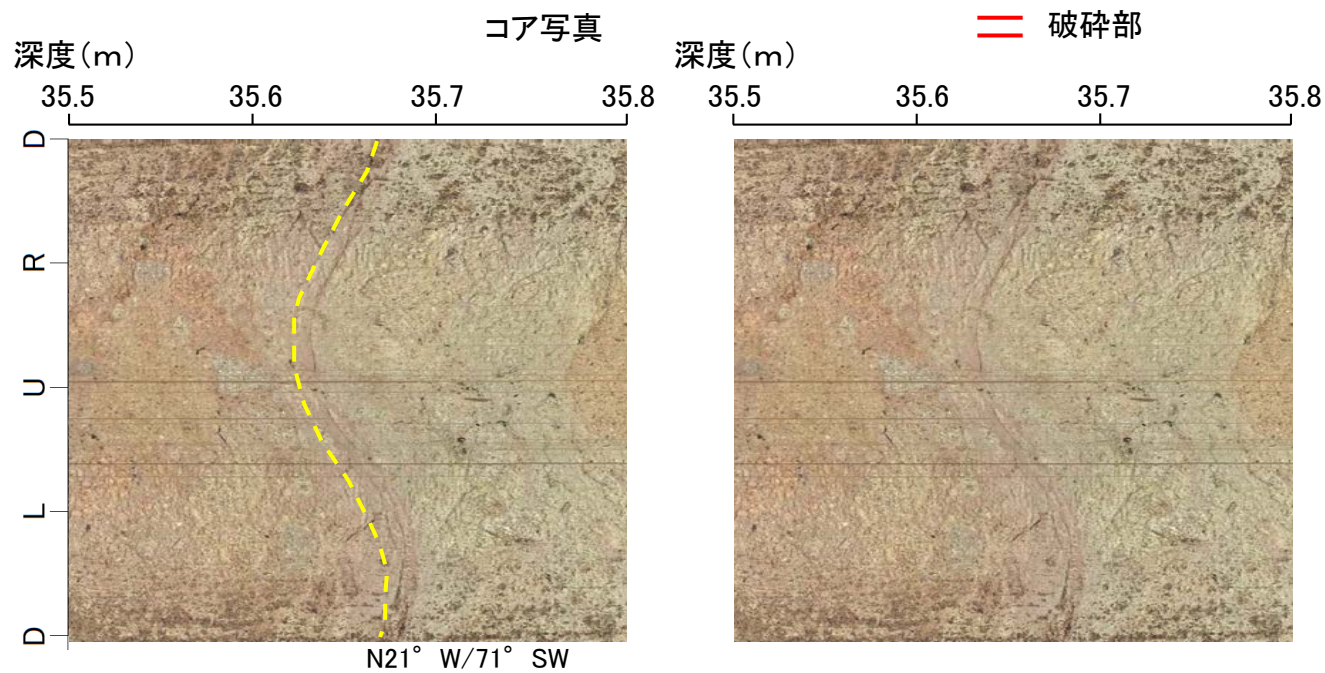


走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔)の想定延長範囲(32.5~32.8m)に対応する破砕部が認められない。

断面図

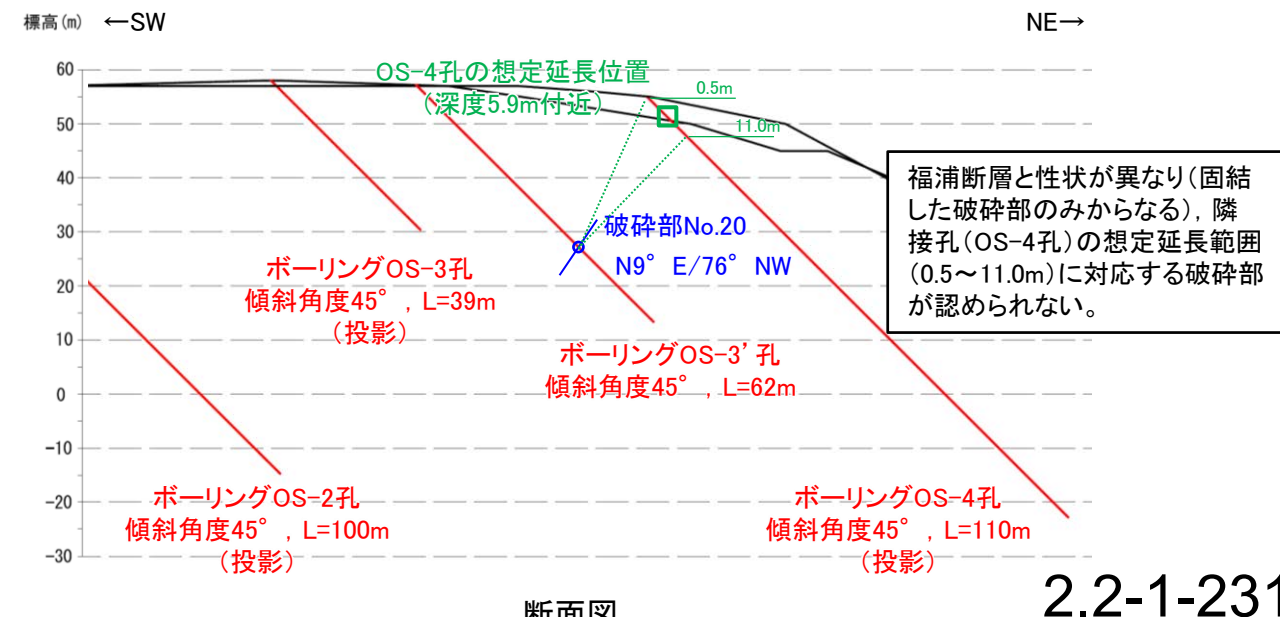
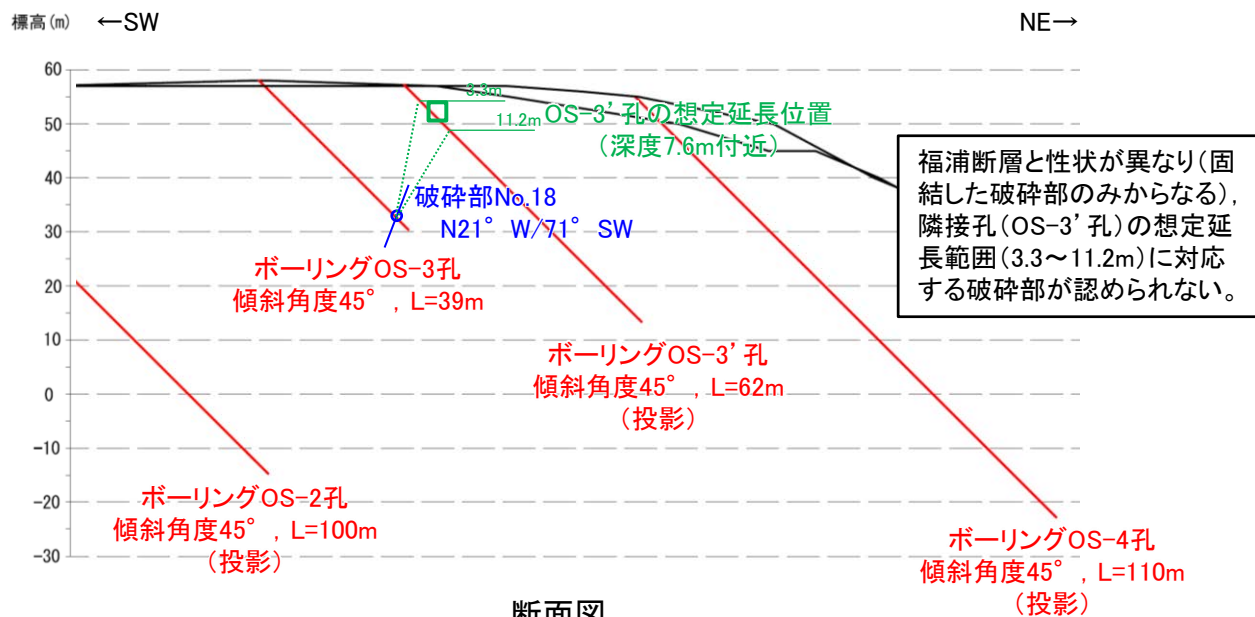


## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-3孔, OS-3'孔) (1/1)】



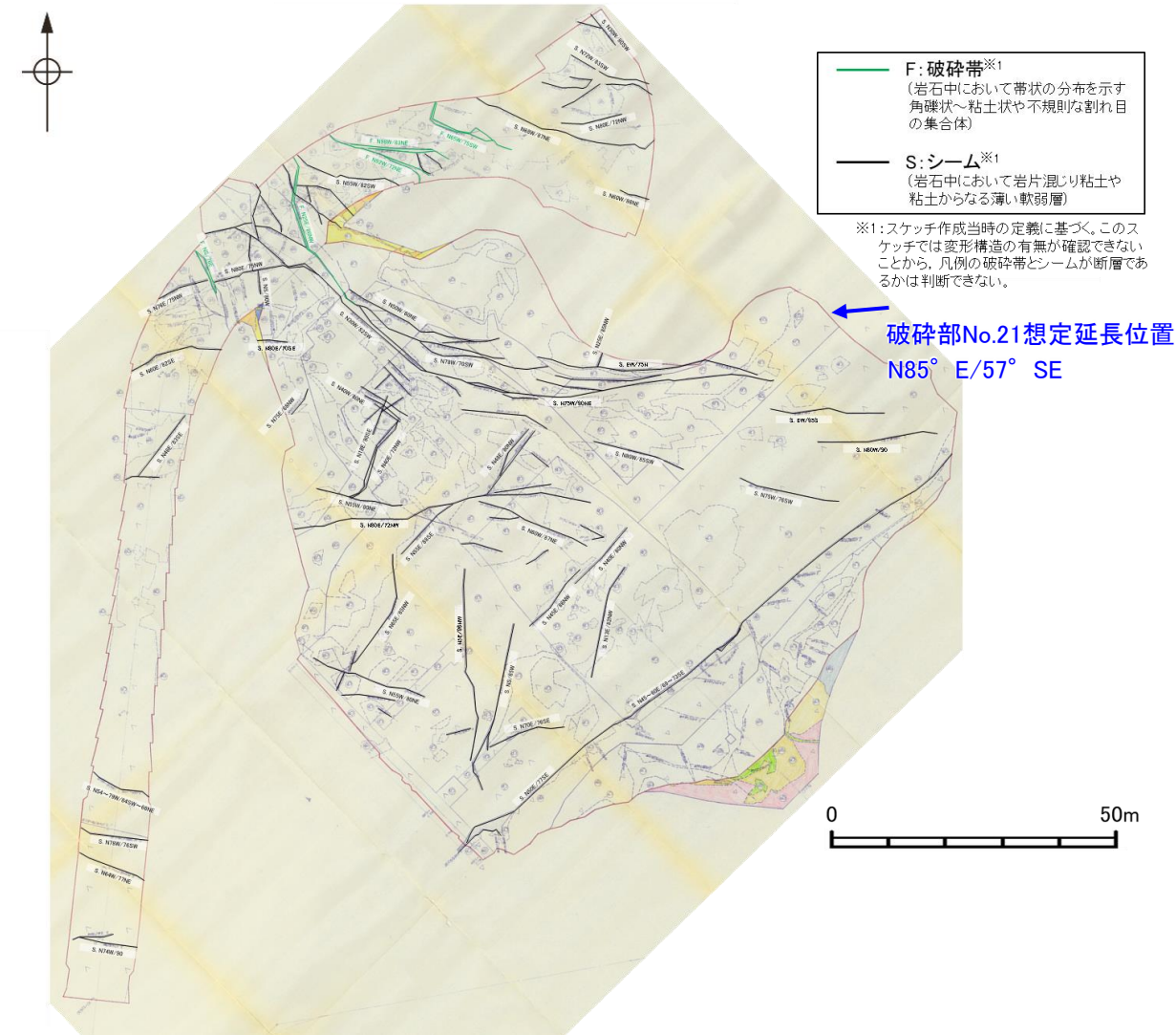
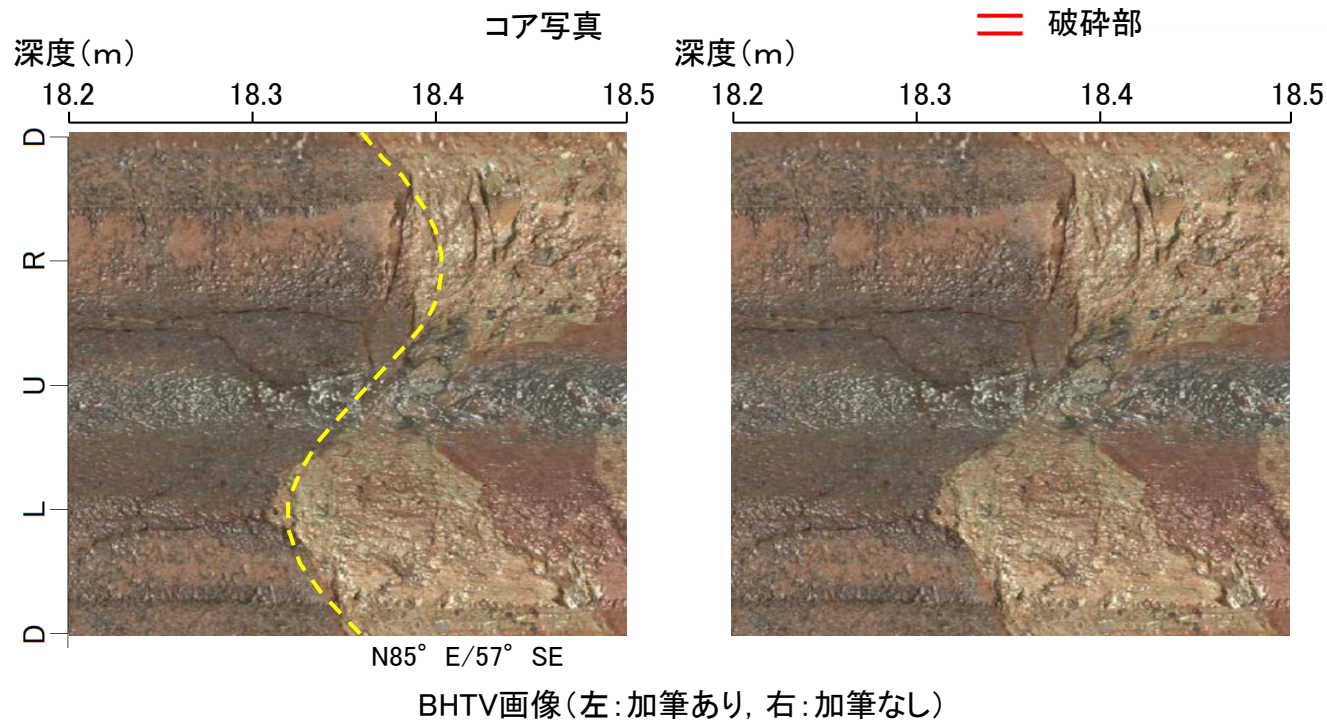
BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)





## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-4孔) (1/24)】

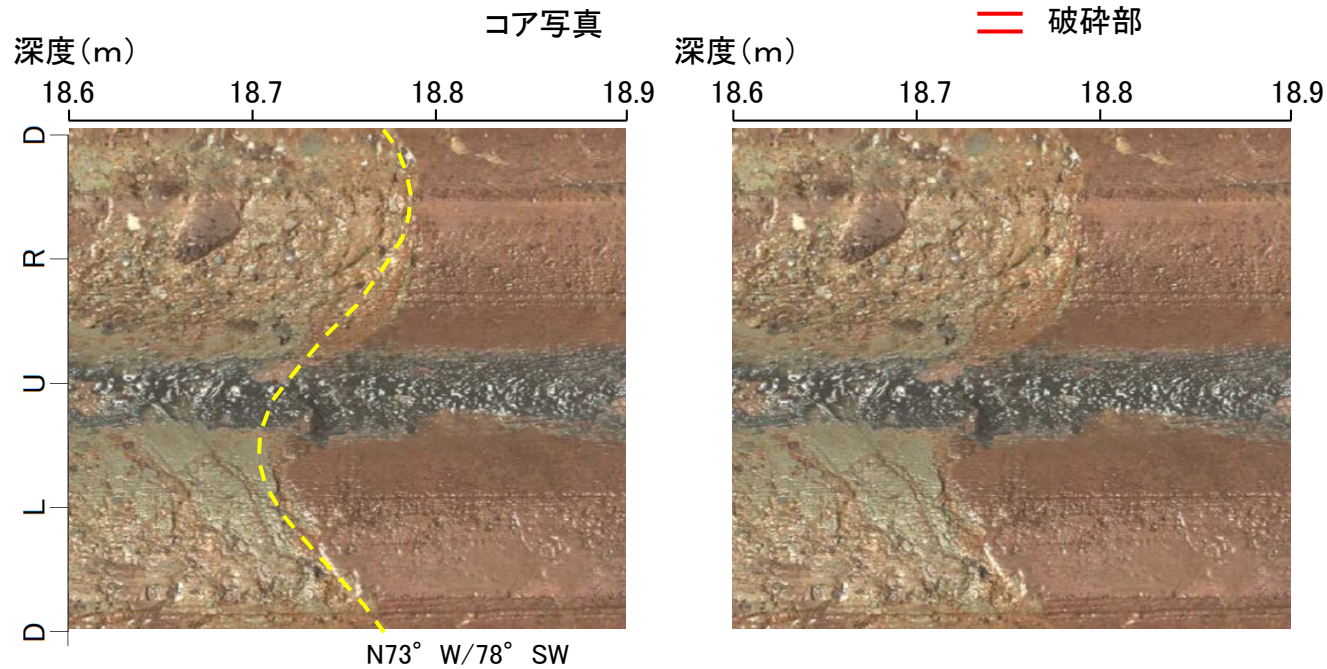
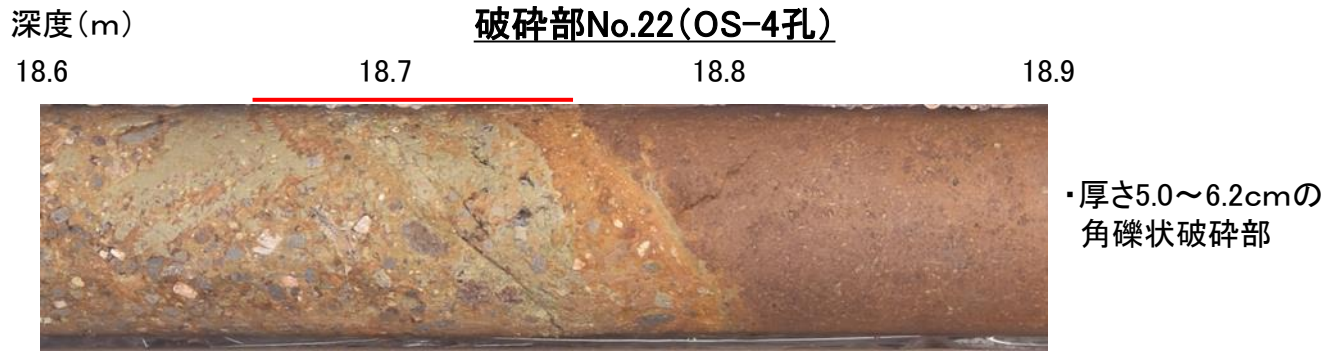


大坪川ダム基礎掘削面スケッチ

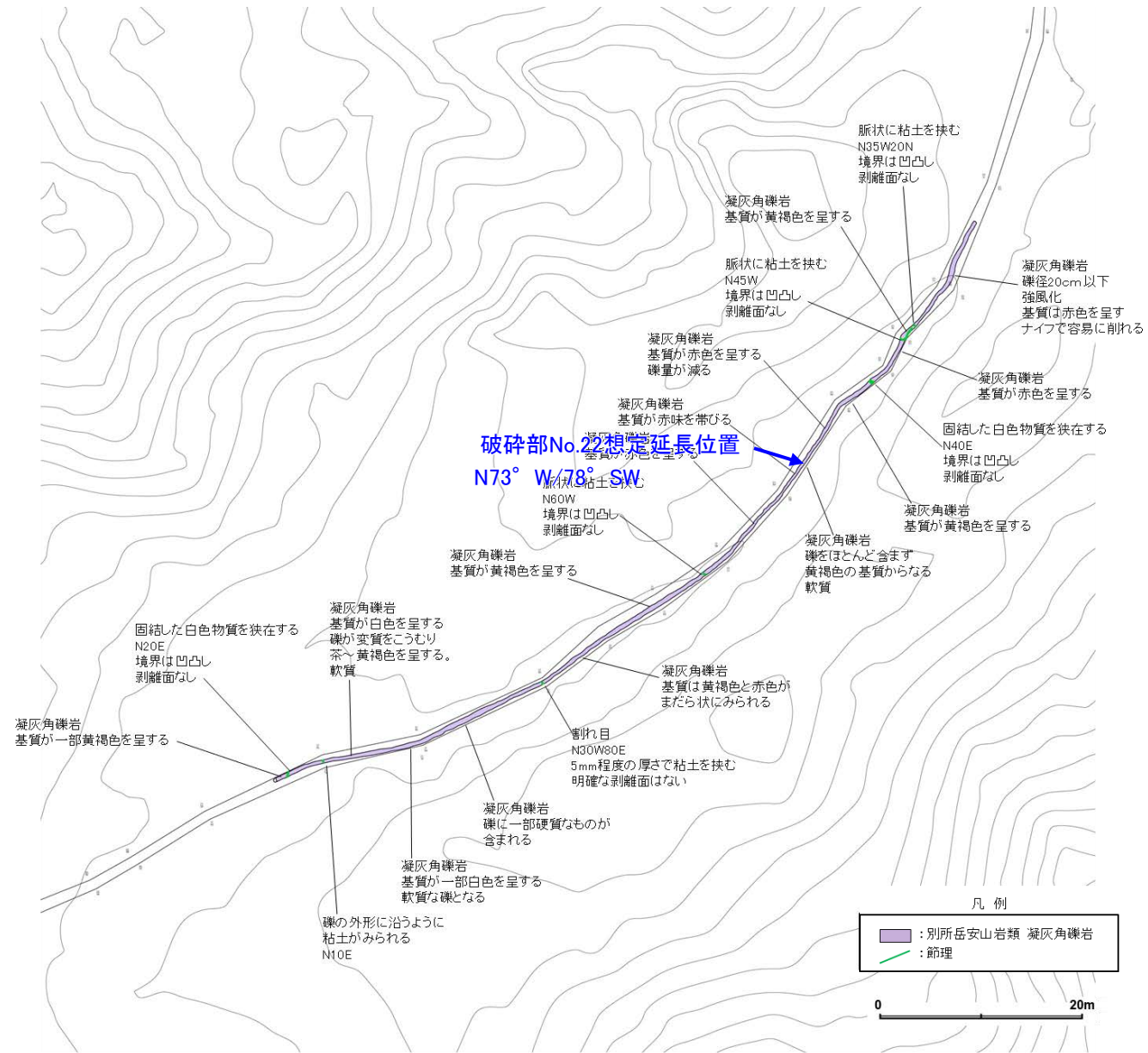
走向・傾斜が福浦断層と異なり、大坪川ダム基礎掘削面の想定延長位置に対応する破碎部が認められない。



## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-4孔) (2/24)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)

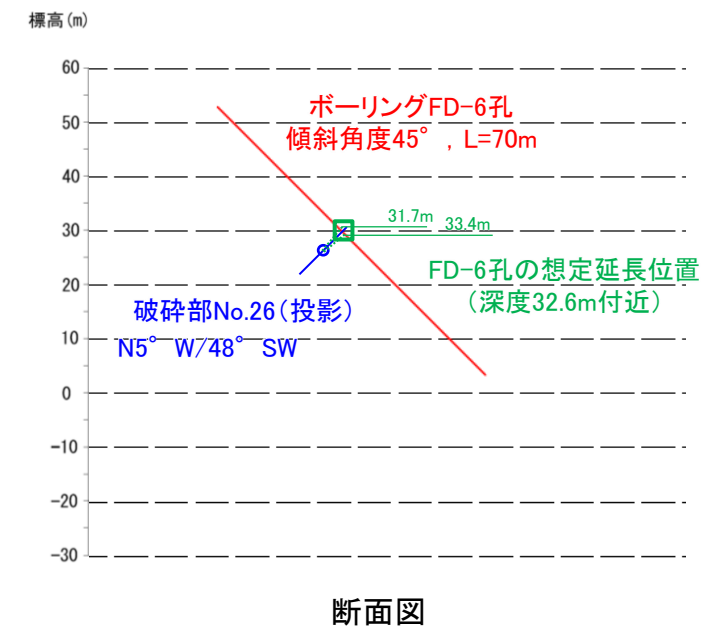
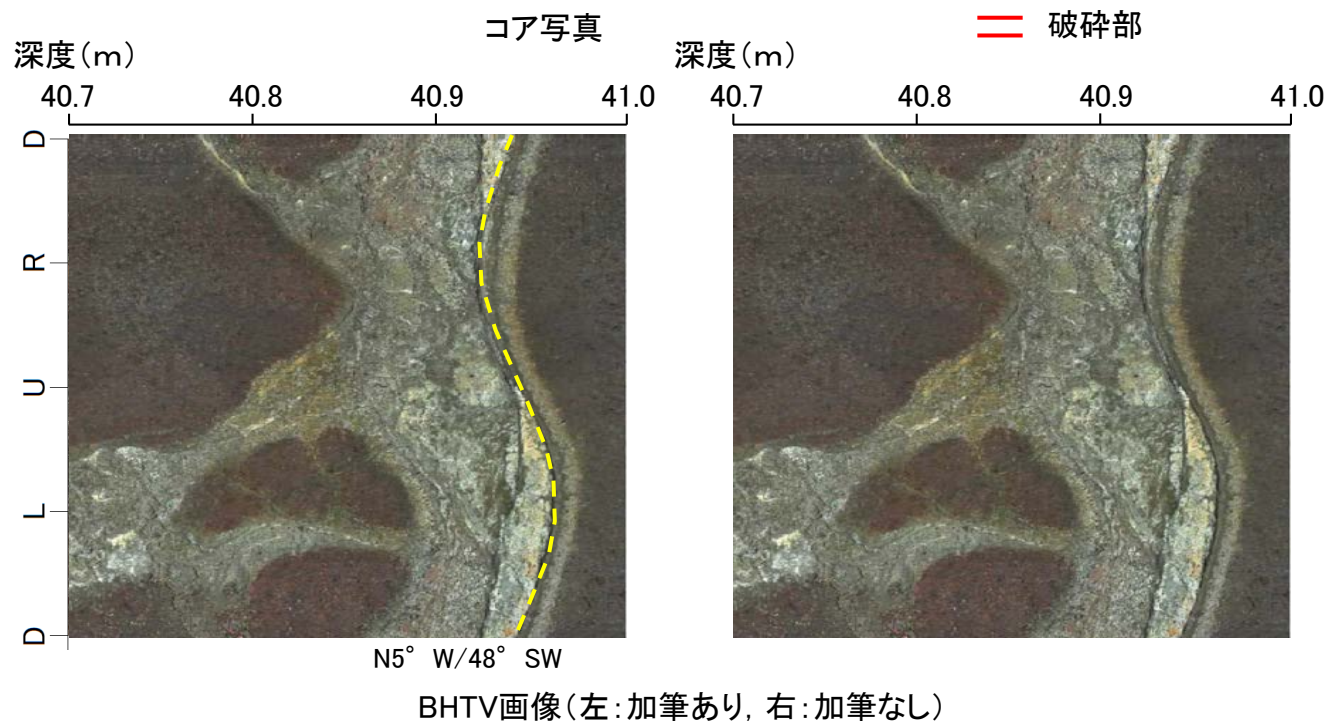
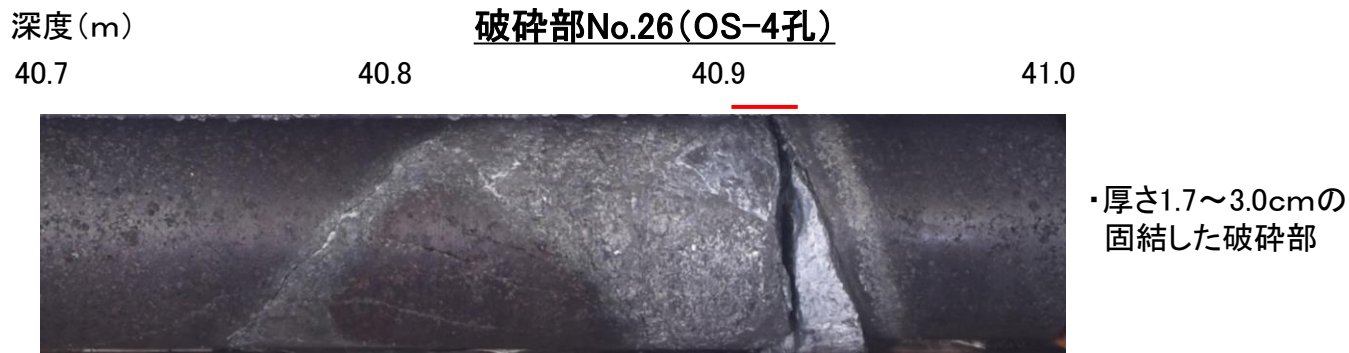


大坪川左岸 表土はぎ調査結果(ルートマップH)

走向・傾斜が福浦断層と異なり、ルートマップHの想定延長位置に対応する破碎部が認められない。



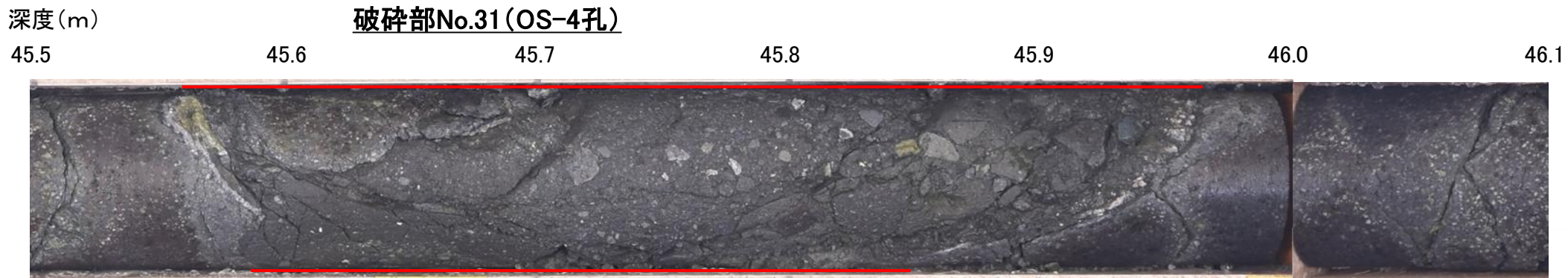
## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-4孔) (3/24)】



走向・傾斜が福浦断層と異なり, 隣接孔(FD-6孔)の想定延長範囲(31.7~33.4m)に対応する破碎部が認められない。



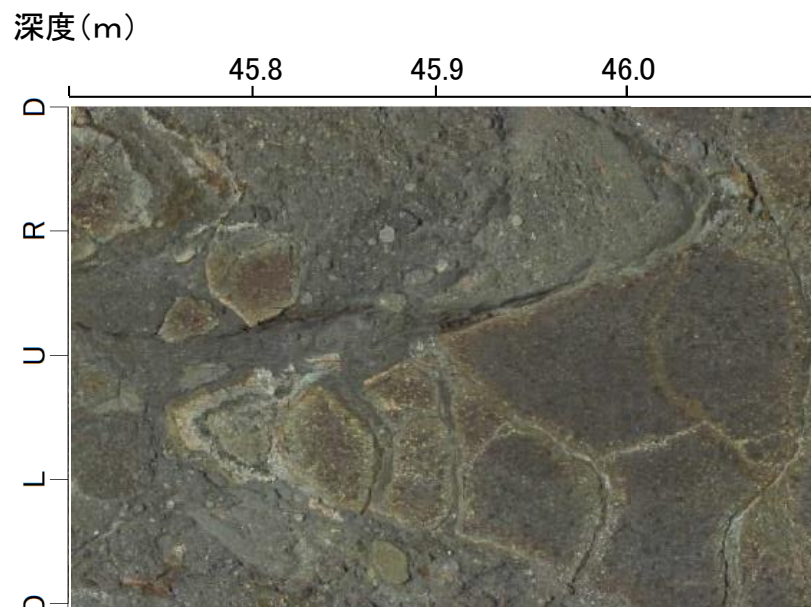
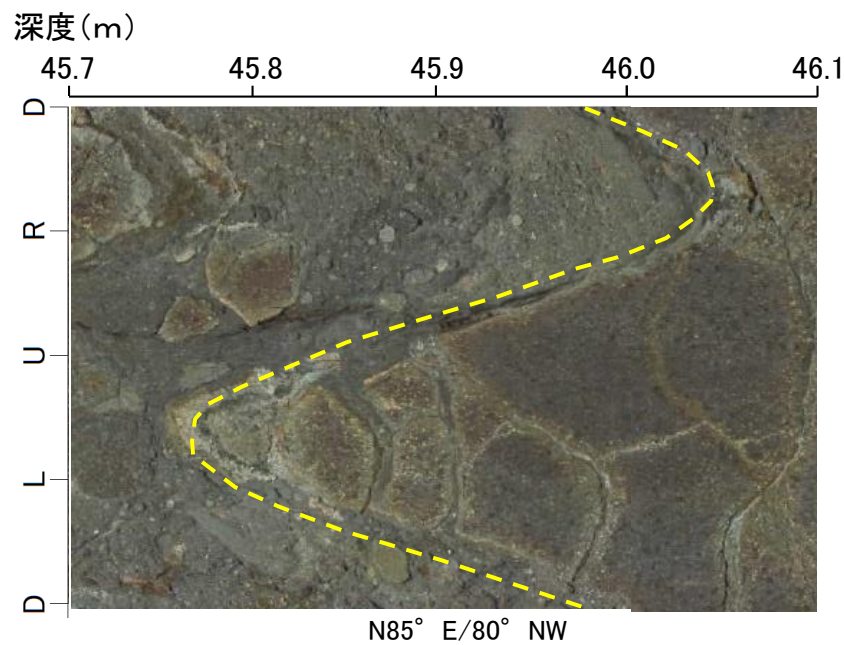
## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-4孔) (4/24)】



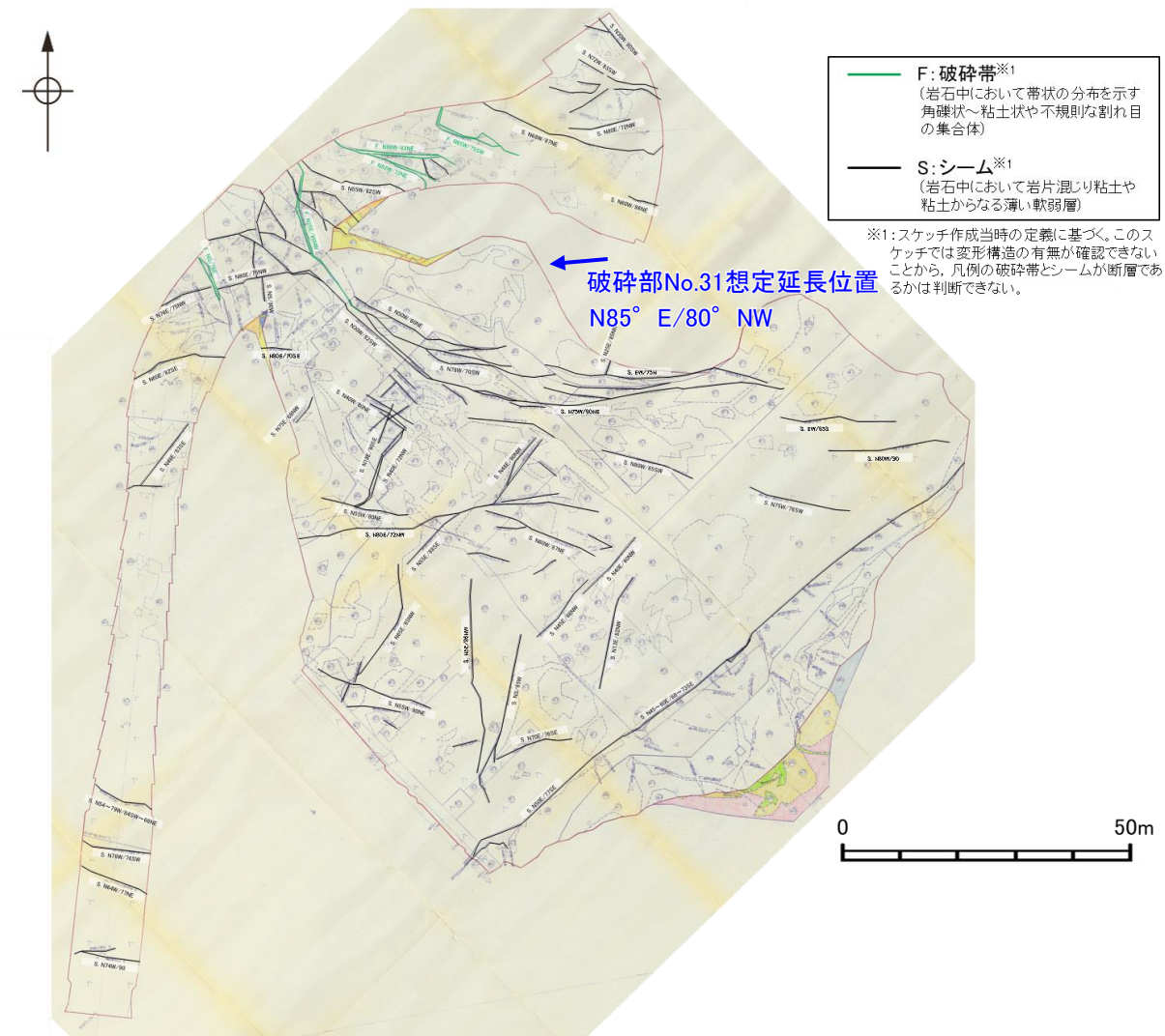
・厚さ1.3~1.8cmの粘土状破碎部及び厚さ7.9~13cmの固結した破碎部

== 破碎部

コア写真



BHTV画像(上:加筆あり,下:加筆なし)

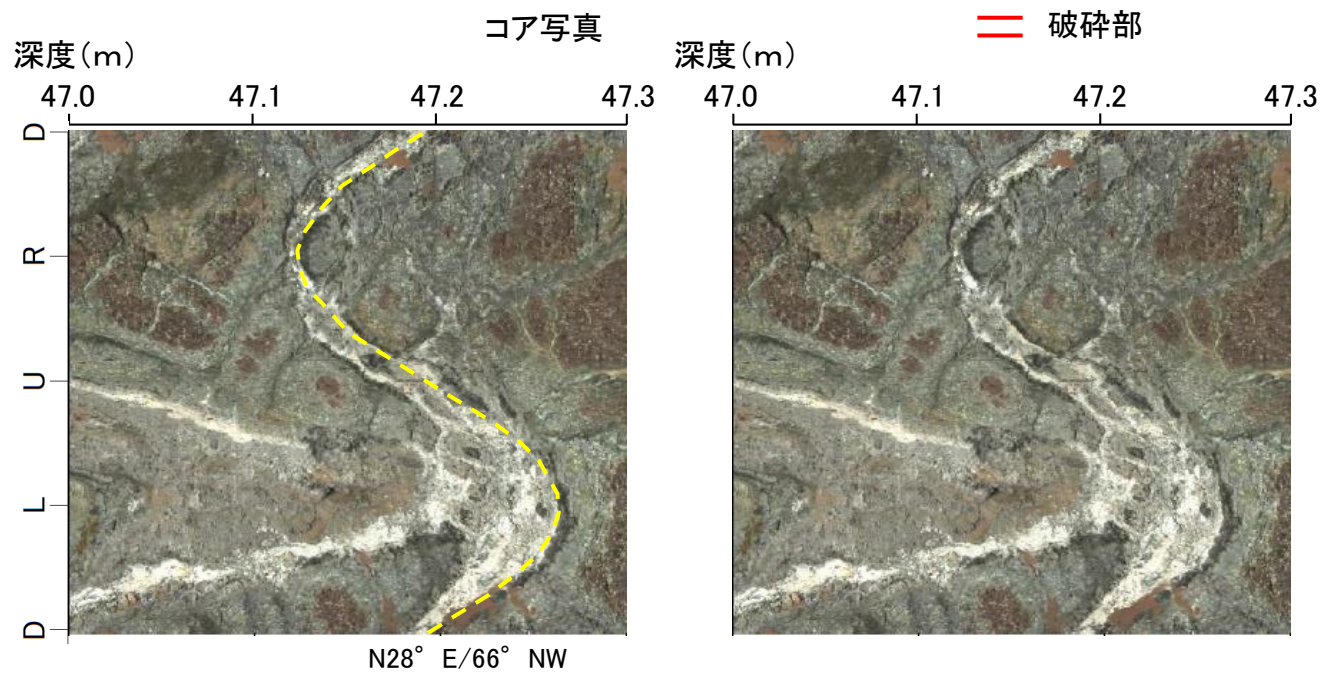
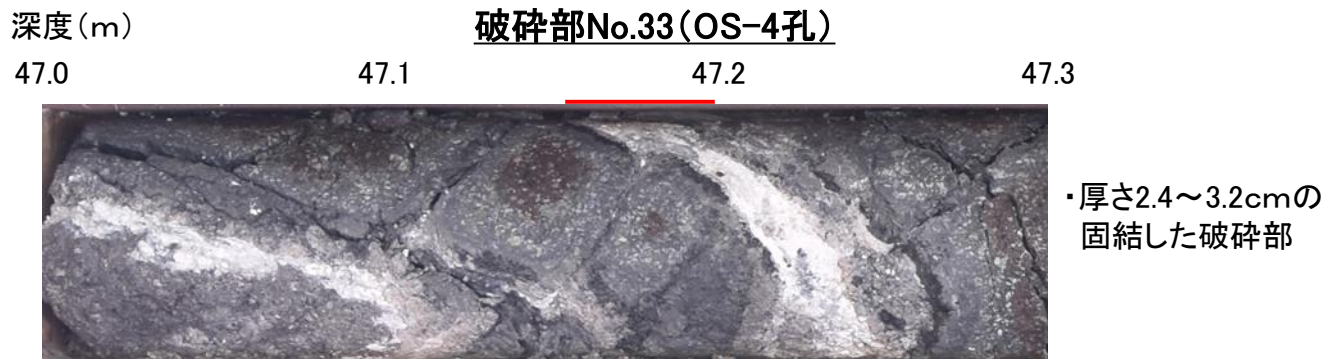


大坪川ダム基礎掘削面スケッチ

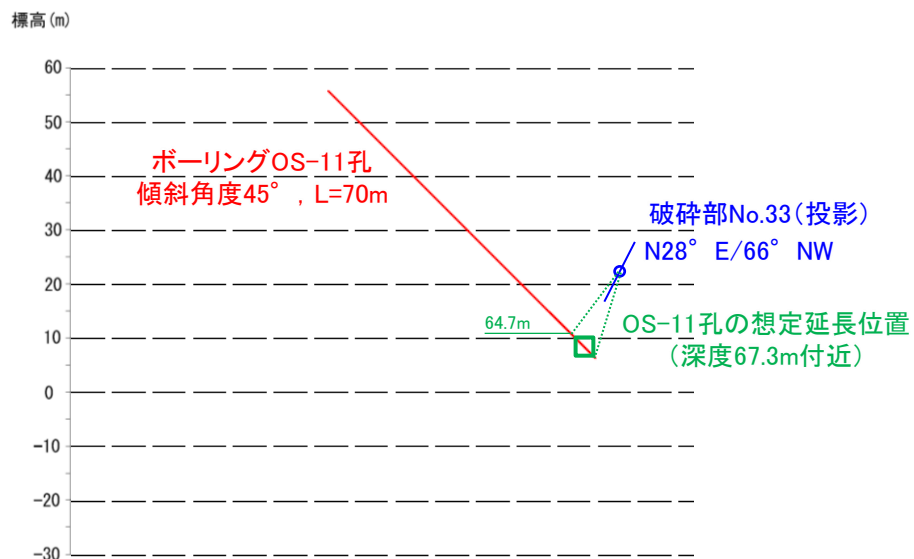
走向・傾斜が福浦断層と異なり, 大坪川ダム基礎掘削面の想定延長位置に対応する破碎部が認められない。



## 【福浦断層以外の破碎部の連続性確認(OS-4孔) (5/24)】



BHTV画像(左:加筆あり, 右:加筆なし)



福浦断層と性状が異なり(固結した破碎部のみからなる), 隣接孔(OS-11孔)の想定延長範囲(64.7~70.0m)に対応する破碎部が認められない。